

SUSE Linux Enterprise Desktop

10 SP2

www.novell.com

2008 4 10

KDE ユーザガイド



KDE ユーザガイド

All content is copyright © Novell, Inc.

Legal Notice

This manual is protected under Novell intellectual property rights. By reproducing, duplicating or distributing this manual you explicitly agree to conform to the terms and conditions of this license agreement.

This manual may be freely reproduced, duplicated and distributed either as such or as part of a bundled package in electronic and/or printed format, provided however that the following conditions are fulfilled:

That this copyright notice and the names of authors and contributors appear clearly and distinctively on all reproduced, duplicated and distributed copies. That this manual, specifically for the printed format, is reproduced and/or distributed for noncommercial use only. The express authorization of Novell, Inc must be obtained prior to any other use of any manual or part thereof.

For Novell trademarks, see the Novell Trademark and Service Mark list <http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tm1ist.html>. * Linux is a registered trademark of Linus Torvalds. All other third party trademarks are the property of their respective owners. A trademark symbol (®, ™ etc.) denotes a Novell trademark; an asterisk (*) denotes a third party trademark.

All information found in this book has been compiled with utmost attention to detail. However, this does not guarantee complete accuracy. Neither Novell, Inc., SUSE LINUX Products GmbH, the authors, nor the translators shall be held liable for possible errors or the consequences thereof.

目次

このガイドについて	ix
パート I KDE Desktop	1
1 KDEデスクトップの開始	3
1.1 ログインとデスクトップの選択	3
1.2 ログアウト	8
1.3 デスクトップコンポーネント	8
1.4 フォルダおよびKonquerorのあるファイルの管理	19
1.5 ネットワークリソースへのアクセス	31
1.6 コンピュータまたはファイルシステム内のデータの検索	32
1.7 アプリケーション間のテキストの移動	35
1.8 インターネットの探索	36
1.9 E-Mail (電子メール)とスケジュール設定	36
1.10 OpenOffice.orgでのドキュメントのオープンまたは作成	37
1.11 KWalletマネージャによるパスワード管理	37
1.12 アーカイブの表示、解凍、および作成	40
1.13 スクリーンショットを撮る	41
1.14 KPDFによるPDFファイルの表示	43
1.15 KMixを使ったサウンドの制御	43
1.16 ZENツールを使ったパッケージの管理	44
1.17 詳細情報	51
2 設定のカスタマイズ	53
2.1 KDEコントロールセンターの使用	53
2.2 デスクトップオブジェクトの設定	57
2.3 3Dデスクトップ効果の設定	61
2.4 パネルの設定	63

2.5	システムとセキュリティ関連の設定	69
パート II オフィスおよびコラボレーション		75
3	OpenOffice.orgオフィススイート	77
3.1	OpenOffice.orgについて	77
3.2	Writerによるドキュメント作成	91
3.3	Calcを使用してスプレッドシートを使用する	101
3.4	Impressでプレゼンテーションを使用する	104
3.5	Base - データベースの使用	107
3.6	Draw - グラフィックの作成	110
3.7	Mathを使用して式を作成する	111
3.8	OpenOffice.orgに関するヘルプと情報の検索	112
4	Kontakt:電子メールとカレンダーリング	113
4.1	Kontaktの概要	113
4.2	メール	116
4.3	連絡先	122
4.4	カレンダー	124
4.5	ハンドヘルドとのデータの同期	126
4.6	KontaktとGroupWiseユーザ	126
4.7	詳細情報	128
5	GroupWise Linuxクライアント:電子メールとカレンダーリング	129
5.1	GroupWiseのメインウィンドウについて	129
5.2	さまざまなGroupWiseモードを使用する	136
5.3	メールボックスを理解する	138
5.4	ツールバーの使用	141
5.5	ショートカットキーを使用する	142
5.6	詳細情報	146
6	KPilotによるハンドヘルドコンピュータの同期	149
6.1	KPilotが使用するコンジット	150
6.2	ハンドヘルド接続の設定	151
6.3	KAddressBookコンジットの設定	153
6.4	タスク(to-do)アイテムとイベントの管理	153
6.5	KPilotの使用	154

7	Kopeteによるインスタントメッセージング	157
7.1	Kopeteの設定	157
7.2	友人とのチャット	158
7.3	Kopeteのカスタマイズ	159
7.4	詳細情報	163
8	EkigaでのVoice over IPの使用	165
8.1	Ekigaの設定	166
8.2	Ekigaのユーザインタフェース	167
8.3	電話をかける	169
8.4	電話に出る	170
8.5	アドレス帳を使用する	171
8.6	詳細情報	172
9	ネットワークリソースへのアクセス	173
9.1	ファイル共有とネットワーク参照に関する一般的な注意	174
9.2	ネットワーク共有へのアクセス	175
9.3	混在環境でのフォルダの共有	176
9.4	Windowsファイルの管理	179
9.5	Windowsネットワークプリンタの設定とアクセス	183
9.6	ネットワークフォルダへのショートカットの設定	185
9.7	軽量なWebサーバの設定と使用	187
10	KGpgによる暗号化	191
10.1	署名と暗号化	191
10.2	新しい鍵ペアの生成	192
10.3	公開鍵のエクスポート	194
10.4	鍵のインポート	195
10.5	鍵サーバダイアログ	196
10.6	テキストとファイルの暗号化	199
10.7	詳細情報	200
11	Kerryを使った検索	201
11.1	Kerryを使った検索	201
11.2	Kerryの設定	203
12	プリンタの管理	207
12.1	プリンタのインストール	207
12.2	プリンタ設定の変更	210

12.3	プリンタの削除	210
12.4	KDEでの印刷ジョブの開始	210
12.5	KDEでの印刷ジョブの監視	212
パート III インターネット		215
13	ネットワーク接続の管理	217
13.1	KNetworkManagerの使用	217
13.2	KInternet	222
13.3	トラブルシューティング	224
14	Konquerorを使ったブラウズ	227
14.1	タブブラウズ	228
14.2	[自動スクロール]	229
14.3	[プロファイル]	229
14.4	Webページと画像の保存	230
14.5	Konquerorによる検索	230
14.6	ブックマーク	233
14.7	JavaとJavaScript	234
14.8	Advertisement BlockerSR(広告ブロッカー)の使用	234
14.9	詳細情報	235
15	Firefoxを使用したブラウジング	237
15.1	Webサイトのナビゲート	237
15.2	情報の検索	239
15.3	ブックマークの管理	240
15.4	ダウンロードマネージャの使用	243
15.5	パスワード管理	244
15.6	Firefoxのカスタマイズ	245
15.7	Firefoxからの印刷	248
15.8	MHTMLアーカイブを開く	249
15.9	詳細情報	249
16	インターネットからのデータの転送	251
16.1	リストへの転送の追加	252
16.2	ファイルからの転送の追加	252
16.3	タイマ制御の転送	252

17 Akregatorでニュースフィードを読む	255
パート IV マルチメディア	259
18 Manipulating Graphics with The GIMP	261
18.1 Graphics Formats	261
18.2 Starting The GIMP	262
18.3 Getting Started	264
18.4 Saving Images	266
18.5 Editing Images	267
18.6 Printing Images	275
18.7 For More Information	276
19 デジタル画像コレクションの管理	279
19.1 カメラの設定	280
19.2 カメラからの写真ダウンロード	281
19.3 情報の取得	282
19.4 アルバムの管理	283
19.5 タグの管理	284
19.6 強力な検索フィルタの作成	285
19.7 画像コレクションのエクスポート	287
19.8 画像の表示と編集	288
19.9 便利なツール	297
19.10 トラブルシューティング	299
19.11 詳細情報	300
20 音楽やムービーの再生	301
20.1 ミキサー	301
20.2 音楽ファイルの再生	302
20.3 オーディオCDの取り扱い	308
20.4 ムービーファイルの再生	312
21 CDとDVDの書き込み	315
21.1 データCDまたはDVDの作成	315
21.2 オーディオCDの作成	319
21.3 CDまたはDVDのコピー	320
21.4 ISOイメージの書き込み	320
21.5 マルチセッションCDまたはDVDの作成	321
21.6 詳細情報	322

A	必要な情報を検索する	323
A.1	付属のドキュメント	323
A.2	他のリソースや詳細情報	327
B	WindowsからLinuxへの移行	329
B.1	メインメニューからのアプリケーションの起動	330
B.2	ファイルの管理	331
B.3	コマンドラインの使用	331
B.4	デスクトップのカスタマイズ	332
B.5	プリンタのセットアップ	333
B.6	アプリケーション間の切り替え	334
B.7	ネットワークリソースへのアクセス	335
C	Linuxソフトウェアの概要	337
C.1	電話(オフィス)	337
C.2	Network	342
C.3	マルチメディア	346
C.4	グラフィックス	351
C.5	システム管理とファイル管理	355
C.6	ソフトウェア開発	359
D	指紋リーダーの使用	363
D.1	サポートされるアプリケーションとアクション	364
D.2	YaSTによる指紋の管理	364
D.3	tf-toolによる指紋の管理	367
D.4	詳細情報	368
E	タブレットPCのサポート	369
E.1	タブレットPCパッケージのインストール	370
E.2	Wacomデバイスの設定	371
E.3	タブレットPCの一般的な機能の使用	375
E.4	トラブルシューティング	379
E.5	詳細情報	380

このガイドについて

このマニュアルでは、SUSE Linux Enterprise®のKDEデスクトップ、および関連するさまざまなアプリケーションについて紹介します。また、これらのアプリケーションの使用方法や作業手順についても説明します。このマニュアルは、KDEを日常的に使用するエンドユーザを対象にしています。

マニュアルは、以下の各部に分かれています。

KDE デスクトップ

KDEデスクトップの概要と基本的な作業手順、および主なKDEアプリケーションやユーティリティの使用方法を説明しています。KDEが提供する多彩な機能について学習し、ご自身の目的に応じてKDEをご活用ください。

オフィスとコラボレーション

SUSE Linux Enterpriseに用意されている、OpenOffice.orgスイート、電子メールやスケジュールプログラム、およびオンライン通話アプリケーションなどの、さまざまなオフィス用、コラボレーション用ソフトウェアについて紹介します。また、ネットワークでのファイル共有、データの効率的な検索と暗号化、およびプリンタの管理方法などの、データの管理と通信に関する情報も取り上げています。

インターネット

NetworkManager、またはKInternetを使ったインターネットへの接続方法について学習します。Konqueror、Firefox Webブラウザ、ダウンロードマネージャ、ニュースフィードリーダーなど、SUSE Linux Enterpriseが提供するインターネットアプリケーションの使用方法を説明しています。

マルチメディア

画像処理アプリケーション、デジタルカメラ、サウンドアプリケーション、およびCD/DVDライターについて説明しています。

1 フィードバック

本マニュアルおよびこの製品に含まれているその他のマニュアルについて、皆様のご意見やご要望をお寄せください。オンラインドキュメントの各ページの下部にあるユーザコメント機能を使用して、コメントを入力してください。

2 追加のマニュアル

この製品には、ほかのマニュアルも用意されています。SUSE Linux Enterpriseのエンドユーザ向けのマニュアルとして、次の各マニュアルもご覧ください。

Installation Quick Start

SUSE Linux Enterpriseをインストールするためのシステム要件やインストール手順について説明しています。

GNOME User Guide

このマニュアルは、SUSE Linux EnterpriseのGNOMEデスクトップ、および関連するさまざまなアプリケーションについて紹介しています。また、これらのアプリケーションの使用法や作業手順についても説明します。このマニュアルは、おもにGNOMEデスクトップで動作するアプリケーションを使用するエンドユーザを対象にしています。

SUSE Linux Enterpriseのすべてのマニュアルの概要については、<http://www.novell.com/documentation/sled10/>を参照してください。ここでマニュアルをダウンロードしたり、デスクトップのHelp Centerの情報にオンラインでアクセスできます。

3 マニュアルの表記規則

本書では、次の書体を使用しています：

- `/etc/passwd`:ファイル名およびディレクトリ名
- `placeholder:placeholder`は、実際の値で置き換えられます
- `PATH`:環境変数`PATH`

- `ls`, `--help`: コマンド、オプション、およびパラメータ
- `user`: ユーザまたはグループ
- **Alt**, **Alt + F1**: キー: 押すためのキーまたはキーの組み合わせ、キーはキーボードと同様に、大文字で表示されます
- `[ファイル]`, `[ファイル] > [名前を付けて保存]`: メニュー項目、ボタン
- *Dancing Penguins* (「*Penguins*」の章、↑他のマニュアル): 他のマニュアル中の章への参照です。



パート I. KDE Desktop



KDEデスクトップの開始

この章では、SUSE Linux Enterprise®のKDEデスクトップについて説明します。システムをインストールしていない場合は、<http://www.novell.com/documentation/sled10/>の『クイックスタートのインストール』を参照してください。

KDEは*K Desktop Environment*を表し、グラフィカルユーザインタフェースには、日常の作業を支援するように設計されている多くのアプリケーションがあります。また、KDEでは、必要や要望に従って、デスクトップを変更する多くの選択肢が提供されます。デスクトップの設定については、第2章 *設定のカスタマイズ* (53 ページ)を参照してください。

次の説明は、製品に付随しているKDEデスクトップのデフォルト設定に基づいています。システム管理者がデフォルトを変更している場合は、外観やキーボードショートカットなどのいくつかの点は異なっている場合があります。

1.1 ログインとデスクトップの選択

コンピュータに複数のユーザアカウントが設定されている場合、特定のユーザに対して自動ログインが設定されていない限り、一般的にすべてのユーザーが認証を受ける必要があります。自動ログイン機能を利用すると、ブート時にユーザがデスクトップ環境に自動的にログインされます。この機能は、インストール時に設定します。また、インストール後でもYaSTのユーザ管理モジュールを使って、有効/無効にすることができます。

コンピュータがネットワーク環境内で稼働している場合に、そのコンピュータを利用する複数のユーザがいる場合は、システムの開始時にユーザ名とパスワードの入力を要求するプロンプトが表示されます。システムとユーザアカウントを自分で設定していない場合は、システム管理者にユーザ名とパスワードをお問い合わせください。

ログインプロセスを管理するプログラムは、システムにインストールされたデスクトップ環境によって異なります。KDEについては、KDMです。さらに、GNOMEデスクトップがインストールされている場合はGDMになります。

図 1.1. 「KDMログイン画面」 (5 ページ)で示しているように、デフォルトのKDMログイン画面にはユーザ名とパスワードの入力フィールド、および次のメニュー項目が表示されます。

セッションタイプ

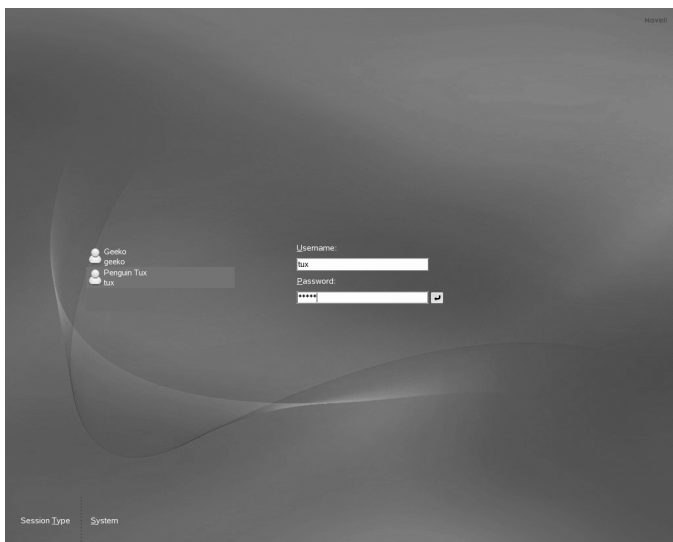
ログインする場合に実行するデスクトップを指定します。KDE以外のデスクトップがインストールされている場合は、リストに表示されます。デフォルト(通常はKDE)以外のセッションタイプを使用する場合にのみ変更します。手動でセッションタイプを変更しない限り、それ以降のセッションは自動的に同じタイプになります。

システム

コンピュータのシャットダウンや別のログインアクションの開始などのシステムアクションを実行します。[リモートログイン]では、リモートマシンにログインできます。

通常ログインを開始するのに必要な操作は、ユーザ名とパスワードの入力のみです。

図 1.1 KDMログイン画面



システム管理者が専用の暗号化ホームディレクトリ(窃盗やハードディスクの盗難に対するデータ保護に役立つ)を作成している場合、ログイン時にホームディレクトリがマウントされます。ログイン後は、通常と同じようにデータにアクセスできます。他のパスワードを入力する必要はありません。

注意: Active Directoryサーバへの接続

共有ネットワークリソースにアクセスするには、KDEクライアントコンピュータがActive Directoryサーバの認証を受ける必要があります。詳細については、第9章 ネットワークリソースへのアクセス (173 ページ)を参照してください。この種類の認証がコンピュータに設定されていない場合は、ログイン画面に追加のフィールドが表示されます。この場合は、ログイン時に次の操作を実行してください。

1. リストからドメインを選択します。
2. Windows*ユーザ名を入力します。
3. Windowsパスワードを入力して、Enterキーを押します。

1.1.1 セッションの制御

ログインプロセスによるユーザ名とパスワードの認証後に、セッションマネージャは起動します。セッションマネージャによって、セッションごとに特定の設定を保存できます。また、最も最近のセッションのステータスを保存して、次にログインしたときにそのステータスを返すこともできます。

セッションマネージャによって、次の設定を保存して復元できます。

- フォント、カラー、およびマウス設定などの、外観と動作の設定。
- ファイルマネージャやOpenOffice.orgなどの、実行していたアプリケーション。

注意: アプリケーションの保存と復元

セッションマネージャが管理しないアプリケーションは、保存と復元はできません。たとえば、ターミナルウィンドウのコマンドラインからviエディタを起動する場合は、セッションマネージャは編集中のセッションを復元できません。

セッション設定の設定については、*KDEコンポーネント* (55 ページ)を参照してください。

1.1.2 デスクトップの切り替え

KDEとGNOMEのデスクトップをインストールしている場合は、次の手順を使用して、デスクトップを切り替えます。

- 1 KDEにログインしている場合は、メインメニューから [ログアウト] > [現在のセッションの終了] を選択します。ログイン画面で、 [セッションタイプ] をクリックします。
- 2 GNOMEデスクトップを選択します。
- 3 ユーザ名を入力します。
- 4 パスワードを入力します。GNOMEデスクトップが起動します。

GNOMEデスクトップの使用の詳細については、<http://www.novell.com/documentation/sled10/>にある『GNOMEユーザガイド』を参照してください。

- 5 KDEに戻る場合は、GNOMEデスクトップのパネルから、[デスクトップ] > [ログアウト]の順にクリックし、[OK]をクリックします。セッションが終了し、ログイン画面が再び表示されます。
- 6 再ログインする前に、ログイン画面の[セッションタイプ]をクリックして、[KDE]を選択します。新しいセッションタイプを選択しない場合、次のセッションは、前回と同じセッションタイプ(GNOME)になります。

1.1.3 画面のロック

画面をロックするには、次のいずれかを実行します。

- メインメニューから、[セッションのロック]を選択します。
- KDEコントロールセンターで定義したキーボードショートカットを使用します。通常は、Ctrl+Alt+キーです。

ティップ: KDEキーボードショートカットの参照

他のKDEキーボードショートカットについては、「2.1項「KDEコントロールセンターの使用」(53 ページ)」のKDEコントロールセンターを参照してください。

素早くアクセスするために、パネルに[ロック]および[ログアウト]のアイコンを追加することもできます。追加するには、パネルを右クリックし、[アプレットをパネルに追加]をクリックします。次のウィンドウで、[Lock/Logout Buttons]を選択してから、[パネルへ追加]をクリックします。

画面をロックすると、スクリーンセーバーが起動します。画面をロック解除するには、マウスを移動させて、ロックされた画面ダイアログを表示します。ユーザー名とパスワードを入力してから、<Enter>キーを押します。

スクリーンセーバーの設定について詳細は、「スクリーンセーバの設定 (58 ページ)」を参照してください。

1.2 ログアウト

コンピュータの使用が完了したら、ログアウトして、システムを稼働したままにしておくか、コンピュータを再起動またはシャットダウンすることができます。システムに電源管理が装備されている場合は、コンピュータをサスペンドすることもできます。これは、サスペンドすると、次のシステム起動が完全にブートする場合より高速になるためです。

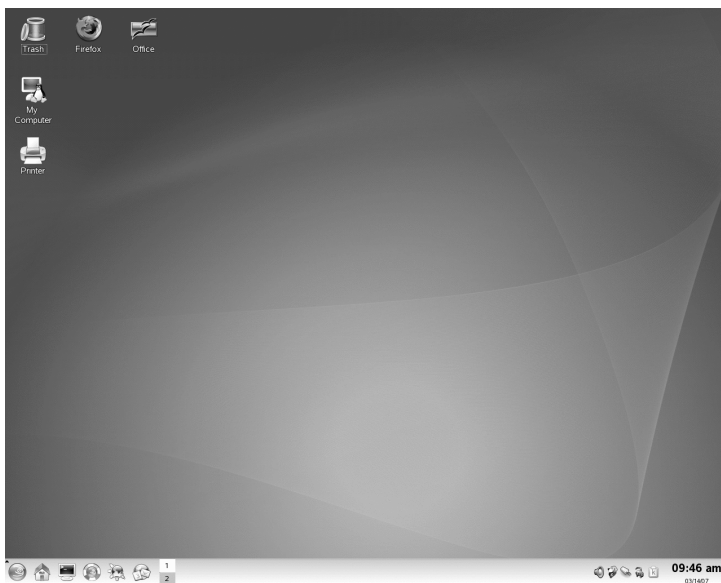
ログアウトしてシステムを稼働させておくには、次のいずれかを実行します。

- メインメニューから、[ログアウト] > [現在のセッションの終了] の順に選択します。
- KDEコントロールセンターで定義したキーボードショートカットを使用します。通常、ログアウトを確認するメッセージを表示してログアウトする場合は、**Ctrl+Alt+Del**キーを使用します。このキーを押した後に表示されるダイアログでは、ログアウトをキャンセルすることもできます。確認のメッセージを表示しないでログアウトする場合は、**Ctrl+Alt+Shift+Del**キーを押します。
- パネルの [ログアウト] アイコンをクリックします。パネルにログアウトアイコンがない場合は、1.1.3項「画面のロック」(7 ページ)の手順に従って、パネルに追加できます。

1.3 デスクトップコンポーネント

グラフィカルデスクトップ環境は、従来のWindows*またはMacintosh*のユーザーに、いかなる問題を強要することはありません。デスクトップ上にある主要なコンポーネントは、デスクトップ上にあるアイコンと、画面の下端にあるパネルです。

図 1.2 KDE デスクトップの例



デスクトップアイコンは、ファイル、ディレクトリ、アプリケーションや機能、およびリムーバブルメディア(CD、DVDなど)を表します。

デフォルトでは、デスクトップには次のアイコンが表示されます。

ごみ箱

削除されたファイルやフォルダを保管します。ごみ箱の使用方法については、1.3.4項「ごみ箱の管理」(19 ページ)を参照してください。

マイコンピュータ

ハードウェア、ネットワークステータス、オペレーティングシステム、ハードディスク、共通フォルダ、およびリムーバブルデバイスに関する情報を表示します。詳細については、1.3.3項「リムーバブルメディアへのアクセス」(17 ページ)を参照してください。

ネットワーク参照

利用可能なネットワークサービスを表示します。サービスによっては、認証が必要なこともあります。詳細は、第9章 ネットワークリソースへのアクセス(173 ページ)を参照してください。

プリンタ

KJobViewerを起動します。KJobViewerには、プリンタに送信した印刷ジョブが表示されます。詳細については、12.4項「KDEでの印刷ジョブの開始」(210 ページ)を参照してください。

Firefox

Firefox Webブラウザを起動します。詳細については、第15章 *Firefox* を使用したブラウジング(237 ページ)を参照してください。

電話(オフィス)

OpenOffice.orgを起動し、新規のドキュメントを開きます。このオフィススイートについては、第3章 *OpenOffice.org* オフィススイート(77 ページ)を参照してください。

パネル(KDEでは、Kickerとも呼ばれます)はバーで、通常は、画面の上端または下端に置かれています。「」パネルは、アプリケーションやシステムの実行、および重要な機能やアプリケーションへの容易なアクセスに関する情報を提供するようになっています。アイコンの上にポインタを移動すると、簡単な説明が表示されます。

☒ 1.3 KDE パネル(Kicker)



パネルは通常、次のエリアから構成されています。

メインメニューアイコン

デフォルトでは、パネルの左端に、メインメニュー(KDEではKメニューと呼ばれることもあります)を開くアイコンがあり、MS Windowデスクトップにある [スタート] ボタンと類似しています。メインメニューは、主要なアプリケーションにアクセスできるように、よく整理された構造になっています。また、ログアウトしたりアプリケーションを検索したりするような主要な機能についてのメニュー項目もあります。詳細については、1.3.1項「メインメニューへのアクセス」(11 ページ)を参照してください。

クイックラウンチャ

メインメニューアイコンの隣に、クイックラウンチャがあります。クイックラウンチャは、最も重要な機能やアプリケーションのアイコンを保持します。それにより、メインメニューを通さなくてもそうした機能やアプリ

ケーションを起動できます。また、**Help Center**のアイコンもあり、システムに関するオンラインヘルプを表示できます。

デスクトッププレビューア

クイックラウンチャの隣に、デスクトッププレビューアがあり、別のデスクトップが表示されます。仮想デスクトップによって、作業を整理することができます。同時に多くのプログラムを使用する場合は、1つのデスクトップでいくつかのプログラムを実行して、もう1つのデスクトップでまたいくつかのプログラムを実行することができます。デスクトップを切り替えるには、パネルでデスクトップのシンボルをクリックします。

タスクバー

タスクバーは、デスクトッププレビューアの隣に配置されています。デフォルトで、起動しているすべてのアプリケーションと開いているウィンドウがタスクバーに表示されるため、現在アクティブなデスクトップであるかどうかに関わらず、いずれのアプリケーションにもアクセスできます。タスクバーの中でウィンドウのタイトルをクリックすると、それに対応するアプリケーションがフォアグラウンドになります。そのアプリケーションが既にフォアグラウンドになっている状況で、ウィンドウのタイトルをクリックすると、そのアプリケーションは最小化されます。

シストレイ

パネルの右端の部分は通常は、システムクロック、ボリューム制御、および他のいくつかのヘルパーアプリケーションを保持します。

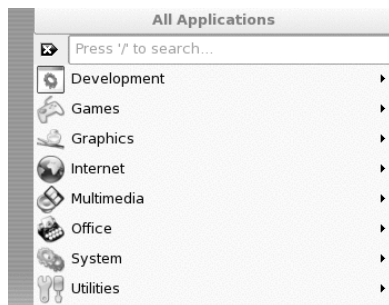
メインメニュー、デスクトップアイコン、またはパネルなど、デスクトップの外観や動作の設定方法については、「2.2項「デスクトップオブジェクトの設定」(57 ページ)」と「2.4項「パネルの設定」(63 ページ)」を参照してください。

1.3.1 メインメニューへのアクセス

パネルの左端にあるアイコンを使用して、メインメニューを開きます。または、**Alt + F1**キーを押します。メインメニューは、*[Most Used Applications]* (よく使われるアプリケーション)、*[All Applications]* (すべてのアプリケーション)(すべてのアプリケーションがカテゴリ別に分類されたメニュー)、および *[Actions]* (アクション)の3つのセクションに分かれています。開始するアプリケーションは、*[最も使用したアプリケーション]* セクションに最もよく表示されます。

このメニューは機能中心の構造になっており、アプリケーションの名前が分からないような場合でも、目的に合ったアプリケーションを簡単に見つけることができます。アプリケーションの名前(または少なくとも名前の一部)が分かっているが、メインメニューからの起動方法が不明な場合は、[全てのアプリケーション] セクションにある検索機能を使用できます。

図 1.4 メインメニュー検索機能



検索フィールドにアプリケーション名の一部を入力するだけで、Enterキーを後から押す必要はありません。アプリケーションがシステムにインストールされている場合は、このアプリケーションにつながるメニュー構造がメインメニューで反転表示されます。

次に、メインメニューから開始できるいくつかの機能について説明します。

最近使ったファイル

最近開いたファイルやフォルダが表示されます。ドキュメントを選択すると、そのドキュメントを表示、編集するためのアプリケーションが起動します。このドキュメントの使用履歴は消去することもできます。

マイシステム

ホームディレクトリやメディアデバイスなど、頻繁に使用する場所に素早くアクセスできます。

コマンドを実行

コマンドを入力してアプリケーションを起動するためのダイアログボックスを開きます。一般的に、コマンド名はアプリケーション名を小文字表記したものになります。ただし、一部例外もあります。コマンドの自動入力機能を利用するには、コマンド名の最初の文字をいくつか入力してから<Tab>キーを押します。以前にコマンドが実行されており、他に同じ文字

で始まるコマンドがない場合は、このコマンド名のすべての文字が表示されます。

ユーザーの切り換え

コンピュータ上で、GUI(グラフィカルユーザインタフェース)を使用する2番目のセッションを開始するには、*[ユーザの切替え]*を選択します。現在のセッションはアクティブのまま、別のユーザとしてログインするためのログイン画面が表示されます。1番目のセッションに戻るには、**Ctrl+Alt+F7**キーを押します。新しいセッションにアクセスする場合は、**F7**キーの代わりに**F8**キーを押します。同様に、それ以降にログインしたセッションにアクセスする場合は、それぞれ**Ctrl+Alt+F9~F12**キーを押します。

セッションのロック

コンピュータから離れる場合に、画面をロックして他のユーザによる不正アクセスを防止することができます。ロック後に、スクリーンセーバーが開始されます。セッションに再びアクセスするには、パスワードを入力する必要があります。ロックを解除するには、通常のログインパスワードを入力します。

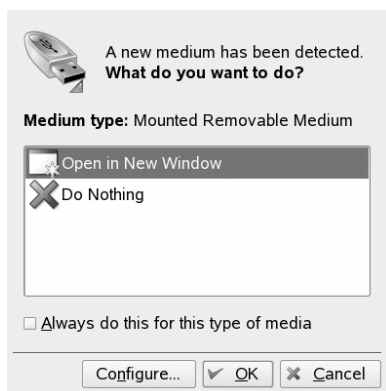
Log Out

ダイアログにさまざまなオプションが表示されます。このダイアログから、現在のセッションを終了したり、コンピュータをオフにしたり、コンピュータを再起動したり、ログアウトをキャンセルすることができます。*[現在のセッションの終了]*を選択した場合は、システムは引き続き稼働し、次のログイン時にはアプリケーションが復元されます。システムに電源管理が装備されている場合は、コンピュータをサスペンドすることもできます。これは、サスペンドすると、次のシステム起動が完全にブートする場合より高速になるためです。

1.3.2 リムーバブルメディアの挿入または接続

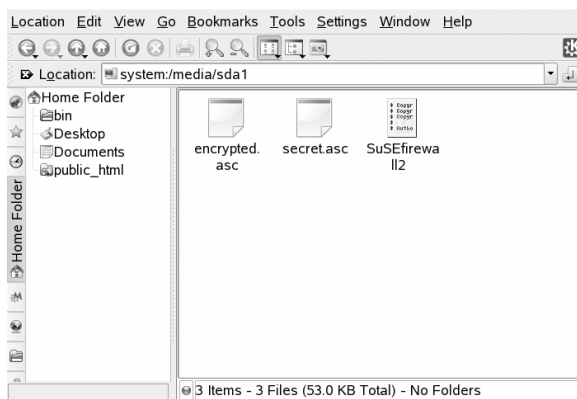
コンピュータにリムーバブルメディア(CD-ROM、デジタルカメラ、USBスティックなど)を挿入、またはSR接続した場合、これらのメディアは自動的に検出されます。KDEの場合は、検出されたメディアの種類と、そのメディアを利用する場合のオプションがダイアログボックスに表示されます。表示されるオプションは、挿入されたメディアの種類によって異なります。

図 1.5 USBスティックの自動検出



ファイルマネージャでデータを表示する場合は、*[Open in New Window]* を選択して、*[OK]* をクリックします。Konquerorファイルマネージャに、リムーバブルデバイスの内容が表示されます。

図 1.6 USBスティックの内容の表示



特定の種類のリムーバブルメディアを挿入した時に毎回同じアクションが実行されるようにする場合は、表示されたダイアログで *[Always do this for this type of media]* を選択してから、*[OK]* をクリックします。

LUKS (Linux Unified Key Setup) を使って暗号化されているシステムにリムーバブルメディアを挿入、接続した場合、KDEはこれを認識し、パスワードの入力を要求するメッセージが表示されます。図 1.7. 「暗号化USBスティックの

自動検出」 (15 ページ)を参照してください。暗号メディアにアクセスするためのパスワードを入力してください。

図 1.7 暗号化USBスティックの自動検出



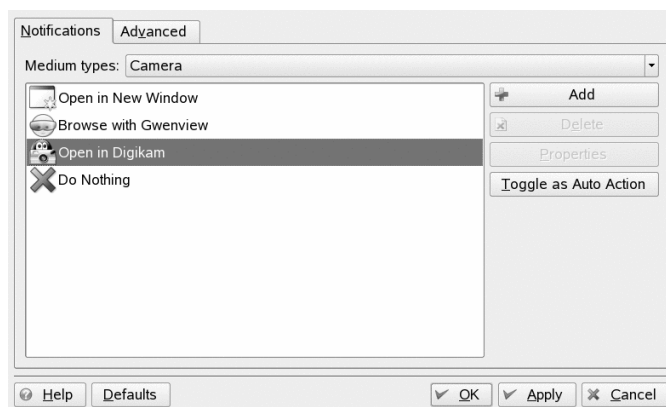
リムーバブルメディアの暗号化の詳細は、「項「Encrypting the Content of Removable Media」 (第42章 *Encrypting Partitions and Files*, ↑Deployment Guide)」を参照してください。

手順 1.1 リムーバブルメディアの処理の設定

自動検出ダイアログでは、リムーバブルメディアの種類に応じた処理方法を設定できます。たとえば、頻繁に利用する種類のメディアに必ず写真データが保存されている場合、その種類のメディアをイメージビューアアプリケーションで自動的に開くように設定できます。

- 1 自動検出ダイアログで、**[設定]** をクリックします。
- 2 設定用ダイアログに、利用可能なすべてのアクションが表示されます。
- 3 **[Medium types]** ドロップダウン リストをクリックして、特定のアクションを行うメディアの種類を選択します。選択した種類のメディアの中で、利用可能なアクションのみが表示されます。
- 4 適切なアクションを選択し、**[Toggle as Auto Action]** をクリックします。

図 1.8 リムーバブルメディアのKDE設定ダイアログ



- 5 [詳細] タブをクリックし、[Enable medium application autostart after mount] チェックボックスが選択されていることを確認します。
- 6 [OK] をクリックして、変更内容を適用し、設定ダイアログを閉じます。これで、指定した種類のメディアを挿入したときに毎回設定したアクションが自動的に実行されます。以降、検出ダイアログが表示されることはありません。

手順 1.2 デフォルトメディアの復元処理オプション

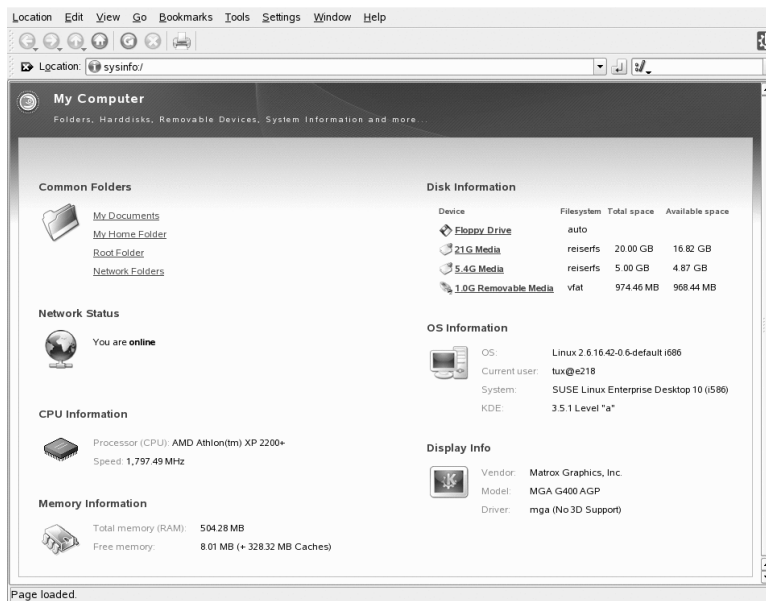
特定の種類のメディアに対して設定したアクションをリセットし、デフォルト設定に戻すには、次の手順に従います。

- 1 メインメニューから、[個人設定] を選択して、KDEコントロールセンターを起動します。
- 2 左側のナビゲーションバーで、[周辺装置] > [ストレージメディア] の順に選択します。右側に設定ダイアログが表示されます。
- 3 [デフォルト]、[適用] の順にクリックします。次回メディアを挿入するときに再び自動検出ダイアログが表示され、メディアの取り扱い方法を指定できます。

1.3.3 リムーバブルメディアへのアクセス

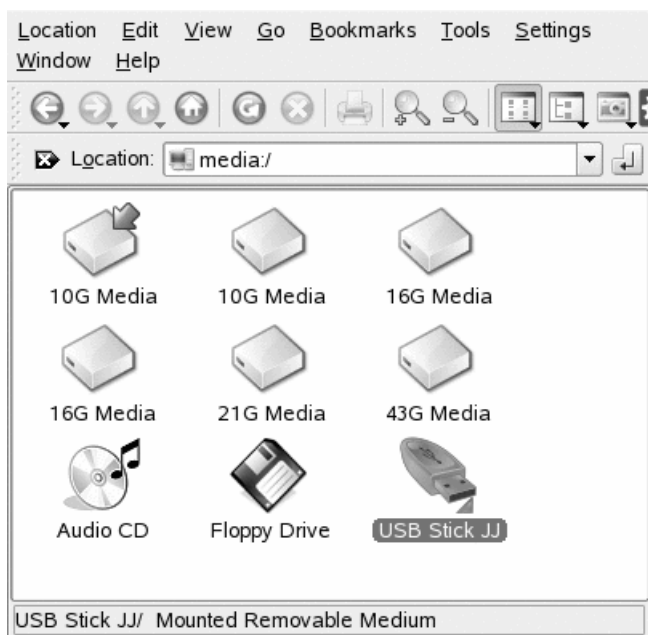
KDEでは、リムーバブルメディアにアクセスするために、さまざまな方法が用意されています。デスクトップの [マイコンピュータ] をクリックすると、[図 1.9](#)。「マイコンピュータ」(17 ページ)に示すようなビューが表示されます。

1.9 マイコンピュータ



Konquerorをファイルマネージャ(1.4項「フォルダおよびKonquerorのあるファイルの管理」(19 ページ)を参照)として起動して、開始ウィンドウから [ストレージメディア] をクリックするか、または場所ツールバーでmedia:/を入力した場合、[図 1.10](#)。「Konquerorへのメディアの表示」(18 ページ)で示すように、Konquerorにストレージデバイスが表示されます。

図 1.10 Konquerorへのメディアの表示



Konquerorでは、USBスティックのようなリムーバブルデバイスに名前を付けることもできます。KonquerorでUSBスティックを右クリックして、[プロパティ]を選択します。[一般]タブで、入力フィールドに名前を入力し、[OK]をクリックします。次回USBスティックを挿入したとき、Konquerorにはその名前が表示されます。

小さな緑色の矢印は、メディアが「マウントされていること」(ファイルシステムに統合されていること。メディアのデータにアクセスするために必要)を表します。通常、SUSE Linux Enterpriseでは、リムーバブルデバイスがマウントされているかどうか確認する必要はありません。デフォルトでは、マウントは自動的に行われます。

注意: メディアの安全な取り外し

コンピュータからメディアを取り外す場合は、メディア内のデータにアプリケーションやユーザがアクセスしていないことを確認してください。メディア内のデータにアクセスしているときにメディアを取り外すと、デー

タが失われる危険性があります。メディアを安全に取り外すには、以下の手順に従います。

1. すべてのリムーバブルメディアを表示するビューを開きます。
2. 取り外すメディアを右クリックして、`[Safely Remove]` または `[Eject]` を選択します。`[Safely Remove]` を選択した場合、メディアのマウントが解除され、コンピュータから取り外すことができるようになります。`[Eject]` を選択した場合、コンピュータのCD/DVDドライブが自動的に開きます。

1.3.4 ごみ箱の管理

ごみ箱は、削除マークの付いたファイルを格納するためのディレクトリです。ファイルマネージャまたはデスクトップから、マウスの左ボタンを押したままアイコンをごみ箱までドラッグし、アイコンをドロップします。代わりに、アイコンを右クリックし、メニューから`[ごみ箱へ移動]`を選択することもできます。ごみ箱のアイコンをクリックすると、その内容を表示できます。必要に応じて、ごみ箱の中にある項目を取り出すこともできます。

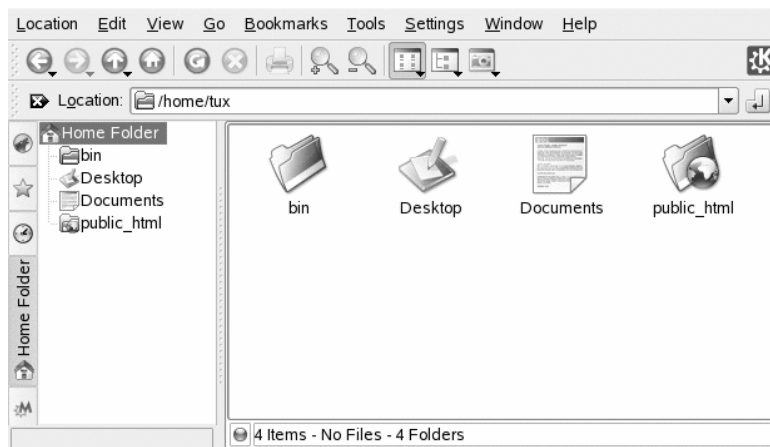
ファイルを右クリックして`[削除]`を選択する方法で削除した場合、そのファイルはごみ箱へ移動されることなく、完全に削除されます。ごみ箱の中にあるファイルを削除するには、ごみ箱のアイコンを右クリックし、`[ごみ箱を空にする]`を選択します。

1.4 フォルダおよびKonquerorのあるファイルの管理

Konquerorは、Webブラウザ、ファイルマネージャ、ドキュメントビューア、イメージビューアの統合ツールです。次のセクションでは、ファイル管理のためのKonquerorの使用について説明します。WebブラウザとしてのKonquerorについては、第14章 *Konquerorを使ったブラウズ* (227 ページ)を参照してください。

パネルにある家の形のアイコンをクリックしてファイルマネージャとしてのKonquerorを起動します。Konquerorには、ホームディレクトリの内容が表示されます。

☒ 1.11 ファイルマネージャKonqueror



Konquerorファイルマネージャウィンドウは、次の要素から構成されます。

メニューバー

メニューバーには、ファイルのコピー、移動、または削除、ビューの変更、追加ツールの起動、設定の定義、およびヘルプの取得などのアクションに関するメニュー項目があります。

ツールバー

ツールバーを使用すると、よく使用する機能に簡単にアクセスできます。これらの機能には、メニューからもアクセスできます。アイコンの上にポインタを移動すると、簡単な説明が表示されます。ツールバーの右側には、Konquerorアイコンがあり、ディレクトリやWebページのロード中、アニメーションで表示されます。

場所ツールバー

場所ツールバーには、ファイルシステム内のディレクトリまたはファイルへのパスが表示されます。表示フィールドに入力するか、ディレクトリの1つをクリックすることで、ディレクトリへの直接のパスを入力できます。場所ツールバーの左隅にある、黒に白抜きXがあるバーをクリックし

て、行の内容を削除します。アドレスを入力した後、<Enter>キーを押すか入力行の右端にある[進む]アイコンをクリックします。

Windowsオペレーティングシステムと異なり、Linuxではドライブ文字は使用しません。Windowsでは、フロッピーディスクドライブをA:\でアドレス指定し、WindowsシステムデータはC:\の下にある、などのようになります。Linuxでは、すべてのファイルとディレクトリがツリー型構造で配置されます。最上位のディレクトリは、ファイルシステムルートまたは/と呼ばれます。他のすべてのディレクトリには、ここからアクセスできます。次に、Linuxファイルシステム内の最も重要なディレクトリの概略を示します。

/homeでは、システム上にアカウントを持つすべてのユーザの個人データが保持されます。このディレクトリにあるファイルは、その所有者またはシステム管理者しか変更できません。たとえば、各自の電子メールディレクトリは、このディレクトリにあります。

注意: ネットワーク環境でのホームディレクトリ

ネットワーク環境で作業している場合は、ホームディレクトリは/homeとは呼ばれないことがあります。ファイルシステム内のどのディレクトリにもマッピングできます。

/mediaでは、一般にシステムのハードディスク以外のあらゆるタイプのドライブが保持されます。USBフラッシュドライブは、接続されると/mediaの下に表示されます。これは、デジタルカメラ(USBを使用する場合)またはDVDやCDドライブを接続した場合も同様です。

/usr/share/docの下に、Linuxシステムとインストールされたパッケージに関するあらゆる種類のマニュアルがあります。manualサブディレクトリには、このマニュアルのデジタルコピーと他のマニュアル、そしてインストールされたLinuxシステムのバージョンのリリースノートが置かれています。packagesディレクトリには、ソフトウェアパッケージに付属するマニュアルが保持されます。

/windowsは、システム上にMS WindowsとLinuxの両方がインストールされている場合にのみ表示されます。ここには、MS Windowsのデータがあります。

Linuxファイルシステムの概念、およびより詳細なディレクトリリストについては、項「Linux Directory Structure」(第15章 *Working with the Shell*, ↑Deployment Guide)を参照してください。

ナビゲーションパネル

<F9>キーを押して、ナビゲーションパネルを非表示および表示にできます。ナビゲーションパネルには、ツリービューでの情報が表示されます。ナビゲーションパネルの左側にあるタブでシンボルをクリックして、表示したい内容を決定します。アイコンの上にマウスポインタを置くと、簡単な説明が表示されます。たとえば、ファイルシステムをルートフォルダまたはホームディレクトリで開始されるツリーとして表示できます。

表示フィールド

表示フィールドには、選択したディレクトリまたはファイルの内容が表示されます。[表示]メニューで、[アイコンビュー]、[ツリービュー]、または[詳細リスト表示]などのビューモードの中からいずれかを選択して内容を表示できます。ファイルをクリックすると、Konquerorに内容のプレビューが表示されるか、ファイルが次の処理を行うアプリケーションにロードされます。ファイルの上にマウスポインタを移動すると、Konquerorには、所有者、権限、変更日付など、ファイルの詳細情報のあるツールチップが表示されます。

デフォルトでは、通常アクセスまたは表示しないシステムファイルなどの隠しファイルはKonquerorには表示されません。Linuxでは、隠しファイルの前にはピリオドが付けられています。隠しファイルを表示または非表示にするには、[表示] > [Show Hidden Files]の順に選択します。

1.4.1 ファイルのコピー、移動、または削除

ファイルのコピー、移動、または削除のようなアクションの実行には、アクションに関連するフォルダとファイルに対する適切な権限が必要です。アクセスパーミッションの変更の詳細については、1.4.3項「アクセス権の変更」(24 ページ)を参照してください。

ティップ: Konquerorでのオブジェクトの選択

Konqueror中のファイルまたはフォルダをクリックすると、ファイルの場合はプレビューが表示され、フォルダの場合はそのフォルダが開かれます。MS Windowsの従来のユーザーにとっては、この動作は変わっているかもし

れません。他のアクションなしでファイルを選択だけしたい場合は、<Ctrl>キーを押してからオブジェクトをクリックします。代わりに、KDEコントロールセンターでマウス設定を変更してください(「*Peripherals* (56 ページ)」を参照)。

ファイルまたはフォルダをコピーまたは移動するには、次の手順を実行します。

- 1 オブジェクトを右クリックして、コンテキストメニューから [コピー] または [切り取り] を選択します。オブジェクトがクリップボードに保管されます。
- 2 オブジェクトを挿入するフォルダに移動します。移動先フォルダを右クリックし、[貼り付け] を選択します。オブジェクトがコピー、または移動されます。

ドラッグアンドドロップを使用すると、Konquerorでのオブジェクトのコピーまたは移動などの操作が簡単にできます。たとえば、ドラッグするだけで、1つのウィンドウから別のウィンドウにオブジェクトを簡単に移動できます。オブジェクトをドロップすると、そのオブジェクトを移動するかコピーするかを尋ねるメッセージが表示されます。

ファイルまたはフォルダを削除するには、次の手順を実行します。

- オブジェクトを選択してキーを押すか、ファイルを右クリックしてから、コンテキストメニューから [ごみ箱へ移動] を選択します。オブジェクトはごみ箱へ移動されます。必要な場合は、ファイルまたはフォルダをそこから復元するか、完全に削除することができます。関連項目 1.3.4 項 「ごみ箱の管理」 (19 ページ)。
- オブジェクトを復元できないように削除するには、[編集] > [削除] をクリックするか、Shift+Delキーを押します。コンテキストメニューに [削除] を追加する場合は、[設定] > [Konquerorを設定] > [動作] の順にクリックして、適切なチェックボックスを選択します。

1.4.2 新しいフォルダの作成

Konquerorで新しいフォルダを作成するには、次の手順に従います。

- 1 サブフォルダの追加先のフォルダを右クリックします。
- 2 *[Create Folder]* を選択します。
- 3 *[新しいフォルダ]* ダイアログで、新しいフォルダの名前を入力して、*[OK]* をクリックします。

1.4.3 アクセス権の変更

Linuxはマルチユーザシステムのため、Linuxファイルシステム中のファイルは、それぞれユーザやグループに属します。スーパーユーザも含め、すべてのユーザには、各自のホームディレクトリが用意されています。このディレクトリには、ドキュメント、ブックマーク、または電子メールなどの個人データが保存されます。デフォルトでは、これらのホームディレクトリへの書き込みアクセスは所有者に限定されています。ファイルやディレクトリの所有者は、そのファイルへのアクセス権限を変更することができます。たとえば、重要なデータのあるファイルに対して、他のユーザからの読み取りアクセスを禁止したり、必要に応じて他のユーザによるファイルの読み取り、書き込みまたは実行を許可することができます。

従来どおり、Linuxシステムのファイルオブジェクトごとに3セットのパーミッションが定義されます。この3セットには、読み取り(r)、書き込み(w)、実行(x)の各パーミッションがあり、それぞれが3種類のユーザ(ファイル所有者、グループ、その他のユーザ)ごとに設定されます。Linuxの概念については、「項「Users and Access Permissions」(第15章 *Working with the Shell*, ↑*Deployment Guide*)」を参照してください。シェルでアクセス権限を変更する従来の方法のかわりに、Konquerorが提供するGUIを利用することもできます。「」

ファイルの権限を設定するには、Konquerorで以下のオプションを選択してください。

Forbidden

ファイルシステム中のファイル名は確認できますが、ファイルを開いて読み取ることはできません。

Can Read

ファイルを開いて参照できますが、変更することはできません。

Can Read & Write

ファイルを開いて読み取ったり、変更したりできます。

Konquerorを使用してフォルダのパーミッションを設定する場合は、次のオプションを利用できます。

Forbidden

ファイルシステムのフォルダ名は確認できますが、フォルダを開くことはできません。

Can View Content

フォルダの内容を表示できます。

Can View & Modify Content

フォルダの内容を表示したり、そのフォルダ内に新しいファイルやサブフォルダを作成できます。

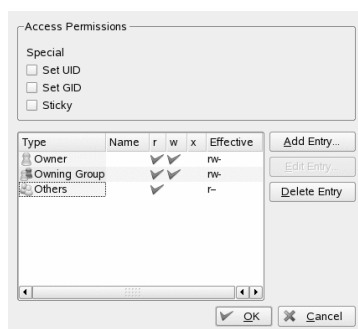
アクセスパーミッションを変更するには、次の手順に従います。

- 1 Konquerorを起動して、アクセスパーミッションを変更するファイルやフォルダを選択します。
- 2 ファイルを右クリックし、[プロパティ]を選択します。新しいダイアログが開きます。
- 3 [Permissions] タブをクリックします。タブの下部には、ファイルまたはフォルダの所有者情報が表示されます。タブの上部には、現在のアクセスパーミッションが表示されます。
- 4 [Owner]、[Group]、および [Others] リストから、ファイルやフォルダに設定するアクセスパーミッションを選択します。
- 5 [OK] をクリックして、変更内容を適用します。

Konquerorでは、ファイルシステムオブジェクトに対する従来のアクセスパーミッションのほかに、ACL(アクセス制御リスト)を使用することもできます。ACLを使用すれば、従来のパーミッション概念で許されていた以上のパーミッションを柔軟に定義できます。また、パーミッションが元の所有者や所有者の所属グループに対応していない場合でも個々のユーザまたはグループにそうしたパーミッションを割り当てることができます。ACLの詳細は、第13章 *Access Control Lists in Linux* (↑Deployment Guide)を参照してください。

特定のユーザまたはグループに、ファイルやフォルダに対するアクセスパーミッションを与えるには、以下の手順に従ってください。

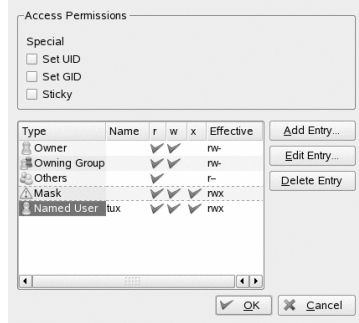
- 1 **Konqueror**を起動して、アクセスパーミッションを変更するファイルやフォルダを選択します。
- 2 目的のファイルの [プロパティ] ダイアログを開き、 [Permissions] タブをクリックします。
- 3 [AdvancedPermissions] をクリックします。ダイアログボックスに、オブジェクトの現在のアクセスパーミッションが表示されます。



- 4 [エンTRIESの追加] をクリックします。
- 5 ファイルやフォルダにアクセスパーミッションを特定のユーザに与えるには、 [名前付きユーザ] を選択して、リストから目的のユーザを選択します。

ファイルやフォルダにアクセスパーミッションを特定のグループに与えるには、 [名前付きグループ] を選択して、リストから目的のグループを選択します。

- 6 [AdvancedPermissions] ダイアログで、追加したユーザやグループが現在のパーミッションのリストに表示されます。ファイルやフォルダに対して読み取り、書き込み、または実行権限が与えられている場合、それぞれ [r]、 [w]、または [x] 列に緑のチェックマークが表示されます。

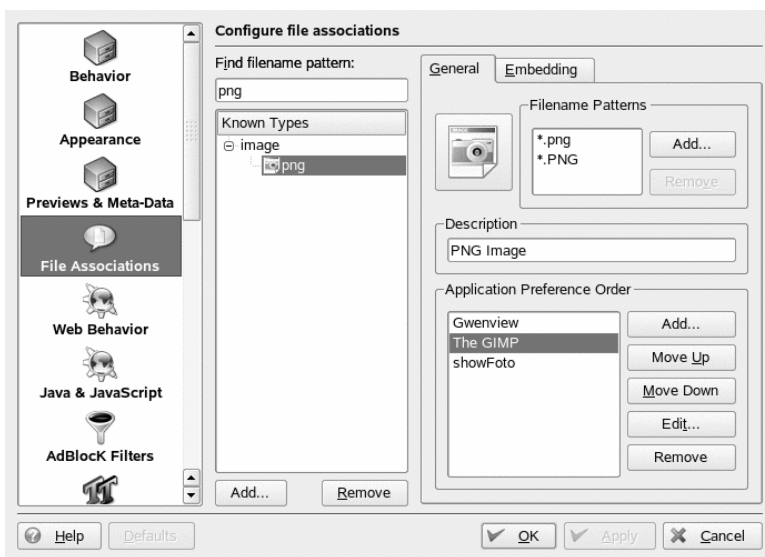


- 7 ユーザの `[r]`、`[w]`、または `[x]` 列のチェックマークをクリックして、そのユーザのアクセス権限を変更することができます。
- 8 アクセス権限を設定し終わったら、`[OK]` をクリックしてダイアログを閉じます。
- 9 変更内容を適用して `[Properties]` ダイアログを閉じるには、`[OK]` をクリックします。

1.4.4 ファイルの関連付けの変更

Konquerorでは、ファイルを開くのに使用する必要があるアプリケーションを選択できます。

図 1.12 Konquerorでのファイルの関連付けの設定



- 1 Konquerorで、[設定] > [Konquerorを設定] > [ファイルの関連付け]をクリックします。
- 2 拡張子を検索するには、拡張子を [ファイルパターンを検索] に入力します。検索条件に一致するファイルパターンを持つファイルタイプだけがリストに表示されます。たとえば、アプリケーションを*.pngファイルに変更するには、pngを [ファイルパターンを検索] に入力します。
- 3 [既知のタイプ] リストで、ファイルタイプをクリックして、このファイルタイプについての設定ダイアログを開きます。アイコン、ファイル名パターン、説明、およびアプリケーションの順番を変更できます。

ツールがリストにない場合は、[アプリケーションの優先順位]の[追加]をクリックしてそのツールのコマンドを入力します。

リストエントリの順番を変更するには、移動するプログラムをクリックし、[上に移動]または[下に移動]をクリックしてより高い優先度または低い優先度を割り当てます。このタイプのファイルをクリックすると、リストの一番上にあるアプリケーションがデフォルトで使用されます。

4 [既知のタイプ] リストにないファイルタイプが必要な場合は、[追加] をクリックすると、グループを選択してタイプ名を入力するためのダイアログボックスが表示されます。グループによって、オーディオ、イメージ、テキスト、ビデオなどのメインタイプが決まります。通常は、ファイルタイプにこれらのいずれかを割り当てることができます。

4a [OK] をクリックしたら、ファイルの拡張子を決定します。

4b テキストフィールドに説明を入力し、使用するアプリケーションを指定します。

5 [OK] をクリックします。

1.4.5 ビューのプロファイルの保存

[表示] メニューから適切な [ビューモード] を選択して、特定のフォルダのビューを一時的に変更できます。変更内容をすべてのフォルダに適用する場合は、ビュープロファイルに設定内容を保存します。設定内容を保存するには、目的のビューに変更した後に、[設定] > [ビューのプロファイルを設定] の順に選択します。次に、保存するプロファイル名を入力し、[保存] をクリックします。すべてのフォルダに対して、ビューの変更が適用されます。設定情報は、このプロファイルに保存されます。このプロファイルは、[設定] > [ビューのプロファイルを読み込み] の順に選択して、いつでもロードできます。Konquerorにはデフォルトで、さまざまな作業用ビュープロファイルがいくつか用意されています。これらのプロファイルは、ニーズに応じて変更することもできます。

1.4.6 Konquerorでデジタルカメラにアクセスする

Konquerorを使用して、デジタルカメラにもアクセスできます。お使いのカメラをUSBポートに接続します。カメラアイコンがデスクトップに表示されます。このアイコンをクリックすると、カメラがKonquerorで開きます。カメラには、KonquerorでURL(camera:/)を入力してもアクセスできます。カメラのディレクトリ構造内を移動して、希望のファイルを表示します。通常の

Konquerorファイル管理機能を使用して、これらのファイルを必要に応じてコピーします。

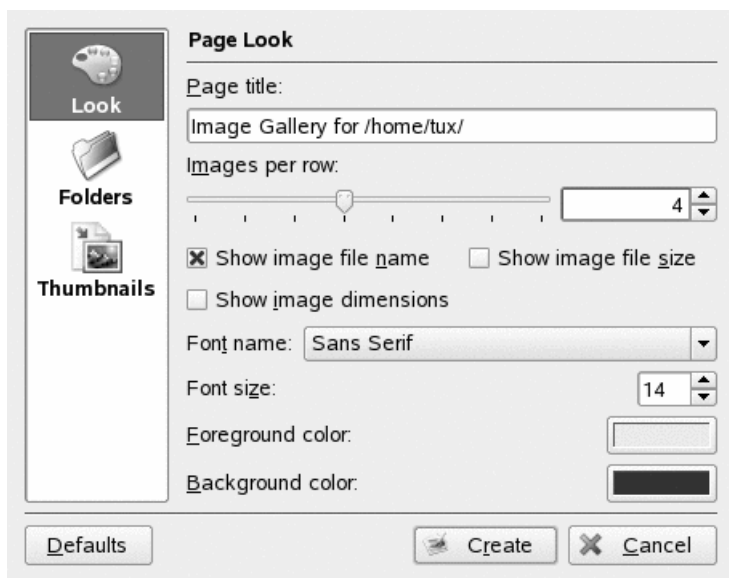
1.4.7 Konquerorで画像を表示する

Konquerorは、イメージビューアとして使用することもできます。ディレクトリ内に含まれているすべての画像の概要を簡単に表示するには、ディレクトリを選択し、ツールバーの [イメージビューア] アイコンをクリックします。サムネイルが生成され、ウィンドウの左側に表示されます。いずれかのサムネイルをクリックすると、ウィンドウの右側にその画像がフルサイズで表示されます。このツールバーには、前後移動、画像のズームや回転、スライドショーの作成用のアイコンも含まれています。通常が表示に切り替えるには、ツールバーの [アイコンビュー] または [ツリービュー] をクリックします。

「」

この機能のほかに、画像をアルバム形式で表示するイメージギャラリーも作成できます。Konquerorでイメージディレクトリを開き、[ツール] > [Create Image Gallery] の順に選択します。ダイアログが開き、背景、背景色、ページタイトル、ギャラリーの保存場所などの設定を指定できます。[OK]をクリックして、アクションを開始します。デフォルトでは、index.htmlというファイルが作成されます。このファイルをKonquerorでクリックすると、画像が小さく整理されて表示されます。いずれかの画像をクリックすると、フルサイズで表示できます。

図 1.13 Konquerorでイメージギャラリーを作成する



Gwenviewを使用して、画像を表示することもできます。Gwenviewを起動するには、Alt + F2キーを押してgwenviewを入力します。Gwenviewの詳細については、Gwenviewのオンラインヘルプを参照してください。

デジタルカメラから写真をダウンロード、編集するには、「第19章 デジタル画像コレクションの管理 (279 ページ)」で説明されているようにDigiKamを使用できます。

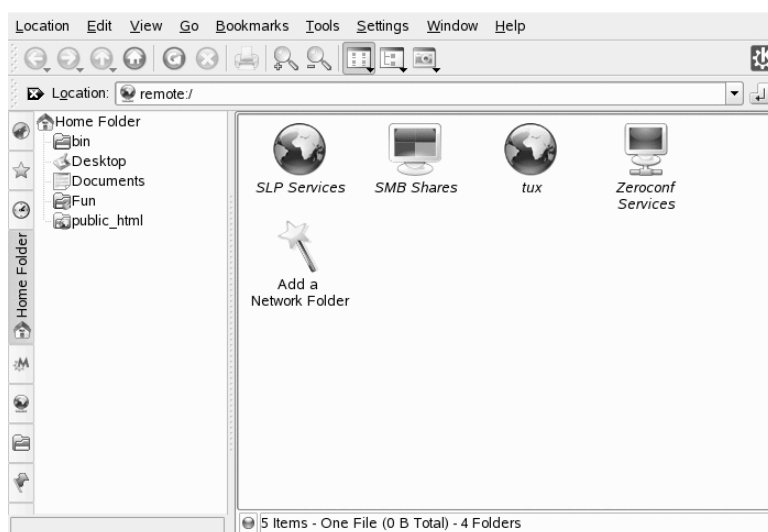
1.5 ネットワークリソースへのアクセス

デスクトップから、ファイルやディレクトリ、およびリモートホスト上の特定のサービスにアクセスしたり、自分のファイルやディレクトリをネットワーク中の他のユーザに利用させることができます。SUSE Linux Enterpriseには、ネットワーク共有リソースにアクセスしたり、リソースを作成するための、さまざまな手段が用意されています。ご利用のネットワーク構造とお使いの

コンピュータの設定に応じて、ネットワーク上の共有リソースやサービスをKonquerorのファイルマネージャを使用して簡単に参照できます。

そのためには、デスクトップの [ネットワーク参照] アイコンをクリックするか、またはKonquerorを起動して、場所ツールバーにremote:/と入力します。ウィンドウにアクセスできるネットワークシェアの種類が表示されます。ネットワークリソースの種類をクリックし、アクセスするネットワーク共有をクリックします。ユーザー名とパスワードを入力してリソースへの承認が求められる場合があります。

☒ 1.14 Windows Networkのワークグループ



詳細については、「第9章 ネットワークリソースへのアクセス (173 ページ)」を参照してください。

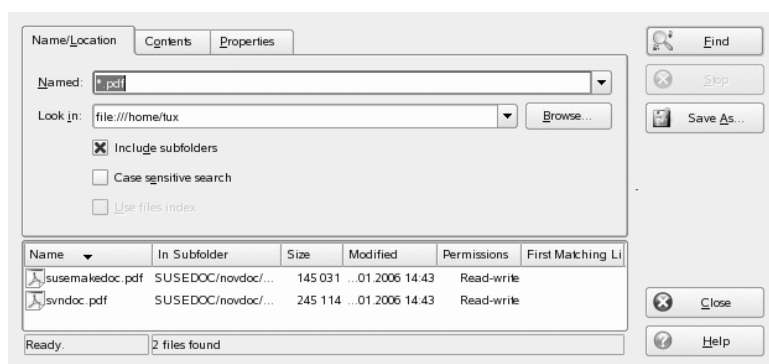
1.6 コンピュータまたはファイルシステム内のデータの検索

KDEでは、コンピュータまたはファイルシステムでのデータ検索用に複数のアプリケーションが提供されています。Kerryを使用して、個人情報の保管場所(通常はホームフォルダ)から、ドキュメント、電子メール、Web履歴、IM/ITC

対話、ソースコード、画像、音楽ファイル、アプリケーションなど、さまざまな情報を簡単に検索できます。詳細については、第11章 *Kerry* を使った検索 (201 ページ) を参照してください。

KFindでは、ファイルの内容、日付、所有者、またはファイルサイズなど、さまざまな検索条件を使用してコンピュータやファイルシステム内のファイルを検索できます。メインメニューから [アプリケーション] > [ファイル/フォルダの検索] を選択して起動します。または、Alt+F2キーを押してkfindと入力します。

図 1.15 KFindを使ったファイルの検索



1.6.1 ファイルの検索

特定のファイル名の検索を実行するには、次の手順に従います。

- 1 メインメニューまたはコマンドラインから、KFindを起動します。
- 2 [名前/場所] タブをクリックして、基本的な検索を実行します。
- 3 [名前] で検索するファイルの名前を指定します。次のようなワイルドカードを使用できます。

アスタリスク

アスタリスク(*)は、0を含むいくつかの欠けている文字を表します。たとえば、marc*の検索では、marc、marc.png、およびmarc_must_not_read_this.kwdのファイルを検索できます。mar*.kwdの

検索では、*marketplace.kwd*および*marc_must_not_read_this.kwd*が検索できます。

疑問符

疑問符(?)は、1文字を表します。たとえば、mar?の検索では、*marc*は検索できますが、marc?の検索では、*marc*および*marc.png*という名前のファイルは検索できません。検索項目には、希望するだけの数の疑問符を入れることができます。その数の文字が検索されます。

検索項目では、2つのワイルドカード記号を組み合わせることができます。

- 4 [検索範囲] で検索するフォルダを指定するか、[参照] をクリックして検索するフォルダを探します。[サブフォルダを含む] を選択すると、指定したフォルダから始まるサブフォルダすべてを検索することもできます。
- 5 <Enter>キーを押すか、[検索] をクリックします。

1.6.2 高度なファイル検索の実行

詳細検索については、ファイルに含まれている必要のあるテキストなど、さらに詳細なオプションを指定することができます。

- 1 メインメニューから、またはコマンドラインから、KFindを起動します。
- 2 [名前/場所] タブをクリックします。
- 3 [名前] で検索するファイルの名前を指定します。
- 4 [検索範囲] で検索を実行するフォルダを指定するか、[参照] をクリックしてフォルダを探します。
- 5 [内容] タブをクリックします。
- 6 [ファイルタイプ] で、検索するファイルのタイプを指定します。

- 7 [含まれるテキスト] に、検索するファイルに含まれている必要のある単語またはフレーズを入力します。
- 8 さらに詳細なオプションを指定したい場合は、[プロパティ] タブをクリックして、指定したいオプションを選択します。オプションまたはフィールドの上にマウスポインタを移動すると、簡単な説明が表示されます。
- 9 [検索] をクリックして、検索を実行します。

使用可能な検索オプションの詳細情報については、KFindオンラインヘルプを参照してください。

高度な検索では、検索パターンまたは正規表現を使用することもできます。KRegExpEditorでは、正規表現に基づいた検索オプションが提供されます。KRegExpEditorをYaSTを使用して、パッケージkdeutils3-extraとしてインストールできます。検索パターンおよびワイルドカードや正規表現の詳細については、項「Getting Started with the Bash Shell」(第15章 *Working with the Shell*, ↑Deployment Guide)を参照してください。

1.7 アプリケーション間のテキストの移動

テキストをクリップボードにコピーして再び挿入するには、従来のMS Windows ユーザーは自動的にショートカットキーCtrl+CキーとCtrl+Vキーを試してきます。これは、Linuxでも大抵の場合機能します。ただし、Linuxではさらに簡単にテキストをコピー、挿入する方法も用意されています。テキストをコピーするには、目的のテキストをマウスで選択してから、そのテキストの挿入場所までマウスカーソルを移動します。マウスの中ボタンをクリックして、テキストを挿入します(2つボタンのマウスでは、両方のマウスボタンを同時に押します)。

いくつかのアプリケーションでは、テキストを挿入するアプリケーションでテキストがすでに選択されている場合は、クリップボードにあるテキストが他の選択されたテキストで上書きされてしまうので、この方法は使用できません。このような場合、KDEアプリケーションのKlipperが役に立ちます。Klipperは、クリップボードに移動した最後のエントリを「記憶」します。Klipperは、デフォルトでは、KDEがロードされたときに起動し、パネルにク

リップボードのアイコンとして表示されます。クリップボードの内容を表示するには、**Klipper**アイコンをクリックします。最新のエントリが一番上に表示され、黒のチェックマークで有効であることが示されます。**Klipper**に大きなテキストをコピーした場合は、テキストの最初の行だけが表示されます。

古いテキストを**Klipper**からアプリケーションにコピーするには、コピーするテキストをクリックして選択し、マウスポインタをコピー先のアプリケーションに移動してから中央のマウスボタンをクリックします。**Klipper**の詳細については、**Klipper**のオンラインヘルプを参照してください。

1.8 インターネットの探索

KDEでは、デフォルトのWebブラウザはKonquerorです。Konquerorを起動するには、パネルでKonquerorアイコンをクリックするか、**Alt + F2**キーを押してkonquerorと入力します。WebブラウザとしてのKonquerorについては、「第14章 *Konqueror*を使ったブラウズ(227 ページ)」を参照してください。

Konquerorに加えて、Mozillaベースのブラウザ、Firefoxも使用できます。メインメニューからFirefoxを起動するか、**Alt + F2**キーを押してfirefoxと入力します。別のWebブラウザと同じように、上にある場所ツールバーにアドレスを入力するか、ページにあるリンクをクリックして、別のページに移動できます。Firefoxの詳細については、第15章 *Firefox*を使用したブラウジング(237 ページ)を参照してください。

1.9 E-Mail (電子メール)とスケジュール設定

KMailは電子メールクライアントで、POP3やIMAPなどの電子メールプロトコルをサポートしています。また、複数の電子メールアカウントのサポート、強力なフィルタ、PGP/GnuPGプライバシー、およびオンラインの添付ファイルの機能があります。メインメニューからKMailを起動するか、**Alt + F2**キーを押してkmailと入力します。

Kontactは、KMail、KOrganizer、およびKAddressBookなどのよく知られるアプリケーションを1つのインタフェースに統合した、個人情報管理(PIM)ツールです。これにより、電子メール、カレンダー、アドレス帳、その他のPIM機能

に簡単にアクセスできます。Kontactを起動するには、Alt + F2キーを押し、kontaktと入力します。Kontactの使用の詳細については、第4章 *Kontact: 電子メールとカレンダーリング* (113 ページ)を参照してください。

1.10 OpenOffice.orgでのドキュメントのオープンまたは作成

オフィススイートOpenOffice.orgでは、ワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーション、ベクタ描画、およびデータベースのコンポーネントが提供されます。OpenOffice.orgは複数のオペレーティングシステムで使用できるため、コンピューティングプラットフォーム間で、同じデータを共用できます。また、必要であれば、Microsoft Office形式でファイルを開いて編集し、この形式に戻して保存することもできます。

OpenOffice.orgを起動するには、Alt + F2キーを押して、oooと入力するか、デスクトップで [オフィス] アイコンをクリックします。

OpenOffice.orgの詳細は、第3章 *OpenOffice.org* オフィススイート (77 ページ) またはOpenOffice.orgプログラムのヘルプを参照してください。

1.11 KWalletマネージャによるパスワード管理

保護されたリソースにログインする際に必要なパスワードをすべて記憶するのは困難です。KWalletがユーザに代わってパスワードを記憶します。KWalletはすべてのパスワードを集めて暗号化されたファイルに保存します。1つのマスターパスワードを入力するだけで、ウォレットを開いて、エントリの表示、検索、削除、作成を行うことができます。通常は、エントリを手動で挿入する必要はありません。KDEによってリソースに認証が必要かどうか判断され、必要な場合にKWalletが自動的に起動されます。

重要項目: KWalletパスワードの保護

KWalletパスワードを忘れてしまった場合は、回復できません。そのパスワードを知っている他のユーザは、ウォレット内のすべての情報を取得できてしまいます。

1.11.1 KWalletの起動

KWalletを初めて起動すると(たとえば、ログイン用パスワードを入力する必要のあるWebサイトにアクセスする場合など)、ようこそ画面が表示されます。[基本設定] (推奨)と [高度な設定] のどちらかを選択します。[基本設定] を選択した場合は、次に表示される画面で、個人情報を保存するかどうかを選択します。KonquerorやKMailなどの一部のKDEアプリケーションでは、ウォレットシステムを使用してWebフォームデータやCookieを保存できます。保存する場合は、KWalletを使用するために [はい、KDEウォレットを使用して個人情報を保存します。] を選択してから、[完了] をクリックします。

[高度な設定] を選択した場合は、[セキュリティレベル] 画面が表示されます。通常はデフォルトの設定で十分ですが、変更が必要になる場合もあります。[アイドル状態のwalletを自動的に閉じる] を選択すると、一定時間使用されないウォレットは閉じられます。ネットワークパスワードとローカルパスワードを別々に保存する場合は、[ネットワークパスワードとローカルパスワードを別のwalletファイルに保存する] を有効にします。[Finish (完了)] をクリックします。

パネルのKWalletアイコンを右クリックして [ウォレットを設定] を選択すると、いつでも設定を変更できます。ダイアログボックスが表示されて、いくつかのオプションを選択できます。デフォルトでは、すべてのパスワードが1つのウォレット、*kdewallet*、に格納されますが、新しいウォレットを追加することもできます。設定が完了すると、KWalletがパネルに表示されます。

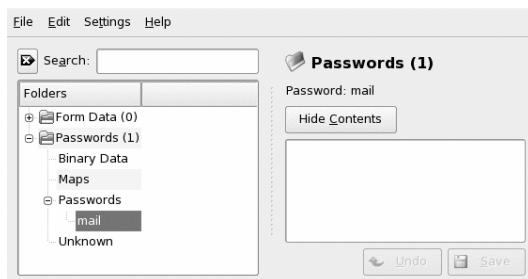
1.11.2 KWalletマネージャ

ウォレットにデータを格納したり内容を表示したりするには、パネルのKWalletアイコンをクリックします。ダイアログボックスが表示されて、システムでアクセス可能なウォレットが表示されます。ウォレットをクリックして開きます。パスワードの入力を求めるウィンドウが表示されます。

ログインに成功すると、KWalletマネージャウィンドウが表示されます。これは、3つの部分に分かれています。左上には概要、右上にはサブフォルダ、左下にはフォルダエントリのリスト、そして右下には選択したエントリの内容が表示されます。

KWalletマネージャでは、KWalletのマスタパスワードは、[ファイル] > [パスワード変更] を使用していつでも変更できます。

☒ 1.16 KWalletマネージャウィンドウ



フォルダの追加または削除ができます。フォルダを選択すると、フォルダエントリのリストおよび概要表示が更新されます。フォルダエントリを選択すると、エントリの内容のペインが更新され、そのエントリを編集できるようになります。また、フォルダの内容についてのコンテキストメニューを使用し、エントリを作成したり削除したりすることもできます。

新しいエントリを挿入するには、次の手順に従います。

手順 1.3 ウォレットに新しいエントリを挿入する

- 1 ウィンドウの右上部分で、エントリを追加するサブフォルダを選択します。

左下部分に、サブフォルダに属するエントリのリストが表示されます。新しいエントリを [Maps] または [Passwords] に追加できます。キーと値のペアがある場合は、[Maps] を使用します。パスワードには、複数のエントリを含めることができます。

- 2 新しいパスワードを追加するには、[Passwords] エントリを右クリックし、コンテキストメニューから [新規] を選択します。

- 3 新しいエントリの名前を入力し、 **[OK]** をクリックします。これで、新しいエントリがフォルダエントリの下に表示されるようになります。
- 4 この新しいエントリを右側に表示するには、エントリをクリックします (初めは、このフォルダは空です)。
- 5 **[Show Contents]** をクリックして、新しいパスワードを入力するための入力フィールドを開きます。
- 6 パスワードを入力して、 **[保存]** をクリックします。KWalletは、選択したサブフォルダにパスワードを保存します。

1.11.3 ウォレットを別のコンピュータにコピーする

多くの場合、KWalletはパネルに常駐し、必要に応じて自動的に有効になります。ただし、ウォレットファイルを別のコンピュータ(ラップトップなど)にコピーできます。ウォレットをマネージャウィンドウからファイルブラウザウィンドウにドラッグするだけです。これにより、別の環境に転送するために、新しいウォレットを簡単にパッケージできます。たとえば、新しいウォレットをリムーバブルフラッシュメモリデバイスに作成したりコピーしたりすることもできます。重要なパスワードはそこに転送されるので、別の場所でそのパスワードを使用することができます。

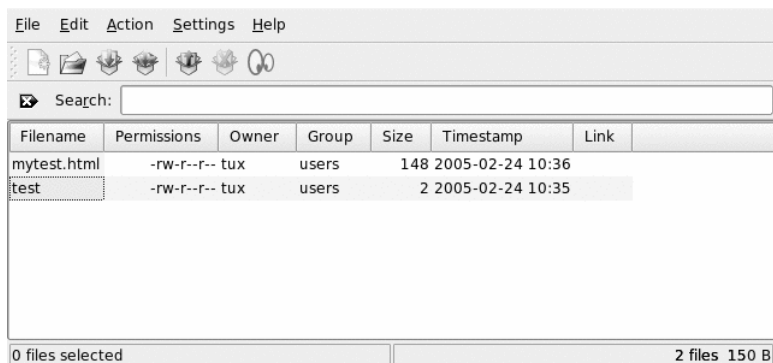
1.12 アーカイブの表示、解凍、および作成

ハードディスクの容量を節約するには、圧縮プログラムを使用してファイルやディレクトリを圧縮し、その元のサイズから縮小します。アプリケーションArkは、このようなアーカイブの管理に使用できます。このアプリケーションは、zip、tar.gz、tar.bz2、lha、rarなどの一般的な形式をサポートしています。

Arkは、メインメニューから、またはコマンドラインでコマンドarkを入力して起動します。すでに圧縮ファイルが存在する場合、開いたKonquerorウィンドウからArkウィンドウにそれらのファイルを移動してアーカイブの内容を表

示します。Konquerorでアーカイブの統合プレビューを表示するには、Konquerorでアーカイブを右クリックし、[プレビュー] から [アーカイバ] を選択します。この代わりにArkで [ファイル] > [開く] を選択して、ファイルを直接開くこともできます。

☒ 1.17 Ark: ファイルアーカイブのプレビュー



いったん開いたアーカイブには、さまざまなアクションを実行できます。[アクション] には、[ファイルを追加]、[フォルダを追加]、[削除]、[展開]、[参照]、[アプリケーションで編集]、および [アプリケーションで開く] などのオプションがあります。

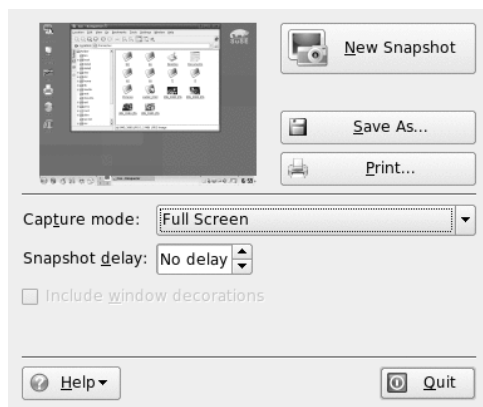
新しいアーカイブを作成するには、[ファイル]、> [新規] を選択します。表示されたダイアログに新しいアーカイブの名前を入力し、[フィルタ] で形式を選択します。[保存] をクリックするか、Enterを押して作成を確認すると、空のウィンドウが表示されます。このウィンドウに、ファイルマネージャからファイルやディレクトリをドラッグアンドドロップできます。最後に、Arkによって、選択したアーカイブ形式ですべてのファイルやディレクトリが圧縮されます。Arkの詳細については、[ヘルプ] > [Arkハンドブック] を選択してください。

1.13 スクリーンショットを撮る

KSnapshotを使用すると、画面や個々のアプリケーションウィンドウのスナップショットを取得できます。メインメニューからプログラムを選択するか、Alt+F2キーを押してksnapshotと入力して、このプログラムを起動します。KSnapshotのダイアログには、2つの部分があります。上部([現在のスナップ

ショット])には現在の画面のプレビュー、およびスクリーンショットを作成、保存するための3つのボタンが表示されます。下部には、スクリーンショットの実際の作成についてのさらなるオプションがあります。

☒ 1.18 KSnapshot



スクリーンショットを撮るには、[新規スナップショット] をクリックしてから実際にスクリーンショットを作成するまでの時間を [スナップショットの遅延] に秒単位で設定します。[カーソル下のウィンドウ] が有効な場合、ポインタがあるウィンドウだけが格納されます。スクリーンショットを保存するには、[スナップショットを保存] をクリックして、以降のダイアログにある写真についてのディレクトリとファイル名を指定します。[スナップショットを印刷] をクリックして、スクリーンショットを印刷します。

また、GIMPを使用して、スクリーンショットを撮ることもできます。GIMPを開くには、Alt+F2キーを押してからgimpと入力します。GIMPを初めて起動すると、ホームディレクトリにあるいくつかのファイルがインストールされ、そのファイルを環境に適用することのできるダイアログが表示されます。GIMPの使用については、第18章 *Manipulating Graphics with The GIMP* (261 ページ) またはヘルプを参照してください。YaSTを使ってヘルプをインストールする必要がある場合もあります(kdeutils3-extra)。

1.14 KPDFによるPDFファイルの表示

おそらくPDFは、重要なドキュメントファイル形式の1つでしょう。KPDFは、PDFファイルの表示と印刷を可能にするKDEプログラムです。

KPDFを起動するには、Alt+F2キーを押してkpdfと入力します。[ファイル] > [開く] を選択してPDFファイルをロードします。PDFファイルがKPDFのメインウィンドウに表示されます。このウィンドウの左側には、サムネイルが表示されるサイドバーと目次ビューがあります。サムネイルでページの概要を把握できます。目次ビューにはブックマークがあり、これをクリックしてドキュメント内を移動できます。目次ビューが空の場合は、そのPDFではブックマークがサポートされていないことを意味します。

メインウィンドウに2ページを表示するには、[表示] > [Two Pages (2ページ)] を選択します。[表示] メニューで最近選択した2つのオプションによってメニュー表示が異なります。

ツールバーの選択ツールを使用して領域を選択することもできます。四角形を描き、ポップアップメニューで、その領域をテキストとして選択するか、またはグラフィックとして選択するかを指定します。領域はクリップボードにコピーされます。ファイルに保存することもできます。

1.15 KMixを使ったサウンドの制御

YaSTは、お使いのコンピュータにあるサウンドカードを自動的に検出および設定します。また、YaSTの [Hardware] モジュールを起動して、手作業でサウンドカードを設定することもできます。サウンドカードを設定した後は、ミキサーを使ってサウンドのボリュームやバランスを調整できます。

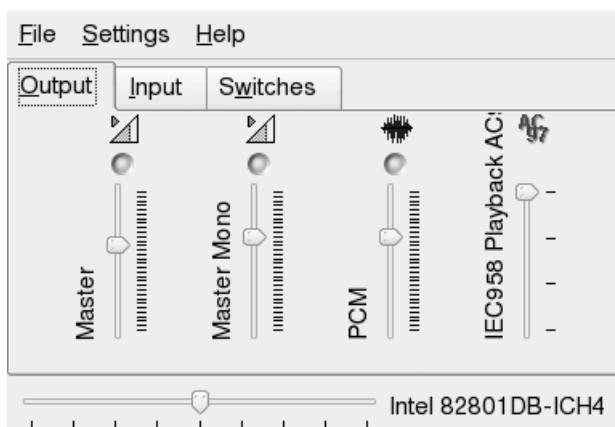
ティップ: ミキサーの開始

デスクトップのパネルにミキサーアイコン(スピーカー記号)が表示されない場合は、Alt+F2キーを押してから、kmixを入力するか、メインメニューからミキサーを起動します。通常ミキサーは、[ボリュームコントロール] の下にあります。

デフォルトでは、システムトレイにあるKMixアイコンをクリックすると、マスタコントローラが表示されます。ここから、全体的なボリュームを上げた

り、下げたりできます。サウンドをミュートするには、緑色のLEDをクリックしてください。ミュートした場合、LEDは暗くなります。もう一度LEDをクリックすると、ミュートが解除されます。複数チャンネルのサウンド設定を細かく制御するには、KMixアイコンを右クリックして、`[Show Mixer Window]`を選択します。メインウィンドウでは、`[Output]` (出力)、`[Input]` (入力)、および `[Switches]` (スイッチ)を設定できます。設定するデバイスには、デバイスアイコンを右クリックして表示されるそれぞれのコンテキストメニューがあります。各デバイスは、個別にミュートまたは隠すことができます。KMixの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

図 1.19 KMix ミキサー



1.16 ZENツールを使ったパッケージの管理

ZENツールは、ZENworks Management Daemon (zmd)のグラフィカルなフロントエンドとしての役割を果たし、ソフトウェアのインストール/削除、セキュリティアップデートの適用、サービス/カタログの管理などの作業を簡単に行えます。

1.16.1 パーミッションの取得

Linuxシステムでパッケージを管理するには、root権限が必要です。ZENツールとrugには、ユーザがソフトウェアアップデートをインストールするための独自のユーザ管理システムが用意されています。ZENツールで特別な権限を必要とする操作を実行しようとする、最初はrootパスワードの入力が要求されます。パスワードが検証されたら、ユーザ管理システムにユーザのアカウントが、更新パーミッションで自動的に追加されます。これらの設定を確認、変更するには、ユーザ管理コマンドrugを使用します(項「rug User Management」(第8章 *System Configuration with YaST*, ↑Deployment Guide)を参照)。

1.16.2 ソフトウェアアップデートの取得とインストール

Software Updaterは、パネルの通知領域(GNOME)またはシステムトレイ(KDE)に、地球の形をしたアイコンとして表示されています。このアイコンは、ネットワークリンクや新規アップデートの状況に応じて、色や形状が変化します。Software Updaterは1日に1回、システムのアップデートがあるかどうかを自動的にチェックします(手動チェックを行う場合は、アイコンを右クリックして「更新」を選択します)。新しいアップデートがある場合は、パネルのSoftware Updaterアプレットが、地球の形から、オレンジの背景に感嘆符が付けられた形に変化します。

注意: アップデートカタログのアクセス時のエラー

アップデートカタログにアクセスできない場合、登録の期限が切れている場合があります。通常、SUSE Linux Enterpriseには1年または3年の登録期間があり、この期間内にアップデートカタログにアクセスできます。このアクセスは登録期間が切れると拒否されます。

アップデートカタログへのアクセスが拒否される場合は、ノベルカスタマセンターにアクセスして登録を確認することを推奨する警告メッセージが表示されます。ノベルカスタマセンターには、<http://www.novell.com/center/>でアクセスできます。

パネルアイコンを左クリックすると、アップデートウィンドウが表示されます。このウィンドウには、利用できるパッチと新規パッケージが表示されています。各項目には簡単な説明と、カテゴリアイコン(ある場合)が表示されます。セキュリティパッチには、黄色の盾の形をしたマークが付けられます。オプションのパッチには、明るい青色の円が付けられています。推奨するパッチには、何もマークが付けられていません。最初にセキュリティパッチが表示され、次に推奨するパッチ、オプションのパッチの順に表示されています。最後に、新しいバージョンのパッケージが表示されます。表示するパッケージを限定する場合は、[すべて]、[パッケージ]、および [パッチ] を使用します。

注意: パッケージとパッチ

Novellから公式にリリースされたアップデートは、[パッチ] として表示されます。他のソースからの新しいバージョンのパッケージは、[パッケージ] として表示されます。

特定の項目に関する詳細を表示するには、マウスで項目を選択してからリストウィンドウの下にある [詳細] リンクをクリックします。インストールする項目を選択するには、該当する項目のチェックボックスを選択します。すべてのパッチを洗濯、または選択解除する場合は、[すべて] および [なし] を使用します。[更新] を選択すると、選択したプログラムがインストールされます。

図 1.20 ソフトウェアアップデートの選択



1.16.3 ソフトウェアのインストール

ソフトウェアパッケージをインストールするには、メニューから [ソフトウェアのインストール] を選択するか、またはzen-installerを実行してください。インタフェースは、Software Updaterとほとんど同じです(1.16.2項「ソフトウェアアップデートの取得とインストール」(45 ページ)を参照)。ただし、パッケージの検索やリストのフィルタリングに使用する検索パネルが異なります。インストールするパッケージのチェックボックスを選択したら、[インストール] をクリックするとパッケージのインストールが開始されます。他のパッケージとの依存関係は、インストーラが自動的に解決します。

1.16.4 ソフトウェアの削除

ソフトウェアパッケージをアンインストールするには、メニューから [ソフトウェアの削除] を選択するか、またはzen-removerを実行します。パッケージのリストに表示する項目を限定するには、[製品] (製品全体をアンインストール)、[パターン] (パターンの詳細はInstalling and Removing Patterns 項 (第8章 *System Configuration with YaST*, ↑Deployment Guide)を参照)、[パッケージ]、[パッチ] リンクを使用します。リストから削除する項目のチェックボックスを選択し、[削除] を選択すると、パッケージのアンインストールが開始されます。選択されたパッケージに依存する他のパッケージがあった場合は、それらのパッケージも削除されます。この場合、それらのパッケージの削除を確認するメッセージが表示されます。このメッセージに対して [キャンセル] をクリックすると、どのパッケージもアンインストールされません。

1.16.5 Software Updaterの設定

ZENツールを設定するには、アプリケーションウィンドウから [設定] をクリックします。ウィンドウに [サービス]、[カタログ]、および [設定] の3種類のタブが表示されます。

サービスとカタログ

基本的にサービスは、ソフトウェアパッケージとその情報を提供するソースです。各サービスは、1つまたは複数のカタログを提供することができます。

[サービス] タブには、利用できるすべてのサービスと、そのタイプ、ステータス情報が表示されます(後の2つの情報が見えない場合は、ウィンドウサイズを調整してください)。サービスを追加、削除するには、[サービスの削除] または [サービスの追加] を使用します。次のサービスタイプを利用できます。

YUM

パッケージデータにRPM-MD形式を使用するHTTP、HTTPS、またはFTPサーバ。

ZYPP

ZYPPサービスは、YaSTで [ソフトウェア] > [インストールソース] の順に選択して追加された、YaSTインストールソースです。インストールソースを追加するには、Software UpdaterまたはYaSTを使用します。最初にインストールしたソース(DVDまたはCD-ROM)が、事前設定されています。このソースを削除、または変更した場合は、それを他の有効なインストールソース(ZYPPサービス)と置換してください。そうしないと、新しいソフトウェアをインストールできません。

注意: 用語

YaSTインストールソース、YaSTパッケージリポジトリ、およびZYPPサービスは、どれもソフトウェアをインストールできるソースのことを表しています。

マウント

[マウント] を使って、コンピュータにマウントされているディレクトリを組み込むことができます。この機能は、たとえば定期的にNovell YUMサーバのミラーリングを行い、その内容をローカルネットワークにエクスポートするようなネットワーク環境で役立ちます。ディレクトリを追加するには、 [サービスURI] にディレクトリへのフルパスを指定してください。

NU

NUは、Novellアップデート(Novell Update)の省略形です。Novellは、SUSE Linux Enterpriseのアップデートを、NUサービスとして提供しています。インストール時にアップデートの設定を行った場合、リストに公式のNovell NUサーバが表示されます。

インストール時にアップデート設定をスキップした場合は、コマンドラインからsuse_registerを実行するか、またはrootユーザとしてYaSTから [ソフトウェア] > [製品登録] の順にクリックしてください。Software UpdaterにNovellアップデートサーバが追加されます。

RCEとZENworks

Opencarpet、Red Carpet Enterprise、またはZENworksサービスは、内部ネットワークでこれらのサービスが設定されている場合にのみ利用できます。たとえば、所属組織が単一のサーバからアップデートを配布するサードパーティ製のソフトウェアを利用している場合、これらのサービスは利用できません。

SUSE Linux Enterpriseをインストールすると、2種類のサービスが事前設定されます。ZYPPサービスとしてのインストールソース(DVD、CD-ROM、またはネットワークリソース)、およびサービスとしてのSUSE Linux Enterpriseアップデートサーバ(製品登録時に追加される)です。通常、これらの設定を変更する必要はありません。サービスが表示されない場合は、rootシェルを開いて、suse_registerコマンドを実行してください。サービスが自動的に追加されます。

カタログ

サービスでは、異なる複数のソフトウェアのパッケージを提供したり、異なるバージョンのソフトウェアのパッケージ(RCEやZENworksサービスはそうしている)を提供することができます。これらは、カタログと呼ばれるカテゴリにより分類されています。カタログを登録または登録解除するには、該当するカタログのチェックボックスを選択、または選択解除します。

現時点では、SUSE Linuxサービス(YUMとZYPP)は、別のカタログは提供していません。各サービスには、1つしかカタログがありません。インストール時にsuse_registerを使ってSoftware Updaterを設定した場合は、YUMおよびZYPPカタログが自動的に登録されます。手動でサービスを追加した場合は、これらのカタログを登録する必要があります。

初期設定

[設定] タブで、起動時にSoftware Updaterを開始するかどうかを設定します。rootユーザは、Software Updater設定を変更することもできます。権限のないユーザは、設定を参照することしかできません。設定の詳細については、rugのマニュアルページを参照してください。

1.17 詳細情報

開始についてここで説明したアプリケーションのほかに、KDEは他の多くのアプリケーションを実行できます。多くの重要なアプリケーションの詳細については、このマニュアル内の他の部分を参照してください。

- KDEおよびKDEアプリケーションの詳細については、<http://www.kde.org/>および<http://www.kde-apps.org/>も参照してください。
- バグレポートや機能要求の追加を行うには、<http://bugs.kde.org/>を参照してください。



2

設定のカスタマイズ

自分の個人的な好みや必要に応じて、KDEデスクトップの見かけや動作を変更できます。KDEデスクトップの外観を変更するには、さまざまな方法があります。ユーザの場合は、次のオプションを利用できます。

- 個別のデスクトップオブジェクトのみの外観や動作を変更する場合は、一般的にオブジェクトを右クリックして設定ダイアログにアクセスします。
- KDEデスクトップ全体の総合的な外観を変更する場合は、KDEコントロールセンターを使用します。コントロールセンターには、さまざまな環境設定モジュールやダイアログが用意されています。これらのダイアログの一部は、デスクトップオブジェクトのコンテキストメニューからもアクセスできます。

2.1 KDEコントロールセンターの使用

KDEコントロールセンタは、KDEデスクトップ内のさまざまなコンポーネントの外観や動作を変更する場合に用いられます。コントロールセンターを起動するには、メインメニューから [お気に入り] > [個人設定] の順に選択するか、Alt + F2キーを押してkcontrolを入力します。

図 2.1 KDEコントロールセンター



ティップ: 個別モジュールの起動

ターミナルから、またはパネルに特別のアプレットを追加して、KDEコントロールセンターの各モジュールを起動することもできます。

シェルからモジュールを起動するには、`kcmsshell --list`と入力して、利用できるモジュールの一覧を表示します。`kcmsshell` モジュール名 と入力すれば、目的のモジュールを起動できます。

代わりに、設定アプレットをパネルに追加することもできます。詳細は、パネル要素の追加と削除 (64 ページ)を参照してください。

サイドバーには、各設定のサブセットが異なるカテゴリで用意されています。各カテゴリアイコンをクリックして、そこにある設定項目を確認してください。[戻る] をクリックして、常に、より高いレベルのカテゴリに戻ることができます。すべてのカテゴリの概要については、ツリービューに切り替えます。[表示] > [モード] > [ツリービュー] を選択して、ビューを変更します。

項目をクリックすると、対応する設定が右に表示されます。必要に応じて、設定を変更します。[適用]をクリックすると、変更が有効になります。オプションを変更してから、そのままにしておきたい設定を決定した場合は、[リセット]をクリックして、変更を破棄します。[デフォルト]をクリックして、ページにある項目すべてをデフォルト値にリセットします。設定を変更するには、rootパーミッションが必要な場合があります。要求されたときにはrootでログインします。

主要カテゴリと、変更できる重要な設定項目を次のリストに示します。各カテゴリの設定についての詳細な情報は、設定の各ページ、またはヘルプセンターにある[ヘルプ]ボタンで確認できます。

外観とテーマ

デスクトップの背景、スクリーンセーバー、およびデスクトップに表示するフォントに関する設定があります。テーマ、ウィンドウ飾り、およびボタン、メニュー、スクロールバーなどのデスクトップ要素のスタイルを変更することができます。カーソルの動作やKDE起動時の初期画面も、ここで設定できます。

デスクトップ

仮想デスクトップ数、およびパネルのサイズ、位置、長さ、外観に関する設定項目があります。また、メインメニューも変更することができます。タスクバーセクションでは、すべてのデスクトップのウィンドウをタスクバーに表示するかどうかなどの、タスクバーオプションを設定します。他の2つのセクションを使って、ウィンドウの動作を制御することができます。

インターネットとネットワーク

接続のタイムアウト値などの、Bluetooth関連のオプションを定義できます。デスクトップの共有、ファイル共有の有効化/無効化、およびローカルネットワーク参照とプロキシサーバに関する設定を行うこともできます。Konquerorの動作もここで変更できます。

KDEコンポーネント

*Component Chooser*を使って、デフォルトの電子メールクライアント、テキストエディタ、メッセージャー、ターミナル、およびWebブラウザを変更することができます。KDEアプリケーションからこれらのタイプのアプリケーションを起動するたびに、ここでデフォルトのコンポーネントが呼び出されます。ここでは、インデックスを作成するディレクトリなど、Kerry Beagle®を使ったデスクトップ検索に関するオプションを設定しま

す。必要に応じて、ファイルタイプを識別して適切なアプリケーションを起動するための、デフォルトのファイル関連付けを変更することもできます。**Konqueror**ファイルマネージャのオプションを設定します。ログイン/シャットダウン時のセッションの取り扱い方法を定義したり、スペルチェックオプションを設定することができます。

Peripherals

デジカメ、ディスプレイ、ジョイスティック、キーボード、マウス、OBEXデバイス、プリンタ、リモコン、およびCDROMやUSBスティックなどのリムーバブルメディアなど、デバイスに関するオプションがあります。たとえば、お使いのカメラのモデルを追加して、それを接続するコンピュータポートの種類を定義したり、キーリピート時間、シングル/ダブルクリック関連オプション、ダブルクリック間隔などのキーボード/マウス設定を変更することができます。特定の種類のリムーバブルメディアにデフォルトの動作(たとえば、オーディオCDを検出するとKsCDを起動するなど)を割り当てたり、プリンタの環境設定を行うこともできます。

Regional & Accessibility

通過、数字、日付の形式や、言語に対応するキーボード配列などの、国や言語に関するオプションを設定できます。あらかじめ定義されているKDEショートカットを表示、変更することもできます(たとえば、画面をロックする場合はAlt + Ctrl + L)。このカテゴリには、サウンドやキーボード、およびマウスの動作に関するオプションなどの、障害者の方向けのアクセス方法に関するオプションも用意されています。

Security & Privacy

パスワードの変更、KWallet(KDEパスワード管理ツール)のオプションの設定、KDEの暗号化設定、および最近開いたドキュメント、最近訪れたWebサイト、cookies、クリップボードの内容などのプライベートデータの管理に関する設定を行うことができます。

Sound & Multimedia

システムベルやシステム通知、およびオーディオCDのエンコード方法やデバイスの設定に関するオプションがあります。

System Administration

KDEログインマネージャ(KDM)の外観と動作を設定したり、重要なデータディレクトリのデフォルトパスを変更することができます(Desktop、Autostart、およびDocuments)。個人用のフォントや、システム全体で利用するフォントをインストールすることもできます。

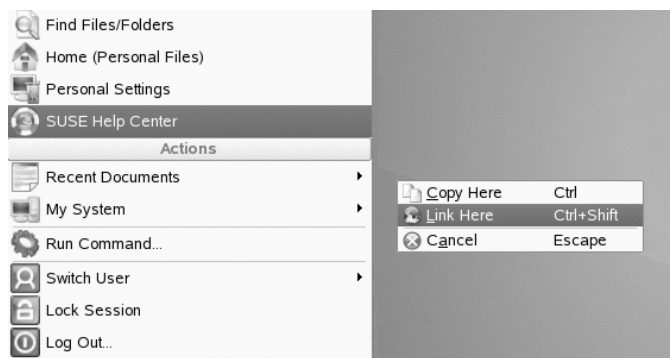
次のセクションでは、KDEデスクトップの環境設定例を取り上げていきます。

2.2 デスクトップオブジェクトの設定

KDEデスクトップには、デスクトップアイコンがあらかじめ定義されています。フォルダ、ファイル、リンクなどのオブジェクトを追加することにより、デスクトップ上に他のアイコンを作成したり、配置を変更することができます。

手順 2.1 デスクトップアイコンの作成と配置

- 1 新しくデスクトップオブジェクトを追加するには、たとえばKonquerorのメインメニューから項目を選択し、それをデスクトップにドラッグします。項目をコピー、移動するのか、またはオブジェクトへのリンクを作成するのを選択できるコンテキストメニューが表示されます。



- 2 また、デスクトップ上の空の領域を右クリックして、`[Create New]` を選択し、新しいデスクトップオブジェクトを作成することもできます。この場合、サブメニューからデスクトップに作成するオブジェクトの種類を選択します。フォルダ、ファイル形式、アプリケーションへのリンク、ファイル、Webサイト、またはCD-ROMなどのデバイスを選択することができます。
- 3 デスクトップ上のアイコンの配列を調整するには、デスクトップ上の空の領域を右クリックして、`[Icons]` に表示されるいずれかのオプションを選択します。

SUSE Linux Enterprise®には、スクリーンセーバーがあらかじめ設定されています。設定内容は自由に変更できます。

手順 2.2 スクリーンセーバの設定

- 1 デスクトップ上の空の領域を右クリックして、*[Configure Desktop]* を選択します。
- 2 表示されるダイアログから、*[Screen Saver]* を選択します。
- 3 スクリーンセーバーのリストからスクリーンセーバーをクリックすると、ダイアログの右側にプレビューが表示されます。



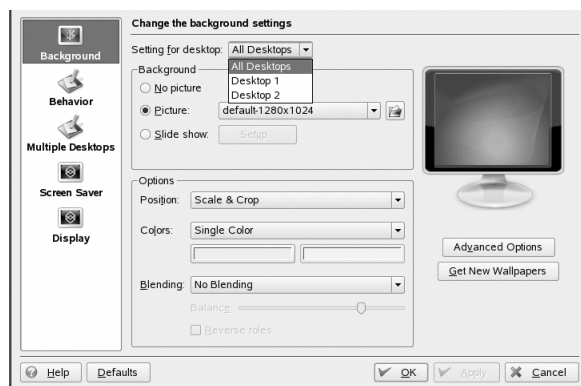
- 4 *[Setup]* をクリックして、速度や形状などのオプションを調整できます。
- 5 また、スクリーンセーバーの代わりに空の画面を表示したり、スクリーンセーバーをランダムに表示することもできます。これらのオプションは、スクリーンセーバーリストの最後にあります。
- 6 *[Settings]* では、スクリーンセーバーを表示するまでの操作が何も行われなかった時間や、スクリーンセーバーを解除する時にパスワードが必要かどうかなどを設定できます。

- 7 [OK] をクリックして、変更内容を適用し、設定ダイアログを閉じます。

バックグラウンドのの色を変更したり、バックグラウンドのとして使用する写真を選択したりできます。KDEでは仮想デスクトップを使用できるため、変更を仮想デスクトップの1つ、またはすべてに適用できます。

手順 2.3 デスクトップの背景の変更

- 1 デスクトップで何もない場所を右クリックして、*[Configure Desktop]* を選択します。設定ダイアログが表示されます。



- 2 *[Settings for Desktop]* で、変更を適用する仮想デスクトップを選択します。
- 3 背景の写真を変更する場合は、*[Picture]* をクリックして、リストから写真を選択します。カスタムの写真を使用するには、リストの下にあるフォルダボタンをクリックし、ファイルシステムから画像ファイルを選択します。
- 4 スライドショーモードで複数の画像を表示するには、*[Slide Show]* をクリックします。
- 5 バックグラウンドに写真を使用しない場合は、*[No Picture]* をクリックします。

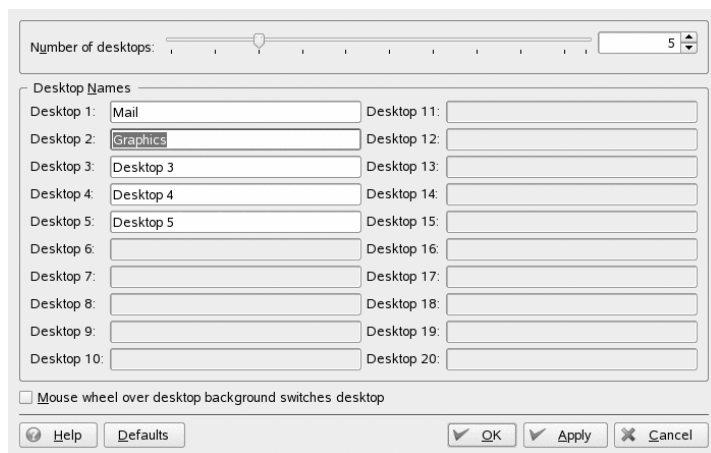
6 [Options] グループから、[Colors] 下の左側のボタンをクリックして、バックグラウンドの色を選択します。マルチカラーのバックグラウンドを使用するには、[Colors] を [Single Colors] 以外のオプションに設定し、右下のボタンをクリックして、2番目の色を選択します。

7 [Apply]、[OK] の順にクリックして、設定ダイアログを閉じます。

ユーザによっては、デフォルトより多くのデスクトップを必要とします。

手順 2.4 他の仮想デスクトップの追加

1 パネルのデスクトッププレビューを右クリックして [Configure Desktop] を選択します。表示される設定ダイアログで、仮想デスクトップの数を増減できます。デスクトップのデフォルトの名前も変更できます。



2 [OK] をクリックして、変更内容を適用し、設定ダイアログを閉じます。

3 デスクトッププレビューに、デスクトップの数ではなく名前を表示するには、デスクトッププレビューを右クリックし、[Pager Options] > [Desktop Name] の順に選択します。

2.3 3Dデスクトップ効果の設定

KDEデスクトップでのデスクトップ効果(Xgl)の設定は、YaSTやKDEコントロールセンター([個人設定])を使って簡単に行えます。

図 2.2 KDEの3Dデスクトップ効果



お使いのハードウェアがデスクトップ効果をサポートしているかどうかを確認し、設定準備を行うには、以下の手順に従ってください。

- 1 YaSTを使って、`compiz-kde`、`xgl`、`xgl-hardware-list`、および `compiz` パッケージをインストールします。
- 2 `/etc/X11/xgl-hardware-list` ファイルを確認して、お使いのハードウェアがデスクトップ効果をサポートしているかどうかを判断します。
- 3 必要に応じて、メーカーの説明に従ってドライバをダウンロード、インストールします。

3Dデスクトップ効果を有効にするには、以下の手順に従ってください。

- 1 メインメニューからYaSTを起動するか、`Alt+F2`キーを押して`yast`と入力します。

- 2 YaSTで、 [システム] > [/etc/sysconfig Editor] の順にクリックします。
- 3 左側のリストから、 [デスクトップ] > [ディスプレイマネージャ] エントリを開きます。
- 4 DISPLAYMANAGER_XSERVERエントリを選択して、値をXglに設定します。
- 5 [完了] をクリックして、変更を適用します。
- 6 コンピュータを再起動します。

デスクトップ効果が有効になります。

デスクトップ効果を使用する場合の主要機能とデフォルトのキーボードショートカットを次に示します。

- キューブ周囲に仮想デスクトップを貼り付けて、キューブを回転することにより他の仮想デスクトップに移動できます。Ctrl + Alt + → または Ctrl + Alt + ← のキーの組み合わせで、キューブを回転させます。
- ページャから使用するデスクトップをいちいち選択しなくても、複数の仮想デスクトップを素早く切り替えることができます。このパネルに似たビューに変更するには、Ctrl + Alt + ↓ のキーの組み合わせを使用します。現在のデスクトップの左または右のデスクトップに移動するには、Ctrl + Alt キーを押しながら、→ および ← キーを使用します。
- デスクトップの一部を拡大することができます。拡大する領域を選択し、Windows キーを押しながら右クリックします。
- 1つの仮想デスクトップに開いたすべてのウィンドウを全画面表示し、フォーカスを簡単に切り替えられるようにします。Ctrl + Alt + ↑ キーの組み合わせを使用して、ウィンドウを整列させます。Ctrl + Alt キーを押しながら、矢印キーを使ってフォーカスを選択します。
- デスクトップ上に仮想の雨滴を作成したり、仮想ワイパーを使ってそれを除去することができます。水滴はShift + F9 キーで、ワイパーはShift + F8 キーで切り替えられます。

ティップ: デスクトップ効果の設定

実行するデスクトップ効果の選択、キーボードショートカットの設定、および他のデスクトップ効果関連の設定を行うには、`gnome-xgl-settings`ユーティリティを使用します。ターミナルウィンドウから、または [コマンドの実行] プロンプトから、`gnome-xgl-settings`を実行します。

実行中のセッションでデスクトップ効果を無効にするには、以下の手順に従ってください。

- 1 KDEコントロールセンターを開いて、`[KDE Components]` > `[Session Manager]` の順に選択します。
- 2 `[Advanced]` グループで、`[Preferred Window Manager]` を `[kwin]` に設定します。
- 3 `[適用]` を選択して変更内容を反映し、モジュールを終了します。

デスクトップ効果を永久に無効にするには、以下の手順に従ってください。

- 1 YaSTを起動します。
- 2 `[システム]` > `[/etc/sysconfig Editor]` の順に選択します。
- 3 左側のリストから、`[デスクトップ]` > `[ディスプレイマネージャ]` エントリを開きます。
- 4 `DISPLAYMANAGER_XSERVER` エントリを選択して、値を `Xorg` に設定します。
- 5 `[完了]` をクリックして、変更を適用します。
- 6 コンピュータを再起動します。

2.4 パネルの設定

パネルには、アプリケーション、アプレット(ミニプログラム)、および他のパネルを追加することができます。アプリケーションとアプレットは、クイック起動領域、およびメインパネルや他のパネルのシステムトレイに追加でき

ます。パネル要素や他のパネルは、別の場所に移動したり、削除することができます。

手順 2.5 パネル要素の追加と削除

- 1 パネルの空のパッチを右クリックします。
- 2 新しいアプリケーションをパネルに追加するには
 - 2a コンテキストメニューから、`[アプリケーションをパネルに追加]`を選択します。
 - 2b サブメニューのカテゴリのいずれかから追加するアプリケーションを選択します。アプリケーションのアイコンがパネルに挿入されます。
 - 2c アプリケーション用にアイコンを変更するには、ボタンを右クリックして、`[アプリケーションボタンを設定]`を選択します。表示されたダイアログボックスでアプリケーションアイコンをクリックすると、新しいウィンドウが表示されて、別のアイコンを選択できます。
 - 2d パネルからアイコンを削除するには、アイコンを右クリックして`[Remove Button]`を選択します。
- 3 新しいアプレットをパネルに追加するには
 - 3a コンテキストメニューから、`[アプレットをパネルに追加]`を選択します。
 - 3b 表示されるダイアログボックスからアプレットを選択し、`[パネルに追加]`をクリックします。アプレットはパネルに挿入されます。



3c パネルからアプレットを削除するには、アプレットを右クリックして [終了] を選択します。アプレットのコンテキストメニューに [終了] メニューが表示されない場合は、マウスカーソルを左端の境界上に置いて、表示される小さな黒色の矢印を右クリックします。 [削除] を選択します。

4 別の種類のパネルを追加することもできます。パネルを追加するには、パネルの空の部分をクリックして、 [パネルの追加] を選択します。サブメニューから追加するパネルの種類を選択します。

5 追加パネルを削除するには、パネルの空の部分をクリックして [パネルの削除] を選択し、デスクトップから削除するパネルを選択します。

手順 2.6 パネル内の要素の移動

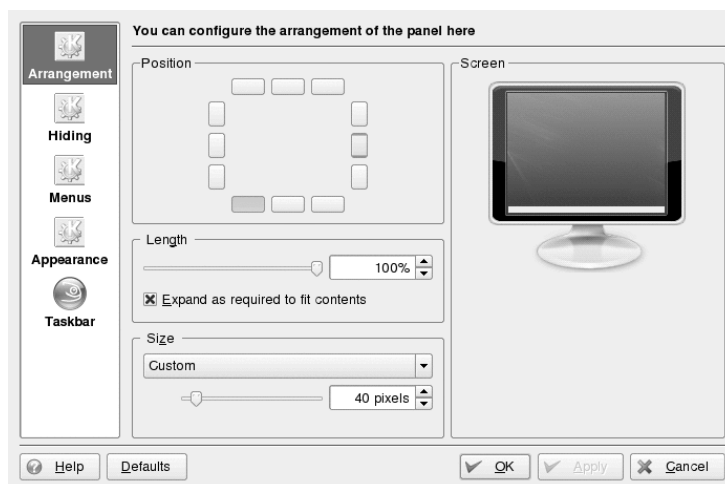
1 パネル上のアプリケーションアイコンの位置を変更するには、アイコンを右クリックして [移動] を選択します。マウスカーソルの形状が、十字線に変わります。アイコンを移動する場所にカーソルをドラッグしてから、マウスの左ボタンを押します。指定した場所にアイコンが移動します。

2 同様に、デスクトッププレビュー、タスクバー、およびシステムトレイなどのパネルの領域を移動することもできます。領域の境界にカーソルを移動して、表示される小さな黒い矢印をクリックしてください。表示されるコンテキストメニューから、 [移動] を選択します。次に、領域の移動先の場所をクリックします。

メインパネルや他の追加パネルのさまざまな点を変更することができます。たとえば、パネルのサイズ、長さ、位置を変更したり、透明効果を適用することができます。また、タスクバーの動作を設定することもできます。

手順 2.7 パネルの外観と動作の変更

- 1 パネルの空の部分を右クリックして、**[Configure Panel]** を選択します。パネルのさまざまな面を設定できるダイアログが表示されます。別のカテゴリを表示するには、左側のペインにあるアイコンをクリックします。デフォルトでは、**[Arrangement]** カテゴリのオプションが表示されます。



- 2 他のパネルを追加している場合、ウィンドウの上部に利用できるパネルのリストが表示されます。設定するパネルを選択してください。
- 3 必要に応じて、デスクトップ上の別の位置を選択したり、パネル長を選択したり、パネルサイズを変更し、**[Apply]** をクリックすると変更内容が反映されます。
- 4 パネルの自動非表示を設定したり、デフォルトの非表示オプションを変更するには、左側のペインから **[Hiding]** をクリックします。適切なオプションを設定して、**[Apply]** をクリックしてください。

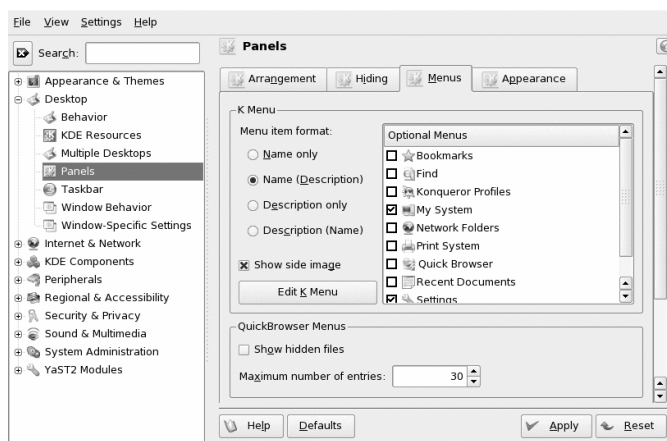
- 5 パネルの色を変更したり、パネルの背景画像を透明にする場合は、*[Appearance]* をクリックします。
- 6 *[Button Backgrounds]* では、パネルのさまざまな部分の背景を選択することができます。パネルの一部に色を付けるには、リストから *[Custom Color]* を選択し、右側の適切なボタンをクリックして色を選択します。
- 7 パネルを透明にする場合は、*[Enable transparency]* を選択します。非常に暗い背景や明るい背景で透明パネルの視認性を向上するには、*[Advanced Options]* をクリックしてパネルの色や色彩を設定します。*[Apply]* をクリックすると、変更内容が反映されます。
- 8 タスクバーのデフォルトの動作を変更する場合は、左側のペインから *[Taskbar]* をクリックします。
- 9 タスクバーにすべてのアプリケーションではなく、現在アクティブなデスクトップのアプリケーションのみを表示するには、*[Show windows from all desktops]* の選択を解除します。
- 10 必要に応じて他のタスクバーオプションを変更し、*[Apply]* をクリックしてください。
- 11 パネルのオプションを適切に設定し終わったら、*[OK]* をクリックしてダイアログを閉じます。

手順 2.8 メインメニューの設定

メインメニューを設定するには、以下の手順に従ってください。

- 1 メインメニューから KDE コントロールセンターを起動するか、**Alt + F2** キーを押して `kcontrol` と入力します。
- 2 *[デスクトップ]* > *[パネル]* の順にクリックします。

図 2.3 メインメニューの編集



- 3 [メニュー] タブをクリックします。
- 4 メインメニューに、アプリケーション名または説明文(あるいはその両方)を表示するかどうかを定義できます。[Name only]、[Name (Description)]、[Description only] および [Description (name)] から選択します。
- 5 メニュー項目を変更する場合は、[Edit K Menu] をクリックします。Kメニューエディタで、メニュー項目のリストが左側に表示されます。
 - 5a リスト内の項目をクリックし、右側のオプションを変更します。
 - 5b [ファイル] メニューやツールバーを使用して、新しいメニュー項目、サブメニューまたは区切り文字を追加できます。
 - 5c メインメニューのオブジェクトを切り取り、貼り付けまたは削除するには、[編集] メニューか、ツールバーのアイコンを使用します。
 - 5d 変更内容をKメニューエディタに適用するには、[ファイル] > [終了] の順に選択します。

- 6 *[Menus]* タブですべての変更内容を適用し、KDEコントロールセンターを終了するには、*[適用]* をクリックします。

2.5 システムとセキュリティ関連の設定

SUSE Linux Enterpriseは、異なるファイル形式(ビットマップ、TrueTypeなど)で共通に使用できるさまざまなフォントをデフォルトで提供しています。これらは、システムフォントと呼ばれます。ユーザは、さまざまなコレクションから独自のフォントをインストールして追加できます。しかし、このようにユーザがインストールしたフォントを利用できるのは、そのユーザだけです。

手順 2.9 新しいフォントのインストール

現在利用可能なフォントを確認するには、Konquerorセッションのアドレスフィールドに、URL `fonts:/`を入力します。*[パーソナル]* と *[システム]* の2つのウィンドウが表示されます。ユーザがインストールするフォントは、*Personal*にインストールされます。*System*フォルダ(システム用)にインストールできるのは、*root*だけです。

新しいフォントをインストールするには、以下の手順に従ってください。

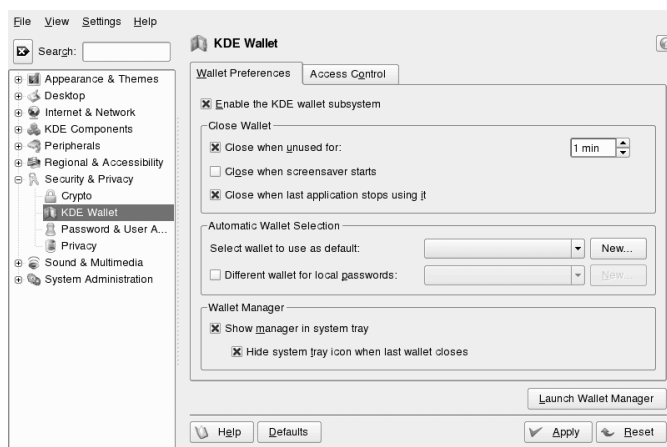
- 1 メインメニューからコントロールセンターを起動するか、**Alt+F2**キーを押して*kcontrol*を入力します。
- 2 *[System Administration]* > *[Font Installer]* の順にクリックします。
- 3 システムフォントをアップデートするには、*[Administrator Mode]* をクリックして*root*のパスワードを入力します。次に、以下の作業を行います。
- 4 ユーザとしてフォントをインストールする場合は、*[Add Fonts]* をクリックします。
- 5 表示されたダイアログで、インストールするフォントを選択します(複数選択可)。マークを付けたフォントが、個人用フォントフォルダにイ

インストールされます。フォントを選択すると、プレビューが表示されます。

デフォルトで、KWalletを最初に使用するとき、ウィザードを利用してKWalletパスワードマネージャの設定を定義します。初期設定はいつでも調整でき、セキュリティを強化できます。

手順 2.10 KWallet設定の調整

- 1 KWalletがすでに起動している場合は、パネルのKWalletのシンボルをクリックして、**[Configure Wallet]** を選択します。または、KDEコントロールセンターを開いて、**[Security & Privacy]** > **[KDE Wallet]** をクリックします。
- 2 KWalletマネージャが有効になっていない場合、上部の対応するチェックボックスを選択します。
- 3 デフォルトで、最後のアプリケーションが使用を停止したときにウォレットは閉じられます。セキュリティを強化するには、ポリシーをより厳密に設定します。ウォレットが一定期間使用されなかった後、またはスクリーンセーバーを起動した後に自動的に閉じるには、対応するチェックボックスをそれぞれ選択します。



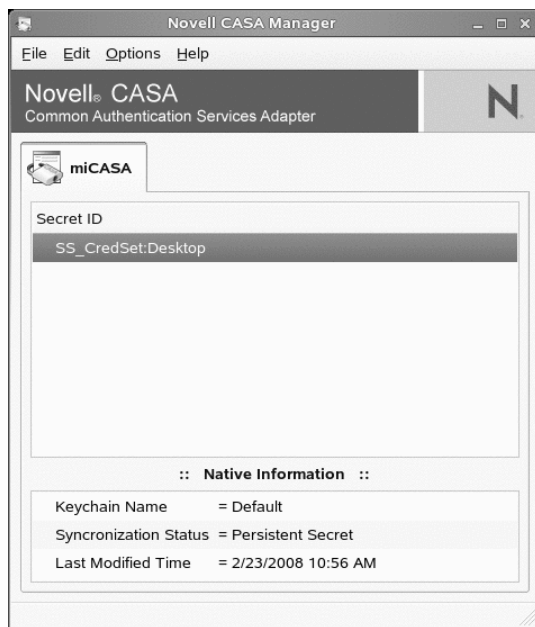
- 4 KWalletアイコンをパネルから削除するには、*[Show manager in system tray]* を無効にします。これで、KWalletはメインメニューからのみアクセス可能になります。
- 5 デフォルトで、KWalletはすべてのパスワードをkdewalletという1つのウォレットに保存します。ローカルのネットワーク関連のパスワードを別のウォレットに保存するには、*[Differenet wallet for local passwords]* を有効にします。必要に応じて、*[New]* をクリックして、ウォレットを追加で作成します。

KWalletを使用してパスワードを管理する代わりに、Novell CASAがシステムに設定されている場合は、シングルサインオンを使用することもできます。シングルサインオンはアクセス制御の手法で、ユーザが1度認証されたら、複数のソフトウェアシステムのリソースにアクセスできるようにするものです。CASA (Common Authentication Service Adapter)では、SUSE Linux Enterprise、Microsoft* Windows*およびMacintosh* OS 10など複数のプラットフォーム上で認証資格情報を管理できます。これらのプラットフォームにインストールされたプログラムおよびサービスのパスワードにアクセスして保存できます。CASAではGNOME Keyring、KDEのKWallet、Firefox Password Managerとのインタフェースも備えられ、必要な場合はこれらをすべて1つのインタフェースから管理できます。

CASAを使用してパスワードを管理する前に、CASAをYaSTで有効にする必要があります。CASAを有効にするには、YaSTを起動して、*[Security]* > *[CASA]* をクリックします。*[CASA Configuration]* ダイアログで *[Enable CASA]* をクリックし、確認メッセージの後に *[Finish]* をクリックしてYaSTを閉じます。

手順 2.11 Novell CASAによるパスワードの管理

- 1 *[System]* > *[Configuration]* > *[Novell CASA Manager]* の順に選択して、メインメニューからNovell CASA Managerを起動します。
- 2 CASAサービスがまだ利用できない場合、適切なYaSTモジュールを起動してCASAを有効にするよう求めるメッセージボックスが表示されます。
- 3 CASAを初めて起動すると、資格情報を暗号化してセキュアにするためのマスタパスワードを要求されます。マスタパスワードを2度入力して、*[OK]* をクリックします。*[Novell CASA Manager]* が開きます。



重要項目: CASAの永続ストレージはログインパスワードにリンクされています。

ログインパスワードが記録され、`SS_Credset:Desktop` エントリが `[miCASA]` タブに表示されていることを確認します。エントリが表示されていない場合、デスクトップからログアウトして、もう一度ログインしてパスワードをCASAに記録します。ログインパスワードがCASAに通知されていない場合、シングルサインオンを使用できません。

-
- 4 CASAを設定するには、`[Options]` > `[Preferences]` を選択します。
 - 5 `[Preferences]` ダイアログで、CASAでサポートされているストアを選択し、`[OK]` をクリックします。選択したストアごとにタブが追加されるので、*Novell CASA Manager* から保存されたパスワードにアクセスして管理できるようになります。
 - 6 ストアの1つからパスワードを削除するには、エントリを選択して右クリックして、`[Delete]` を選択します。

7 CASAマスタパスワードを変更する必要がある場合は、*[Options]* > *[Change Master Password]* を選択します。

既存のパスワードを編集したり、パスワードをインポートまたはエクスポートしたり、パスワードをNovell CASAとリンクさせることもできます。詳細は *[Help]* > *[Contents]* をクリックして、CASAオンラインヘルプにアクセスしてください。CASAのマニュアル一式は、<http://developer.novell.com/wiki/index.php/Special:Downloads/casa>で入手できます。



パート II. オフィスおよびコラボ レーション



OpenOffice.org オフィススイート

3

OpenOffice.orgはパワフルなオープンソースのオフィススイートで、テキスト文書の作成、表計算ドキュメントの使用、図形やプレゼンテーションの作成など、あらゆる種類のオフィスタスクに対応するツールを備えています。

OpenOffice.orgでは、異なるコンピューティングプラットフォーム間で、同じデータを共用できます。また、必要に応じて、Microsoft Officeなどの他の形式でファイルを開いて編集し、この形式に戻して保存することもできます。この章では、Novell®版のOpenOffice.org、およびこのスイートを使用するために必要な主要機能について説明します。

3.1 OpenOffice.orgについて

OpenOffice.orgは、互いに連携する複数のプログラムモジュールで構成されています。モジュールの一覧は、表3.1にあります。各モジュールの詳細については、3.8項「OpenOffice.orgに関するヘルプと情報の検索」(112 ページ)で説明するオンラインヘルプを参照してください。

表 3.1 OpenOffice.org アプリケーションモジュール

モジュール	目的
Writer	ワードプロセッサアプリケーションモジュール
Calc	表計算アプリケーションモジュール
Impress	プレゼンテーションアプリケーションモジュール

モジュール	目的
Base	データベースアプリケーションモジュール
Draw	ベクタ図形の描画用アプリケーションモジュール
Math	数式生成用アプリケーションモジュール

アプリケーションの外観は、使用しているデスクトップやウィンドウマネージャによって異なります。外観に関係なく、基本的なレイアウトと機能は同じです。

このセクションでは、OpenOffice.orgのすべてのアプリケーションモジュールに適用される情報を記載しています。モジュール固有の情報は、以下のサブセクションで説明しています。

3.1.1 Novell版のOpenOffice.orgの利点

SUSE Linux Enterprise Desktopには、Novell版のOpenOffice.orgが用意されています。Novell版には、標準版に含まれていないさまざまな拡張機能が追加されています。

Calcの拡張機能

Novell版のOpenOffice.org Calcには、標準版にはない以下の機能が追加されています。

- 一部の関数に対するExcelとの互換性の改善(例:ADDRESS/OFFSE)。
- 標準版にはないキーバインドの修正や、「結合して中央揃え」に関する問題などの、操作性の改善。
- R1C1形式のアドレスのサポート。
- OpenOffice.orgのデータパイロットとMicrosoft*ピボットテーブル*の相互運用性。
- データパイロット作成後の編集機能。

- ピボットテーブルからのデータの操作に役立つGETPIVOTDATA関数の追加。
- Excel VBAマクロのサブセットの包含。このサブセットはネイティブのマクロのように、OpenOffice.orgにロードして実行できます。さまざまな会計/管理ツールをOpenOffice.orgに移行できるため、StarBasicを使っていちいち作成し直す手間を省けます。
- 単純な数値分析を行うための線形ソルバ。

Writerの拡張機能

Novell版のOpenOffice.org Writerには、標準版にはない以下の機能が追加されています。

- ドキュメント構造をツリービューで表示するナビゲータにより、ドキュメントのナビゲーションを改善。
- 変更履歴の相互運用性の改善。
- HTMLエクスポート精度の向上。
- フォント印刷の改善。
- 「フォームフィールドの処理」の拡張。

「フォームフィールド」はMicrosoft Officeの概念で、ユーザがテキストフィールド、チェックボックス、ドロップダウンリストをドキュメントに追加し、簡単に記入できるフォームを作成できるようにするものです。

拡張フィールドのサポートを無効にして限定的なフォームフィールドを使用するには、次の設定項目を設定します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<oor:component-data
  xmlns:oor="http://openoffice.org/2001/registry"
  xmlns:xs="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
  oor:name="Common"
  oor:package="org.openoffice.Office">
<node oor:name="Filter">
<node oor:name="Microsoft">
  <node oor:name="Import">
    <prop oor:name="ImportWWFieldsAsEnhancedFields" oor:type="xs:boolean">
```

```
        <value>false</value>
      </prop>
    </node>
  </node>
</node>
</oor:component-data>
```

フォントの改善

Novell版のOpenOffice.orgでは、さまざまなフォントの改善が行われています。次に例を示します。

- フォント表示の見栄えをよくするために、エイリアス(ビットマップ)フォントを禁止。
- AGFAからライセンスを受けた一連のフォントの導入、これらのフォントはMicrosoftの一部のデフォルトフォントと互換性があり、ドキュメントのエクスポート/インポート時に対応するMicrosoftフォントと透過的にマッピングされます。
- OpenSymbolフォントの改善。グリフのない場合に表示されるシンボルよりも、見やすい黒丸を提供します。

OpenClipart

Novell版OpenOffice.org(Linux用)には、OpenClipart<http://openclipart.org>プロジェクトが提供する膨大な無料のクリップアートが用意されています。クリップアートを利用するには、[ツール] > [ギャラリー]の順にクリックします。

マルチメディア

Novell版には、Linuxのgstreamerを使ったネイティブプラットフォームマルチメディアサポートが含まれています。

パフォーマンスの改善

Novell版のOpenOffice.org(Linux用)には、さまざまな改良が加えられ、標準版と比べてより高速に起動します。メモリの搭載量が少ないシステムでも、問題ありません。

GroupWiseの統合

Novell版のOpenOffice.orgには、GroupWiseの基本機能が統合されており、GroupWiseドキュメント管理システムにドキュメントを保存したり、システムからロードすることができます。

3.1.2 スタANDARD版のOpenOffice.orgの使用

Novell版の代わりに標準版のOpenOffice.orgを利用することもできます。最新版のOpenOffice.orgをインストールした場合でも、Novell版のファイルのまま利用できます。ただし、標準版にはNovell版に用意されている拡張機能は含まれていません。

3.1.3 他のOfficeアプリケーションとの互換性

OpenOffice.orgでは、Microsoft Officeも含めさまざまな形式の文書、スプレッドシート、プレゼンテーション、およびデータベースを使用できます。これらのファイルは元のファイルと同様にシームレスに開いたり、元の形式で保存したりできます。Microsoftの形式には著作権があり、仕様は他のアプリケーションで利用できません。そのため、書式の問題が発生することがあります。ドキュメントの問題が発生した場合は、元のアプリケーションで開き、テキストドキュメントの場合はRTF、スプレッドシートの場合はCSVなどのオープン形式で再び保存してみます。

ティップ

他のオフィススイートからOpenOffice.orgへ移行する場合に役立つ情報については、『OpenOffice.org Migration Guide』(<http://documentation>)

.openoffice.org/manuals/oooauthors2/0600MG-MigrationGuide.pdf)を参照してください。

OpenOffice.org形式への文書の変換

OpenOffice.orgは、さまざまな形式のドキュメントを開いたり、編集したり、保存したりできます。他のアプリケーションからのファイルを利用するために、ファイル形式をOpenOffice.org形式に変換する必要はありません。ただし、必要であれば、ファイルを変換しても構いません。ドキュメントを変換する場合は、次の手順に従ってください。

- 1 [ファイル] > [ウィザード] > [ドキュメント変換] の順に選択します。
- 2 変換前のファイル形式を選択します。
StarOfficeとMicrosoft Officeの複数の形式が用意されています。
- 3 [Next]をクリックします。
- 4 変換するドキュメントとテンプレートがある場所、および変換されるファイルの保管場所を指定します。

重要項目

Windowsパーティションにある文書は、通常、/windowsのサブディレクトリにあります。

- 5 設定内容を確認し、[次へ] を選択します。
- 6 実行するアクションの概要を確認したら、[変換] をクリックして変換を開始します。

変換にかかる時間は、ファイル数やファイル形式の複雑さによって異なります。たいていの場合、変換にはさほど時間はかかりません。

他のオフィススイートのユーザとのファイル共有

OpenOffice.orgは、多くのオペレーティングシステムで使用できます。このため、OpenOffice.orgはユーザのグループが頻繁にファイルを共有する必要がある場合、各自のコンピュータのシステムが異なる場合、有効なツールになります。

他のアプリケーションと文書を共有する場合は、いくつかの方法があります。

受信者がファイルを編集できるようにする必要がある場合

そのユーザが必要とするファイル形式でドキュメントを保存します。たとえば、Microsoft Wordファイルとして保存する場合は、[ファイル] > [名前を付けて保存] の順にクリックして、適切なバージョンのMicrosoft Wordファイル形式を選択します。

受信者がドキュメントを編集する必要がない場合

[ファイル] > [PDFとしてエクスポート] の順に選択して、ドキュメントをPDFファイルとして保存します。PDFファイルは、Adobe Acrobat Readerなどのビューアを使用して任意のプラットフォームで参照できます。

ドキュメントを共有して編集する場合

標準の文書形式のうち、いずれかを使用します。デフォルトの形式はOASISの標準XML形式に準拠しています。この形式では、多くのアプリケーション間で互換性が確保されます。TXTとRTF形式は書式設定に制限がありますが、テキスト文書には良い選択肢です。カンマ区切り値(CSV)はスプレッドシートに便利です。OpenOffice.orgでは、受信側が希望する形式、特にMicrosoft形式で提供できる場合があります。

ドキュメントをPDF形式でメール送信する場合

[ファイル] > [送信] > [PDFとしての電子メール] の順にクリックします。デフォルトの電子メールプログラムが起動し、PDF形式のファイルが添付されます。

Microsoft Wordユーザにドキュメントをメール送信する場合

[ファイル] > [送信] > [Microsoft Wordとしての電子メール] の順にクリックします。デフォルトの電子メールプログラムが起動し、ファイルが添付されます。

ドキュメントを電子メール本文として送信

[ファイル] > [送信] > [E-mailとしてのドキュメント] の順にクリックします。デフォルトの電子メールプログラムが起動し、電子メール本文にドキュメントの内容が表示されます。

3.1.4 OpenOffice.orgの起動

アプリケーションを起動するには、次のいずれかの手順に従ってください。

- [コンピュータ] > [OpenOffice.org Writer] の順にクリックします。
Writerが起動します。別のモジュールを起動するには、Writerから [ファイル] > [新規] の順にクリックし、適切なモジュールを選択します。
- [コンピュータ] > [他のアプリケーション] > [Office] の順にクリックし、起動するOpenOffice.orgモジュールの名前をクリックします。
- ターミナルウィンドウで、oofficeを入力します。OpenOffice.orgウィンドウが表示されます。[ファイル]、[新規作成] の順にクリックし、起動するモジュールを選択します。

OpenOffice.orgアプリケーションが開かれている場合、[ファイル] > [新規作成] > [Name of Application] の順にクリックして、他のアプリケーションを起動できます。

3.1.5 OpenOffice.orgのロード時間の改善

システム起動時にアプリケーションを事前ロードしてOpenOffice.orgのロード時間を高速化には、次の手順に従います。

- 1 [ツール] > [オプション] > [メモリ] の順にクリックします。
- 2 [Enable systray quickstarter] (システムトレイクイックスタートを有効にする) をクリックします。

次のシステム起動時に、OpenOffice.orgが事前ロードされます。この場合、システム起動時にアプリケーションがロードされるため、OpenOffice.orgアプリケーションモジュールを素早く起動することができます。

3.1.6 OpenOffice.orgのカスタマイズ

自分の作業スタイルやニーズに応じて、OpenOffice.orgをカスタマイズすることができます。たとえば、ツールバー、メニュー、およびキーボードショートカットをカスタマイズして、最も頻繁に使用する機能に簡単にアクセスできるようになります。また、特定のイベントに対してマクロを割り当てることにより、イベント発生時に特定の操作を実行することができます。たとえば、常に特定のスプレッドシートを使って作業する場合、そのスプレッドシートを開くマクロを作成して、[Start Application] イベントに指定することができます。

ここでは、ご利用の環境をカスタマイズするための一般的な方法について説明します。変更はすぐに反映されるため、目的どおりに変更されたか確認でき、目的に合わない場合は戻って修正できます。詳細な手順は、OpenOffice.orgのヘルプファイルを参照してください。

ツールバーのカスタマイズ

OpenOffice.orgツールバーを変更するには、[カスタマイズ] ダイアログを使用します。

- 1 ツールバーの端にある矢印アイコンをクリックします。
- 2 [ツールバーをカスタマイズ] をクリックします。
- 3 カスタマイズするツールバーを選択します。

クリックしたツールバーはすでに選択されています。カスタマイズするツールバーを変更するには、[Toolbar] メニューから目的のツールバーを選択します。

- 4 コマンドをツールバーに表示する場合は、コマンドの隣にあるチェックボックスを選択します。ツールバーに表示しないコマンドは、チェックボックスの選択を解除してください。
- 5 ツールバーの変更内容をOpenOffice.orgモジュールに保存するか、または現在のドキュメントに保存するか、いずれかを選択します。
 - (OpenOffice.orgモジュール名)

そのモジュールで、常にカスタマイズしたツールバーを使用する場合に選択します。

- (文書名)

その文書を開いた場合に、カスタマイズしたツールバーを使用します。

6 必要に応じて他のツールバーもカスタマイズします。

7 **[OK]** をクリックします。

特定のツールバーに表示するボタンを簡単に選択できます。

1 変更するツールバーの端にある矢印アイコンをクリックします。

2 **[ボタンの表示/非表示]** をクリックして、ボタンのリストを表示します。

3 表示されたボタンのリストから、表示するボタン(チェックする)や非表示にするボタン(チェックを解除する)を選択します。

メニューのカスタマイズ

メニューへの項目の追加、メニューからの項目の削除、項目の位置変更、および新規メニューの作成ができます。

1 **[ツール] > [カスタマイズ] > [メニュー]** の順にクリックします。

2 変更するメニューを選択します。新しくメニューを作成する場合は、**[新規]** をクリックします。

[カスタマイズ] ダイアログ中のオプションの詳細を参照するには、**[ヘルプ]** をクリックします。

3 必要に応じてメニュー項目を追加、削除、または変更します。

4 **[OK]** をクリックします。

キーボードショートカットのカスタマイズ

現在割り当てられているキーボードショートカットを変更して、頻繁に使う機能に新たなショートカットを割り当てることができます。

- 1 [ツール] > [カスタマイズ] > [キーボード] の順にクリックします。
- 2 機能を割り当てるキーを選択するか、機能を選択してキーまたはキーの組み合わせを割り当てます。

[カスタマイズ] ダイアログ中のオプションの詳細を参照するには、
[ヘルプ] をクリックします。

- 3 必要に応じてキーボードショートカットを追加、削除、または変更します。
- 4 [OK] をクリックします。

イベントのカスタマイズ

OpenOffice.orgでは、アプリケーションの起動やドキュメントの保存など、特定のイベントに対してマクロを割り当てることもできます。イベントが発生すると、割り当てられたマクロが自動的に実行されます。

- 1 [ツール] > [カスタマイズ] > [イベント] の順にクリックします。
- 2 変更するイベントを選択します。

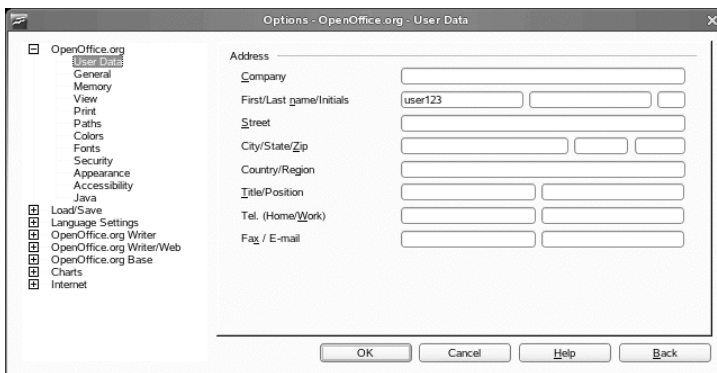
[カスタマイズ] ダイアログボックス中のオプションの詳細を参照するには、
[ヘルプ] をクリックします。

- 3 選択したイベントにマクロを割り当てるか、または割り当てを削除します。
- 4 [OK] をクリックします。

グローバル設定の変更

OpenOffice.orgのグローバル設定を変更するには、メニューバーで [ツール] > [オプション] の順にクリックします。次の図に示すようなウィンドウが表示されます。ここでは、設定項目がツリー構造で分類されています。

図 3.1 [オプション] ウィンドウ



次の表に、各カテゴリとその簡単な説明を示します。

注意

表示される設定カテゴリは、作業しているモジュールによって異なります。たとえば、**Writer**で作業を行っている場合は、リストに**OpenOffice.org Writer** カテゴリが表示されます。ただし、**OpenOffice.org Calc**カテゴリは表示されません。**OpenOffice.org Base**カテゴリは、**Calc**と**Writer**のどちらにも表示されます。テーブルの [アプリケーション] 列は、各設定カテゴリを利用できるアプリケーションを表しています。

表 3.2 グローバル設定のカテゴリ

設定カテゴリ	説明	アプリケーション
<i>OpenOffice.org</i>	ユーザデータ(住所や電子メールアドレスなど)、重要なパス、およびプリンタや外部プ	すべて

設定カテゴリ	説明	アプリケーション
	プログラム関連の設定など、さまざまな基本的な設定オプションがあります。	
読み込みと保存	さまざまな種類のファイルの表示、保存に関連する設定オプションがあります。一般的な設定のほかに、外部形式の処理方法を定義するのに使用するオプションも用意されています。	すべて
言語設定	ロケールやスペルチェック設定など、言語およびドキュメント入力に関するさまざまな設定があります。ここで、ドキュメントの標準言語を日本語などのアジア言語に設定することもできます。	すべて
OpenOffice.org Writer	フォントやレイアウトなど、Writerの使用に関する設定オプションがあります。	Writer
OpenOffice.org Writer/Web	OpenOffice.orgのHTMLオーサリング機能に関する設定オプションがあります。	Writer
OpenOffice.org Calc	リストやグリッドなどの、Calc関連の設定オプションがあります。	Calc
OpenOffice.org Impress	すべてのプレゼンテーションに適用する設定を変更します。たとえば、エレメントを配置する場合に使用するグリッド間隔の単位を指定できます。	Impress
OpenOffice.org Draw	図形描画の倍率、グリッドのプロパティ、印刷など、ベクタ描画モジュールに関連する設定オプションがあります。	Draw
OpenOffice.org Math	Formulaに特殊な印刷オプションを設定するための単一ダイアログを提供します。	Math

設定カテゴリ	説明	アプリケーション
<i>OpenOffice.org Base</i>	接続と登録データベースの設定、編集を行うダイアログを提供します。	Base
<i>Charts</i>	新規作成したグラフに使用するデフォルトの色を設定するオプションがあります。	すべて
インターネット	プロキシや検索エンジンに関する設定オプションがあります。	すべて

重要項目

テーブルに記載されているすべての設定は、指定したアプリケーションにグローバルに適用されます。これらの設定内容は、新しくドキュメントを作成する場合のデフォルト値として使用されます。

3.1.7 テンプレートの検索

テンプレートを利用して、さまざまな種類のドキュメントの書式設定作業を簡略化できます。OpenOffice.orgには、あらかじめいくつかのテンプレートが用意されています。また、インターネットから他のテンプレートを検索して入手することもできます。さらに、自分で独自のテンプレートを作成することもできます。ここでは、テンプレートの作成方法については取り上げません。OpenOffice.orgのヘルプや、インターネット上の他の資料を参考にしてください。

インターネットには、テンプレートだけでなく、他の追加機能やアドインも公開されています。テンプレートや他の機能を入手できる代表的な場所を次の表に示します。Webサイトは頻繁に閉じられたりコンテンツが変更されたりするため、以下の表の情報は最新ではない可能性があります。

表 3.3 OpenOffice.org テンプレートやアドインの入手場所

ディレクトリ	内容
OpenOffice.org ドキュメント Web サイト (http://documentation.openoffice.org/Samples_Templates/User/template_2_x/index.html)	Calc スプレッドシート用テンプレート、CD ケース、シードパッケージ、ファックス表紙など
Worldlabel.com (http://www.worldlabel.com/Pages/openoffice-template.htm)	さまざまなラベル用テンプレート

テンプレートの詳細については、3.2.4 項「テンプレートを使ったドキュメントの書式設定」(97 ページ)および 3.3.2 項「Calc にテンプレートを使用する」(103 ページ)を参照してください。

3.2 Writer によるドキュメント作成

OpenOffice.org Writer は、ページおよび文字列の書式設定機能も含め、豊富な機能を持つワードプロセッサです。Writer のインターフェースは、他の一般的なワードプロセッサと似ています。また、通常、高価な DTP アプリケーションにしかないような機能も用意されています。

ここでは、Writer の主な機能について取り上げます。Writer の機能の詳細や使用方法については、OpenOffice.org のヘルプや、3.8 項「OpenOffice.org に関するヘルプと情報の検索」(112 ページ)に記載されているソースを参照してください。

注意

ここで説明している情報は、他の OpenOffice.org モジュールにも適用されます。たとえば、Writer でスタイルを使用する場合と同様に、他のモジュールでもスタイルを使用することができます。

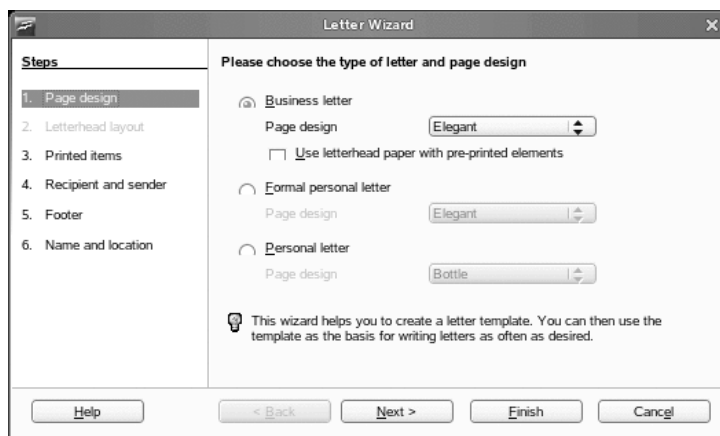
3.2.1 新しい文書の作成

新しい文書を作成するには、次の2種類の方法があります。

最初から文書を作成する場合は、[ファイル] > [新規作成] > [文書ドキュメント] の順に選択します。

作成する文書に標準形式や定義済みの形式を使用する場合は、ウィザードを使用します。ウィザードは小さなユーティリティで、基本的な決定を行うと、テンプレートからレディメイドの文書が作成されます。たとえば、ビジネスレターを作成する場合は、[ファイル] > [ウィザード] > [レター] の順に選択します。ウィザードのダイアログを使用すれば、標準書式を使用する基本文書を簡単に作成できます。ウィザードのダイアログのサンプルは、「図 3.2」にあります。

図 3.2 OpenOffice.org ウィザード



必要に応じて文書ウィンドウにテキストを入力します。[Formatting (書式設定)] ツールバーまたは [Format (書式)] メニューを使用して文書の外観を調整します。[ファイル] メニューまたはツールバーの該当するボタンを使用して、文書を印刷または保存します。[挿入] メニューのオプションを使用すれば、文書にテーブル、画像、図などの項目を追加できます。

3.2.2 他のワードプロセッサと文書を共有

Writerを使って、他のさまざまなワードプロセッサで作成されたドキュメントを編集できます。たとえば、Microsoft Word文書をインポートして編集し、再びWord文書として保存することができます。大部分のWord文書は、OpenOffice.orgに問題なくインポートできます。また、書式やフォントなど、ドキュメント中の情報も同じように保持されます。ただし、複雑な表、Wordマクロ、または特殊なフォントや書式などを含むドキュメントの場合は、インポートした後にドキュメントを修正しなければならないこともあります。OpenOffice.orgでは、ドキュメントを他の一般的なワードプロセッサのファイル形式で保存することができます。また、OpenOffice.orgで作成したドキュメントをWord形式のファイルとして保存し、それをMicrosoft Wordで開くこともできます。

そのため、頻繁にWordユーザとドキュメントを共有するような環境でも、ほとんど問題なく文書ファイルをやり取りすることができます。ファイルを開いて編集し、Wordファイルとして保存してください。

3.2.3 スタイルによる書式設定

OpenOffice.orgでは、ドキュメント中のさまざまな要素や書式の一貫性を保つためにスタイルを利用することができます。利用できるスタイルの種類を以下に示します。

表 3.4 スタイルの種類について

スタイルの種類	機能
段落	ドキュメント中のさまざまな種類の段落に、標準の書式を適用します。たとえば、段落スタイルを適用して、見出しにフォント、フォントサイズ、見出しの上下の間隔、見出しの位置、および他の書式仕様が設定されるようにします。
文字	文字列に対して標準の書式を適用します。たとえば、強調する文字列を斜体で表示する場合は、文字列を斜体にするスタイルを作成し、それを目的の文字列に適用します。

スタイルの種類	機能
枠	枠に対して標準の書式を適用します。たとえば、ドキュメントでサイドバーを使用している場合、画像、境界、位置、および他の書式を定義した枠を作成し、適用することにより、すべてのサイドバーが一貫性のある概観を持つように設定できます。
ページ	特定のページに対して標準の書式を適用します。たとえば、ドキュメントの先頭ページ以外の各ページにヘッダやフッタを表示する場合は、ヘッダとフッタを表示しない「最初のページ」スタイルを使用します。また、左ページと右ページで異なるスタイルを使用することで、見開きページの内側の余白を大きくし、外側にページ番号を記載することもできます。
リスト	特定のリストに標準の書式を適用します。たとえば、四角いチェックボックスを先頭に記載したチェックリストや、先頭に中点を記載したリストスタイルを定義しておけば、それを適用して簡単にリストを作成することができます。

[スタイルと書式] ウィンドウを開く

[スタイルと書式] ウィンドウ(以前のバージョンの *[Stylist]*)では、文字列、段落、ページ、枠、およびリストに対して、さまざまな書式のスタイルを適用することができます。このウィンドウを表示するには、*[書式]* > *[スタイルと書式]* の順にクリックします。OpenOffice.orgには、あらかじめ定義されたさまざまなスタイルが用意されています。これらのスタイルをそのまま利用したり、スタイルを変更したり、新しいスタイルを作成したりできます。

ティップ

デフォルトでは、*[スタイルと書式]* ウィンドウは個別のウィンドウに表示され、画面上の任意の場所に移動することができます。スタイルを頻繁に使用する場合など、常にこのウィンドウを一定の場所に配置したい場合は、このウィンドウをWriterウィンドウにマージできます。*[スタイルと書式]* ウィンドウをマージするには、Ctrlキーを押しながら、ウィンドウの灰

色の領域をダブルクリックします。この方法は、ナビゲータも含め、OpenOffice.org中の他の一部のウィンドウでも利用できます。

スタイルの適用

スタイルを適用するには、スタイルを適用する要素を選択してから、[スタイルと書式] ウィンドウ中の適切なスタイルをダブルクリックします。たとえば、ある段落にスタイルを適用する場合は、その段落中の任意の場所にカーソルを移動してから、目的のスタイルをダブルクリックします。

スタイルを使う場合と書式設定ボタン/メニューオプションを使う場合の比較

[書式] メニューのオプションやボタンを使うかわりにスタイルを利用すれば、ページ、段落、文字列、およびリストの一貫性を保ちながら、後で簡単に書式を変更することができます。たとえば、[太字] ボタンをクリックして文字列を強調した場合、後で太字から斜体に変更しようと思ったら、太字の箇所を1つ1つ探して手動で変更しなければなりません。文字スタイルを使えば、そのスタイルの書式定義を太字から斜体に変更するだけで、その書式を適用したすべての文字列が、太字から斜体に変わります。

メニューオプションやボタンによる書式設定は、適用されているスタイルの設定に優先します。たとえば、ある文字列に対して [太字] ボタンを使って書式を設定し、他の文字列にはスタイルを適用して太字を設定した場合、スタイルを変更してもボタンを使って書式が設定された文字列は変わりません。また、ボタンを使って太字にした文字列に、後からスタイルを適用しても、ボタンを使った太字の設定が優先されます。スタイルの設定を使うには、手動で太字の設定を解除してから、スタイルを適用する必要があります。

同様に、[書式] > [段落] の順に選択して段落に書式を設定すると、段落間の書式設定に不整合が発生する可能性があります。特に、書式設定が違う他のドキュメント間で段落をコピー、貼り付ける場合などに、この問題が発生する可能性が高くなります。

スタイルの変更

スタイルを使えば、スタイルの内容を変更するだけで、ドキュメント全体に書式設定を反映させることができます。ドキュメント中の各部の書式を個別に変更していく必要はありません。

- 1 [スタイルと書式] ウィンドウで、変更するスタイルを右クリックします。
- 2 [変更] をクリックします。
- 3 選択したスタイルの設定を変更します。

設定可能な項目の詳細は、OpenOffice.orgオンラインヘルプを参照してください。

- 4 [OK] をクリックします。

スタイルの作成

OpenOffice.orgには、さまざまな用途に適したスタイルがあらかじめ用意されています。また、ユーザのニーズに合わせて、新しいスタイルを作成することもできます。新しいスタイルを作成するには、次の手順に従います。

- 1 [スタイルと書式] ウィンドウの、空の領域を右クリックします。

この操作は、作成するスタイルの種類に合ったスタイルのリストが表示されている状態で行ってください。たとえば、文字スタイルを作成する場合は、ウィンドウに文字スタイルのリストを表示してください。

- 2 [New] をクリックします。
- 3 [OK] をクリックします。
- 4 作成したスタイルに名前を付け、そのスタイルで適用したい設定を選択します。

各タブで設定できるオプションの詳細を表示するには、該当するタブをクリックしてから、[ヘルプ] をクリックします。

3.2.4 テンプレートを使ったドキュメントの書式設定

一般的に、ワードプロセッサを利用するユーザは、さまざまな種類の文書を作成します。たとえば、レター、メモ、およびレポートを作成する場合。これらのドキュメントはそれぞれ外観も違えば、使う書式やスタイルも異なります。このような場合、それぞれの用途に応じたテンプレートを作成しておけばドキュメントの種類に応じた適切な書式設定/スタイルを手軽に利用することができます。

テンプレートを作成する場合、あらかじめ検討しておかなければならないことがいくつかあります。たとえば、テンプレートで使うスタイルを作成するために、ドキュメントの外観をどのようにするかを決める必要があります。テンプレートは後でいつでも変更できますが、あらかじめこのような事柄を検討しておけば、後の時間や手間を節約できます。

注意

また、Word文書と同様に、Microsoft WordテンプレートをOpenOffice.orgのテンプレートに変換することもできます。詳細については、OpenOffice.org形式への文書の変換項 (82 ページ)を参照してください。

テンプレートに関する詳細な説明は、このセクションでは触れません。詳細については、ヘルプを参照してください。また、OpenOffice.orgのドキュメントWebサイト(http://documentation.openoffice.org/HOW_TO/index.html)にも役に立つ情報や資料が用意されています。

テンプレートの作成

テンプレートは、スタイルと他の必要な要素だけが用意されているドキュメントです。たとえば、レター用テンプレートには、自分の住所や氏名などを記載するレターヘッドなど、レターで使用するスタイルを定義します。テンプレートを使用してドキュメントを作成、または開く場合、そのドキュメントには、定義されているスタイルが自動的に適用されます。

テンプレートを作成するには、次の手順に従います。

- 1 [ファイル] > [新規作成]、> [文書ドキュメント] の順にクリックします。
- 2 任意の文書で使用したいスタイルと内容を作成し、このテンプレートを 사용합니다。
- 3 [ファイル] > [テンプレート] > [保存] の順にクリックします。
- 4 テンプレートの名前を入力します。
- 5 [範囲] ボックスから、このテンプレートを保存するカテゴリをクリックします。

カテゴリは、テンプレートを保存するフォルダです。
- 6 [OK] をクリックします。

3.2.5 大きな文書に関する作業

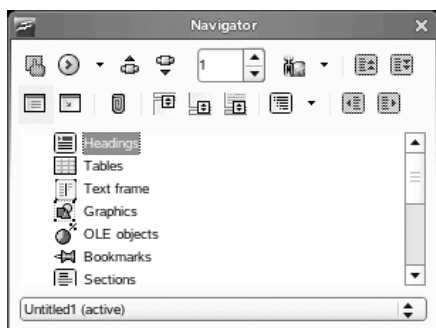
Writerを使って大きな文書を作成、編集したり、他の作業を行うことができます。大きな文書は、単一のファイルのこともあれば、複数のファイルから1つの文書が成り立っていることもあります。

大きな文書内の移動

ナビゲータには、文書の内容についての情報が表示されます。また、このツールを使って、ドキュメント内の別の部分に素早く移動することもできます。たとえば、ナビゲータを使って文書に含まれているイメージのリストを表示することができます。

ナビゲータを表示するには、[編集] > [ナビゲータ] の順にクリックします。Navigatorに表示される要素は、Writerにロードされている文書によって異なります。

図 3.3 Writerのナビゲータツール



ナビゲータ中の項目をクリックすると、文書内の該当する項目に移動します。

マスタドキュメントを使った複数ファイルからの単一ドキュメントの作成

本などの、大きな文書を作成、編集する場合、その内容をすべて1つのファイルに保存する代わりに、複数のファイルを管理するマスタドキュメントを作成し、作業を簡素化することができます。マスタドキュメントを利用すれば、大きな文書に素早く書式を設定したり、個々のサブドキュメントに移動して編集することができます。

Writerのマスタドキュメントは、複数のWriterファイルを保管するコンテナとしての役割を果たします。たとえば、章単位にファイルを作成し、それをまとめてマスタドキュメントに保管、管理することができます。マスタドキュメントは、単一の文書に対して複数のユーザが共同作業を行うような場合にも役立ちます。このような場合、各ユーザの担当範囲に応じて文書を分割し、それをマスタドキュメントで管理すれば、複数の担当者が同時に文書に対して作業を行うことができます。他のユーザの妨げになることはありません。

注意

Microsoft WordからOpenOffice.orgに移行したユーザは、同じような機能であるWordのグループ文書では文書が壊れることがあるという評判を聞いて、マスタドキュメントの使用を躊躇されるかもしれません。OpenOffice.org Writerには、このような問題は存在していません。マスタドキュメントを使って安全に文書を管理できます。

マスタドキュメントを作成するには、次の手順に従います。

- 1 [新規作成] > [マスタドキュメント] の順にクリックします。

または

既存の文書を開いて、[ファイル] > [送信] > [マスタドキュメントの作成] の順にクリックします。

- 2 サブ文書を挿入します。
- 3 [ファイル]、[保存] の順にクリックします。

OpenOffice.orgヘルプファイルには、マスタ文書での作業に関する詳細な情報が含まれています。「マスタドキュメントとサブドキュメントを使用する」を参照してください。

ティップ

サブドキュメントにあるスタイルは、すべてマスタドキュメントにインポートされます。マスタドキュメントで一貫した書式設定を利用するには、各サブドキュメントで同じテンプレートを使ってください。必ず同じテンプレートを使わなければならない訳ではありませんが、サブドキュメント間で書式設定が違っている場合、不整合になるのを防ぐために書式を再設定する必要があることもあります。たとえば、2つのサブドキュメント間で、同じ名前でも異なる書式が設定されたスタイルが使われている場合、それらをマスタドキュメントにインポートすると、最初にインポートされた文書のスタイルが使われます。

3.2.6 HTMLエディタとしてWriterを使用する

完全装備のワードプロセッサとしての機能のほかに、WriterにはHTMLエディタとしての機能があります。WriterにはHTMLタグが含まれています。このタグはWriter文書に他のスタイルを適用するときと同じように適用されます。オンラインに表示される状態でドキュメントを表示したり、HTMLコードを直接編集することができます。

HTML文書の作成

- 1 [ファイル] > [新規作成] > [HTMLドキュメント] の順にクリックします。
- 2 [スタイルと書式] ウィンドウの下にある矢印をクリックします。
- 3 [HTML Styles] を選択します。
- 4 スタイルを使ってテキストにタグをつけ、HTML文書を作成します。
- 5 [ファイル] > [名前を付けて保存] の順にクリックします。
- 6 ファイルを保存したい場所を選択して、ファイルの名前を入力し、[フィルタ] リストから [HTML文書(.html)] を選択します。
- 7 [OK] をクリックします。

HTMLコードを直接編集したい場合、または、HTMLファイルをWriter文書として編集したとき作成したHTMLコードを表示したい場合、[表示] > [HTML Source] の順にクリックします。これで、[HTML Source] モードでは、[スタイルと書式] リストは使用できなくなります。

注意

まだHTMLドキュメントを保存していない状態で、初めてHTMLソースモードに切り替えると、ファイルの保存を求めるダイアログが表示されます。

3.3 Calcを使用してスプレッドシートを使用する

Calcは、OpenOffice.orgのスプレッドシートアプリケーションです。スプレッドシートを作成するには、[ファイル] > [新規作成] > [表計算] の順に選択するか、または [ファイル] > [開く] の順に選択してファイルを開きます。Calcでは、Microsoft Excel形式のファイルを読み込んだり、Microsoft Excel形式でファイルを保存したりできるため、Excelユーザとスプレッドシートを簡単にやり取りすることができます。

注意

また、Calcでは、Excelドキュメントの多数のVBAマクロを処理することができます。ただし、すべてのVBAマクロをサポートしている訳ではありません。マクロを多用するExcelスプレッドシートを開くとき、一部のマクロが機能しないことがあります。

スプレッドシートのセルには、固定データまたは式を入力します。式を使用すれば、他のセルからのデータを操作して、式を挿入したセルの値を生成できます。セルの値からグラフを作成することもできます。

3.3.1 Calcでの書式設定とスタイルの使用

Calcには、スプレッドシートやレポートの外観を変更するセルやページ用スタイルがいくつか用意されています。通常はこれらのスタイルでも十分ですが、必要に応じて独自のスタイルを作成することもできます。

スタイルの作成

- 1 [書式] > [スタイルと書式] の順にクリックします。
- 2 [スタイルと書式] ウィンドウで、[Cell Styles] または、[Page Styles] アイコンをクリックします。
- 3 [スタイルと書式] ウィンドウを右クリックし、[新規] をクリックします。
- 4 スタイルの名前を入力し、さまざまなタブを使用して希望どおり書式設定オプションをセットします。
- 5 [OK] をクリックします。

スタイルの変更

- 1 [書式] > [スタイルと書式] の順にクリックします。
- 2 [スタイルと書式] ウィンドウで、[Cell Styles] または、[Page Styles] アイコンをクリックします。

- 3 変更したいスタイルの名前を右クリックし、[変更]をクリックします。
- 4 選択した書式設定オプションを変更します。
- 5 [OK] をクリックします。

3.3.2 Calcにテンプレートを使用する

さまざまな種類のスプレッドシートに異なるスタイルを使用する場合、テンプレートを使用して各スプレッドシートの種類のスタイルを保存することができます。スプレッドシートを作成する際には、その種類に応じたテンプレートを開いて、[スタイルと書式] ウィンドウから適切なスタイルを適用します。

テンプレートに関する詳細な説明は、このセクションでは触れません。ただし、詳しい説明はヘルプシステムに記載され、詳細な使い方はOpenOffice.orgのドキュメントページ(http://documentation.openoffice.org/HOW_TO/index.html)に説明されています。

テンプレートの作成

Calcテンプレートとは、そのテンプレートで作成したすべてのスプレッドシートに表示したいスタイルと内容(ヘッダやその他のセルスタイルなど)を含むスプレッドシートです。テンプレートを使用して文書を作成、または開くとき、テンプレートのスタイルが自動的にそのスプレッドシートに適用されます。

テンプレートを作成するには、次の手順に従います。

- 1 [ファイル] > [新規作成] > [スプレッドシート] の順にクリックします。
- 2 任意のスプレッドシートで使用したいスタイルと内容を作成し、このテンプレートを使用します。
- 3 [ファイル] > [テンプレート] > [保存] の順にクリックします。
- 4 テンプレートの名前を入力します。

- 5 [範囲] ボックスから、このテンプレートを保存するカテゴリをクリックします。

カテゴリは、テンプレートを保存するフォルダです。

- 6 [OK] をクリックします。

3.4 Impressでプレゼンテーションを使用する

OpenOffice.org Impressを使用して、スライドショーやOHPシートなどのプレゼンテーションを作成、画面に表示したり印刷したりできます。Impressは他のプレゼンテーションソフトウェアと操作や機能が似ているため、他のプレゼンテーションソフトウェアを使用していたユーザでも、簡単にImpressに移行することができます。

Impressは、Microsoft PowerPointプレゼンテーションを開いたり、PowerPoint形式で保存したりできます。PowerPoint形式でファイルを保存できるため、PowerPointユーザとプレゼンテーションを簡単にやり取りすることができます。

3.4.1 プレゼンテーションの作成

- 1 [ファイル] > [新規作成] > [プレゼンテーション] の順をクリックします。
- 2 プレゼンテーションの作成に使用するオプションを選択します。

プレゼンテーションを作成するには、次の2種類の方法があります。

- ・ 白紙のプレゼンテーションを作成する

Impressに空のスライドを表示します。このオプションを使用して、事前に書式設定されたスライドなしで、最初からプレゼンテーションを新規作成します。

- ・ テンプレートからプレゼンテーションを作成する

選択したテンプレートでImpressを開きます。このオプションは、あらかじめ用意されているOpenOffice.orgテンプレートや、独自に作成したテンプレート(社内用テンプレートなど)を使ってプレゼンテーションを作成する場合に選択します。Impressでは、他のOpenOffice.orgモジュールと同じように、スタイルやテンプレートを利用することができます。テンプレートの詳細は、3.2.4項「テンプレートを使ったドキュメントの書式設定」(97 ページ)を参照してください。

3.4.2 マスタページの使用

マスタページを利用して、各スライドの外観、使用するフォント、および他のグラフィック要素を定義し、一貫性のあるプレゼンテーションを作成することができます。Impressには、2種類のマスタページが用意されています。

- スライドマスタ

すべてのスライドに表示される要素を含みます。たとえば、スライドマスタを使って、各スライドの同じ場所に企業ロゴを表示することができます。また、スライドマスタには、見出しの文字書式スタイルや各スライドのアウトライン、およびヘッダ/フッタに表示する情報も定義されます。

- メモマスタ

プレゼンテーション内のメモの書式と外観を決定します。

スライドマスタの作成

Impressには、あらかじめ定義されたマスタページがいくつか用意されています。また、独自のスライドマスタを作成することもできます。

- 1 Impressを起動して、新規の白紙のプレゼンテーションを作成します。
- 2 [表示] > [マスタ] > [スライドマスタ] の順にクリックします。
[Master View] で現在のスライドマスタを開きます。
- 3 左のパネルを右クリックして、[New Master] をクリックします。

- 4 希望する外観になるまでスライドマスタを編集します。
- 5 [マスタ表示を閉じる] をクリックするか、または [表示] > [標準] の順にクリックすると、標準表示に戻ります。

ティップ

プレゼンテーションで使用するスライドマスターをすべて作成した後は、これらをImpressテンプレートに保存することができます。以降、保存したスライドマスターを使ってプレゼンテーションを作成する場合には、このテンプレートを開きます。

スライドマスタの適用

スライドマスタは選択したスライド、またはプレゼンテーションにあるすべてのスライドに適用できます。

- 1 プレゼンテーションを開いて、[表示] > [マスタ] > [スライドマスタ] の順にクリックします。
- 2 (オプション)スライドマスタをすべてのスライドではなく複数のスライドに適用する場合、そのスライドマスタを使用したいスライドを選択します。

複数のスライドを選択するには、使用するスライドをクリックしながらCtrlをスライドペインで押します。
- 3 タスクペインでは、適用したいマスタページを右クリックします。

タスクペインが表示されていない場合、[表示] > [Task Pane] の順にクリックします。
- 4 次のオプションから1つクリックしてスライドマスタを適用します。
 - すべてのスライドに適用

選択したスライドマスタをプレゼンテーションにあるすべてのスライドに適用します。
 - 選択したスライドに適用

選択したスライドマスタを、現在のスライド、またはスライドマスタの適用前に選択する任意のスライドに適用します。たとえば、プレゼンテーション中の最初のスライドに別のスライドマスタを適用する場合は、そのスライドを選択した後でマスタ表示に切り替え、そのスライドにスライドマスタを適用します。

3.5 Base - データベースの使用

OpenOffice.orgには、データベースモジュールのBaseが含まれています。Baseを使用して、簡単なアドレス帳や料理レシピ集から、複雑なドキュメント管理システムまで、さまざまな種類の情報を格納するデータベースを設計できます。

テーブル、フォーム、クエリ、およびレポートは、手動で作成するか、または便利なウィザードを使用して作成できます。たとえば、テーブルウィザードには、ビジネスおよび個人用途のための一連の共通フィールドがあります。Baseで作成されたデータベースは、フォームレターを作成する場合などのデータソースとして使用できます。

Baseを使用した詳細なデータベース設計については、このマニュアルでは触れません。詳細は、3.8項「OpenOffice.orgに関するヘルプと情報の検索」(112 ページ)にある各種資料を参照してください。

3.5.1 事前定義されたオプションを使ったデータベースの作成

Baseには、データベースを作成するために役立つ、事前定義されたデータベースフィールドが用意されています。ここでは、この事前定義されているフィールドを使ってアドレス帳を作成する手順について説明していきますが、これらの手順を応用すれば、他のデータベースも手軽に作成できます。

データベースの作成プロセスは、いくつかのサブプロセスに分けられます。

データベースの作成

最初にデータベースを作成します。

- 1 [ファイル] > [新規作成] > [データベース] の順にクリックします。
- 2 [データベースの新規作成] > [Next] を選択します。
- 3 [Yes, register the database for me] をクリックして自分のデータベース情報を他のOpenOffice.orgモジュールに対して有効にし、ダイアログボックスの下部にあるチェックボックスを両方オンにして、[完了] をクリックします。
- 4 データベースを保存したいディレクトリを参照してデータベースの名前を入力し、[OK] をクリックします。

データベーステーブルのセットアップ

次に、データベーステーブルで使用したいフィールドを定義します。

- 1 テーブルウィザードで、[Personal] をクリックします。

[Sample tables] リストが個人用の定義済みテーブルに変わります。
[Business] をクリックした場合、リストには定義済みビジネステーブルが含まれます。

- 2 [Sample tables] リストで、[Addresses] をクリックします。

定義済みのアドレス帳に使用可能なフィールドが、[Available fields] メニューに表示されます。

- 3 [Available fields] メニューで、自分のアドレス帳に使用したいフィールドをクリックします。

1つずつ項目を選択して追加することも、複数の項目を選択して追加することもできます。複数の項目を選択する場合は、キーを押しながら項目を選択します。

- 4 選択した項目を→ [選択されたフィールド] メニューに移動するには、を1回クリックします。

使用可能なフィールドをすべて [Selected fields] メニューに移動するには、右矢印をダブルクリックします。

- 5 選択したフィールドの表示順序を変更する場合は、↑キーと↓キーを使います。

テーブルやフォームには、フィールドがここに記載されている順序で表示されます。

- 6 [Next]をクリックします。

- 7 各フィールドが正しく定義されていることを確認します。

フィールド名、種類、エントリが必要かどうか、フィールドの最大長(入力可能な最大文字数)を変更できます。この例では、設定はそのまま変更しないでください。

- 8 [Next]をクリックします。

- 9 [プライマリキーの作成] をクリックして、 [プライマリキーを自動的に追加] をクリックして、 [自動設定値] をクリックして、次に [次へ] をクリックします。

- 10 テーブル名のデフォルト値をそのまま使用します。 [このテーブルに基づいてフォームを作成] を選択して、 [完了] をクリックします。

フォームの作成

次に、アドレス帳にデータを入力するときに使用するフォームを作成します。

- 1 フォームウィザードで、右矢印アイコンをダブルクリックして使用可能なフィールドをすべて [Fields in the form] リストに移動し、 [次へ] を2回クリックします。
- 2 フォームをどのように調節したいか選択し、 [次へ] をクリックします。
- 3 すべてのデータを表示するフォームを使用するオプションを選択し、チェックボックスをすべて空欄にして、 [次へ] をクリックします。
- 4 スタイルとフィールドの枠線を適用し、 [次へ] をクリックします。

この例では、デフォルトの選択肢を使用します。

- 5 フォームに名前を付け、*[Modify the form]* オプションを選択し、*[完了]* をクリックします。

フォームの変更

フォームを定義したら、設定に合うようフォームの外観を変更します。

- 1 変更手順が終了したら、開いているフォームを閉じます。
- 2 データベースのメインウィンドウで、変更したいフォームを右クリックし(オプションは1つだけです)、*[編集]* をクリックします。
- 3 フォーム中のフィールドをドラッグして、フォームを別の場所に移動できます。

たとえば、*[First Name]* フィールドを、*[Last Name]* フィールドの右に表示されるよう移動します。それから、設定に合うよう他のフィールドの場所を調節します。

- 4 フォームの修正が完了したら、保存して、フォームを閉じます。

次に行う作業?

データベースのテーブルとフォームを作成したら、データを入力できます。また、クエリやレポートを作成してデータをソートしたり表示したりすることもできます。

Baseの詳細については、OpenOffice.orgオンラインヘルプと、3.8項「[OpenOffice.orgに関するヘルプと情報の検索](#)」(112ページ)に記載されている資料を参照してください。

3.6 Draw - グラフィックの作成

OpenOffice.org Drawを使って、グラフィックや図を作成できます。作成した図は一般的な形式で保存できます。保存したファイルは、他のアプリケーションにインポートしたり、他のOpenOffice.orgモジュールで利用できます。描画のFlashバージョンも作成できます。

OpenOffice.orgマニュアルではDrawの使用方法について詳細に説明していません。詳細については、3.8項「OpenOffice.orgに関するヘルプと情報の検索」(112 ページ)を参照してください。

ドキュメントでDrawグラフィックを使用するには、次の手順に従います。

- 1 Drawを開き、グラフィックを作成します。
- 2 そのグラフィックを保存します。
- 3 グラフィックを文書にコピーして貼り付けるか、文書から直接グラフィックを挿入します。

Drawには、他のOpenOffice.orgモジュール内で利用できるという特長があります。他のOpenOffice.orgモジュールからDrawを起動してグラフィックを作成した後、ドキュメントに自動的にインポートできます。

- 1 OpenOffice.orgモジュール(例:Writer)から、[挿入] > [オブジェクト] > [OLEオブジェクト] > [OpenOffice.org 2.xの図形描画] > [OK] の順にクリックします。

これにより、Drawが起動します。

- 2 描画を作成します。
- 3 ドキュメント内で、Drawの枠外の領域をクリックします。

描画が自動的に文書に挿入されます。

3.7 Mathを使用して式を作成する

一般的に、ドキュメントに複雑な数式を表記することは、複雑さを伴います。OpenOffice.org Math数式エディタでは、演算子、関数、および書式設定機能を使って、このような数式を作成できます。作成した数式をオブジェクトとして保存し、他のドキュメントにインポートできます。Mathで作成した数式や関数は、他のグラフィックオブジェクトと同様に、他のOpenOffice.orgドキュメントに挿入できます。

注意

Mathは計算機ではありません。**Math**が作成する関数は、グラフィックオブジェクトです。**Calc**にインポートできますが、これらの関数は評価されません。

3.8 OpenOffice.orgに関するヘルプと情報の検索

OpenOffice.orgには詳細なオンラインヘルプが含まれています。また、OpenOffice.orgは多数のユーザおよび開発者によってサポートされています。そのため、OpenOffice.orgに関する説明、参考資料および情報は、比較的簡単に手に入れることができます。このような情報や資料を入手できる代表的な場所を、次の表に示します(Webサイトは、頻繁に内容が変更されたり、閉鎖されることがあるため、本書をお読みになっている時点では情報が古くなっている可能性もあります)。

OpenOffice.orgオンラインヘルプメニュー

OpenOffice.orgのタスク実行に関する詳細なヘルプ

OpenOffice.orgの公式サポートページ (<http://support.openoffice.org/index.html>)

マニュアル、チュートリアル、ユーザ/開発者フォーラム、メーリングリスト、FAQ、および他の資料

OpenOffice.org Migration Guide (<http://documentation.openoffice.org/manuals/oooauthors2/0600MG-MigrationGuide.pdf>)

Microsoft Officeを含む他のオフィススイートからOpenOffice.orgへの移行に関する情報

Taming OpenOffice.org (<http://www.taming-openoffice-org.com/>)

書籍、ニュース、ヒント、テクニック

OpenOffice.org Macros (<http://www.pitonyak.org/oo.php>)

マクロの作成と使用方法に関する詳細情報

Kontact:電子メールとカレンダーリング

Kontactは、複数のKDEアプリケーションの機能を1つの使いやすいインタフェースに統合した個人情報管理ツールです。これらのアプリケーションには、KMail (電子メール)、KOrganizer (カレンダー)、KAddressbook (連絡先管理)、およびKNotes (ノート) が含まれます。データをPalmPilotや他のハンドヘルドデバイスなど、外部デバイスと同期させることもできます。KontactはKDEデスクトップの空いている領域に容易に配置できます。また、Kontactはさまざまなグループウェアサーバに接続します。スパムやウィルスのフィルタリング、RSSリーダなどの追加機能も備えています。

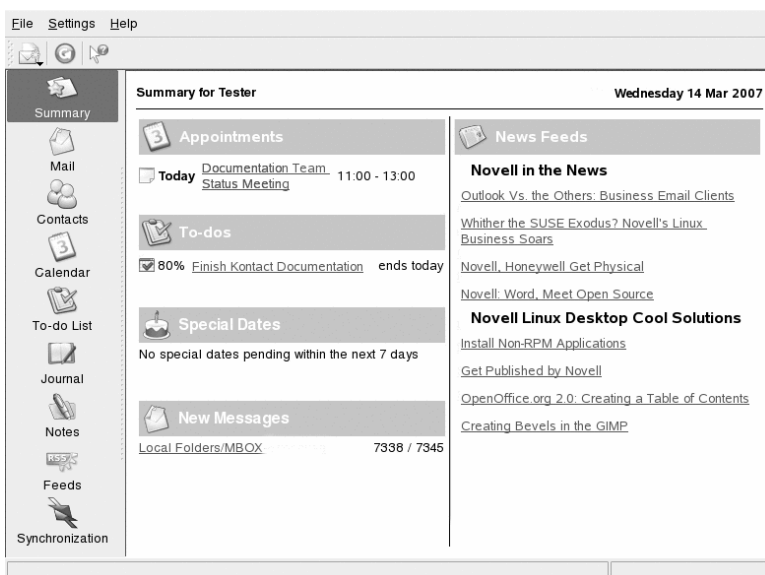
Kontactはメインメニューから起動します。代わりに、コマンドラインまたは [コマンドを実行] ダイアログに `[kontact]` と入力して起動することもできます。一部の機能だけがが必要な場合には、複合のアプリケーションとしてではなく、個々のコンポーネントを開くこともできます。

4.1 Kontactの概要

デフォルトのウィンドウビューには、**[概要]** 図 4.1. 「概要が表示された Kontact ウィンドウ」 (114 ページ) に示すように、が表示されます。別のコンポーネントにアクセスするには、左側のセクションにあるボタンを使用します。

[要約] には、近づいている誕生日やTo-Do、天気、および新規のメールメッセージ数などの基本情報が表示されます。ニュースセクションでは、RSSフィードにアクセスして興味のある最新ニュースを読むことができます。表示される情報を設定するには、**[設定]** > **[概要表示の設定]** の順に選択します。

図 4.1 概要が表示されたKontactウィンドウ



4.1.1 メール

左側のフォルダ領域には、自分のメールフォルダ(メールボックス)から成るリストがあり、メッセージの総数と未読の件数が表示されます。特定のフォルダを選択するには、そのフォルダをクリックするだけです。そのフォルダ内のメッセージが、右上のフレームに表示されます。フォルダ内のメッセージの件数は、アプリケーションウィンドウの下端にあるステータスバーにも表示されます。

各メッセージの件名、送信者、および受信日時が、右側のヘッダ領域に表示されます。特定のメッセージをクリックすると、そのメッセージが選択され、メッセージウィンドウ内に表示されます。列の見出し(件名、送信者、日時など)のいずれかをクリックすると、メッセージをソートできます。現在選択されているメッセージの内容は、ウィンドウのメッセージフレームに表示されます。添付ファイルは、その添付ファイルが使用しているMIMEタイプに基づき、メッセージの最後にあるアイコンとして、またはインラインで表示されます。

さまざまなステータスフラグを使用して、メッセージにマークを付けることができます。ステータスを変更するには、[メッセージ] > [メッセージをマーク] を選択します。この機能を使えば、メッセージに「重要」や「スパム」などのステータスを割り当てることができます。たとえば、覚えておきたい重要なメッセージを強調表示することができます。検索バーの [状態] を使用すると、特定の状態のメッセージだけを表示できます。

4.1.2 連絡先

このコンポーネントの左上のフレームには、現在有効なアドレス帳に登録されているすべてのアドレスが表示されます。左下のフレームには、アドレス帳と、各人が現在アクティブかどうかが表示されます。右側のフレームには、現在選択されている連絡先が表示されます。上にある検索バーを使用して、特定の連絡先を検索できます。

4.1.3 カレンダー

カレンダービューは、複数のフレームに分割されています。デフォルトでは、今月の小さなカレンダーを含むフレームと、今週の週表示を含むフレームが表示されます。To-Doリスト、現在のイベントまたはTo-Doの詳細表示、およびそれぞれの状態を示すカレンダーリストもあります。別の表示を選択するには、ツールバーまたは [表示] メニューを使用します。

4.1.4 To-Do List

[To-doリスト] には、タスクのリストが表示されます。リストに新しいタスクを追加するには、上にあるフィールドをクリックします。既存のタスクの列を右クリックすると、その列の値を変更できます。タスクをいくつかのサブタスクに分割できます。サブタスクを作成するには、タスクを右クリックして [新規サブTo-Do] を選択します。タスクを他の人々に割り当てることもできます。

4.1.5 日誌

[ジャーナル] では、考え事、出来事、または経験などを保存する場所を提供します。カレンダーフレームの中で日にちを選択し、 [Add Journal Entry

(ジャーナルエントリの追加)] をクリックし、新しいエントリを追加します。選択した日に対応するジャーナルエントリがすでに存在する場合は、右のフレーム内でそれを編集します。

4.1.6 メモ

このコンポーネントは、覚え書きとして使用します。KDEを使用している場合は、システムトレイのKNoteアイコンを使用すると、デスクトップに表示されるようになります。

4.1.7 フィード

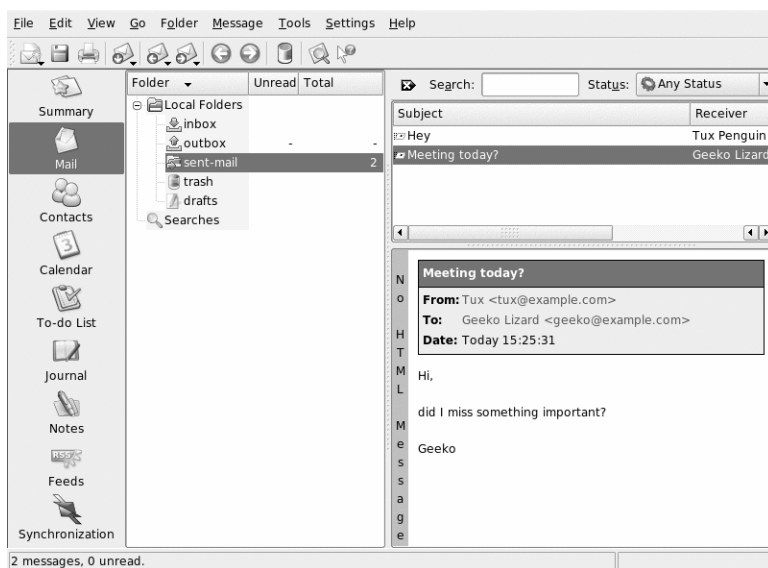
[Feeds] ウィンドウは3つのフレームに分割されています。左側のRSSフィードのツリービュー、右上の部分の記事リスト、および右下の部分の記事ビューで構成されています。ツリービューでフィードをクリックしてそれを表示します。フィードの更新、編集、または削除を行うには、対象のフィードを右クリックします。ツリービュー内のフォルダを右クリックすると、新しいフィードの追加、またはこのフォルダ内の既存のフィードの操作のメニューが開きます。

4.2 メール

Kontactは、電子メールコンポーネントとしてKMailを使用します。KMailを設定するには、[設定] > [KMail設定] の順に選択します。KMailは機能豊富な電子メールクライアントであり、多くのプロトコルをサポートしています。

[ツール] には、不必要なメールを管理するのに役立ついくつかのツールがあります。[検索] を使用すると、メッセージを詳しく検索できます。[アンチスパムウィザード] は不要な商用電子メールをフィルタするのに役立つ管理ツールです。[アンチウイルスウィザード] は電子メールウイルススキャナを管理します。これらの2つのウィザードは、外部のスパムおよびウイルスソフトウェアと連動します。これらのオプションを無効にする場合は、スパムやウイルスに対処するための付加的なパッケージをインストールしてください。

図 4.2 Kontactのメールコンポーネント



4.2.1 個人情報およびアカウントの設定

Kontactでは、複数の電子メールアカウント(たとえば、自分の個人用電子メールアドレスと、ビジネス用のアドレス)を管理することができます。電子メールの作成時には、**[表示]**、**>** **[個人情報]** をクリックして、定義済みのいずれかのIDを選択します。新しいIDのプロファイルを作成するには、**[設定]** **>** **[KMail設定]** の順に選択し、続いて、**[Identities]** **>** **[追加]** の順に選択します。開いたダイアログボックスで、新しいIDに付ける名前(「private」(プライベート)や「office」(オフィス)など)を入力します。**[OK]** をクリックして、追加情報を入力するためのダイアログボックスを開きます。フォルダに識別情報を割り当て、そのフォルダ内のメッセージに返信する際に、割り当てておいた識別情報が選択されるようにすることもできます。

[一般] タブで **[ユーザの名前]**、**[組織]**、および **[Eメールアドレス]** を入力します。**[Cryptography]** タブでは、電子的に署名された、または暗号化されたメッセージを送信するための鍵を選択します。暗号化機能を使用するには、「第10章 *KGpg*による暗号化(191 ページ)」で説明している *KGpg* を使用して鍵を事前に作成しておく必要があります。

[詳細] タブでは、デフォルトの返信アドレス(Reply-To)およびデフォルトのBCCアドレスの指定、辞書の選択、完成していないメッセージや送信済みメッセージを格納するフォルダの選択、およびメッセージの送信方法の定義を行います。[署名] タブでは、各メッセージの最後に署名テキストを付加するかどうかを指定します。たとえば、各メールに自分の連絡先情報を署名として追加することができます。署名を有効にするには、[署名を有効にする]を選択し、ファイル、入力フィールド、コマンドの出力のいずれから署名を取得するのかを指定します。[Picture (写真)]を使用すると、すべてのメール内で表示される、モノクロの小さな(48x48ピクセル)アイコンへのパスを指定できます(受信者のソフトウェアがこの機能をサポートしている場合)。すべてのID設定が完了したら、[OK]をクリックして確定します。

[アカウント] では、Kontactによる電子メールの送受信方法を設定します。の中には2つのタブがあり、1つはメール送信用、もう1つはメール受信用です。この2つのタブの設定値の多くは、使用するメールサーバのシステムと配置先ネットワークによって大きく異なります。どのような設定値と項目を使用すればいいのかわからない場合は、ご利用のISP、またはシステム管理者に問い合わせてください。

発信用メールボックスを作成するには、[送信] タブで [追加] をクリックします。SMTPとSendmailのいずれかの転送タイプを選択します。ほとんどの場合、SMTPの選択が適しています。選択すると、SMTPサーバのデータを入力するためのウィンドウが表示されます。サーバの名前とアドレス(ISPによって指定されている)を入力します。サーバによって認証が要求されている場合は、[サーバは認証が必要です]を有効にします。[セキュリティ] タブには、セキュリティ設定項目があります。ここで、使用する暗号化手法を指定します。

[受信] タブ内で、電子メールの受信用の設定を行います。[追加] をクリックして、新しいアカウントを作成します。[ローカルメールボックス] (MboxまたはMaildir形式)、[POP3]、[IMAP] などさまざまな方法の中から、メールの取得方法を選択します。設定値は、使用するサーバに合わせてください。

4.2.2 他のメールプログラムからの電子メールのインポート

他のアプリケーションから電子メールをインポートするには、Kontactのメールビューで [ツール] > [メッセージをインポート] の順に選択します。現

在、Outlook Express、mbox形式、電子メールテキスト形式、Pegasus Mail、Opera、およびEvolutionなどのインポートフィルタがサポートされています。インポートユーティリティは、kmailcvtコマンドを使用して単独で起動することもできます。

対応するアプリケーションを選択し、[次へ] をクリックします。選択したタイプによっては、ファイルまたはフォルダを指定する必要があります。その後、Kontaktによって、自動的にプロセスが完了されます。

4.2.3 メッセージの作成

新しいメッセージを作成するには、[メッセージ] > [新規メッセージ] の順に選択するか、ツールバーの該当するアイコンをクリックします。他の電子メールアカウントからメッセージを送信するには、4.2.1項「個人情報およびアカウントの設定」(117ページ)の説明に従って設定したIDのいずれかを選択します。[宛先]に、電子メールアドレス全体を入力するか、アドレス帳に入力されている氏名またはアドレスの一部を入力します。入力した文字に一致する項目がアドレス帳の中で見つかった場合、選択リストが表示されます。希望の連絡先をクリックします。入力に一致する項目が見つからなかった場合は、最後まで入力します。アドレス帳から直接選択するには、アドレスのフィールドの隣にある [Select...] ボタンをクリックします。

メッセージにファイルを添付するには、クリップのアイコンをクリックして、添付するファイルを選択します。代わりに、デスクトップまたは他のフォルダから [メール作成] ウィンドウまでファイルをドラッグするか、[添付] メニュー内でオプションのいずれかを選択することもできます。通常は、ファイルの形式は正しく認識されます。形式が正しく認識されない場合は、ファイルのアイコンを右クリックします。表示されるメニューから、[プロパティ] を選択します。次のダイアログで形式とファイル名を設定し、説明を追加します。また、添付ファイルを署名または暗号化するかどうかも指定できます。

メッセージの作成が完了したら、[メッセージ] > [送信] を選択して直ちに送信するか、[メッセージ] > [送信待ち] をの順に選択して [送信待ち] フォルダに移動します。メールを送信すると、メッセージは正常に送信された後に [送信済みメール] フォルダにコピーされます。[送信待ち] フォルダに移動されたメッセージは、編集または削除することもできます。

4.2.4 暗号化された電子メールと署名

電子メールを暗号化するには、第10章 *KGpg*による暗号化(191 ページ)で説明されているように、鍵ペアを最初に生成します。暗号化手順の詳細を設定するには、**[設定]** > **[KMail設定]** > **[Identities (個人情報)]** の順に選択します。次に、暗号化メッセージまたは署名済みメッセージを送信する際に使用するIDを指定します。**[変更]** を押します。**[OK]** をクリックして確定すると、対応するフィールドに鍵が表示されます。**[OK]** をクリックして、設定ダイアログを閉じます。

4.2.5 フォルダ

メッセージフォルダを使用すると、メッセージを整理することができます。デフォルトでは、メッセージフォルダは `~/.kde/share/apps/kmail/mail` ディレクトリにあります。初めてKMailを起動する時に、さまざまなフォルダが作成されます。inboxには、サーバから受信した新しいメッセージが保管されます。outboxは、送信待ちのメッセージを一時的に保管するために用いられます。sent-mailには、送信されたメッセージのコピーが保管されます。trashには、**Del**キーまたは **[編集]** > **[ごみ箱に移動]** を使って削除されたすべての電子メールのコピーが保管されます。draftには、未完成のメッセージが保管されます。IMAPを使用している場合は、ローカルフォルダの下にIMAPフォルダも表示されます。各着信メールサーバに対して、そのフォルダが **[フォルダ]** リストに表示されます。

メッセージを整理するためにフォルダを追加するには、**[フォルダ]** > **[新規フォルダ]** の順に選択してフォルダを作成します。ウィンドウが表示されるので、新しいフォルダの名前と形式を指定できます。

フォルダを右クリックすると、コンテキストメニューが表示されて、フォルダに対する操作が行えます。**[Expire]** を選択すれば、既読および未読のメッセージの保存期間と、削除やフォルダへの移動など、その期間の終了後に行う処理を指定できます。メーリングリストのメッセージを格納するためにフォルダを使用する場合には、**[フォルダ]** > **[Mailing List Management]** の順に選択して、必要なオプションを設定します。

あるフォルダから別のフォルダに1つ以上のメッセージを移動するには、上のウィンドウ内にあるメッセージをドラッグし、左のウィンドウ内にある適切なフォルダにドロップします。メッセージを反転表示し、**M**キーを押すか、

[メッセージ] > [移動] を選択することによってもメッセージを移動できます。フォルダのリストが表示されるので、メッセージの移動先として使用するフォルダを選択します。

4.2.6 フィルタ

フィルタは、着信メールを自動的に処理するための便利な方法です。送信者やサイズなどのメールの特徴に基づいて、メールを特定のフォルダに移動したり、不要なメールを削除したり、メールを送信者に返送します。

フィルタの作成

フィルタを新規に作成するには、[設定] > [フィルタの設定] の順に選択します。既存のメッセージに基づいてフィルタを作成するには、適用対象のメッセージを右クリックして [フィルタを作成] を選択し、フィルタの条件を選択します。

フィルタ条件の照合方法(すべて、またはいずれか)を選択します。次に、対象のメッセージだけに適用する条件を選択します。[フィルタアクション] で、条件に一致するメッセージに対するフィルタのアクションを設定します。[詳細オプション] では、フィルタをいつ適用するか、対象のメッセージに対してフィルタを追加するかどうかを設定します。

フィルタの適用

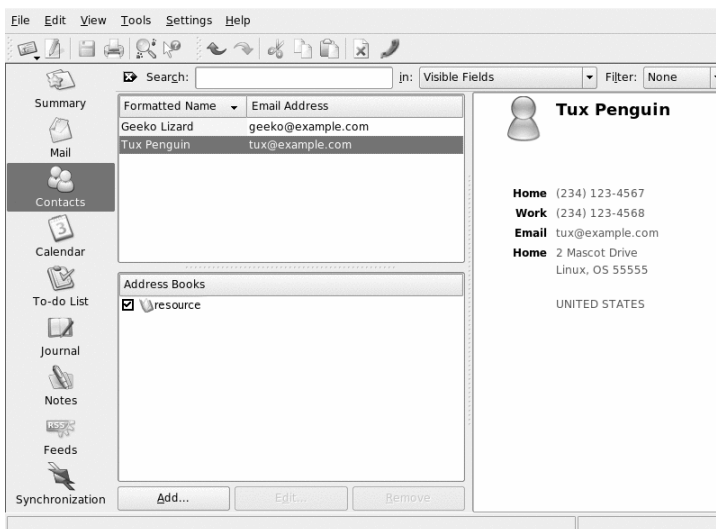
フィルタは、右クリックして [設定] > [フィルタを作成] を選択したときに開くダイアログ内にリストされている順序に従って、適用されます。特定のフィルタを選択し、矢印ボタンをクリックすることにより、順序を変更できます。フィルタは、[詳細オプション] で指定した新着メッセージと送信メッセージだけに適用されます。受信済みのメッセージにフィルタを適用するには、適用対象のメッセージを右クリックして、[フィルタの適用] を選択し、適用対象のフィルタを選択します。

フィルタが期待どおりに機能しない場合は、[ツール] > [フィルタログビューア] を使用して監視できます。このダイアログでログ機能を有効にすると、フィルタがどのようにメッセージを処理したか記録されるので、問題の特定に役立ちます。

4.3 連絡先

Kontactは、連絡先コンポーネントとしてKAddressBookを使用します。KAddressBookを設定するには、[設定] > [KAddressBookを設定]の順に選択します。特定の連絡先を検索する場合は、検索バーを使用します。[フィルタ]を使用すると、特定のカテゴリの連絡先だけを表示できます。連絡先を右クリックするとメニューが表示され、さまざまなオプションを選択できます。たとえば、電子メールで連絡先情報を送信することができます。

☒ 4.3 Kontactのアドレス帳



4.3.1 連絡先の追加

電子メール内の名前や電子メールアドレスを使用して連絡先を追加するには、メール内のアドレスを右クリックして[アドレス帳で開く]を選択します。新しい連絡先を追加するには、[ファイル] > [新規連絡先]の順に選択します。どちらの方法でもダイアログが表示されるので、連絡先に関する情報を入力します。

[一般] タブでは、名前、電子メールアドレス、電話番号などの連絡先の基本情報を入力します。カテゴリを使用してアドレスをソートすることもでき

ます。[詳細]では、誕生日や配偶者の名前など、より個人的な情報を入力します。

連絡先でインスタントメッセージを使用している場合は、[IMアドレス]にそのIDを追加できます。この操作を実行して、KopeteなどのKDEチャットプログラムをKontactとともに実行すると、これらのIDに関する状態情報がKontactに表示されます。[暗号設定]には、連絡先の暗号化データ(公開鍵など)を入力します。

[その他]には、写真や予定の有無情報の場所など、ユーザの追加情報を入力します。連絡先またはアドレス帳に自分自身の情報を追加する場合は、[カスタムフィールド]を使用します。

連絡先をさまざまな形式でインポートすることもできます。インポートするには、[ファイル] > [インポート]を使用して形式を選択します。次に、インポートするファイルを選択します。

4.3.2 配布リストの作成

特定のグループの人々に頻繁に電子メールのメッセージを送信する場合には、配布リストを作れば、複数のメールアドレスを1つの連絡先項目として保管できるので、グループにメールを送信するたびに、個々の名前を入力する必要がなくなります。まず、[設定] > [拡張バーを表示] > [送付リストエディタ]の順に選択します。表示される新しいセクションで、[新規リスト]をクリックします。リストの名前を入力し、[OK]をクリックします。連絡先をアドレスリストから送付リストウィンドウにドラッグアンドドロップして、リストに追加します。このリストは、メールを作成するときに、個人の連絡先と同じように使用できます。

4.3.3 アドレス帳の追加

重要項目: グループウェアのアドレス帳

グループウェアリソースを追加するには、個別のツールであるGroupware Wizardを使用するのが最善の方法です。これを使用するには、Kontactを終了してから、コマンドラインでgroupwarewizardを実行するか、KDEメニューのオフィスのグループから選択します。表示されるリストからSLOX、

Groupwise、Exchangeなどのサーバタイプを選択し、アドレスと認証データを入力します。使用可能なリソースが**Kontakt**に追加されます。

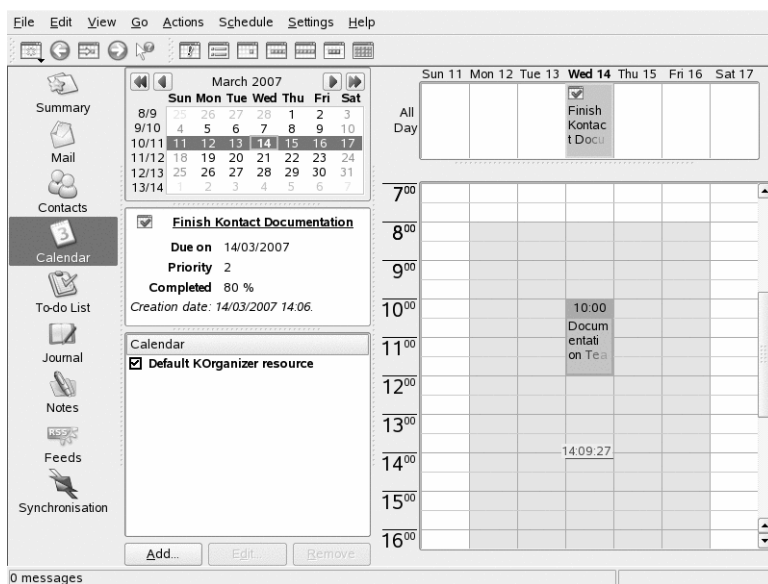
Kontaktは複数のアドレス帳にアクセスできます。たとえば、Novell GroupWiseやLDAPサーバが提供する共有のアドレス帳があります。現在のアドレス帳を表示するには、**[設定]** > **[拡張バーを表示]** > **[アドレス帳]** の順に選択します。アドレス帳を追加する場合は、**[追加]** をクリックし、タイプを選択して必要な情報を入力します。

アドレス帳の前のチェックボックスは、それぞれの有効状態を示します。アドレス帳を削除せずに非表示にするには、そのチェックボックスをオフにします。**[削除]** を選択すると、選択したアドレス帳がリストから削除されます。

4.4 カレンダー

Kontaktは、カレンダーコンポーネントとして**KOrganizer**を使用します。**KOrganizer**を設定するには、**[設定]** > **[KOrganizerの設定]** を選択します。カレンダーでは、アポイントを入力したり、会議をスケジュールリングしたりします。必要に応じて、今後のイベントの通知を設定できます。**[ファイル]** メニューのオプションを使用して、カレンダーのインポート、エクスポート、およびアーカイブを行うこともできます。

図 4.4 Kontactのカレンダー



4.4.1 イベントのスケジューリング

新しいイベントまたは会議を追加するには、[アクション] > [新規イベント]の順に選択します。詳細情報を入力します。[アラーム]では、出席者にイベントを通知する時間(何日前、何時前、何分前など)を正確に指定します。繰り返し実施されるイベントの場合は、間隔を指定します。カレンダーの特定の時点にイベントを作成するもう1つの方法は、プログラムのいずれかのカレンダービューで、対応するフィールドをダブルクリックすることです。これによって、メニューから実行した場合と同じダイアログウィンドウが表示されます。または、カレンダー表示で時間の範囲を選択して、右クリックします。

ダイアログに手動でデータを入力するか、またはアドレス帳からデータを挿入してイベントの出席者を指定します。手動で入力する場合は、[新規]を選択します。データをアドレス帳からインポートする場合は、[アドレスの選択]をクリックしてダイアログから該当するエントリを選択します。出席者の予定に合わせてイベントをスケジューリングするには、[予定の有無]を選択して[日付を選択]をクリックします。

定期的に実施されるイベントを設定するには、[繰り返し] タブを使用します。その他の情報(議事録など)をイベントにリンクするには、[添付ファイル] を使用できます。

4.4.2 カレンダの追加

重要項目: グループウェアのカレンダ

グループウェアリソースを追加するには、個別のツールであるGroupware Wizardを使用するのが最善の方法です。これを使用するには、Kontaktを終了してから、コマンドラインでgroupwarewizardを実行するか、KDEメニューのオフィスのグループから選択します。表示されるリストからSLOX、Groupwise、Exchangeなどのサーバタイプを選択し、アドレスと認証データを入力します。使用可能なリソースがKontaktに追加されます。

カレンダモジュールは、同時に複数のカレンダに接続できます。この機能は、個人のカレンダを組織のカレンダに統合する場合などに役立ちます。新しいカレンダを追加するには、[追加] をクリックしてカレンダタイプを選択します。必須フィールドにデータを入力します。

カレンダの前のチェックボックスは、それぞれの有効状態を示します。カレンダを削除せずに非表示にするには、そのチェックボックスをオフにします。[削除] を選択すると、選択したカレンダがリストから削除されます。

4.5 ハンドヘルドとのデータの同期

Kontaktは、データをPalmなどのハンドヘルドデバイスと同期できるように設計されています。KPilotの状態に関する情報が概要に表示されます。KPilotの設定と使用方法の詳細については、「第6章 KPilotによるハンドヘルドコンピュータの同期 (149 ページ)」を参照してください。

4.6 KontaktとGroupWiseユーザ

GroupWiseの使用に慣れていれば、ほとんど問題なくKontaktに合わせることができるでしょう。これら2つのプログラムは多くの概念を共有しており、提供

しているサービスの多くも共通しています。このセクションでは、注意すべき用語の違いと、GroupWiseユーザがKontactを十分に活用するためのヒントについて説明します。

4.6.1 用語の違い

次のテーブルでは、KontactとGroupWiseでの用語の主要な違いを示しています。

表 4.1 KontactとGroupWiseの用語の違い

GroupWise	Kontact
アポイント	イベント
予定の有無	空き時間/予定あり
メモ	Journalのエントリ
ポストされた/ポストされていない項目	出席者のないイベントは、ポストされます。イベントに主席者がある場合には、送信済みの項目になります。
仕事	To-do

4.6.2 GroupWiseユーザのためのヒント

このセクションでは、GroupWiseのユーザが、GroupWiseとKontactの相違点に対処するために役立つヒントを説明します。

連絡先情報

GroupWise Messengerと電子メールの連絡先は、Kontactの連絡先情報に追加することができます。それから、[コンタクト]表示の名前を右クリックして、電子メールを作成したり、インスタントメッセージングセッションを開始したりすることができます。

カラーコード

GroupWiseの項目、および他のソースからの項目にカラーコードを付けると役立ちます。カラーコードを付ければ、電子メール、連絡先、特定のソースからの項目についての他の情報をスキャンするのが簡単になります。

イベントに出席者を招待する

GroupWiseとは異なり、Kontactでは、自分がスケジュールしたイベントに自分自身を自動的に出席者として入れることはありません。自分自身を招待することを忘れないようにしてください。

4.7 詳細情報

Kontactには、Kontactとその各種コンポーネントのヘルプが含まれています。ヘルプにアクセスするには、[ヘルプ] > [Kontact Handbook] の順に選択します。このプロジェクトのWebページ<http://www.kontact.org>も参考になります。

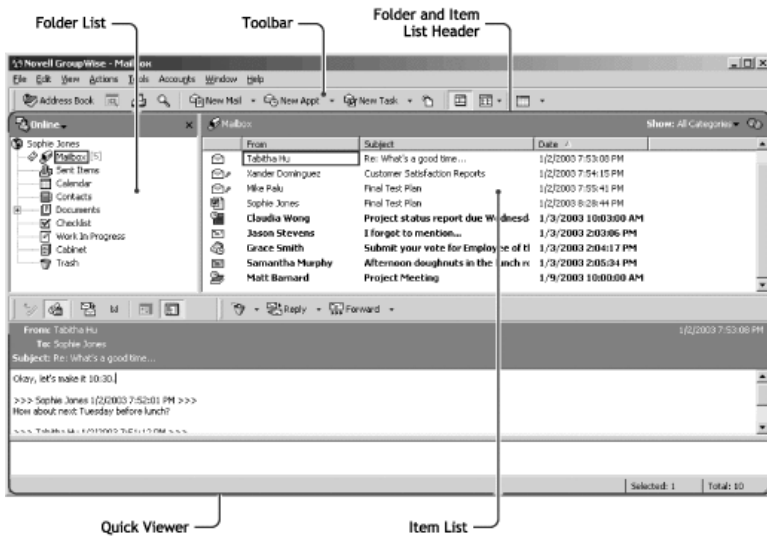
GroupWise Linuxクライアント: 電子メールとカレンダーリング

GroupWise®は、堅牢で信頼性の高いメッセージング/コラボレーションシステムで、いつでもどこからでもユニバーサルメールボックスに接続することができます。ここでは、GroupWise Cross-Platformクライアントを簡単に使用開始できるように、GroupWiseクライアントの概要について説明します。

5.1 GroupWiseのメインウィンドウについて

GroupWiseにおける主な作業領域は、メインウィンドウです。GroupWiseのメインウィンドウからは、メッセージを読む、アポイントの入力、カレンダーの表示、連絡先の管理、GroupWise起動モード変更、フォルダやドキュメントを開くことなどが可能です。

図 5.1 Groupwise のメインウィンドウ



GroupWiseでは、複数のメインウィンドウを表示できます。メインウィンドウを表示するには、[Window] をクリックして、次に [New Main Window] をクリックします。これは、別のユーザの代理人になっているときに便利です。自分のメインウィンドウ、および自分が代理になっているユーザに属するメインウィンドウを確認できます。1つのウィンドウで特定のファイルを開き、別のウィンドウでカレンダーを表示することもできます。コンピュータのメモリが許す限り、いくつでもメインウィンドウを開くことができます。

メインウィンドウの基本的なコンポーネントを以下に示します。

5.1.1 ツールバー

ツールバーを使用して、アドレス帳を開いたり、メールの送信や項目の検索などの一般的なGroupWiseの機能を簡単に利用できます。ツールバーについては、5.4項「ツールバーの使用」(141 ページ)を参照してください。

5.1.2 フォルダおよび項目リストヘッダ

フォルダと項目リストヘッダにはドロップダウンリストがあり、ここから実行したいGroupWiseのモード(オンラインまたはキャッシュ)を選択したり、アーカイブ(バックアップ)メールボックスをメールボックスを選択して開いたり、プロキシメールボックスの選択などの操作を実行できます。

5.1.3 フォルダリスト

メインウィンドウの左側にあるフォルダリストを使用すると、GroupWise項目を整理することができます。項目を保管するために新しいフォルダを作成することもできます。フォルダ(共用フォルダを除く)の横には、角括弧の中に未読項目の数が表示されます。送信項目フォルダの隣には、キャッシングモードから送信保留中の項目数が角かっこ([])内に表示されます。

デフォルトフォルダの各内容については、次の項目を参照してください。

- ユーザフォルダ項 (132 ページ)
- [メールボックス] フォルダ項 (132 ページ)
- [送信項目] フォルダ項 (132 ページ)
- [カレンダー] フォルダ項 (133 ページ)
- [連絡先] フォルダ項 (133 ページ)
- [チェックリスト] フォルダ項 (133 ページ)
- [ドキュメント] フォルダ項 (134 ページ)
- [ごみ箱] フォルダ項 (135 ページ)
- 共用フォルダ項 (136 ページ)

ユーザフォルダ

個人のユーザフォルダ(ユーザ名で示される)は、GroupWiseデータベース名を表します。メインウィンドウのすべてのフォルダは、ユーザフォルダのサブフォルダです。

[メールボックス] フォルダ

メールボックスには、受諾または拒否したスケジュール設定項目(アポイント、タスク、メモ)以外の、受信したすべての項目が表示されます。受諾したスケジュール設定項目はカレンダーに移動されます。

[送信項目] フォルダ

[送信項目] フォルダには、メールボックスとカレンダーから送信された項目がすべて表示されます。GroupWise 6.5以前のバージョンの [送信項目] フォルダはクエリフォルダで、現在の [送信項目] フォルダとは多少異なります。

以下は、以前の [送信項目クエリ] フォルダと現在の [送信項目] フォルダとの比較表です。

表 5.1 送信済み項目クエリフォルダと送信済み項目フォルダの比較

送信済み項目フォルダ(現行)	[送信項目クエリ] フォルダ(前)
送信項目は、メールボックスまたはカレンダー以外のフォルダに移動しないかぎり、すべてこのフォルダに置かれます。送信項目を別のフォルダに移動すると、その項目は [送信項目] フォルダに表示されなくなります。	現在このフォルダに項目はありません。このフォルダは検索結果フォルダで、このフォルダをクリックして検索結果(すべての送信済み項目)がフォルダに表示されると、検索が実行されたこととなります。このフォルダ内の項目を削除しても、元の項目は保管先のフォルダ内に残ります。そのため、このフォルダを再び開くと、その項目が再び表示されます。
このフォルダから送信項目を再送信、スケジュール変更、および撤回できます。	このフォルダから送信項目を再送信、スケジュール変更、および撤回できます。

【カレンダー】フォルダ

カレンダーフォルダには、さまざまなカレンダー表示オプションが表示されません。

【連絡先】フォルダ

【連絡先】フォルダには、デフォルトでアドレス帳内の【頻繁な連絡】アドレス帳が表示されます。【連絡先】フォルダで変更を行うと、【頻繁な連絡】アドレス帳でも同じ変更が行われます。

このフォルダから、連絡先、リソース、組織、およびグループを表示、作成、および変更できます。

代理人は、依頼人の【連絡先】フォルダを見ることができません。

【チェックリスト】フォルダ

【チェックリスト】フォルダは、タスクリストを作成するために使用します。このフォルダに、メールメッセージ、電話メッセージ、メモ、タスク、アポイントなどの項目を移動し、任意の順序で配置できます。各項目にはチェックボックスが設定され、項目を完了した時点でチェックマークを付けることができます。

チェックリストフォルダとタスクリストクエリフォルダ(古いバージョンの GroupWise で使用)の違いについて以下に示します。

表 5.2 チェックリストフォルダとタスクリストクエリフォルダの比較

【チェックリスト】フォルダ	【タスクリスト】フォルダ
このフォルダには、次の項目が含まれます。 <ul style="list-style-type: none">このフォルダに移動した項目このフォルダにポストした項目	現在このフォルダに項目はありません。このフォルダは【検索結果】フォルダです。つまり、このフォルダをクリックすると検索が行われ、検索結果(スケジュール設定されたすべての項目)がフォルダに表示されます。このフォルダ内の項目を削除しても、元の項目は保管先のフォルダ内に残ります。そのた

[チェックリスト] フォルダ [タスクリスト] フォルダ

- 別のフォルダで作成したチェックリストに含まれている項目
- め、このフォルダを再び開くと、その項目が再び表示されます。

このフォルダには、あらゆるタイプの項目を配置できません。

このフォルダには、タスクのみ表示されません。タスクは、期日に関連付けられているスケジュール設定項目です。

項目に完了マークを付けるには、項目リスト内の項目の横のチェックボックスをクリックします。

項目に完了済みのマークを付けるには、項目を開いて [完了] をクリックします。

期日は、タスクの送信者によって設定されます。タスクを自分で送信した場合は、期日を設定できます。

項目の優先度を設定するには、その項目を開き、[優先度] フィールドに優先度を入力します。

チェックリスト項目は、カレンダーのタスクリストに表示されません。

タスクは、カレンダーのタスクリストに表示され、カレンダーから完了マークを付けることができます。

期日を過ぎたタスクは、カレンダーで赤で表示されます。

[ドキュメント] フォルダ

ドキュメント参照は、簡単に探せるように [ドキュメント] フォルダにまとめられます。

[ドキュメント] フォルダにはドキュメントしか含まれません。他の種類の項目がバージョン5.5以前のGroupWiseクライアントによりこのフォルダに移動されると、その項目は削除されます。

キャビネットフォルダ

〔キャビネット〕には、すべてのパーソナルフォルダが含まれます。フォルダを整理し、ネストするには、〔編集〕 > 〔フォルダ〕の順にクリックします。フォルダのソート順を変更するには、〔キャビネット〕フォルダを右クリックして〔プロパティ〕をクリックし、適切なソート順を選択します。

〔ジャンクメール〕フォルダ

〔ジャンクメール処理〕によって破棄されるアドレスとインターネットドメインから送られた電子メールはすべて〔ジャンクメール〕フォルダに置かれます。〔ジャンクメール〕オプションが有効でない場合、このフォルダはフォルダリストに作成されません。

〔ジャンクメール〕オプションが有効であるかぎり、このフォルダを削除することはできません。ただし、名前の変更や、フォルダリスト内の別の場所への移動は可能です。すべてのジャンクメールオプションが無効になっていると、フォルダは削除できます。また、システム管理者が〔ジャンクメール処理〕機能を無効にした場合にも削除できます。

ジャンクメールフォルダから項目を削除するには、〔ジャンクメールフォルダを空にする〕をクリックして、〔はい〕をクリックします。

〔ごみ箱〕フォルダ

削除されたメール、電話メッセージ、アポイント、タスク、ドキュメント、およびメモはすべて〔ごみ箱〕フォルダに保存されます。ごみ箱を空にしない限り、ごみ箱内の項目を表示したり、開いたり、メールボックスに戻したりできます(ごみ箱を空にすると、ごみ箱中の項目はシステムから削除されます)。

ごみ箱内のすべての項目を空にすることも、選択した項目だけを空にすることもできます。〔環境〕オプションの〔クリーンアップ〕タブで指定された日数が経過した場合、ごみ箱内の項目は自動的に削除されます。手動でごみ箱を空にすることもできます。システム管理者が、定期的に自動でごみ箱を空にするよう設定している場合があります。

共用フォルダ

共用フォルダは、他のユーザがアクセスできることを除いては、キャビネット内の他のフォルダと同じです。[キャビネット]内に共用フォルダを作成するか、または既存のパーソナルフォルダを共用することができます。そのフォルダを誰と共用するか、また各ユーザにどのような権利を与えるかを指定できます。そうすれば、それらのユーザは、その共用フォルダにメッセージを入れたり、既存の項目をそのフォルダへドラッグしたり、ディスカッション履歴を作成することができるようになります。キャビネット、ごみ箱、および作業中のフォルダなどのシステムフォルダは共有できません。

5.1.4 項目リスト

メインウィンドウの右側にある項目リストには、メール、電話メッセージ、アポイント、メモ、タスク、およびドキュメント参照が表示されます。カラムヘッダをクリックして、項目リストを並べ替えることができます。逆の順序で並べ替えるには、もう一度カラムヘッダをクリックします。各項目で使われているアイコンについては、5.3.2項「メールボックスとカレンダーで項目の横に表示されるアイコン」(138 ページ)を参照してください。

5.1.5 クイックビューア

QuickViewerはフォルダと項目リストの下に開きます。クイックビューアを使用すると、各項目およびその添付ファイルの内容を別のウィンドウで開かずに、簡単に見ることができます。

5.2 さまざまなGroupWiseモードを使用する

GroupWiseには、オンラインモードとキャッシングモードの、2種類のGroupWiseクライアント動作モードがあります。

どちらかのモードでGroupWiseを実行する場合と、システム管理者によって特定のモードのみを使用するよう求められる場合があります。

ほとんどのGroupWise機能はどちらのGroupWiseモードでも使用可能ですが、一部例外があります。キャッシングモードでは、他のユーザのお知らせを受信できません。

5.2.1 オンラインモード

オンラインモードを使用する場合、ネットワーク上のPost Officeに接続されます。メールボックスはネットワークメールボックス(オンラインメールボックスとも言います)に保存されたメッセージと情報を表示します。オンラインモードは、継続的にネットワークメールボックスに接続されます。オンラインモードでは、ポストオフィスエージェントが停止したり、ネットワーク接続が切断されたりした場合、メールボックスへの接続が一時的に切断されず。

ネットワークトラフィックがあまり多くない場合、または複数の異なるワークステーションを使用しており、各ワークステーションのローカルメールボックスにダウンロードしたくない場合は、このモードを使用してください。

5.2.2 キャッシングモード

キャッシュモードはメッセージや他の情報を含め、ネットワークメールボックスのコピーをローカルドライブに保存します。これにより、ネットワークまたはPost Office Agentが使用可能であるかどうかに関係なく、GroupWiseを使用することができます。常にネットワークに接続されているわけではないので、このモードはネットワークトラフィックを軽減し、最高のパフォーマンスを実現します。接続は、新しいメッセージの送受信のために自動的に実行されます。更新はすべてバックグラウンドで行われるので、作業が中断されることがありません。

キャッシュモードを使用するには、クライアントインストールはワークステーションインストールではなく、通常のインストールで実行されていなければなりません。

ローカルドライブにメールボックスを保存する十分なディスク領域がある場合は、このモードを使用することをお勧めします。

1台の共用コンピュータ上に複数のユーザがキャッシングメールボックスをセットアップすることができます。

5.3 メールボックスを理解する

自分の項目はすべて、送信しても受信しても、GroupWiseメールボックスに保存されます。表示ドロップダウンリストの設定をクリックすると、受信項目、送信項目、ポスト項目、またはドラフト項目だけをすぐに表示することができます。フィルタを使用してメールボックスに表示する項目をさらに制限することができます。

メッセージをキャビネット内のフォルダに移動してメッセージを整理し、必要に応じてフォルダを新規作成することができます。

5.3.1 メールボックスの太字項目


メールボックス内の未読項目はすべて太字になるので、どの項目とドキュメントを読んでいないか簡単に識別できます。未読の場合は項目の横に表示されるアイコンも表示されます。

送信済み項目もキューに置かれているがアップロードされていない、ステータス情報が配信中の項目について受信されていない、またはインターネットに転送されていない場合は、太字で表示されます。

5.3.2 メールボックスとカレンダーで項目の横に表示されるアイコン








メールボックスやカレンダー内の項目の横に表示されるアイコンは、その項目に関する情報を表しています。各アイコンの意味を次に説明します。

表 5.3 アイコンの説明

アイコン	説明
	キャッシングモードで送信した項目の隣に表示されるこのアイコンは、その項目がキューに格納されているが、キューがアップロードされていないことを示しています。項目がアップロードされた後、このアイコンは、宛先のポストオフィス

アイコン	説明
	に配信中の項目またはインターネットに転送中の項目に関するステータス情報を受信していないことを示します。
	送信項目の隣にある■アイコンは、1つ以上の項目がキューに格納されているが、それがアップロードされていないことを示します。
□	送信した項目の隣に表示されます。この項目が少なくとも1人のユーザにより開かれた場合、このアイコンは、すべての受信者が、1)メール、電話メッセージ、またはリマインドメモを開く、2)アポイントを受け付ける、または3)タスクを完了するまで、表示されます。
■	送信した項目の隣に表示されます。この項目は、送信先のPost Officeに配信されませんでした。またはインターネットへの転送が失敗しました。
□	送信した項目の隣に表示されます。アポイントまたはタスクの横にあるこのアイコンは、少なくとも1人のユーザがこの項目を拒否、削除したことを示します。このアイコンが、メール、電話メッセージまたはメモの横に表示された場合は、少なくとも1人のユーザがこの項目を開かずに削除したことを示します。
📎	項目に1つ以上の添付ファイルがあることを示します。
■	項目に1つ以上のサウンド注釈が含まれているか、項目がボイスメールであることを示します。
■	ドラフト項目であることを示します。
■	送信した項目の横に表示されます。
■	返信した項目の横に表示されます。
■	転送した項目の横に表示されます。

アイコン	説明
	委任した項目の横に表示されます。
	返信して転送した項目の隣に表示されます。
	返信および委任した項目の横に表示されます。
	転送および委任した項目の横に表示されます。
	返信、転送、および委任した項目の隣に表示されます。
	ポスト項目を示します。
	ドキュメントの特定のバージョンを示します。
	ドキュメントのオフィシャルバージョンを示します。
	優先度が低い、標準、または高い未開封のメール。
	優先度が低い、標準、または高い開封済みのメール。
	優先度が低い、標準、または高い未開封のアポイント。
	優先度が低い、標準、または高い開封済みのアポイント。
	優先度が低い、標準、または高い未開封のタスク。
	優先度が低い、標準、または高い開封済みのタスク。
	優先度が低い、標準、または高い未開封のメモ。
	優先度が低い、標準、または高い開封済みのメモ。
	優先度が低い、標準、または高い未開封の電話メッセージ。

アイコン	説明
	優先度が低い、標準、または高い開封済みの電話メッセージ。
	送信者はこの項目への返信を要求しています。この項目の優先度は、低い、標準、または高いです。
	[予定の有無] に表示されます。ユーザ名またはリソースの左に表示されたら、[Individual Schedules] タブにあるユーザ名またはリソースからスケジュールの時間をクリックすると、下のボックスにアポイントに関する詳細情報が表示されます。ただし、このアイコンが表示される前に、ユーザまたはリソースの所有者からAccess Listでアポイントの [読み取り権] を与えられていなければなりません。
	カレンダーに表示され、アラームが項目にセットされていることを示します。
	カレンダーに表示され、項目がグループアポイント、リマインダメモ、またはタスクであることを示します。
	カレンダーに表示され、項目がプライベートにマークされていることを示します。
	カレンダーに表示され、この項目を拒否したが削除はしていないことを示します。

5.4 ツールバーの使用

ツールバーを使用して、GroupWiseの多くの機能やオプションにアクセスできます。フォルダまたは項目の最上位にあるツールバーは、コンテキストに応じて変化します。現在の場所で最適のオプションが提供されるように変更されます。

5.5 ショートカットキーを使用する

GroupWiseの中の豊富なショートカットキーは、アクセス補助として、またはさまざまな操作を実行時に時間を節約するために、使用することができます。以下のテーブルは、これらのショートカットキーと、キーにより実行される処理、および対象となるコンテキストの一部を表示しています。

表 5.4 ショートカットキー

ショートカットキー	アクション	操作の対象
<F1>	オンラインヘルプを表示する	メインウィンドウ、カレンダー、項目、ダイアログボックス
<F2>	テキストを検索する	項目内
<F5>	画面をリフレッシュする	メインウィンドウ、カレンダー
<F7>	スペルチェックを開く	項目内
<F8>	選択した項目に個人秘マークを付ける	項目リスト
<F9>	フォントのダイアログボックスを開く	項目内
<Ctrl>+<A>	すべての項目(すべてのテキスト)を選択する	項目リスト、テキスト
<Ctrl>+	テキストを太字にする	テキスト内
<Ctrl>+<C>	選択したテキストをコピーする	テキスト内
<Ctrl>+<F>	[検索] ダイアログボックスを開く	メインウィンドウ、カレンダー、項目、ダイアログボックス

ショートカットキー	アクション	操作の対象
+	今日の日付に移動する	カレンダー
<Ctrl>+<I>	テキストを斜体にする	テキスト内
+	メッセージにファイルを添付する	項目内
<Ctrl>+<M>	新しいメールメッセージを開く	メインウィンドウ、カレンダー、項目、ダイアログボックス
<Ctrl>+<O>	選択したメッセージを開く	項目リスト
<Ctrl>+<P>	[印刷] ダイアログボックスを開く	メインウィンドウ、項目
<Ctrl>+<Q>	クイックビューアをオンまたはオフにする	メインウィンドウ、カレンダー
<Ctrl>+<R>	選択した項目に未読マークを付ける	項目リスト
<Ctrl>+<S>	ドラフトを [進行中の仕事] フォルダに保存する	項目内
<Ctrl>+<U>	テキストに下線を付ける	テキスト内
<Ctrl>+<V>	選択したテキストを貼り付ける	テキスト内
<Ctrl>+<X>	選択したテキストを切り取る	テキスト内
<Ctrl>+<Z>	前回の動作を元に戻す	テキスト内
+上矢印 または	前または次の項目を開く	項目内

ショートカットキー	アクション	操作の対象
+下矢印		
<Ctrl>+<Shift>+左矢印	テキストを単語単位で選択する	テキスト内
または		
<Ctrl>+<Shift>+右矢印		
<Ctrl>+<Shift>+<A>	新規のアポイントを開く	メインウィンドウ、カレンダー、項目、ダイアログボックス
<Ctrl>+<Shift>+<T>	新規のタスクを開く	メインウィンドウ、カレンダー、項目、ダイアログボックス
<Ctrl>+<Shift>+<R>	新規のリマインダメモを開く	メインウィンドウ、カレンダー、項目、ダイアログボックス
<Ctrl>+<Shift>+<P>	新規の電話メッセージを開く	メインウィンドウ、カレンダー、項目、ダイアログボックス
<Alt>+<F4>	メインウィンドウおよびカレンダーでは、GroupWiseを終了する 項目では、項目を閉じる ダイアログボックスでは、ダイアログボックスを閉じる	メインウィンドウ、カレンダー、項目、ダイアログボックス
<Alt>+[文字]	メニューバーをアクティブにする(メニュー名の、下線が付いた文字を使用)	メインウィンドウ、カレンダー、項目

ショートカットキー	アクション	操作の対象
<Alt>+<D>	項目を送信する	新規項目内
<Alt>+<S>	項目を送信する	新規項目内
<Alt>+<Enter>	選択した項目のプロパティを表示する	項目リスト
<Alt>+	項目を削除する	項目内
<Shift>+左矢印 または <Shift>+右矢印	テキストを文字単位で選択する	テキスト内
<Shift>+<End> または <Shift>+<Home>	行末または行頭までのテキストを選択する	テキスト内
Shift + [文字キー]	フォルダリストで、<Shift>キーを押しながらサブフォルダ名の最初の文字のキーを押すと、そのサブフォルダに移動する	フォルダリスト
<Tab>	フィールド、ボタン、および領域を順番に移動する	メインウィンドウ、カレンダー、ダイアログボックス、項目
<Shift>+<Tab>	フィールド、ボタン、領域を逆の順に進む	メインウィンドウ、カレンダー、ダイアログボックス、項目
<Ctrl>+<Tab>	テキスト内では、テキストをインデントする	テキスト内、ダイアログボックス

ショートカットキー	アクション	操作の対象
	タブ付きのダイアログボックスでは、次のタブを開く	
Alt+上矢印	項目のメッセージ本文を拡大。	項目内
Alt+下矢印	項目のメッセージ本文を縮小。	項目内

5.6 詳細情報

GroupWiseの詳細については、次の資料を参照してください。

5.6.1 Online Help

詳細なユーザマニュアルが『ヘルプ』に記載されています。メインウィンドウから [ヘルプ] > [ヘルプ項目] の順に選択して、[コンテンツ] タブ、[インデックス] タブ、または [検索] タブを使用して、目的のトピックを検索します。

5.6.2 GroupWise 7ドキュメントWebページ

最新バージョンのGroupWiseユーザガイド、およびGroupWise管理者用のマニュアルについては、NovellドキュメントWebサイト(<http://www.novell.com/documentation/gw7>)のGroupWise 7のセクションを参照してください。

このユーザガイドは、GroupWiseクライアントから [ヘルプ] > [ユーザガイド] の順に選択して参照することもできます。

5.6.3 GroupWise Cool Solutions Web Community

GroupWiseのCool Solutions Webコミュニティでは、ヒント、活用例、機能詳細、およびFAQに対する回答を参照できます。メインウィンドウで、[ヘル

ブ] > [CoolSolutions Webコミュニティ] の順に選択するか、または<http://www.novell.com/coolsolutions/gwmag>を参照してください。



KPilotによるハンドヘルドコンピュータの同期

ハンドヘルドコンピュータは、スケジュール、To-doリスト、メモなどをどこにでも持ち歩くユーザの間に広く普及しています。多くの場合、ユーザはデスクトップとポータブルデバイスの両方で同じデータを使用することを求めます。そこで役に立つのがKPilotです。これは、ハンドヘルドのデータをKontactの構成要素であるKAddressBook、KOrganizer、KNotesなどのKDEアプリケーションと同期するためのツールです。

KPilotの主な目的は、ハンドヘルドコンピュータのアプリケーションとそれに対応するKDEアプリケーション間のデータの共有です。KPilotには、メモビューア、アドレスビューア、およびファイルインストーラが組み込まれていますが、これらはKPilot環境以外では使用できません。しかしファイルインストーラを除いて、すべての機能は、別の独立したKDEアプリケーションで実現できます。

KPilotは、ハンドヘルドと別のデスクトッププログラム間の通信をコンジットによって処理しています。KPilot自体は、2つのコンピュータデバイス間のデータ交換を監視するプログラムです。ハンドヘルドの特定の機種をデスクトップコンピュータで使用するには、対応するコンジットを有効にして設定する必要があります。ほとんどの場合、コンジットは特定のKDEプログラムとの連携を前提に設計されているので、一般に、他のデスクトップアプリケーションでは使用できません。

時間同期コンジットは、ユーザが示できるプログラムを持たない点で特殊です。これは同期操作のたびにバックグラウンドでアクティブ化されますが、ネットワークタイムサーバを使用して時間のずれを修正するコンピュータ上でしか有効化できません。

同期を開始すると、コンジットが次々にアクティブ化され、データ転送を実行します。同期方法には、2種類があります。HotSync操作は、コンジットが有効化されているデータのみを同期させるのに対し、バックアップ操作はハンドヘルド上に格納されているすべてのデータの完全バックアップを実行します。

中には同期操作時に一定のファイルを開くコンジットもあるので、操作時には対応するプログラムを終了しておく必要があります。特に、KOrganizerは同期操作中には実行しないでください。

6.1 KPilotが使用するコンジット

KPilotで使用できるコンジットを有効化して設定するには、[設定] > [KPilotを設定] の順に選択します。以下では、いくつかの重要なコンジットを紹介します。

アドレス帳

このコンジットは、ハンドヘルドのアドレス帳とのデータ交換を処理します。この連絡先を管理するKDEの対応アプリケーションはKAddressBookです。これは、メインメニューまたはkaddressbookコマンドを使用して起動します。

KNotes/Memos

このコンジットは、KNotesで作成したメモをハンドヘルドのメモアプリケーションに転送します。このKDEアプリケーションは、メインメニューまたはknotesコマンドを使用して起動します。

Calendar (KOrganizer)

このコンジットは、ハンドヘルドの予定(イベント)を同期します。これに対応するKDEアプリケーションはKOrganizerです。

ToDos (KOrganizer)

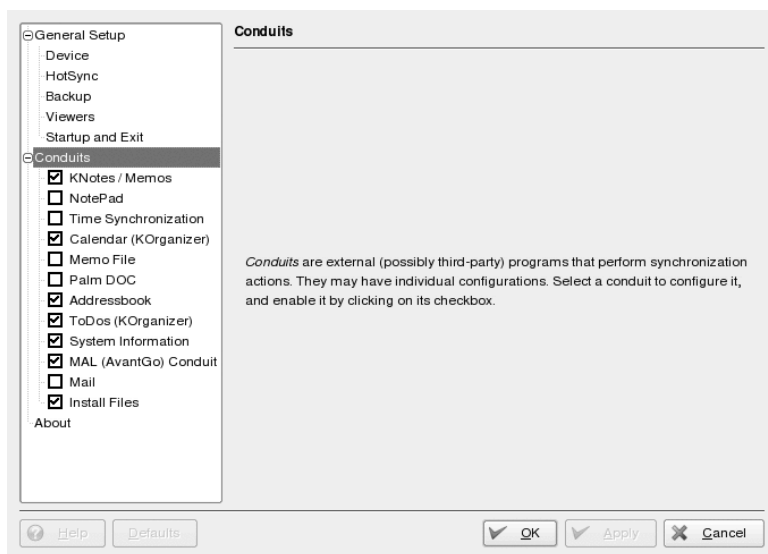
このコンジットは、タスク(to-do)アイテムを同期します。これに対応するKDEアプリケーションはKOrganizerです。

[時刻同期]

このコンジットを有効化すると、同期操作時にハンドヘルドのクロックがデスクトップコンピュータのクロックに合わせて調整されます。これは、

デスクトップコンピュータ自体のクロックが、タイムサーバによって頻繁に修正されている場合のみお勧めします。

図 6.1 利用可能なコンジットが表示された設定ダイアログ



6.2 ハンドヘルド接続の設定

KPilotを使用するには、はじめに、ハンドヘルドコンピュータとの接続をセットアップします。設定は、ハンドヘルドで使用するクレードル(ドッキングユニット)のタイプによって異なります。クレードルには、USBクレードル(ケーブル)とシリアルクレードル(ケーブル)の2種類があります。

6.2.1 KPilotでの接続の設定

接続をセットアップする最も簡単な方法は、設定ウィザードを使用することです。以下を実行します。

- 1 [設定] > [Configuration Assistant (設定ウィザード)] の順に選択してウィザードを起動します。

- 2 ユーザ名およびハンドヘルドが接続されているデバイスの名前を入力します。
- 3 次のオプションのうちの1つを選択します。
 - ウィザードにハンドヘルドを自動検出させたい場合は、*[Automatically Detect Handheld & Username (ハンドヘルドとユーザー名を自動検出)]* を選択します。自動検出に失敗した場合は、6.2.2項「*/dev/pilot*リンクの作成」(152 ページ)を参照してください。
 - 手動設定するには、*[次へ]* をクリックします。
- 4 同期に使用するアプリケーションを指定します。[General KDE-PIM suite] (デフォルト)、[Evolution]、[No sync, just backup] の中から選択できます。アプリケーションを選択したら、*[完了]* をクリックしてウィンドウを閉じます。

6.2.2 */dev/pilot*リンクの作成

シリアルハンドヘルドクレードルとの接続のセットアップ方法は、USBクレードルの場合と異なります。どちらのクレードルを使用しているかによって、*/dev/pilot*という名前のシンボリックリンクの作成が必要になることがあります。

USB

通常、USBクレードルは自動検出されるため、上記のシンボリックリンクを作成する必要はありません。

シリアル

シリアルクレードルの場合は、実際にどのシリアルポートに接続されているのかを調べる必要があります。シリアルデバイスには、*/dev/ttyS?*という名前が付けられています。最初のポートを使用しているデバイスの名前は、*/dev/ttyS0*です。第1シリアルポートに接続されているクレードルをセットアップするには、次のコマンドを入力します。

```
ln -s /dev/ttyS0 /dev/pilot
```

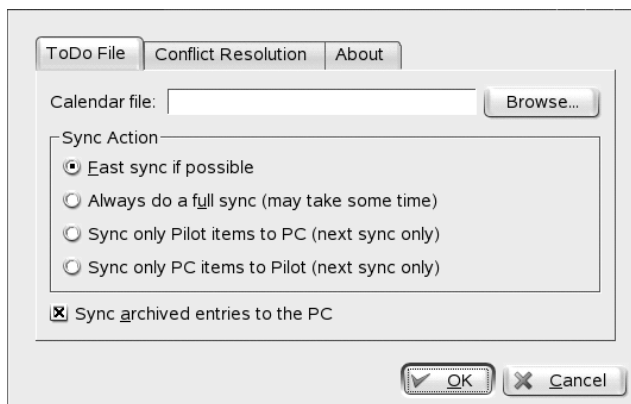
6.3 KAddressBookコンジットの設定

最初は、デフォルト設定を変更せずにKAddressBookコンジットを有効にするだけで十分です。初回にデータを同期化したら、次に詳細を設定します。競合時の動作、バックアップデータベースの保存方法、ハンドヘルドに保管されているフィールドを、KAddressBookのフィールドにどのように割り当てるか、などの情報を設定します。

6.4 タスク(to-do)アイテムとイベントの管理

KDEデスクトップでは、to-do(タスク)とイベント(イベント)がKOrganizerによって管理されます。このアプリケーションは、メインメニューまたはkorganizerコマンドを使用して起動するか、またはKontactの一部として起動します。KPilotのカレンダーとto-doのコンジットを有効にした後、オプションを設定してから使用します。

図 6.2 KPilotの設定

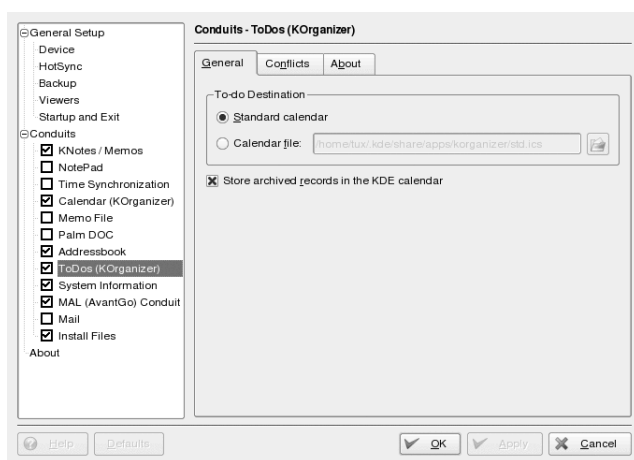


KOrganizerは、ファイルを~/ .kde/share/apps/korganizerディレクトリに格納します。しかし、.kdeディレクトリはピリオドで始まっているので、ファイル選択ダイアログに表示されないことがあります。この場合、完全パスを手動で入力するか、またはファイル選択ダイアログで隠しファイル(ドッ

トファイル)を表示するように明示的に切り替えます。そのためのデフォルトのショートカットは<F8>キーです。

~/kde/share/apps/korganizerディレクトリを開いたら、KOrganizerがカレンダーファイルとして使用できるファイルを選択します。この例では、palm.icsファイルです。ユーザ名がtuxの場合、完全パス名は/home/tux/.kde/share/apps/korganizer/palm.icsになります(図 6.3. 「KOrganizerのカレンダーファイルへのパスを示すダイアログ」 (154 ページ)を参照)。

図 6.3 KOrganizerのカレンダーファイルへのパスを示すダイアログ

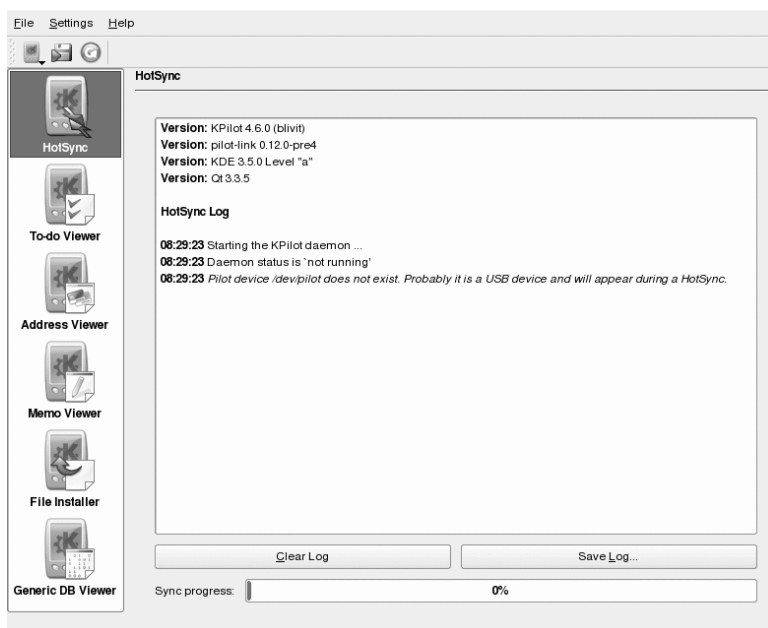


ハンドヘルドとのデータ交換中にKOrganizerは実行しないでください。実行すると、KPilotは同期操作に失敗します。

6.5 KPilotの使用

KDEアプリケーションのデータは、簡単にハンドヘルドコンピュータのデータと同期できます。KPilotを起動し、クレードルのHotSyncボタンを押して同期操作を開始するだけです。

図 6.4 KPilotのメインウィンドウ



6.5.1 ハンドヘルドのデータのバックアップ

完全バックアップを行うには、[ファイル] > [バックアップ] の順に選択します。バックアップは次の同期操作の際に実行されます。その後、メニューから [ファイル] > [HotSync] の順に選択して通常の同期に戻します。そうしなければ、次の同期操作の際に、時間のかかる完全バックアップが再度実行されます。

完全バックアップを行うと、ハンドヘルドのすべてのプログラムとデータベースが `~/ .kde/share/apps/kpilot/DBBackup/USERNAME` に格納されます。ここで、`USERNAME` は、ハンドヘルドに登録されているユーザ名です。

KPilotには内蔵ビューアが2つあり、アドレスやメモを簡単に確認するために使用できますが、実際にこのデータを管理することはできません。前に触れたKDEアプリケーションの方が、はるかにこのような作業に適しています。

6.5.2 ハンドヘルドへのプログラムのインストール

[ファイルインストーラ] モジュールは、ハンドヘルドプログラムをインストールするための便利で興味深いツールです。ハンドヘルドプログラムの拡張子は一般に .prc で、ハンドヘルドにアップロードするとすぐに起動します。このようなアドオンプログラムを使用する前に、付属のライセンスと説明を確認してください。

Kopeteによるインスタント メッセージング

7

Kopeteはオンラインメッセージングアプリケーションで、インターネットに接続されている複数のパートナーと互いにチャットすることができます。現時点でKopeteは、AOL* Instant Messenger (AIM)、GroupWise® Messenger、ICQ、IRC、Jabber*、Lotus* Sametime、MSN、SMS、およびYahoo!*など、一般的なすべてのメッセンジャープロトコルをサポートしています。*。

7.1 Kopeteの設定

友人とチャットする前に、アカウントを設定する必要があります。

- 1 Alt+F2を押し、kopeteと入力して、Kopeteを起動します。Kopeteが起動しない場合は、パッケージkdenetwork3-InstantMessengerがインストールされていることを確認してください。
- 2 Kopeteを初めて起動する場合は、設定ウィザードが表示され、ユーザープロファイルの作成を支援します。または、`[Settings] > [Configure]`の順に選択します。
- 3 `[Accounts]`を選択して、リストから選択してアカウントを変更するか、または`[New]`をクリックして新しいアカウントを作成します。
- 4 メッセージングサービスを選択します。一般に、これは友人が使用しているサービスによって決まります。

- 5 メッセージングサービスで登録が要求され、このサービスのアカウントがまだない場合は、*[Register New Account]* をクリックします。開いたブラウザウィンドウで、登録するユーザデータを入力します。
- 6 Kopeteに戻り、メッセージングサービスの登録で受信したデータを入力します。ユーザデータは通常、ニックネームまたは電子メールアドレスとパスワードで構成されています。*[Finish]* をクリックして、アカウントの設定を完了します。

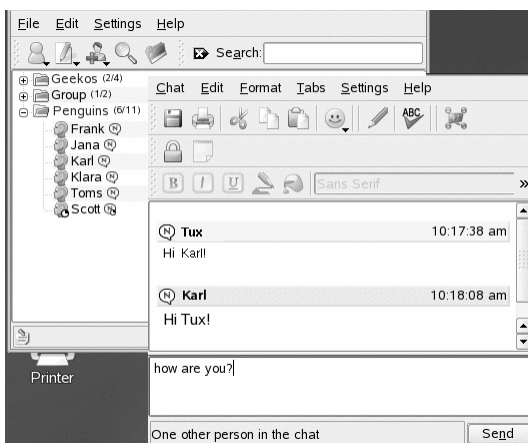
アカウントを設定した後、チャット相手の連絡先を追加する必要があります。別のPCにアカウントを作成してある場合は、そのデータをインポートし、連絡先リストに自動的に追加することができます。連絡先のエントリを手動で作成するには、*[ファイル]* > *[コンタクトを追加]* をクリックします。新しいアシスタントが表示されるので、これに従って連絡先を作成します。しかし、連絡先をリストに追加するには、オンラインで、Kopeteで選択したメッセージングサービスに接続する必要があります。

7.2 友人とのチャット

他の参加者とチャットをするには、インターネットに接続する必要があります。接続したら、*[ファイル]* > *[Set Status]* > *[Online]* の順にクリックしてステータスを設定します。これにより、Kopeteと、選択したメッセージングサービスとの間の接続が確立されます。ログインに成功すると、他のユーザから見えるようになります。

メインのアプリケーションウィンドウには、連絡先のリストがあります。他のユーザとチャットするには、連絡先が必要です。オンラインのマークが付いている連絡先を右クリックすると、メニューが開き、オプションが表示されます。そのユーザにメッセージを送信するか、チャットセッションを開始します。チャットの場合は、他の参加者をリアルタイムの意見交換に招待します。チャットセッションの作成者がセッションを終了すると、すべての参加者との接続が終了します。

図 7.1 チャットウィンドウ



以前のチャットセッションを表示するには、連絡先を選択して、**[編集] > [View History]** の順に選択します。このメニュー項目を選択すると、ダイアログが表示され、その人とのチャットセッションの検索と表示が行えます。

他のオプションを表示するには、ユーザ名を右クリックします。ポップアップメニューが開きます。重要なオプションは、チャットセッションを開始するための **[Start Chat]** です。 **[Rename Contact (連絡先の名前変更)]** と **[Remove Contact (連絡先の削除)]** を選択すれば、それぞれの操作を行えます。ポップアップメニューにはまた、ユーザ名の表示されるサブメニューもあり、ユーザのブロックやユーザ情報の取得を行えます。

ティップ: 以前のチャットセッションのスクロール

最後のチャットセッションで自分が何を書いたか知りたい場合は、連絡先をクリックしてもう一度チャットウィンドウを開き、**Alt + ←** または **Alt + →** を押してセッションをスクロールします。または、ツールバーの矢印アイコンを使用して、前後にスクロールします。

7.3 Kopeteのカスタマイズ

Kopeteでは、ニーズに合わせてカスタマイズできるさまざまなオプションがあります。次のセクションではいくつかの紹介します。

7.3.1 グループの追加

リストの連絡先をグループ化すると、概要がわかりやすくなります。[File] > [Create New Group] をクリックします。グループに名前を指定し、[OK] をクリックして確定します。連絡先リストに新しいフォルダが表示され、これを使用して連絡先を格納できます。連絡先は、ドラッグアンドドロップで別のフォルダに移動できます。

図 7.2 Kopete メインウィンドウ



空のグループは、[設定] > [空のグループの非表示] の順に選択すれば、無効にできます。

7.3.2 グローバル識別情報の使用

Kopeteは複数のアカウントを管理でき、友人がさまざまなメッセージングプロトコルを使用している場合に有益です。プロトコルごとに複数の識別情報を作成するのではなく、「グローバル識別情報」を設定できます。

- 1 Kopeteで、[Settings] > [Configure] を選択します。

- 2 設定ウィンドウで、**識別情報**を選択して *[Enable global identity]* を有効にします。
- 3 *[New Identity]* をクリックしてグローバル識別情報の名前を入力します。
- 4 ニックネームや写真など、自分の識別情報の詳細を指定します。
 - 4a *[Nickname]* タブで、カスタムニックネームを使用するか、別のKopeteアカウントで指定済みのニックネームを使用するか、指定します。
 - 4b 写真を追加するには、*[Photo]* タブのオプションの1つを選択します。
 - 4c KAddressbookで指定したデータを使用するには、*[Address Book Link]* タブにまずアクセスします。*[Change...]* をクリックしてリストからエントリを選択して、*[OK]* をクリックします。その後 *[Nickname]* または *[Photo]* タブに戻り、ここでアドレス帳オプションを有効にします。

7.3.3 外観の変更

Kopeteでは、新しいテーマのインストール、チャットウィンドウのスタイルの変更、カラーとフォントの変更ができます。外観を変更するには、*[Settings]* > *[Configure]* を選択して、*[Appearance]* をクリックします。以下に2つの例を示します。

新しいアイコンテーマのインストール

[Emoticons] タブで、*[Get New Themes...]* をクリックし、インターネットから使用できるテーマのリストを表示します。1つまたは複数のテーマをダウンロードするには、リストからエントリを選択して *[Install]* をクリックします。*[Emoticons]* タブのリストに新しいテーマが追加されます。ここで、目的のテーマを選択して *[Apply]* をクリックします。

チャットウィンドウのスタイルの変更

[Chat Window] タブから使用できるKopeteスタイルから選択するか、または新しいスタイルを *[Get New...]* でダウンロードします。

7.3.4 通知の設定

Kopeteでは、連絡先がオンラインになったこと、オフラインになったこと、またはメッセージが着信したことなど、イベントに対する通知を設定できます。

特定の連絡先がオンラインになるとときに通知を受けるには、以下の手順に従います。

- 1 すべての連絡先がKopeteウィンドウに表示されていることを確認します (すべてが表示されていない場合は、`[Settings]` > `[Show offline users]` を選択します)。
- 2 希望する連絡先を右クリックして、`[Properties]` を選択します。
- 3 `[Custom Notification]` タブに移動して、`[A contact has gone online]` を選択します。
- 4 このイベントに対して実行するアクションを、`[Play a Sound]`、`[Display a Message]`、`[Start a Chat]` または `[Suppress Standard Notifications]` から指定します。
- 5 `[OK]` をクリックして設定を確認します。

デフォルトの通知オプションを変更するには、`[Settings]` > `[Configure Notifications]` を選択します。重要なイベントを選択して、通知設定を変更します。たとえば、連絡先のいずれかがオンラインになったときにサウンドで通知されるようにするには、`[A contact has come online]` を選択して `[Play a sound]` を有効にします。サウンドを選択して `[OK]` をクリックして設定ダイアログを閉じます。

7.3.5 Kopeteプラグインの設定

Kopeteではチャットセッションの便利な拡張機能があり、`[Settings]` > `[Configure Plugins]` からアクセスできます。たとえば、テキストの自動置換、発信メッセージの暗号化、メッセージに関心のある語句がある場合のテキストのハイライト、LaTeXフォーマットへの変換、メッセージの翻訳などです。

7.4 詳細情報

Kopeteとチャットの詳細については、以下のWebサイトで入手可能です。

Kopeteのホームページ

<http://kopete.kde.org/>

チャットセッションでよく使用される略語

http://www.webopedia.com/quick_ref/textmessageabbreviations.asp

KDE「インターネット & ネットワーク」フォーラム

<http://www.kde-forum.org/board.php?boardid=34>



8

EkigaでのVoice over IPの使用

現在のテレコミュニケーションは、単に電話をかけることだけを意味するわけではありません。テキストメッセージを交換し、時にはテレビ会議を行うことも含まれます。ローミングによって、1つの電話番号で世界中に接続ができます。Ekigaでは、これらの機能をLinuxデスクトップで使用してブロードバンドのインターネットで通信できるようにします。

始める前に、以下の要件を満たしていることを確認してください。

- サウンドカードが適切に設定されている。
- ヘッドセットまたはマイクとスピーカーがコンピュータに接続されている。
- 通常の電話回線にダイヤルするには、SIPアカウントが必要です。
SIP(*Signaling protocol for Internet Telephony*)は、音声およびテレビ会議またはコール転送のセッション確立に使用されるプロトコルです。プロバイダのリストについては、「<http://www.voipproviderslist.com/>」を参照してください。無料のトライアルは、<http://www.voipbuster.com>から入手できます。
- テレビ会議の場合、Webカメラをコンピュータに接続します。

8.1 Ekigaの設定

最初に起動すると、Ekigaの設定アシスタントが開き、Ekigaのインスタンスの設定に必要なすべてのデータが要求されます。Ekigaを設定するには、以下の手順に従います。

- 1 フルネーム(名前と姓)を入力します。
- 2 ekiga.netアカウントデータを入力するか、またはekiga.netに登録しないことを選択します。

別のアカウントを後で追加するには、`[Edit]` > `[Accounts]` を使用して設定します。
- 3 接続タイプを指定します。
- 4 Ekigaで通話できるようにするファイアウォールのタイプを指定します。
- 5 使用するオーディオマネージャを選択します。デフォルトの設定 `[ALSA]` を使用します。これによって最適な音質が保証されます。OSSなどのその他のサウンドシステムはSUSE Linux Enterpriseでは使用できません。
- 6 オーディオの入力デバイスと出力デバイスを選択して、設定をテストします。
- 7 ビデオマネージャの選択として、`[V4L]` を使用します。
- 8 ビデオの入力デバイスを選択して、設定をテストします。
- 9 設定の概要を確認して適用します。
- 10 設定を変更した後に登録が失敗した場合は、Ekigaを再起動します。

Ekigaでは複数のアカウントを管理できます。アカウントを追加して設定するには、以下の手順に従います。

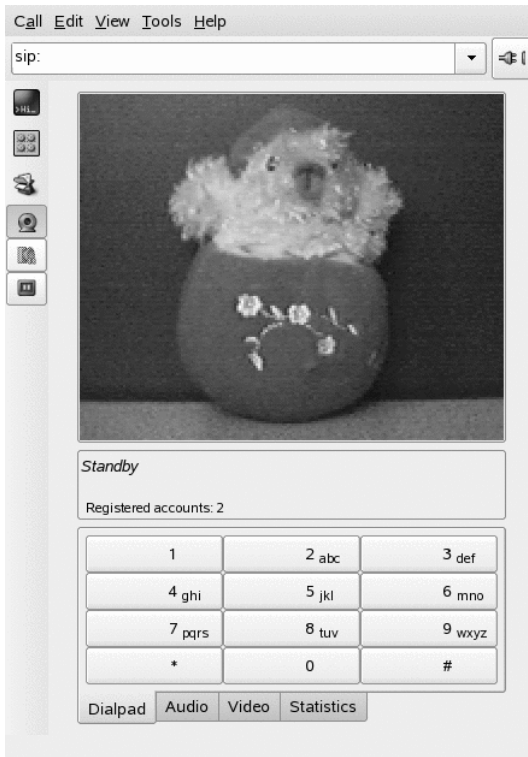
- 1 `[Edit]` > `[Accounts]` を開き、`[Add]` を選択します。

- 2 *[Account Name]* を選択します。
- 3 使用するアカウントのタイプに応じて、適切なプロトコルを選択します。通常は *[SIP]* を選択します。
- 4 登録先を *[Registrar]* に入力します。これは通常、インターネットテレフォニーサービスプロバイダが指定するIPアドレスまたはホスト名です。プロバイダが指定したデータに従って、ユーザとパスワードを入力します。
- 5 *[OK]* をクリックして設定ダイアログを終了し、アカウントを有効にします。Ekigaメインウィンドウに表示されるアカウントの状態が *[Registered]* に変更されます。

8.2 Ekigaのユーザインタフェース

Ekigaのすべての機能は、メニューバーから使用できます。重要な機能は、左側のツールバーにあるショートカットや特別なキーの組み合わせによって使用できます。

図 8.1 Ekiga のユーザインタフェース



ユーザインタフェースにはさまざまなモードがあります。ビューを切り替えるには、`[View] > [View Mode]` および `[View] > [コントロールパネル]` を使用するか、またはGUIの左側にあるビューモードアイコンや下にある各種タブを選択します。`[Full View]` を図 8.1. 「Ekiga のユーザインタフェース」(168 ページ)に示します。ツールバーのすべてのアイコンにはツールチップがあり、マウスポインタをアイコン上に置くと表示されます。

ユーザインタフェースの下部に、ダイヤルパッド、オーディオ、ビデオ、統計の機能を持つタブがあります。`[Audio]` 設定などの一部の設定は、通話中にのみ変更できます。

Ekiga の機能の多くは、キーボードショートカットで使用できます。表 8.1. 「Ekiga のキーボードショートカット」(169 ページ)に重要なショートカットをまとめてあります。

表 8.1 Ekigaのキーボードショートカット

Ctrlシーケンス	説明
Ctrl + O	現在の番号でコールを開始します。
Ctrl + D	通話を切断します。
Ctrl + G	現在のコールを保留にします。
Ctrl + T	現在のコールを別の相手に転送します。
Ctrl + S	現在の画像をハードディスクに保存します。
Ctrl + W	Ekigaユーザインタフェースを閉じます。
Ctrl + Q	Ekigaを終了します。
Ctrl + E	アカウントマネージャを開始します。
Ctrl + P	[<i>Ekiga Preferences</i>] の概要を開きます。このダイアログで、Ekigaの設定を微調整できます。
Ctrl + +	Webカメラからの画像にズームインします。
Ctrl + -	Webカメラからの画像にズームアウトします。
Ctrl + =	Webカメラの標準サイズの画面に戻ります。
Ctrl + F	Webカメラの全画面表示を行います。
Ctrl + H	コール履歴を表示します。

8.3 電話をかける

いったんEkigaを正しく設定すれば、電話は簡単にかけることができます。

- 1 メニューまたはコマンドラインからEkigaを起動します。

2 [SIPアドレス] プロンプトに、通話相手のSIPアドレスを入力します。アドレスは次のような形式になります。

- 近距離の直接通話の場合: sip:username@domainnameまたはusername@hostname
- sip:username@domainnameまたはuserid@sipserver

SIPプロバイダが実際の電話を受理する場合は、sip:<電話番号>のように番号を入力するだけでかけられます。

3 [Call] をクリックするか、またはCtrl+Oを入力して、相手が電話に出るまで待ちます。

4 通話を終了するには、[Hang up] をクリックするか、またはCtrl+Dを入力します。

通話中にサウンドのパラメータを調整する必要がある場合には、[View] > [View Mode] > [Full View] をクリックすると、さらに多くのオプションがある4つのタブが表示されます。2番目の [Audio] タブには、[Playback level] と [Recording level] のオプションがあります。必要に合わせてレベルをスライダで調整してください。

8.4 電話に出る

Ekigaでは2つの方法で電話に出られます。まず、ユーザは直接sip:user@hostで呼び出されます。または、SIPプロバイダ経由で通話します。多くのSIPプロバイダでは、通常の電話回線からVoIPアカウントに通話を受けられるようにしています。Ekigaが実行されているモードに応じて、着信コールの通知方法は複数あります。

通常のアプリケーション

着信は、Ekigaがすでに実行されている場合にのみ、受け付けて応答することができます。着信音は、ヘッドセットまたはスピーカから聞こえます。Ekigaを実行していないときには、電話を受けることはできません。

パネルアプレット

通常、Ekigaのパネルアプレットは、サイレントで動作しており、目立ちません。これは着信が入るとすぐに次のように変わります。Ekigaのメイ

ンウィンドウが開き、ヘッドセットまたはスピーカから呼び出し音が聞こえます。

着信に気が付いたら、*[Accept]* をクリックして、電話に出て会話をします。電話に出たくない場合には、*[Reject]* をクリックします。コールを別のSIPアドレスに転送することもできます。

8.5 アドレス帳を使用する

Ekigaには、SIPによる連絡先を管理する機能があります。アドレス帳を開くには、*[Tools]* > *[Address book]* の順にクリックします。空白のリストが表示されます。連絡先を追加するには、マウスで *[Personal]* を選択します。アドレスウィンドウを右クリックして、*[New Contact]* を選択します。または、*Ctrl* > *N* を押します。

有効な連絡先には、以下のエントリが必要です。

名前

連絡先の名前を入力します。フルネームも入力できますが、またはニックネームも使用できます。

SIPアドレス

連絡先の有効なSIPアドレスを入力します。

電子メール

参照用に、連絡先の電子メールアドレスを入力します。

短縮ダイヤル

短縮ダイヤルを使用すると、よく使用する番号に簡単にアクセスできます。このオプションの選択は任意です。

カテゴリ

多数の連絡先がある場合は、必要に応じて独自のカテゴリを追加できます。

ローカルのアドレス帳

デフォルトで、*Personal* という名前のローカルのアドレス帳を使用できます。より多くのアドレス帳が必要な場合、*[File]* > *[New Address Book]* で作成するか、またはキーボードショートカット *Ctrl* + *B* を使用します。

アドレス帳から連絡先に通話するには、この連絡先をダブルクリックします。即座に電話がかかります。

8.6 詳細情報

Ekigaの公式ホームページは、<http://www.ekiga.org/>です。このサイトでは、よくある質問への回答のほか、より詳細なマニュアルを利用できます。

LinuxでのH323電子会議プロトコルのサポートの詳細は、<http://www.voip-info.org/wiki/view/H.323>を参照してください。VoIPをサポートするプロジェクトを検索する際には、まずここを探してください。

プライベートな電話ネットワークを設定するには、PBXソフトウェアのAsterisk<http://www.asterisk.org/>を検討できます。詳細は、<http://www.voip-info.org/wiki-Asterisk>を参照してください。

ネットワークリソースへのアクセス

9

デスクトップから、ファイルやディレクトリ、およびリモートホスト上の特定のサービスにアクセスしたり、自分のファイルやディレクトリをネットワーク中の他のユーザに利用させることができます。SUSE Linux Enterprise®には、ネットワーク共有リソースにアクセスしたり、リソースを作成するための、さまざまな手段が用意されています。

ネットワーク参照

Konquerorをファイルマネージャとして利用することにより、共有リソースやサービスを参照できます。詳細については、9.2項「ネットワーク共有へのアクセス」(175 ページ)を参照してください。

混在環境でのフォルダの共有

Konquerorを使って、ネットワーク上の他のユーザとファイルやフォルダを共有できます。任意のWindowsまたはLinuxワークステーションの他のユーザがデータを参照したり、書き込みしたりできるようにします。詳細については、9.3項「混在環境でのフォルダの共有」(176 ページ)を参照してください。

Windowsファイルの管理

SUSE Linux Enterpriseは、既存のWindowsネットワークと統合するように設定できます。この場合、LinuxコンピュータはWindowsクライアントのように動作します。Windowsクライアントと同様に、すべてのアカウント情報をActive Directoryから取得します。詳細については、9.4項「Windowsファイルの管理」(179 ページ)を参照してください。

Windowsネットワークプリンタの設定とアクセス

KDEコントロールセンタから、Windowsネットワークプリンタを設定できます。設定方法の詳細については、9.5項「Windowsネットワークプリンタの設定とアクセス」(183 ページ)を参照してください。

ネットワークフォルダへのショートカットの設定

リモートネットワークフォルダ(FTP、WebDAV、Windowsネットワークドライブ、およびSSH)へのショートカットを作成することにより、これらのフォルダに簡単にアクセスできるようになります。設定方法の詳細については、9.6項「ネットワークフォルダへのショートカットの設定」(185 ページ)を参照してください。

軽量なWebサーバの設定

他のユーザと情報を簡単に共有する必要がある場合、軽量なWebサーバを設定します。設定方法の詳細については、9.7項「軽量なWebサーバの設定と使用」(187 ページ)を参照してください。

9.1 ファイル共有とネットワーク参照に関する一般的な注意

お使いのコンピュータやネットワークで、ファイル共有やネットワーク参照機能の利用可能範囲は、ネットワーク構造とコンピュータの設定によって異なります。ネットワーク構造またはコンピュータを設定する前に、ネットワーク構造でファイル共有やネットワーク参照機能がサポートされているかどうか、また、企業のセキュリティポリシーで許可されているかどうか、システム管理者に確認してください。

Windows共有用のSMB参照やリモートサービス用のSLP参照などのネットワーク参照は、コンピュータがネットワーク上のすべてのクライアントにメッセージをブロードキャストできるかどうか大きく依存しています。コンピュータは、ブロードキャストメッセージとクライアントからの応答によって、利用できるネットワーク共有やサービスを検出します。ブロードキャストを効果的に行うためには、お使いのコンピュータが、他のブロードキャスト対象コンピュータと同じサブネット上に存在する必要があります。ネットワーク参照が利用できない場合、または検出された共有やサービスが利用予定のものとは異なる場合、コンピュータが適切なサブネットに接続されているかどうか、システム管理者に確認してください。

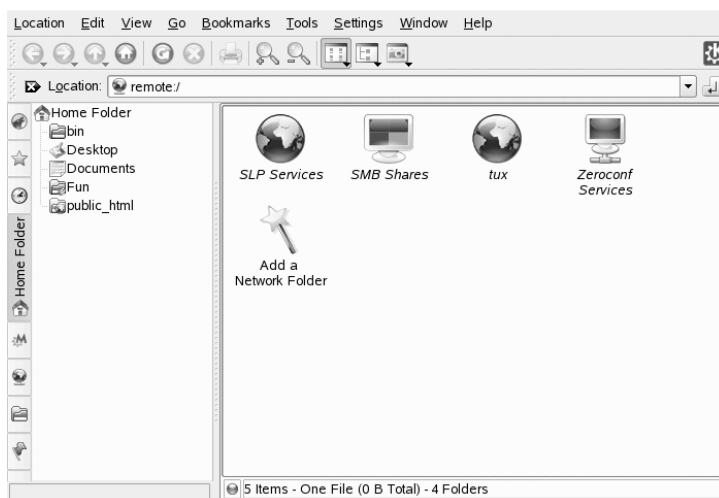
ネットワーク参照を利用するには、ネットワークの詳細、または共有およびサービスの可用性を知らせるネットワークメッセージを送受信できるように、いくつかのネットワークポートを開いておく必要があります。標準のSUSE Linux Enterpriseでは、高いセキュリティレベルを維持するように設定されており、インターネットからコンピュータを保護するファイアウォールが動作しています。ファイアウォール設定を調整するには、システム管理者に特定のネットワーク用ポートを開けるように依頼するか、企業のセキュリティポリシーに応じてファイアウォール全体の動作を停止する必要があります。ファイアウォールが動作している状態でネットワーク参照を行う場合、セキュリティ設定によりネットワーク参照が禁止されているということを伝えるKonquerorメッセージが表示されます。

9.2 ネットワーク共有へのアクセス

ネットワーク上のワークステーションのフォルダを共有するように設定できます。通常、ファイルとフォルダにはリモートユーザがアクセスできることを示す記号が付いています。これらは、「ネットワークシェア(共有)」と呼ばれます。お使いのシステムがネットワーク共有にアクセスできるように設定されている場合、ローカルコンピュータ上にあるファイルやフォルダと同じように、ファイルマネージャを使って共有ファイルやフォルダにアクセスしたり、参照したりできます。共有フォルダに対して読み取りアクセスしかないか、または書き込みアクセスもあるかどうかは、共有フォルダの所有者から与えられたアクセスパーミッションによって異なります。

ネットワーク共有にアクセスするには、デスクトップの [ネットワーク参照] アイコンをクリックするか、またはKonquerorを開いて場所ツールバーでremote:/と入力します。Konquerorに仮想フォルダが表示されます。このフォルダには、アクセス可能なネットワーク共有の種類が表示されます。ネットワークリソースの種類をクリックし、アクセスするネットワーク共有をクリックします。ユーザー名とパスワードを入力してリソースへの承認が求められる場合があります。

図 9.1 ネットワーク参照



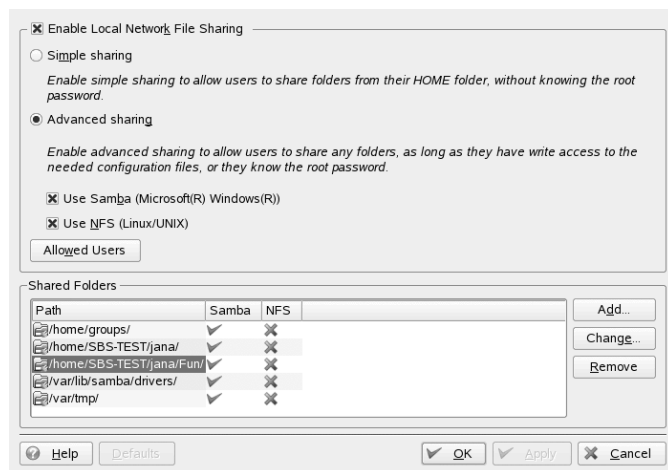
9.3 混在環境でのフォルダの共有

企業環境では、ドキュメントの共有および交換は必須の機能です。Konquerorでは、Sambaを使ってファイルを共有できます。Sambaを利用することで、LinuxユーザとWindowsユーザ間でファイルやフォルダを共有できます。Sambaを使ったファイル共有を設定するには、以下の手順に従ってください。

- 1 ALT>F2を押して、テキストフィールドに~を入力してKonquerorを開きます。
- 2 ウィンドウのバックグラウンドを右クリックして、表示されるコンテキストメニューから *[Properties]* を選択します。
- 3 *[Properties]* ダイアログで、*[Share]* タブをクリックします。ファイル共有が有効になっていない場合は、このタブにそのことを知らせるメッセージが表示されます。ファイル共有を有効にする、または共有するファイルを選択するには、*[Configure File Sharing]* をクリックして、rootパスワードを入力します。

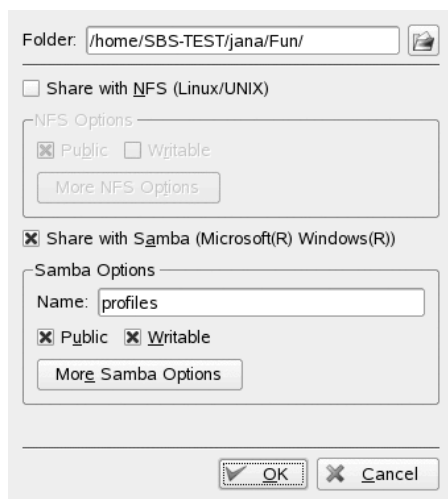
- 4 ファイル共有を有効にするには、*[Enable Local Network File Sharing]* を選択します。共有を無効にする場合は、このオプションの選択を解除してください。

図 9.2 ファイル共有の有効化



- 5 適切な共有オプション *[Simple sharing]* (単純共有)または *[Advanced sharing]* (高度な共有)を選択します。
- 6 特定のグループに対してのみフォルダを共有する場合は、*[Allowed Users]* をクリックして、*[Only users of a certain group are allowed to share folders]* を選択した後、*[Choose Group]* をクリックして、表示されるウィンドウから適切なグループを選択します。
- 7 共有するフォルダをダイアログの下部にある共有項目のリストに追加するには、*[Add]* をクリックし、フォルダの正確なパスを指定します。

図 9.3 詳細な共有オプション



- 8 Sambaのファイル共有を有効にするには、*[Share with Samba]* を選択します。また、必要に応じてSambaのオプションを設定し、共有方法を詳細に設定できます。

名前

デフォルト値以外の名前を指定する場合に使用します。

Public/Writable

他のユーザーに許可するアクセスの種類を指定します。完全な読み取りと書き込みの両方のアクセスを許可することも、共有の読み取りのみにアクセスを制限することもできます。

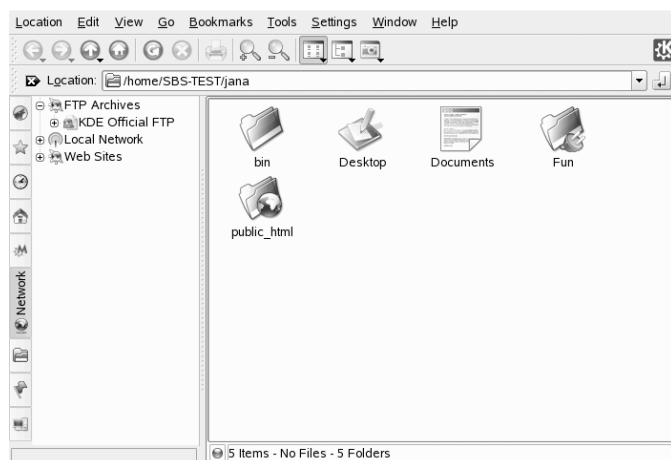
More Samba Options

ここでは、名前、コメント、およびアクセス権や、ユーザーおよびセキュリティ設定、および共有フォルダ内の特定のファイルやサブフォルダを非表示にするオプションなど、基本的な設定オプションが含まれています。

- 9 変更を適用するには、*[OK]* をクリックしてファイル共有ダイアログを閉じます。

Konquerorのフォルダアイコンにプラグが表示されます。

図 9.4 共有フォルダ



共有を無効にするには、ファイル共有ダイアログを表示し、共有項目リストから該当するフォルダを削除します。フォルダアイコンからプラグがなくなります。

共有したファイルやフォルダに、ネットワーク上の他のユーザがアクセスする場合は、各自のコンピュータからKonquerorの場所ツールバーにsmb:/を入力し、適切なワークグループアイコンやホスト名をクリックします。

重要項目: Sambaドメイン参照

Sambaドメイン参照は、システムのファイアウォールが正しく設定されている場合にのみ利用できます。ファイアウォール全体を無効にするか、または参照インタフェースを内部ファイアウォールゾーンに指定します。設定方法の詳細については、システム管理者にお問い合わせください。この手順は、項「Configuring a Linux Client for Active Directory」(第12章 *Active Directory Support*, ↑Deployment Guide)に詳しく説明されています。

9.4 Windowsファイルの管理

第12章 *Active Directory Support* (↑Deployment Guide)で説明されているように、SUSE Linux EnterpriseコンピュータをActive Directoryクライアントとして使用

することにより、Windowsサーバ上のデータを参照、表示、および操作できます。以下に代表的な例を示します。

Konquerorを使ったWindowsファイルの参照

Windows上のデータを参照するには、Konquerorのsmb:/オプションを使用します。

Konquerorを使ったWindowsデータの表示

Konquerorを利用して、Linuxディレクトリを参照する場合と同様に、Windowsフォルダの内容を参照できます。Windowsサーバー上にファイルやフォルダを作成することもできます。

KDEアプリケーションを使ったWindowsデータの操作

KateテキストエディタなどのKDEアプリケーションを使って、Windowsサーバ上のファイルを開いて操作したり、変更したファイルをWindowsサーバに保存したりできます。

シングルサインオン

KonquerorなどのKDEアプリケーションは、シングルサインオンをサポートしています。Webサーバ、プロキシサーバ、またはグループウェアサーバ(例:MS Exchange)などのWindowsリソースにアクセスする場合、再び認証を受ける必要はありません。ログイン時に一度ユーザ名とパスワードを入力するだけで、以降の認証はバックグラウンドで自動的行われます。

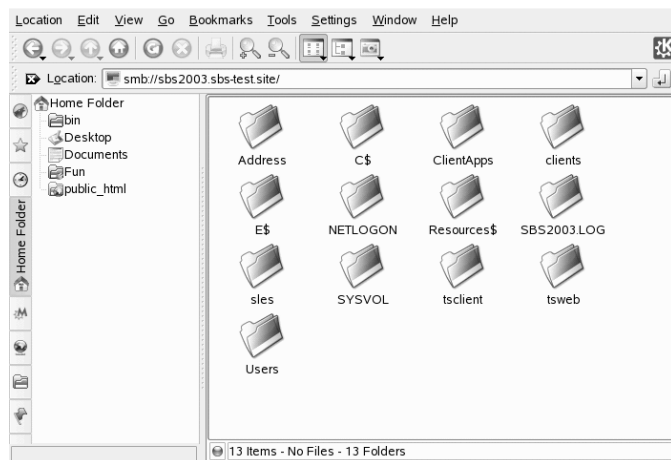
Konquerorを使ってWindowsデータにアクセスするには、以下の手順に従ってください。

- 1 Alt + F2キーを押して、smb:///と入力します。

Konquerorウィンドウに、ネットワーク上にあるSambaワークグループとドメインが表示されます。

- 2 ADサーバのワークグループまたはドメインのアイコンをクリックします。

図 9.5 ADサーバ上のデータの参照



- 3 [ユーザー] フォルダをクリックして、個人のユーザフォルダアイコンを選択します。[マイドキュメント] フォルダの内容が表示されます。

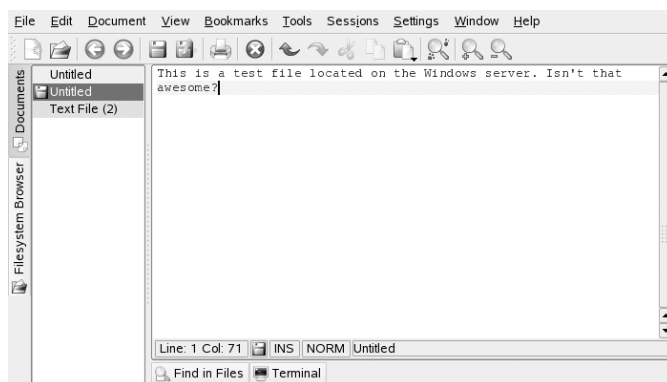
Konquerorを使ってWindowsユーザフォルダ中にフォルダを作成する場合は、Linuxフォルダを作成する場合と同じ手順で作業を行います。

- 1 Konquerorフォルダビューのバックグラウンドを右クリックして、メニューを表示します。
- 2 [新規作成] > [フォルダ] の順に選択します。
- 3 プロンプトの指示に従い、新しいフォルダ名を入力します。

ADサーバ上にファイルを作成する手順は、以下のKateテキストエディタを使った例を参考にしてください。

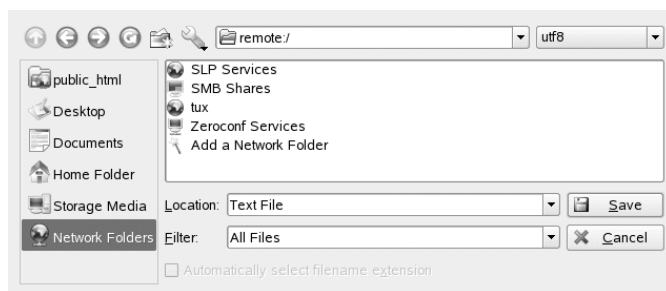
- 1 Alt + F2キーを押してkfindと入力します。
- 2 任意のテキストを入力します。

図 9.6 Kateを使ったテキストファイルの編集



- 3 新しく作成したテキストを保存するには、[名前を付けて保存] を選択します。
- 4 左側にある [ネットワークフォルダ] アイコンをクリックして、[SMB Shares] を選択します。

図 9.7 リモートWindowsフォルダへのファイルの保存



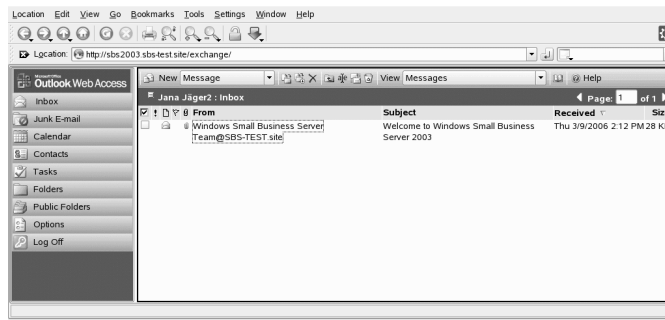
- 5 Windowsフォルダに移動します。
- 6 ファイル名を入力して、[保存] をクリックします。
ファイルがWindowsサーバに保存されます。

Konquerorのシングルサインオン機能の活用例を以下に示します。この例では、MS ExchangeメールボックスにWebアクセスします。

- 1 現在のWindowsユーザ名に有効なMS Exchangeアカウントがあることを確認します。
- 2 システム管理者にExchangeサーバのアドレスを問い合わせます。
- 3 Alt+F2キーを押して、konqueror
`http://address_exchange_server`と入力します。

これで、再認証を受けることなく、Exchangeアカウントにログインできました。

☒ 9.8 Konquerorを介したMS Exchangeへのアクセス



- 4 通常と同じように電子メールを読み書きし、ログアウトします。

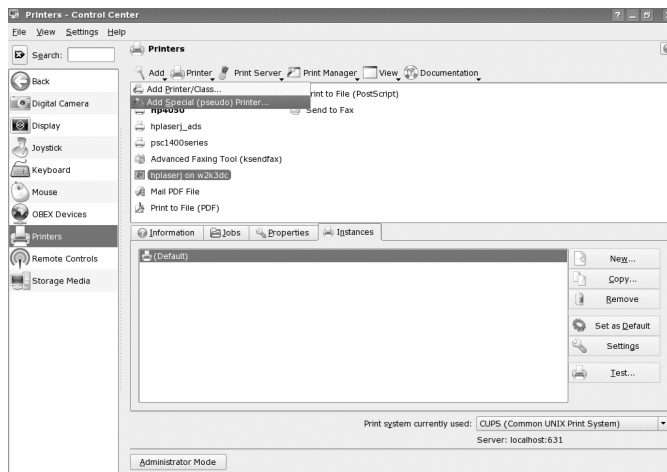
9.5 Windowsネットワークプリンタの設定とアクセス

ネットワークに接続し、Windows Active Directoryサーバの認証を受けたら、プリンタなどの企業リソースにアクセスできます。KDEでは、LinuxクライアントからWindowsネットワークプリンタに印刷できるように設定できます。

LinuxクライアントからWindowsネットワークプリンタを利用できるように設定するには、以下の手順に従ってください。

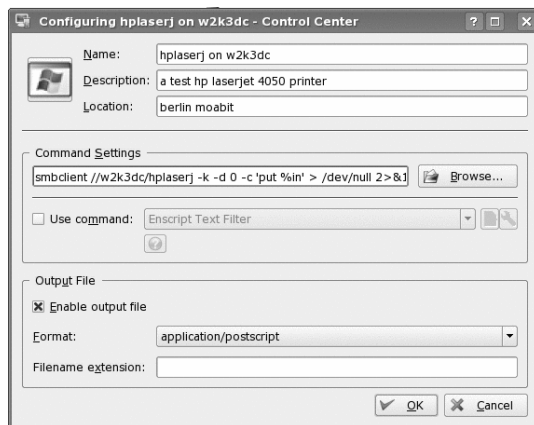
- 1 メインメニューからKDEコントロールセンターを起動します。
- 2 [Peripherals] > [Printers] の順に選択します。

図 9.9 プリンタの追加



- 3 [追加] > [Add Special (pseudo) Printer] の順に選択します。

図 9.10 プリンタ詳細の追加



- 4 プリンタ名、簡単な説明、および場所を入力します。
- 5 *[Command Settings]* に、次の例に示すようにコマンドラインを入力します。

```
smbclient //domain/printer -k -d 0 -c 'put %in' > /dev/null 2>&1
```

`domain` と `printer` には、ご利用の環境に応じた適切なドメイン名とプリンタ名を指定します。

- 6 すべての印刷ジョブをPostScriptファイルに出力する場合は、*[Enable output file]* を選択し、次に *[application/postscript]* を選択します。
- 7 *[OK]* をクリックして、プリンタの設定を終了します。
- 8 *[ファイル]* > *[終了]* の順に選択して、KDEコントロールセンターを終了します。

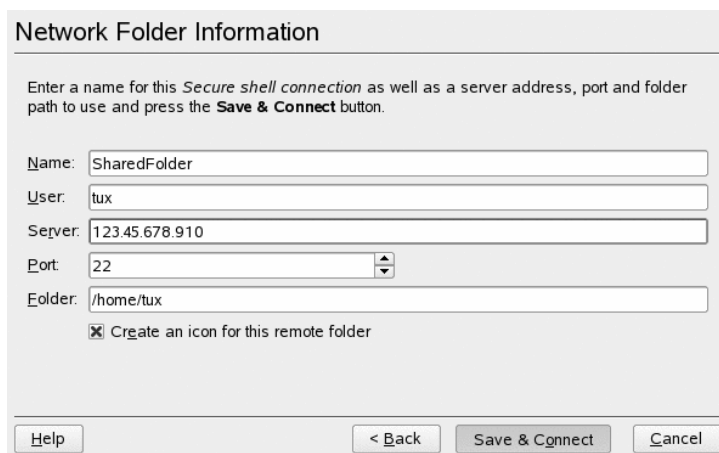
これでプリンタの使用準備が完了しました。

設定したWindowsネットワークプリンタに印刷するには、KPrinterのプリンタリストから該当するプリンタを選択します。

9.6 ネットワークフォルダへのショートカットの設定

KNetAttachを利用して、このビューに新しいネットワークフォルダを追加できます。追加するには、Konquerorの`remote:/`ビューで、*[Add a Network Folder]* をクリックします。表示されるウィザードで、アクセスするネットワークフォルダの種類を選択したり、ネットワークフォルダ名、サーバのアドレス(IPアドレスまたはドメイン名)、ログイン名、ポート、およびフォルダへのパスなどの詳細情報を入力したりできます。

図 9.11 ネットワークフォルダの追加

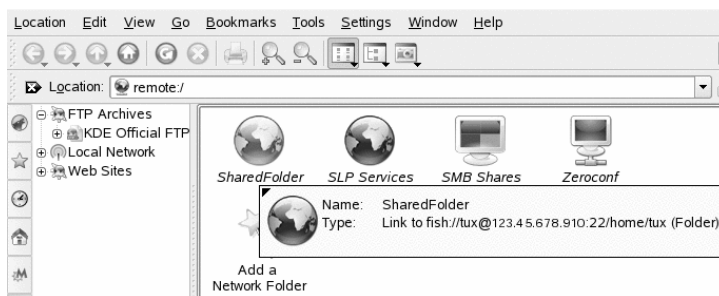


The dialog box is titled "Network Folder Information". It contains the following fields and controls:

- Name: SharedFolder
- User: tux
- Server: 123.45.678.910
- Port: 22
- Folder: /home/tux
- Create an icon for this remote folder
- Buttons: Help, < Back, Save & Connect, Cancel

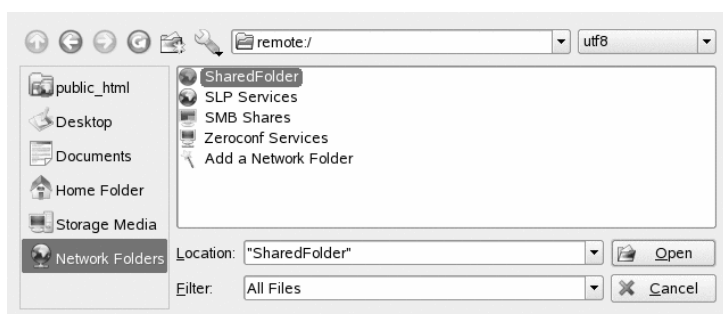
作業が完了したら、新しく作成したリンクをクリックしてネットワーク共有にアクセスできるようになります。場所ツールバーに長いURLを入力する必要はありません。

図 9.12 新しいネットワークフォルダ



この方法でネットワークフォルダを追加した場合、KDEアプリケーションでファイルを開いたり保存したりするときにも、このフォルダに簡単にアクセスできます。[Open File] ダイアログまたは [Save File] ダイアログの左側のバーにある [ネットワークフォルダ] をクリックすると、追加したネットワークフォルダが表示されます。

図 9.13 ネットワーク共有からファイルを開く



ティップ: デスクトップからネットワーク共有へのリンク

頻繁に利用するネットワーク共有に素早くアクセスするために、これらのリソースへのリンクをデスクトップ上に作成できます。デスクトップにリンクを作成するには、Konquerorから目的のリソースを選択した後、マウスの左ボタンを押しながらデスクトップにドラッグします。次に、表示されるコンテキストメニューから、[\[Link Here\]](#) を選択します。デスクトップに新しいアイコンが表示されます。このアイコンをクリックすると、Konquerorにディレクトリの内容が表示されます。

9.7 軽量なWebサーバの設定と使用

kpfユーティリティは、HTTP (Hyper Text Transfer Protocol) プロトコルを使用した簡単なファイル共有機能を提供します。このプロトコルは、WebサイトからWebブラウザにデータを表示する場合にも使用されます。厳密に言うと、kpfはパブリックファイルサーバで、共有ファイルへのアクセスは制限されません。kpfを使用して共有したファイルは、誰でも利用することができます。

重要項目: セキュリティ上の考慮事項

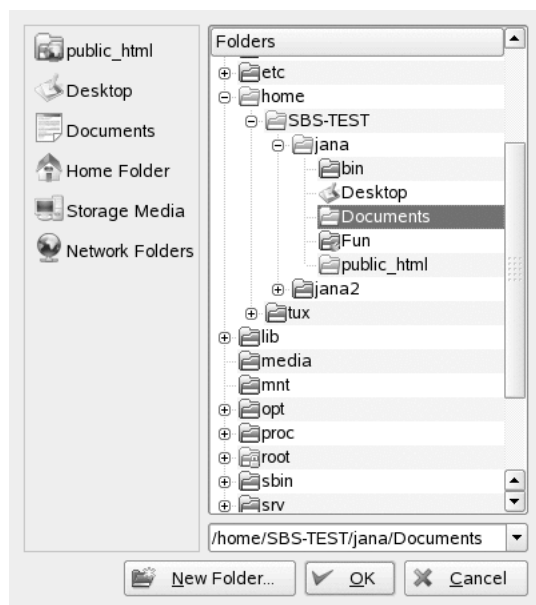
kpflを使ってファイルサーバを設定する前に、企業のセキュリティポリシーでこの機能が利用可能かどうか、あらかじめシステム管理者に確認してください。企業またはプライベート環境で、ネットワーク全体がファイアウォールで外部から保護されているかどうか不明な場合は、ファイルサーバを設定しないでください。ネットワークが外部から保護されていない場合、重要な情報がWebに漏洩する危険性があります。さらに、Webサーバはハッカーの攻撃対象になる危険性を秘めています。Webサーバを安全に設定するには複雑性を伴います。kpflは、Webサーバとしての利用を前提として設計されていません。

kpflは、友人とファイルを共有することを前提に設計されています。Apacheのようにすべての機能を完備したWebサーバではありません。このユーティリティは主に、IRC (Internet Relay Chat)、チャットルーム)などで友人とチャットしながら、簡単にファイルを共有するための手段として開発されています。

通常、kpflはホームディレクトリのpublic_htmlフォルダにあるファイルを共有するように設定されています。たとえば、現在オンラインでチャット中の相手に対してあるファイルの利用を許可する場合、kpflを使ってそのファイルをpublic_htmlフォルダにコピーし、`http://HOSTNAME:8001/thefile`からそのファイルにアクセスできるようになったことを相手に伝えます。(わざわざ電子メールにファイルを添付して送信する必要はありません)。

- 1 KDEの下部にあるパネルを右クリックして [アプレットをパネルに追加] をクリックし、次に [Public File Server] を選択します。
下部パネルに、小さい地球儀の形をしたアイコンが表示されます。
- 2 アイコンを右クリックして、 [New Server] をクリックします。
- 3 共有するファイルがあるディレクトリを指定して、 [次へ] をクリックします。

図 9.14 ファイルサーバのルートディレクトリの選択



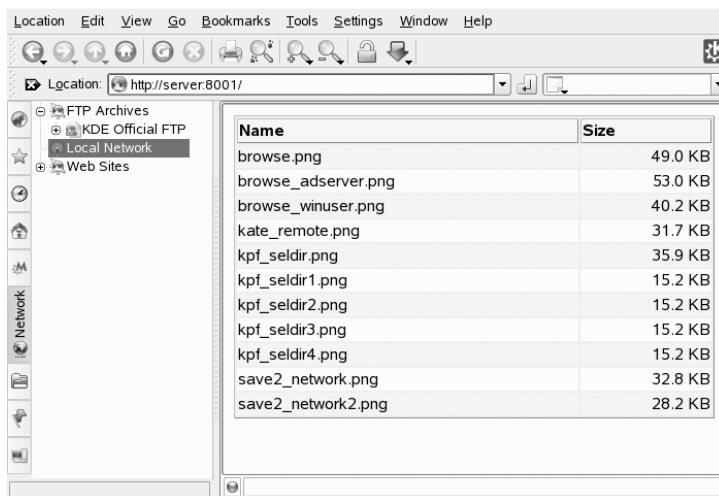
隠しファイル(ファイル名がピリオドで始まるファイル)など、フォルダ内のすべてのファイル、サブフォルダ、およびシンボリックリンクが他のユーザに公開されます。そのため、パスワード、暗号キー、アドレス帳、または社外秘のドキュメントなど、重要な情報を共有することがないように、十分に注意してください。公開フォルダ以外の領域にアクセスされることがないように、公開フォルダ外へのシンボリックリンクは入れないようにしてください。

- 4 [New Server] ウィザードの残りの設定を完了して、ステップ3(188ページ)で指定したフォルダを共有できるようにします。

Konquerorのディレクトリアイコンの右隅に、地球儀の形をしたアイコンが表示されます。

外部からこの公開フォルダにアクセスするには、ブラウザに`http://HOSTNAME:8001`のようにURLを入力するだけです。ブラウザに、公開フォルダの概要が表示されます。

図 9.15 公開されたコンテンツ



ホストマシン上でファイルサーバのネットワークトラフィックを監視できます。監視するには、地球儀の形をしたアイコンを右クリックして、`[Monitor]`を選択します。次のような簡潔な統計情報が表示されます。

図 9.16 ファイルサーバの統計情報

The screenshot shows a window with a table of network connection statistics:

Status	Progress	File Size	Bytes Sent	Response	Resource
	<div style="width: 100%;"></div>	2787	2947	OK	/
	<div style="width: 25%;"></div>	425	204	Not found	/favicon.ico
	<div style="width: 10%;"></div>	432	102	Not implemented	/
	<div style="width: 100%;"></div>	62847	45844	OK	/kpf_connect.p

KGpgによる暗号化

KGpgは、Linuxシステムの暗号化インフラストラクチャのうち、重要なコンポーネントです。このプログラムは、必要なすべての鍵の生成と管理に役立ちます。また、そのエディタ機能を使用してファイルの迅速な作成と暗号化を行うか、パネル内にあるアプレットを使用して、ドラッグアンドドロップ形式で暗号化または復号化を行うことができます。電子メールプログラム (KontactまたはEvolution)のような他のプログラムは、鍵データにアクセスして、署名済みまたは暗号化済みの内容进行处理します。この章では、暗号化済みファイルに関する毎日作業する上で必要になる基本的な機能について説明します。

10.1 署名と暗号化

署名

署名とは、電子署名をメールまたはソフトウェアに添付して、その由来が正しいことを証明するものです。誰かに名前を使われてメールを書かれるのを防止したり、自分とメールの送信先の両方を保護したりするために、メールに署名する必要があります。署名によって、受信したメールの送信者を簡単に確認し、無害なメールと悪意のあるメールを見分けられます。

ソフトウェア開発者はソフトウェアに署名して、整合性を確認できます。非公式のサーバからのソフトウェアを所有している場合でも、パッケージを署名で検証できます。

暗号化

他者から保護する必要がある機密情報を所有していることがあります。暗号化によって、データを変換して他者が読めないようにすることができます。これは特に企業にとって重要です。内部情報のほか、従業員のプライバシーを保護するためです。

10.2 新しい鍵ペアの生成

暗号化済みメッセージを他のユーザとの間で交換するには、最初に自分専用の鍵ペアを生成します。その1つである公開鍵(公開キー)は、通信相手に対して配布するものであり、通信相手はファイルや電子メールメッセージを送信する前に、公開鍵を使用してそれらを暗号化します。鍵ペアのもう一方は、秘密鍵(秘密キー)です。これは、暗号化済みの内容を復号化する目的で使用されます。

重要項目: 秘密鍵と公開鍵

公開鍵は、公開されること、およびすべての通信相手に対して配布されることを意図しています。一方、秘密鍵にアクセスするのはそれを所有しているユーザだけです。秘密鍵のデータにアクセスすることを他のユーザに許可しないでください。

KGpgはメインメニューから起動するか、またはAlt + F2キーを押して、「kgpg」と入力します。プログラムを初めて起動すると、設定手順を支援するアシスタントが開きます。鍵の作成が要求される時点まで、アシスタントの指示に従って進みます。名前と電子メールアドレス、そして必要に応じて、コメントを入力します。デフォルト設定が適当でない場合は、鍵の有効期限、サイズ、および使用する暗号化アルゴリズムも設定します。詳細については、[図 10.1. 「KGpg:鍵の作成」 \(193 ページ\)](#)を参照してください。

後のセッションでKGpgを起動すると、小さな錠前アイコンのみがシステムトレイに表示されます。KGpgのメインウィンドウをデスクトップに表示するには、そのアイコンをクリックします。

図 10.1 KGpg: 鍵の作成

Generate Key Pair

Name:
John Doe

Email:
jdoe@example.com

Comment (optional):

Expiration:
0 Never

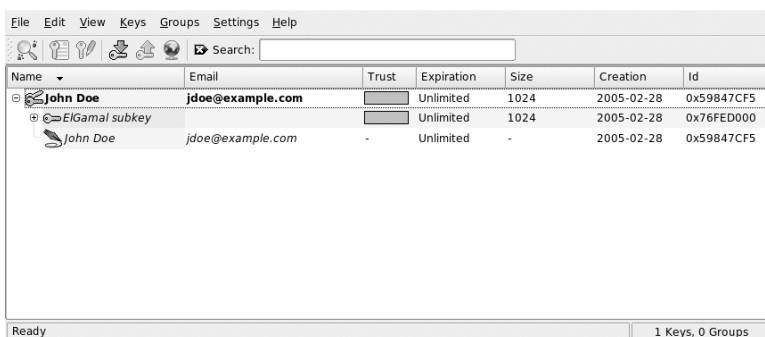
Key size:
1024

Algorithm:
DSA & ElGamal

OK Expert Mode Cancel

入力した設定を確認して、**[OK]** をクリックします。次に、パスワードを2回入力するように求めるダイアログが表示されます。選択したパスワードの相対強度が測定され、**[Password strength meter]** に表示されます。次にプログラムによって鍵ペアが生成され、概要が表示されます。失効証明書をすぐに保存または印刷することをお勧めします。この証明書は、秘密鍵のパスワードを忘れた場合に鍵を無効にするときに必要です。**[OK]** をクリックすると、KGpgのメインウィンドウが表示されます。詳細については、図10.2.「鍵マネージャ」(194 ページ)を参照してください。

10.2 鍵マネージャ



10.3 公開鍵のエクスポート

鍵ペアを生成した後で、公開鍵を他のユーザが利用できるようにします。その結果、他のユーザが自分(鍵生成者)にメッセージやファイルを送信する前に、その公開鍵を使用して暗号化または署名できるようになります。公開鍵を他のユーザが利用できるようにするには、**[鍵] > [公開鍵をエクスポート]**の順に選択します。ダイアログが表示され、4つのオプションが表示されます。

電子メール

公開鍵は、選択した受信者へ電子メールで送信できます。このオプションを選択し、**[OK]**をクリックしてその選択結果を確定した場合は、KMailで新しい電子メールを作成するためのダイアログが開きます。受信者を入力し、**[送信]**をクリックします。受信者は、生成された鍵を受信し、その後は、暗号化された内容を鍵生成者へ送信することができます。

クリップボード

鍵生成者は自分の公開鍵の操作を続ける前に、その公開鍵をクリップボードに書き込んでおくことができます。

デフォルト鍵サーバ

自分の公開鍵を幅広いユーザが利用できるようにするには、インターネット上に存在する鍵サーバのいずれかにその鍵をエクスポートします。詳細については、10.5項「鍵サーバダイアログ」(196 ページ)を参照してください。

ファイル

自分の鍵を電子メールで送信する代わりに、データメディア上のファイルとしてその鍵を配布することもできます。このオプションをクリックし、ファイルのパスと名前をデフォルト値のままにするか変更を加え、**[OK]** をクリックします。

10.4 鍵のインポート

ファイルの形で(たとえば、電子メールへの添付物として)鍵を受け取った場合、**[鍵をインポート]** を使用してその鍵を自分の鍵束に統合し、その送信者との間で暗号化された通信を行う場合にその鍵を使用します。この手順は、既に説明した、鍵をエクスポートする手順に似ています。

10.4.1 鍵への署名

他のファイルと同様に、鍵に署名して、その鍵の正当性と整合性を保証することもできます。インポート済みの鍵が、所有者として明示されている個人に所属していることが確かな場合は、その鍵に自分が署名することにより、その鍵の正当性を自分が信頼していると表明することができます。

重要項目: 信頼の連鎖の確立

暗号化された通信がセキュア(安全)であるのは、配布されている公開鍵を、指定されたユーザに積極的に関連付けている場合だけです。それらの鍵を互いにチェックし、署名することは、信頼の連鎖の確立につながります。このような理由により、個人的に確認した鍵にのみ署名するようにしてください。

鍵リストの中にある、署名する鍵を選択します。**[鍵] > [鍵に署名]** の順に選択します。続いて表示されるダイアログで、署名に使用する秘密鍵を指定します。署名する前に、その鍵の正当性を確認するよう注意する警告が表示されます。この確認を行った後で、**[続行]** をクリックし、次のステップで、選択した秘密鍵に対応するパスワードを入力します。他のユーザは、自分への公開鍵を使用することにより、その署名をチェックできます。

10.4.2 鍵の信頼レベル

通常、ユーザがその鍵を信頼しているかどうか、承認された所有者が実際にその鍵を使用していると考えているかどうかについて、使用しているプログラムによる確認が行われます。この問い合わせは、メッセージを復号化する、または署名を確認する必要があるたびに行われます。これを防ぐには、新しくインポートした鍵の信頼レベルを編集します。デフォルトでは、新しくインポートした鍵は白いボックスで示されます。これは、信頼レベルの値がまだ割り当てられていないことを示しています。鍵を信頼するには、以下の手順に従います。

- 1 新しくインポートした鍵を右クリックすると、鍵管理用の小さなコンテキストメニューにアクセスできます。
- 2 `[鍵に署名]` を選択します。KGpgでダイアログが開き、鍵の指紋を再度確認するように求められます。
- 3 `[Continue]` を使用して、鍵の署名のためのダイアログボックスにアクセスします。
- 4 信頼レベルを選択します。たとえば、`[I Have Done Very Careful Checking]` を選択します。このダイアログを完了します。
- 5 パスフレーズを入力して、鍵署名プロセスを完了します。インポートされた鍵が、信頼列に緑で表示されます。

信頼レベルがより低ければ、鍵が署名された真の身元を確認する鍵の署名者をより信頼していないことを意味します。署名者の身元が完全にわかっている場合もありますが、署名者が鍵に署名する前に他者の身元を十分に確認していない場合も考えられます。したがって、署名者と署名者の鍵を信頼しても、署名者により署名された他の鍵については低い信頼レベルを使用できません。信頼レベルによって、KGpgの自動処理が発生することはありません。

10.5 鍵サーバダイアログ

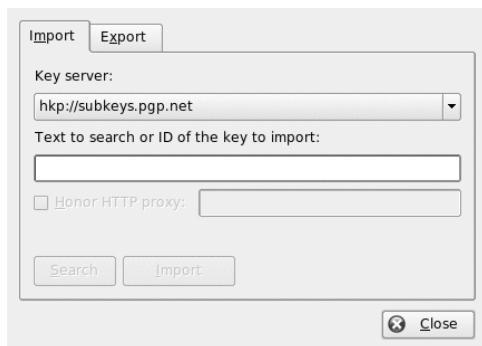
インターネットベースの鍵サーバのいくつかは、多くのユーザの公開鍵を提供しています。多くのユーザとの間で暗号化された通信を実施するには、これらのサーバを使用して、公開鍵を配布します。この目的を果たすには、公

公開鍵をそれらのサーバのいずれかにエクスポートします。同様に、KGpgを使用して、特定のユーザに対応する鍵を保持しているそれらのサーバのいずれかを検索すること、またはサーバからそれらのユーザの公開鍵をインポートすることができます。[ファイル] > [鍵サーバダイアログ] の順に選択して、鍵サーバダイアログを開きます。

10.5.1 鍵サーバからの鍵のインポート

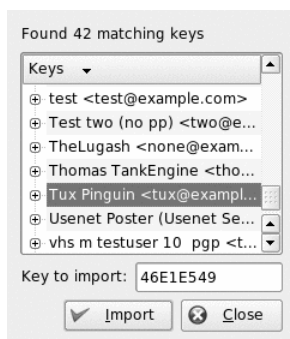
[鍵サーバ] ダイアログの [インポート] タブを通して、インターネットベースの鍵サーバのいずれかから公開鍵をインポートします。構成済みの鍵サーバのいずれかを選択し、検索文字列(通信相手の電子メールアドレス)または検索する鍵のIDを入力します。[検索] をクリックすると、使用中のシステムがインターネットに接続し、指定された鍵サーバから、指定に一致する鍵を検索します。を参照してください。図 10.3. 「鍵をインポートするための検索画面」 (197 ページ)

図 10.3 鍵をインポートするための検索画面



鍵サーバに対する検索が成功した場合、取得したすべてのサーバエントリからなるリストが新しいウィンドウ内で表示されます。鍵束に含めたい鍵を選択し、[インポート] をクリックします。参照先 図 10.4. 「検索成功とインポート」 (198 ページ). メッセージが表示されたら [OK] をクリックして確認し、[閉じる] をクリックして [鍵サーバ] ダイアログを閉じます。これで、インポート済みの鍵は、[鍵マネージャ] のメインウィンドウ内にある概要の中で表示され、使用可能になります。

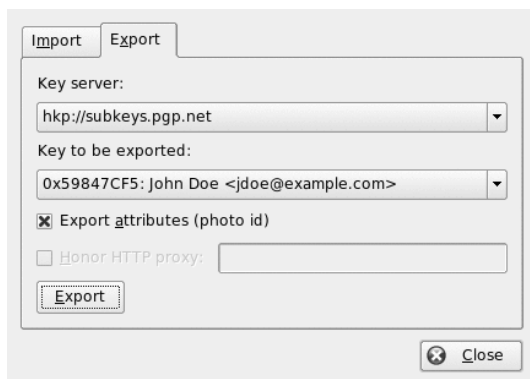
図 10.4 検索成功とインポート



10.5.2 鍵サーバへの鍵のエクスポート

鍵を、インターネット上で自由にアクセス可能な鍵サーバのいずれかにエクスポートするには、[鍵サーバ] ダイアログの [エクスポート] タブを選択します。2つのドロップダウンメニューを使って、エクスポート先のサーバと、エクスポートする鍵を指定します。次に、[エクスポート] を使用して、エクスポートを開始します。

図 10.5 鍵サーバへの鍵のエクスポート



10.6 テキストとファイルの暗号化

KGpgを使用して、テキスト、またはクリップボードの内容を暗号化することもできます。錠前のアイコンを右クリックすると、`[クリップボードを暗号化]` および `[クリップボードを復号化]` の各オプションや、内蔵エディタを開くためのオプションが表示されます。

10.6.1 クリップボードの暗号化と復号化

クリップボードへコピーしたファイルは、数回のクリックで簡単に暗号化できます。`[KGpg]` 錠前アイコンを右クリックすると、メニューが表示されます。このメニューから、`[クリップボードを暗号化]` を選択し、使用する鍵を指定します。暗号化の手順に関するステータスメッセージがデスクトップ上に表示されます。必要に応じて、この時点で、暗号化済みの内容をクリップボードから取得し、処理を進めることができます。クリップボードの内容を復号化する作業も簡単です。同じように、`[KGpg]` アイコンを右クリックしてメニューを表示し、`[クリップボードを復号化]` を選択し、自分の秘密鍵に関連付けられているパスワードを入力します。この時点で、利用可能な復号化済みのバージョンが、クリップボード内、およびKGpgのエディタ内にあります。

10.6.2 ドラッグ&ドロップによる暗号化と復号化

ファイルを暗号化または復号化するには、デスクトップまたはファイルマネージャ内でそのファイルのアイコンをクリックし、パネル内にある錠前までそれらをドラッグし、そこでそのアイコンをドロップします。そのファイルがまだ暗号化されていない場合、KGpgは、どの鍵を使用するのか問い合わせてきます。ユーザが鍵を選択した時点で、そのファイルは暗号化されます。他のメッセージは表示されません。ファイルマネージャ内では、暗号化済みのファイルは、`.asc`というサフィックス(接尾辞)付きで表示され、錠前のアイコンも付いています。それらのファイルを復号化するには、ファイルのアイコンをクリックし、パネル内にあるKGpgのシンボルまでドラッグし、そこでそのアイコンをドロップします。元のファイル名が既に存在する場合は、ファイル名の付け方または上書きするかどうかを確認するダイアログボックスが開きます。

10.6.3 KGpgのエディタ

暗号化する目的で、外部エディタの中で内容を作成し、上記の方法のいずれかを使用してファイルを暗号化する代わりに、KGpgの内蔵エディタを使用してファイルを作成することができます。エディタを開き(コンテキストメニューから [エディタを開く] を選択します)、必要なテキストを入力し、[暗号化] をクリックします。次に、使用する鍵を選択し、暗号化の手順を完了させます。ファイルを復号化するには、[復号化] を使用し、秘密鍵に関連付けられているパスワードを入力します。

ドキュメントの署名の生成と確認は、エディタから直接暗号化するのと同様に簡単です。ファイルマネージャでファイルを選択し、クリップボードにコピーします。パネルで錠前アイコンを右クリックし、[Sign/Verify Clipboard] を選択します。次に、使用する秘密鍵を選択し、それに関連付けられているパスワードを入力します。KGpgから、署名の生成に成功したことが通知されます。単純に [署名/確認] をクリックする方法で、エディタからファイルに署名することもできます。署名済みのファイルを確認するには、[ファイル] > [エディタを開く] の順に選択して、エディタで確認するファイルをロードし、[署名/確認] をクリックします。

10.7 詳細情報

暗号化の手法に関する理論的な背景情報については、<http://www.gnupg.org/documentation/howtos.html.en>にあるGnuPGプロジェクトページを参照してください。簡潔で明瞭な説明があります。このドキュメント内で、他の情報ソースからなるリストも参照できます。

Kerryを使った検索

KerryはBeagle検索ツール用のKDEフロントエンドで、個人情報スペースのインデックスを作成し、目的の情報を素早く探し出すために役立ちます。Kerryを使用して、ドキュメント、電子メール、Web履歴、IM/ITC対話、ソースコード、画像、音楽ファイル、アプリケーションなどを検索できます。

KerryはBeagleのフロントエンドのため、beagleデーモンが動作している必要があります。KerryとBeagleを利用することにより、Kopete対話、Konqueror履歴、またはKMailメッセージなど、さまざまなKDE固有の情報ソースに対してインデックスを作成することができます。この結果、Kerryインタフェースを介してKDE環境にスムーズに統合されます。Beagleの詳細は、『GNOME User Guide』を参照してください。

11.1 Kerryを使った検索

Kerryツールを使ってデータを探すには、以下の手順に従ってください。

- 1 Alt + Spaceキーを押して、[Kerry Beagle Search] ウィンドウを開きます。代わりにシステムトレイ内のKerryアプレットアイコン(犬の頭)を左クリックして、検索ウィンドウを表示することもできます。
- 2 検索する文字列を [Search] に入力します。左側にある黒色の矢印を押すと、前に入力した文字列を素早く消去できます。

検索では、大文字と小文字は区別されません。大文字で入力しても小文字で入力しても、検索結果は同じになります。複数の用語を組み合わせ

て検索する場合は、キーワード「**OR**」(大文字)を使用します。たとえば、「*Mars OR Venus*」と指定すると、「*Mars*」、「*Venus*」、またはその両方を含むすべてのデータが検索されます。特定の用語を検索から除外する場合は、その用語の前にマイナス記号(-)を指定します。たとえば、「*Mars -Venus*」と指定すると、文字列「*Mars*」を含むが、文字列「*Venus*」が含まれないすべてのデータが検索されます。文字列をそのまま正確に検索する場合は、文字列を引用符で囲みます。特定の種類のファイルだけを検索対象にする場合は、文字列に続けて「*ext:*」と指定し、その次に検索対象にするファイル拡張子を指定します。たとえば、「*Mars ext:xml*」と指定した場合、*xml*ファイル内で文字列「*Mars*」が含まれているファイルが検索されます。

- 3 右側のパネルの *[Show]* では、検索範囲を選択します。インデックスを作成したすべてのコンテンツを対象に検索する場合は、*[Everything]* を選択します。パネル中の項目をクリックして、インデックスが付けられた *[Applications]* (アプリケーション)、*[Contacts]* (連絡先)、*[Office documents]* (Officeドキュメント)、インスタントメッセージの *[Conversations]* (会話)、*[Images]* (画像)、*[Media]* (メディア)ファイル、*[Web pages]* (Webページ)、または *[File/Path names]* (ファイル/パス名)だけを検索するように限定することもできます。検索の実行前または実行後に、検索対象を変更することができます。

結果の表示順序を変更するには、*[Sort By]* セクションを使用します。結果を種類別にソートする場合は、*[Type]* をクリックします。*[Date]* (日付)、*[Name]* (名前)、*[Relevance]* (関連性)別にソートすることもできます。検索の完了前または完了後に、ソート順序を変更することができます。

結果を前回の変更日により制限することができます。前回の変更日に関係なく、すべての結果を表示する場合は、*[Any Date]* をクリックします。今日変更された項目、昨日から変更された項目、今週変更された項目、今月変更された項目、または今年変更された項目を表示することができます。右側のパネルから、適切な項目をクリックしてください。検索の実行前または実行後に、これを変更することができます。

- 4 検索を開始するには、**Enter**キーを押すか、検索フィールドの右にあるアイコンを押します。検索結果は、ウィンドウのメイン領域に表示されます。

検索結果はウィンドウに表示され、設定内容に応じてソートされます。必要に応じて適切な項目をクリックすると、そのファイルが表示されます。見つかったファイル自体の代わりに、そのファイルが保管されているフォルダを開く場合は、ファイル名の右にあるフォルダ名をクリックします。項目に関する詳細情報を表示する場合は、左側に *[i]* があるアイコンをクリックします。

右側のパネルから適切な項目をクリックして、検索範囲、ソート順序、日付や時刻による制限を変更することができます。

検索結果リストのページ間を移動するには、*[Previous results]* および *[Next results]* を使用します。ウィンドウの下部には、見つかった項目数が表示されます。

11.2 Kerryの設定

Kerry環境設定を行うには、トレイ内のアイコンを右クリックして *[Kerryの設定]* を選択するか、またはKerryのメインウィンドウにある *[設定]* をクリックします。環境設定ダイアログには、4つのタブが表示されます。

[検索] タブでは、*[デフォルトの結果ソート順序]*、1ページに *[表示される結果の最大数]*、またはKerry Beagle検索を行うためのショートカットキーを変更することができます。

[インデックス] タブでは、Beagleインデックスサービスを自動的に開始するかどうか、およびコンピュータのバッテリー動作時にデータのインデックスを作成するかどうかを指定します。また、Kerry Beagle検索でインデックスを作成するフォルダ、およびインデックスを作成しないフォルダを指定することもできます。詳細は、「11.2.1項「複数ディレクトリのインデックスの作成」(204 ページ)」と「11.2.2項「ファイルとディレクトリにインデックスをつけない」(204 ページ)」を参照してください。

[バックエンド] タブでは、利用できるどのBeagleバックエンドを有効にするかを選択します。無効にするバックエンドの選択は解除してください。たとえば、Kerry BeagleでKopete会話のインデックスを作成しない場合は、*[Kopete]* バックエンドの選択を解除します。

[*Daemon Status*] タブでは、Beagleデーモンのステータスを確認できます。ここでは、手動でデーモンを開始/停止することができます。Kerry Beagle検索機能を使用するには、デーモンが動作していなければなりません。

11.2.1 複数ディレクトリのインデックスの作成

Kerryのデフォルトでは、ホームフォルダのインデックスのみが作成されます。ホームフォルダのインデックスを作成しない場合は、Kerry環境設定ダイアログの [インデックスの作成] タブの [ホームフォルダのインデックスを作成する] オプションの選択を解除してください。他のフォルダのインデックスも作成する場合は、以下の手順に従ってください。

- 1 Kerry Beagle設定ダイアログが表示されていない場合は、トレイ内のKerryアイコンを右クリックして [*Kerryの設定*] を選択します。
- 2 [*Indexing*] タブをクリックします。
- 3 タブの中央([*インデックス*])にある [*追加*] をクリックします。
- 4 表示されるダイアログで、インデックスを作成するフォルダを選択して、 [*OK*] をクリックします。
- 5 [*OK*] をクリックします。

11.2.2 ファイルとディレクトリにインデックスをつけない

フォルダやファイルをKerryによるインデックス作成から除外するには、以下の手順に従ってください。

- 1 Kerry Beagle設定ダイアログが表示されていない場合は、トレイ内のKerryアイコンを右クリックして [*Kerryの設定*] を選択します。
- 2 [*Indexing*] タブをクリックします。
- 3 タブの下部([*プライバシー*])にある、 [*追加*] をクリックします。

- 4 表示されるダイアログで、**[Folder]** オプションを選択し、インデックスを作成しないフォルダを選択します。ファイルダイアログで、テキストフィールドにフォルダへのパスを指定するか、またはフォルダボタンを押して、適切なフォルダを選択します。

また、**[ファイル名パターン]** を選択して、ファイルパターンを指定することにより、インデックスを作成しないファイルを指定することもできます。

- 5 **[OK]** をクリックします。



12

プリンタの管理

プリンタはシステムとローカルで接続するか、ネットワーク経由でアクセスできます。SUSE Linux Enterprise®では、YaST、KDE Printing Manager、またはコマンドラインなど、さまざまな方法でプリンタを設定できます。この章では、KDE Printing Managerを使ったプリンタの設定方法について説明します。プリンタを正しく設定した後は、任意のアプリケーションから利用できるようになります。

iPrintRを使ったプリンタの管理方法については、<http://www.novell.com/documentation/sled10/>にある『*iPrint User Guide*』を参照してください。

注意: トラブルシューティング

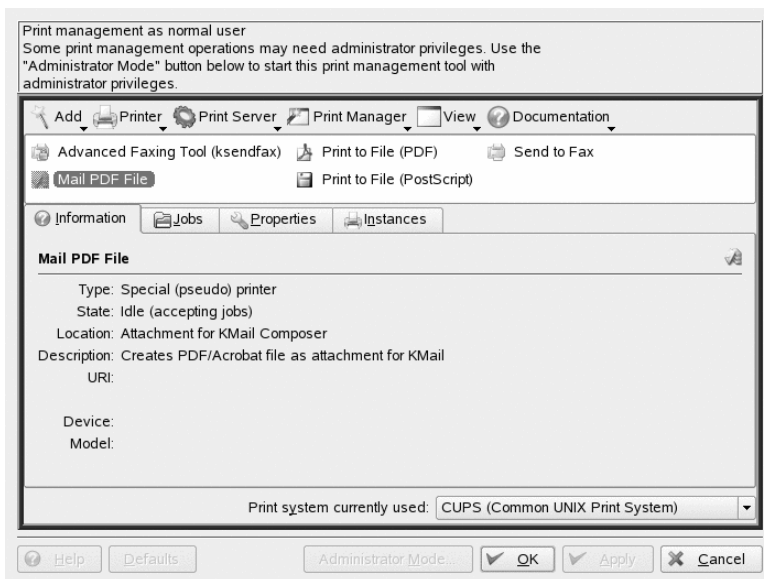
プリンタの設定時に問題が発生した場合は、システム管理者にお問い合わせください。プリンタの設定に関する管理者向けの詳細情報は、第20章 *Printer Operation* (↑*Deployment Guide*)を参照してください。

12.1 プリンタのインストール

プリンタをインストールするには、rootパスワードが必要です。また、必要なプリンタ情報もあらかじめ確認してください。プリンタに接続する方法に応じて、プリンタURI、TCP/IPアドレスまたはホスト、およびプリンタ用のドライバが必要になる場合があります。SLEDには、さまざまなプリンタドライバが同梱されています。適切なプリンタドライバが見つからない場合は、プリンタメーカーのWebサイトを確認してください。

KDEでプリンタを設定するには、メインメニューからPrinting Managerを起動します([ツール] > [印刷] > [Printing Manager] の順に選択)。または、Alt + F2キーを押してkcontrolを入力します。KDEコントロールセンターの左側にあるナビゲーションバーから、 [周辺装置] > [プリンタ] の順にクリックします。

☒ 12.1 Printing Manager



ウィザードを使って、rootとしてプリンタ設定できます。どのオプションを選択し、どの情報を入力すべきか不明な場合は、システム管理者にお問い合わせください。

Windowsネットワークプリンタの設定、アクセス方法については、9.5項「Windowsネットワークプリンタの設定とアクセス」(183 ページ)を参照してください。

- 1 [管理者モード] をクリックして、rootパスワードを入力します。
- 2 [追加] をクリックして、[Add Printer/Class] を選択します。[Add Printer Wizard] が表示されます。
- 3 [Next] をクリックします。

4 プリンタへの接続方法を選択します。次のオプションを指定できます。

- *Local printer* (パラレル、シリアル、*USB*): パラレル、シリアル、またはUSBでワークステーションに接続されているプリンタです。
- *Remote LPD queue*: プリンタが、TCP/IPネットワーク経由でアクセス可能な他のUNIX/Linuxシステムに接続されている場合に選択します (ネットワーク上の他のLinuxシステムに接続されているプリンタを使用する場合など)。
- *SMB shared printer (Windows)*: プリンタが異なるシステムに接続され、SMBネットワーク経由で共有されている場合に選択します (プリンタがMicrosoft Windowsコンピュータに接続されている場合など)。
- *Network Printer (TCP)*: プリンタが、TCPプロトコルを使ってネットワークに接続されている場合に選択します。
- *Remote CUPS server (IPP/HTTP)*: プリンタが、同じネットワーク上の、CUPSが動作している他のLinuxシステムに接続されている場合、またはIPPを使った他のOSシステムに接続されている場合に選択します。
- *Network printer w/IPP (IPP/HTTP)*: プリンタが、IPP/HTTPプロトコルを使ってネットワークに接続されている場合に選択します。
- *Other printer type*: 前述のいずれのオプションにも該当しない場合は、このオプションを選択します。
- *Class of printers*: 特定のクラスのプリンタを検索する場合に使用します。

5 [次へ] をクリックして、適切な情報を入力します。ウィザードの最後のページでは、[完了] をクリックします。ウィザードが閉じます。

6 [OK] をクリックして [Printing Manager] ダイアログを閉じます。

これで、KDE内のアプリケーションから印刷する際に、Kprinterダイアログからこのプリンタを選択して、印刷ジョブを開始できるようになりました。KDEからの印刷ジョブの送信と監視については、12.4項「KDEでの印刷ジョブの開始」(210ページ)を参照してください。

12.2 プリンタ設定の変更

- 1 メインメニューからPrinting Managerを起動します([ツール] > [印刷] > [Printing Manager] の順に選択)。
- 2 [管理者モード] をクリックして、rootパスワードを入力します。
- 3 利用可能なプリンタのリストから、設定を変更するプリンタを選択します。
- 4 右クリックして [設定] を選択します。
- 5 設定ダイアログのプロパティを変更し、 [OK] をクリックします。

12.3 プリンタの削除

- 1 メインメニューからPrinting Managerを起動します([ツール] > [印刷] > [Printing Manager] の順に選択)。
- 2 [管理者モード] をクリックして、rootパスワードを入力します。
- 3 利用可能なプリンタのリストから、削除するプリンタを選択します。
- 4 右クリックして [削除] を選択します。
- 5 [OK] をクリックして [Printing Manager] ダイアログを閉じます。

12.4 KDEでの印刷ジョブの開始

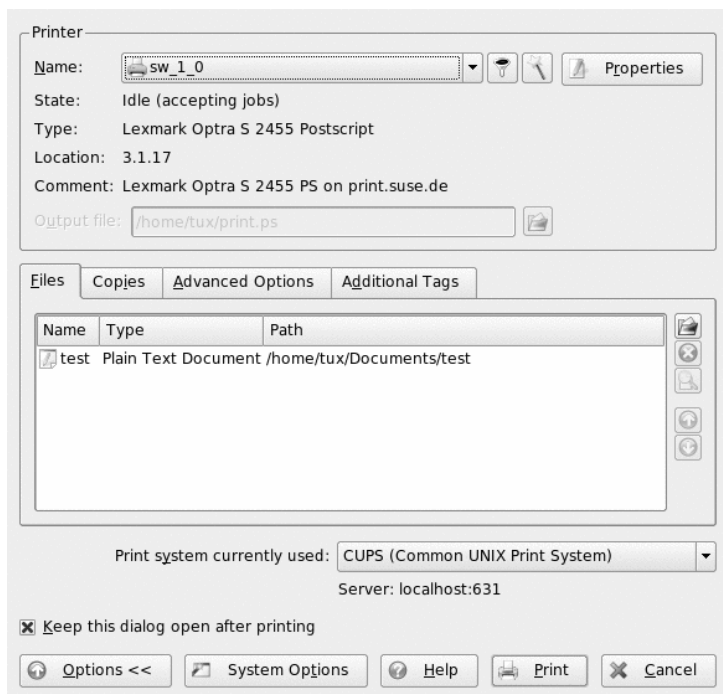
通常、KDEではKPrinterを使って印刷ジョブを開始します。このアプリケーションは、KDEアプリケーションから印刷するときに、毎回自動的に起動されます。KPrinterダイアログで、プリンタの選択および印刷ジョブの [プロパティ] (ページの向き、シートあたりのページ数、両面印刷など)の編集を行います。

ティップ: アプリケーションを開かずにプリンタにファイルを送信する

KPrinterを手動で起動する場合は、Alt + F2キーを押して、kprinterと入力します。この方法は、アプリケーションを起動しないでファイルを印刷する場合に役立ちます。KPrinterダイアログに [ファイル] タブが表示されます。このタブから、印刷するファイルを指定できます。デスクトップからファイルをドラッグしてリストにドロップするか、またはファイルダイアログを使用してファイルを検索します。

印刷部数や各種オプションを指定するには、左下の [拡大] をクリックします。ウィンドウに、 [コピーする枚数]、 [詳細オプション]、および [Additional Tags] の3つのタブが表示されます。詳細については、図 12.2. 「KPrinterで印刷ジョブを開始する」 (211 ページ)を参照してください。

図 12.2 KPrinterで印刷ジョブを開始する



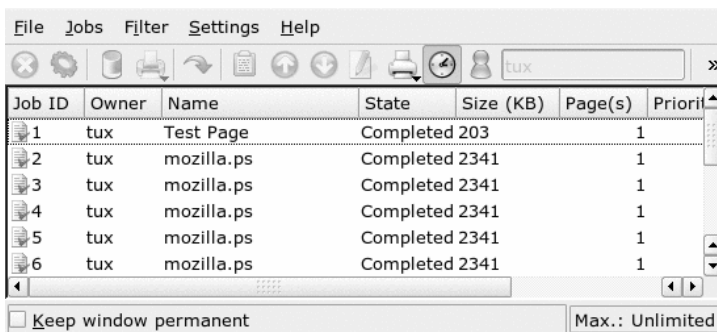
[コピーする枚数] タブでは、ページ選択(選択したドキュメントすべてのページ、現在のページ、または指定範囲)と印刷部数を指定します。また、選

択したドキュメントの偶数または奇数のページだけを印刷することもできます。[エキスパート設定]を選択して、印刷ジョブの追加情報を指定します。必要に応じて[Billing information (課金情報)]を入力するか、またはページの上部と下部のカスタムページラベルを設定します。[Job Priority (ジョブ優先度)]を、ここで設定することもできます。最後のタブの[Additional Tags]は、ほとんど必要ありません。印刷ジョブを送信したら、KJobViewerを使用してジョブの進行状況を監視できます。

12.5 KDEでの印刷ジョブの監視

KJobViewerは、メインメニューから、またはコマンドラインでkjobviewerを入力して起動します。に示すようなウィンドウが開かれ、使用しているプリンタのキューに投入されたすべての印刷ジョブが一覧表示されます。図12.3。「KJobViewerでの印刷ジョブの監視」(212ページ)印刷ジョブがアクティブでなければ、そのジョブを編集できます。ジョブを編集するには、[ジョブ]メニューのエントリを使用します。

図 12.3 KJobViewerでの印刷ジョブの監視



たとえば、プリンタに送信したのが正しい文書だったかを確認する場合は、ジョブを停止して、印刷すると決定してから再開することができます。自分の印刷ジョブは、[削除]を選択してキューから削除できます。プリンタを変更するには、[プリンタを移動]をクリックしてから別のプリンタを選択します。

[再スタート]を選択すると、文書が再度印刷されます。この操作を行うには、[フィルタ] > [完了したジョブをオン/オフ]を選択し、目的のドキュメントを選択して、[ジョブ] > [再スタート]をクリックします。[ジョ

ブ] > [Job IPP Report (ジョブIPPレポート)] をクリックすると、ジョブの技術的な詳細が表示されます。文書の緊急度に応じ、[ジョブ] > [優先度を増やす] と [ジョブ] > [優先度を減らす] を使用して優先度を設定します。

[フィルタ] を選択すると、複数のプリンタや完了ジョブが切り替えられます。また [ユーザジョブのみ表示] を選択して、自分の印刷ジョブだけが表示されるように設定できます。現在のユーザは、右上のフィールドに表示されます。

[設定] > [KJobViewer を設定] を選択すると、設定ダイアログが表示されます。このダイアログでは、表示する印刷ジョブの最大数を設定します。フィールドに数値を入力するか、スライダを右に移動して値を決定します。[OK] をクリックして設定を保存するか、[キャンセル] をクリックして保存せずにダイアログを終了します。

ツールバーのアイコンは、メニューからアクセスできる機能に対応します。アイコンの上にマウスポインタを移動すると、そのアイコンの機能を簡単に説明するヘルプテキストが表示されます。

ジョブリストには、8つの列があります。ジョブIDは、印刷システムによって自動的に割り当てられ、ジョブを識別します。次の列には、ジョブを送信したユーザのログイン情報が入り、次に文書のファイル名が入ります。ステータス列は、ジョブがまだキューにあるか、現在印刷中なのか、またはすでに完了したのかを示します。次に、文書のサイズがキロバイト単位とページ単位とで表示されます。デフォルトの優先度は50ですが、必要に応じて変更できます。課金情報は、コストセンタや他の企業固有の情報であることがあります。リストでジョブを右クリックすると、マウスポインタの下で [ジョブ] メニューが表示され、アクションを選択できるようになります。完了したジョブに対してできる機能はほんの少しです。[ウィンドウを恒久的に表示] を有効にすると、次のログイン時にKJobViewerが自動的に表示されます。



パート III. インターネット



13

ネットワーク接続の管理

インターネットを参照したり、電子メールを送受信するには、YaSTを使ってインターネット接続を設定する必要があります。ご利用の環境に合わせて、YaSTでNetworkManagerを使用するかどうかを選択します。KDEでは、NetworkManagerまたはKInternetを使ってインターネット接続を確立することができます。

NetworkManagerを使用するかどうかの判断基準については、項「Managing Network Connections with NetworkManager」(第30章 *Basic Networking*, ↑Deployment Guide)と項「Integration in Changing Operating Environments」(第25章 *Mobile Computing with Linux*, ↑Deployment Guide)を参照してください。

13.1 KNetworkManagerの使用

NetworkManagerアプレットが、デスクトップ環境で自動的に起動します。その後、このアプレットはシステムトレイ内にアイコンで表示されます。アプレットを使用して、いつでも明示的に使用するネットワークを選択できます。ここで選択したネットワークは、自動的に選択されるネットワークよりも優先されます。使用可能であれば、選択したネットワークが使用されます。このネットワークにアクセスできなくなった場合、NetworkManagerは自動的に別の使用できるネットワークに接続しようとします。

KNetworkManagerが実行していない場合は、`knetworkmanager`コマンドを使用して起動します。このアプレットを実行している場合は、現在のネットワークステータスを示すアイコンがシステムトレイに表示されます。ネットワーク接続の状態に応じて、パネルアイコンは次のようになります。



有線接続が確立されました。



現在、インターネットに接続されていません。



ワイヤレス接続が確立されました。青いバーは、信号の強度を表しています。青いバーの数が増えると、信号強度が高くなったことを示します。

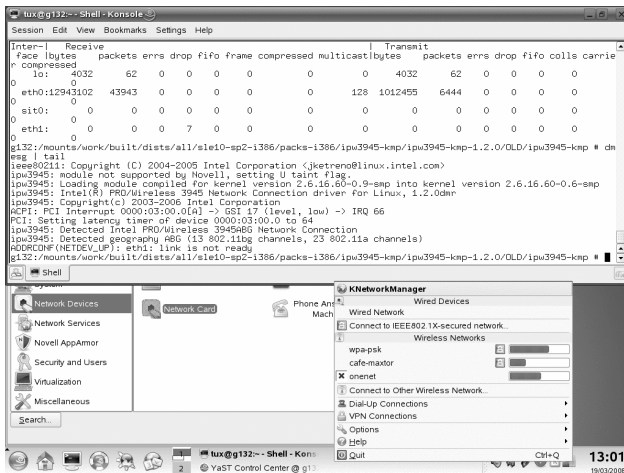


接続が確立または切断されました。

このアイコンを右クリックして、ネットワーク接続管理用の各種オプションのあるKNetworkManagerメニューを開きます。参照先 図 13.1.

「KNetworkManagerアプレットで利用できるネットワーク」(218 ページ). このメニューには、有線と無線の両デバイス用の使用可能なネットワーク接続が含まれます。これらの接続上にマウスカーソルを置くと、その接続の詳細が表示されます。現在使用されている接続は、メニュー内でチェックマークが付きます。

図 13.1 KNetworkManagerアプレットで利用できるネットワーク



13.1.1 ワイヤレスネットワーク

ワイヤレスネットワークの信号強度はメニューに表示されます。暗号化された無線ネットワークには、ロックアイコンが付きます。暗号化されたネットワークに接続するには、メニューから選択します。表示されるダイアログで、ネットワークが使用する [暗号化] のタイプを選択し、適切な [パスフレーズ] または [キー] を入力します。

ティップ: 非表示のネットワーク

ESSID(サービスセット識別子)をブロードキャストしないため自動的に検出されないネットワークに接続するには、[他のワイヤレスネットワークへの接続] を選択します。表示されるダイアログで、ESSIDを入力し、必要に応じて暗号化パラメータを設定します。

すべての信頼されたネットワークおよび信頼されていないネットワークを表示するには、[オプション] > [ネットワーク] の順にクリックします。

13.1.2 ダイアルアップ接続

ダイアルアップ接続にアクセスするには、[ダイアルアップ接続] を選択します。ダイアルアップ接続がすでに定義されている場合は、使用する接続をクリックして接続を開始します。[ダイアルアップ接続の設定] はYaSTを開きます。YaSTで新規のダイアルアップ接続を定義できます。詳細については、項「Modem」(第30章 *Basic Networking*, ↑Deployment Guide)を参照してください。

13.1.3 NetworkManagerでのVPNの使用

NetworkManagerは、いくつかのVPNテクノロジーをサポートしています。VPNテクノロジーを使用するには、最初にVPNテクノロジーのNetworkManagerサポートをインストールします。次のいずれかを選択できます。

- NovellVPN
- OpenVPN
- vpnc (Cisco)

VPNサポートは、パッケージNetworkManager-novellvpn、NetworkManager-openvpn、およびNetworkManager-vpncに含まれています。

KNetworkManagerで新しいVPN接続を設定するには、KNetworkManagerアプリケーションを左クリックし、次の手順に従います。

- 1 [VPN接続] > [VPNの設定] の順に選択します。
- 2 [追加] および [フォワード] を押して、設定ウィザードを開始します。
- 3 次のダイアログで、作成するVPN接続のタイプを選択します。
- 4 [Connection name] で設定に名前を付けます。
- 5 このタイプの接続に必要なすべての情報を入力します。たとえば、OpenVPN接続の場合は、[Gateway]と入力し、[Connection type] から認証方法を選択します。選択した接続に応じて、その他の必須オプションの設定を完了します。

または、[Import Saved Configuration] を押し、標準のファイルダイアログで保存済みの設定ファイルを選択して、保存された設定ファイルからの設定をロードします。
- 6 [フォワード] を押します。

VPNを構成した後は、[VPN接続] から選択できるようになります。VPN接続を切断するには、[VPNの切断] をクリックします。

13.1.4 NetworkManagerとセキュリティ

NetworkManagerは、ワイヤレス接続を「信頼された」と「信頼なし」という2種類で区別します。「信頼された」接続とは、過去に明示的に選択したネットワークです。その他は「信頼なし」です。信頼された接続は、アクセスポイントのMACアドレスと名前で識別されます。MACアドレスを使用して、信頼された接続が同じ名前でも、異なるアクセスポイントを使用できないようにすることができます。

使用可能な有線接続がない場合、NetworkManagerは使用可能なワイヤレスネットワークをスキャンします。信頼されたネットワークが複数検出された場合、最近使用されたものが自動的に選択されます。いずれも信頼されたものでない場合は、ユーザが選択します。

暗号化設定が変更されたが、名前およびMACアドレスが同じままの場合は、NetworkManagerは接続を試みますが、最初にこの新しい暗号化設定を確認し、新しい鍵などのアップデートを提供します。

ワイヤレス設定のみがあるシステムでは、NetworkManagerは、ブート中、自動的に接続を開始しません。接続を確立するには、まずログインする必要があります。ログインなしでワイヤレス接続にアクセスできるようにする場合は、YaSTを使用して信頼できる接続を設定します(手順は項「Configuration with YaST」(第29章 *Wireless Communication*, ↑Deployment Guide)を参照してください)。YaSTを使用して設定されたワイヤレス接続のみ、ブート中にNetworkManagerが使用するのに十分な信用があると見なされます。

ワイヤレス接続の使用からオフラインモードへ切り替える場合は、NetworkManagerでESSIDが空白になります。これにより、このカードが実際に関連付けられていないことを保証できます。

13.1.5 KDEでネットワークをオフにする

飛行機の中や、ワイヤレスネットワークを使用できない環境では、KNetworkManagerアプレットを使用して簡単にオフにすることができます。有線とワイヤレス両方のネットワーク接続をすべてオフにすることもできます。

KDEデスクトップでワイヤレスネットワークをオフにするには、KNetworkManagerアプレットを右クリックし、[オプション] > [ワイヤレスの無効化]の順に選択します。ワイヤレスネットワークをオンにするには、KNetworkManagerアプレットを右クリックして、[オプション] > [ワイヤレスの有効化]を選択します。

KDEデスクトップですべてのネットワークをオフにするには、KNetworkManagerアプレットで右クリックし、[オプション] > [オフラインモードへの切り替え]の順に選択します。すべてのネットワークをオンにするには、KNetworkManagerアプレットを右クリックして、[オプション] > [オンラインモードへの切り替え]を選択します。

13.2 KInternet

NetworkManagerを使わないでKDEを使用する場合は、KInternetでインターネット接続を管理します。デフォルトでKInternetがインストールされていない場合は、YaSTを使ってパッケージkinternetをインストールしてください。このプログラムは、インターネット接続が確立されているかを確認します。可能であれば、KDEパネルの右側に、プラグの形のthe KInternetアイコンが自動的に表示されます。ネットワーク接続の状態に応じて、パネルアイコンは次のようになります。



現在、インターネットに接続されていません。



接続が確立または切断されました。



接続が確立されました。



データがインターネットとの間で伝送されています。



エラーが発生しました。接続がYaSTを使用してすでに設定されている場合は、[ログの表示]を選択してエラーの理由を確認します。メニューにアクセスするには、KInternetアイコンを右クリックします。



接続がまだ有効ではありませんが、要求を行えばすぐ確立されます。

KInternetパネルアイコンを右クリックして、その設定メニューにアクセスします。[設定] > [Configure with YaST]の順に選択して、YaST設定ダイアログを起動します。rootパスワードを入力すると、YaSTが起動します。アクセスタイプに応じて、モデム、ISDN、ネットワーク、またはDSLのいずれかの設定が起動します。

ISDN接続を利用しており、YaSTで [チャンネルを束ねる] を選択した場合は、 [リンクを追加] を選択して、2番目のISDNチャンネルを既存の接続に追加します。これによって、(価格も高くなりますが)転送速度が倍になります。チャンネル構築は、大きなファイルをダウンロードする必要がある場合に有効にします。チャンネル構築が有効な場合、KInternetアイコンの左上にある赤のプラス記号でそれが示されます。

コンピュータに複数のネットワークデバイスが搭載されており、そのすべてをYaSTで設定した場合は、KInternetオプション [インタフェース] を選択して、こうしたインタフェースを切り替えることができます。この操作を行うには、適切なYaSTネットワークダイアログで、 [ユーザコントロール] デバイスの起動が選択されている必要があります。同様にプロバイダが複数ある場合は、KInternetの [プロバイダ] スイッチを使用してプロバイダを選択します。プロバイダは、YaSTでも設定できます。

インターネット接続を自動的に確立するには、「ダイヤルオンデマンド」(DoD)を使用できます。このモードを選択すると、要求を送信するとすぐ、KInternetが自動的にインターネットサービスプロバイダ(ISP)に接続します。一定のタイムアウト時間を経過すると、接続が終了します。DoD接続が行われていることは、KInternetアイコンの右下の青いDで示されます。

警告: 原価管理

定額のインターネットアカウントを持っている場合にしかDoDは意味がないことに注意してください。それ以外の場合は、接続や切断を繰り返すと、非常にコストがかかることがあります。

インターネットへの接続としてワイヤレスネットワークカードを使用するには、「Reference」で説明しているようにYaSTを使用してネットワークカードを設定し、YaSTでのデバイスの起動を確実に [ユーザコントロール] に設定します。インタフェースを設定すれば、KInternetを使ってワイヤレスネットワーク接続を制御することができます。

KInternetのWLAN機能にアクセスするには、アイコンを右クリックしてメニューを開きます。 [ワイヤレス接続] を選択すると、2つのタブを持つウィンドウが表示されます。最初に、接続先の適切なワイヤレスネットワークをスキャンします。 [Scan for Wireless Networks (ワイヤレスネットワークの検索)] タブを選択し、 [スキャンの開始] でスキャンを開始します。KInternetで継続的にネットワーク環境をスキャンする場合は、 [自動更新] も選択します。 [Acoustic Scan (音響スキャン)] で検出された接続ごとに、音響フィー

ドバックを有効にします。検出された接続はすべてリストウィンドウに表示されます。表示された接続のいずれかを選択し、**[接続]** をクリックすると、選択したネットワークに接続されます。選択したネットワークに接続するためにさらに設定作業を行う必要がある場合は、**[YaSTを起動します]** をクリックして、ワイヤレスネットワークデバイス用のYaSTネットワークモジュールを起動します。

[現在の接続] タブでは、現在のワイヤレス接続の状態を監視できます。このタブの左側のビューには、ネットワークアドレスおよびESSIDに関するすべての接続パラメータ、信号品質、信号と雑音レベル、チャンネル周波数と速度、および暗号化パラメータ(暗号化タイプ、キーの長さなど)の要約が表示されます。ツリー構造のこうしたパラメータを選択すれば、ウィンドウの右側の部分に表示される詳細を確認できます。

13.3 トラブルシューティング

接続に関する問題が発生する可能性があります。これらの問題の解決、防止方法は、使用ツールによって異なります。

13.3.1 KNetworkManager

KNetworkManagerに関する一般的な問題には、アプレットが起動しない、VPNオプションが表示されない、SCPMに関する問題などがあります。

NetworkManagerデスクトップアプレットが起動しない

ネットワークがNetworkManager制御に設定されている場合、KNetworkManagerアプレットは自動的に起動しなければなりません。アプレットが起動しない場合は、パッケージNetworkManager-kdeが正しくインストールされていることを確認してください。

デスクトップアプレットがインストールされているが、何らかの理由で実行していない場合(誤って終了した可能性がある)、手動で起動してください。アプレットを手動で起動するには、コマンドプロンプトから、`knetworkmanager` を実行してください。

NetworkManagerアプレットにVPNオプションが表示されない

NetworkManager、アプレット、およびNetworkManager用VPNサポートは、別のパッケージで配布されます。NetworkManagerアプレットにVPNオプションが表示されない場合は、VPNテクノロジーのNetworkManagerサポートのあるパッケージがインストールされているかどうかを確認します。

VPNサポートは、次のパッケージに含まれています。

- NovellVPN—パッケージNetworkManager-novellvpn
- OpenVPN—パッケージNetworkManager-openvpn
- vpnc (Cisco)—パッケージNetworkManager-vpns

SCPMで、ネットワーク設定が切り替わらない

SCPMをNetworkManagerとともに使用している可能性があります。現在、NetworkManagerでは、SCPMプロファイルを処理できません。SCPMもネットワーク設定を変更する場合、NetworkManagerをSCPMとともに使用しないでください。SCPMとNetworkManagerを同時に使用する場合は、SCPM設定でネットワークリソースを無効にします。

13.3.2 KInternet

KInternetに関する問題には、アプレットが起動しない、一部のデバイスが表示されないなどがあります。

KInternetデスクトップアプレットが起動しない

KInternetが自動的に起動しない場合、最初にkinternetパッケージがインストールされていることを確認します。KInternetがインストールされているが、何らかの理由で実行していない場合は、手動で起動します。手動で起動するには、コマンドプロンプトからkinternetを実行します。

KInternetにデバイスが表示されない

デフォルトでは、KInternetには設定済みのモデムのみが表示されます。ネットワークインタフェースをKInternetで有効化するには、適切なYaSTネットワークダイアログで [ユーザ管理] デバイスを有効にしてください。

14

Konquerorを使ったブラウザ

Konquerorは、多目的のファイルマネージャであるだけではありません。これは新しいタイプのWebブラウザでもあります。パネルの [ウェブブラウザ] アイコン(地球の周囲に歯車が付いている形)をクリックすると、KonquerorはWebブラウザプロファイルを使ってブラウザとして起動されます。ブラウザとしてのKonquerorは、タブブラウザ、画像を含むWebページの保存、インターネットキーワード、およびブックマークの機能を提供し、JavaとJavaScriptをサポートします。

14.1 Konquerorのブラウザウィンドウ



Konquerorは、メインメニューから起動するか、コマンドラインでkonquerorコマンドを入力して起動します。Webページをロードするには、場所ツールバーにそのアドレス(<http://www.suse.com>など)を入力します。Konquerorはこのアドレスにアクセスして、ページを表示しようと試みます。アドレスの先頭にプロトコル(この場合は<http://>)を入力することは必須ではありません。アドレスをプログラムで自動的に完成させることができますが、これが確実に機能するのはWebアドレスの場合だけです。FTPアドレスについては、入力フィールドの先頭に必ず<ftp://>と入力する必要があります。

14.1 タブブラウズ

一度に複数のWebページを使用することがよくある場合は、タブブラウズ機能を使用すると、ページの切り替えが容易になります。この機能は、複数のWebサイトを1つのウィンドウ内の個別のタブにロードします。これにより、デスクトップ上に1つのメインウィンドウだけが表示されるので、デスクトップを管理しやすくなります。ログアウト後は、KDEのセッション管理によっ

て、KonquerorにWebセッションを保存できます。次回のログイン時に、最後にアクセスしたURLがロードされます。

新しいタブを開くには、[ウィンドウ] > [新しいタブ] を選択するか、Ctrl+Shift+Nキーを押します。タブの動作を設定するには、[設定] > [Konquerorを設定] の順に選択します。表示されるダイアログボックスで、[Web動作] > [タブブラウズ] の順に選択します。ウィンドウを開く代わりに新しいタブを開くには、[リンクは新しいウィンドウではなく、新規タブで開く] を有効にします。[一つのタブしかオープンしていない場合、タブバーを非表示にする] を使用して、タブバーを非表示にすることもできます。他のオプションを表示するには、[詳細オプション] をクリックします。

14.2 [自動スクロール]

通常は、Webページの下方の情報を表示するには、マウスを使用してスクロールするのが一般的な方法です。ただし、マウスを使わない方が適している場合もあります。キーボードから手を離す代わりに、キーの組み合わせを使用した方が便利です。

自動的に下方向にスクロールするには、Shift+↓キーを使用します。こうすると、それ以上の操作を行わなくてもページが下方向にスクロールします。もう一度Shift+↓キーを押すと、スクロールの速度が速くなります。Shift+↑キーを押すと、速度が遅くなります。スクロールを停止するには、↓キーを使用します。

14.3 [プロファイル]

14.1項「タブブラウズ」(228ページ)では、Konquerorでのタブの処理方法について説明しました。タブをURLおよびウィンドウの位置とともにプロファイルに保存できます。これは、既に説明したセッション管理とは異なります。プロファイルを使用すると、保存したタブを手元に置くことができるため、セッション管理のように起動時だけではなく、いつでもタブを復元できます。

プロファイルを作成するには、次の手順に従います。

- 1 [設定] > [ビューのプロファイルを設定] の順に選択します。

- 2 表示されるダイアログボックス内で、`[プロファイル名]` に名前を挿入します。
- 3 URLを保存するには、`[プロファイルにURLを保存]` を選択します。
- 4 ウィンドウの位置およびサイズを固定するには、`[Save window size in profile]` を選択します。
- 5 `[保存]` をクリックします。

次回「タブコレクション」が必要になったときに、`[設定] > [ビューのプロファイルを読み込み]` を選択すると、指定したプロファイル名がメニューに表示されます。名前を選択すると、タブが復元されます。

14.4 Webページと画像の保存

Konquerorでは、他のブラウザと同様にWebページを保存できます。これには、`[場所] > [名前を付けて保存]` を選択し、HTMLファイルの名前を指定します。ただし、イメージは保存されません。イメージを含むWebページ全体をアーカイブするには、`[ツール] > [WEBページをアーカイブに]` を選択します。Konquerorは、ユーザが通常そのまま使用できるようなファイル名を提案します。ファイル名は、Webアーカイブを示す拡張子`.war`が末尾に付きます。保存したWebアーカイブを後で表示する場合は、ファイルをクリックするだけで、Konquerorにイメージとともに表示されます。

14.5 Konquerorによる検索

Konquerorを使用した検索は、非常に便利です。検索バーまたはWebショートカットを使用できます。

14.5.1 検索バーの使用

Konquerorには検索バーがあり、多くの検索エンジンから選択できます。特定の用語を検索する場合は、次の手順に従います。

- 1 Konquerorを起動します。

- 2 検索バーを探します。場所ツールバーの右側にあります。
- 3 検索バー内のアイコンをクリックします。ポップアップメニューから検索エンジンを選択します。
- 4 検索する用語を挿入し、<Enter>キーを押します。Konqueror内に結果が表示されます。

ポップアップメニューに表示されない検索エンジンを使用する場合は、次のようにして追加します。

手順 14.1 その他の検索エンジンの追加

- 1 Konquerorを起動します。
- 2 検索バー内のアイコンをクリックします。
- 3 *[Select Search Engines]* を選択します。
- 4 *[Enable Web shortcuts]* が有効になっていることを確認します。
- 5 該当する検索エンジンを有効にし、*[Ok]* をクリックしてダイアログボックスを閉じます。検索バー内のアイコンをクリックすると、選択した検索エンジンが表示されます。

14.5.2 Webショートカットの使用

定義されている各検索エンジンには、Webショートカットが添付されています。このショートカットは、場所ツールバーに入力できます。

定義済みのショートカットを確認するには、*[設定]* > *[Konquerorを設定]* > *[Webショートカット]* を選択します。検索プロバイダとショートカットの名前が表示されます。Konquerorには、Google、Yahoo、Lycosなどの検索エンジンから、Acronym Database、インターネット映画データベース、KDEアプリケーション検索のような一般的にあまり使用されない検索エンジンまで、多数の検索エンジンが定義されています。

好みの検索エンジンがなければ、新しい検索エンジンを簡単に定義できます。たとえば、Novell Cool Solutions™で特定の記事を検索するには、通常は <http://www.novell.com/cool solutions> にアクセスして検索ページを

探し、クエリを入力します。これを簡素化するには、以下の手順に従ってください。

手順 14.2 Webショートカットの新規作成

- 1 検索バーに移動し、アイコンをクリックし、`[Select Search Engines]` を選択します。
- 2 `[Enable Web Shortcuts]` が有効になっていることを確認します。
- 3 `[New]` をクリックします。
- 4 Webショートカットを新規作成します。
 - 4a `[検索プロバイダ名]` でWebショートカットに名前を割り当てます。
 - 4b 検索URIを入力します。Shift + F1キーを押してフィールドをクリックすると、簡単なヘルプが表示されます。検索クエリは`\{@}`で指定されます。これがチャレンジによって正しい位置に挿入されます。Novell Cool Solutionsデータベースで検索するには、`http://search.novell.com/qfsearch/SearchServlet?sortbydate=true&noredirect=true&index=Cool+Solutions&query=\{@}`を使用します。
 - 4c `[URIショートカット]` に略語を入力します。複数の略語を入力する場合は、カンマで区切って入力します。
- 5 `[OK]` をクリックして、続行します。

ティップ: Konquerorを開かずに直接ショートカットを使用

Konquerorを開いてWebショートカットを入力する必要はありません。直接呼び出すこともできます。メインメニューから `[コマンドを実行]` を選択するか、Alt + F2キーを押します。ダイアログボックスが表示されたら、検索する用語と共にショートカットを入力します。

Webショートカット(ncなど)を作成した後で、これを場所ツールバーで使用できます。結果は現在のウィンドウに表示されます。

14.6 ブックマーク

頻繁にアクセスするサイトのURLアドレスを記憶してそのつど入力する代わりに、[ブックマーク]メニューを使用すると、これらのURLをブックマークとして保存できます。この方法で、Webページのアドレスのほか、ローカルディスク上のディレクトリをブックマークとして保存することもできます。

Konquerorで新しいブックマークを作成するには、[ブックマーク] > [ブックマークに追加]をクリックします。以前に追加したすべてのブックマークが、メニュー項目として示されます。さまざまな項目を見つけやすいように、ブックマークをテーマ別の階層構造に整理することをお勧めします。ブックマークの新しいサブグループを作成するには、[新規ブックマークフォルダ]を使用します。[ブックマーク] > [ブックマークを編集]を選択すると、ブックマークエディタが表示されます。このプログラムを使用すると、ブックマークを整理、変更、削除することができます。

Netscape、Mozilla、またはFirefoxもあわせて使用している場合、ブックマークを再度作成する必要はありません。ブックマークエディタで[ファイル] > [インポート] > [Netscapeのブックマークをインポート]の順に選択すると、NetscapeとMozillaのブックマークを最新のブックマークに統合できます。逆方向の統合も、[Netscapeへブックマークをエクスポート]を使用して実行できます。

ブックマークを変更するには、エントリを右クリックします。ポップアップメニューが示されるので、切り取り、コピー、削除などのアクションを選択します。変更が完了したら、[ファイル] > [保存]の順に選択して、ブックマークを保存します。名前またはリンクのみ変更する場合は、ブックマークツールバーでエントリを右クリックし、[プロパティ]を選択します。名前と場所を変更し、[Update (更新)]をクリックします。

ブックマークのリストを保存し、それに簡単にアクセスできるようにするには、ブックマークをKonquerorに表示します。[設定] > [ツールバー] > [ブックマークツールバー(Konqueror)]を選択してください。現在のKonquerorウィンドウに、ブックマークパネルが自動的に表示されます。

14.7 JavaとJavaScript

この2つの言語を混同しないでください。Javaは、Sun Microsystemsによるプラットフォームに依存しないオブジェクト指向のプログラミング言語です。Javaは通常、小さなプログラム(アプレット)に使用され、オンラインバンキング、チャット、ショッピングでインターネットを経由して実行されます。JavaScriptは、主に、メニューやその他の効果などのWebページのダイナミック構造化に使用されるインタプリタスクリプト言語です。

Konquerorでは、この2つの言語を有効または無効にできます。これはドメインごとに設定できるので、一部のホストにはアクセスを許可し、他のホストへのアクセスをブロックすることができます。JavaおよびJavaScriptは、セキュリティ上の理由で無効にすることがよくあります。ただし、正しく表示するためにJavaScriptが必要なWebページもあります。

14.8 Advertisement BlockerSR(広告ブロッカー)の使用

Webページの中には、わずらわしい広告が表示されるものもあります。Konquerorを使用すると、これらのウィンドウをブロックできます。次の手順に従います。

手順 14.3 わずらわしい広告のブロック

- 1 Konquerorを起動します。
- 2 [設定] > [Konquerorを設定] > [AdBlock Filter] の順にクリックします。
- 3 [Enable filters] を有効にします。
- 4 [挿入] をクリックします。
- 5 フィルタするWebページの表現を入力します。たとえば、次のような指定内容です。

```
http://www.example.com/*
```

こうすると、そのURLで始まるすべてがフィルタされます。

14.9 詳細情報

Konquerorでの作業中に不明な点や問題が発生した場合は、[ヘルプ]メニューからアクセスできる、アプリケーションのハンドブックを参照してください。KonquerorのWebページ(<http://www.konqueror.org>)を参照することもできます。



Firefoxを使用したブラウジング

15

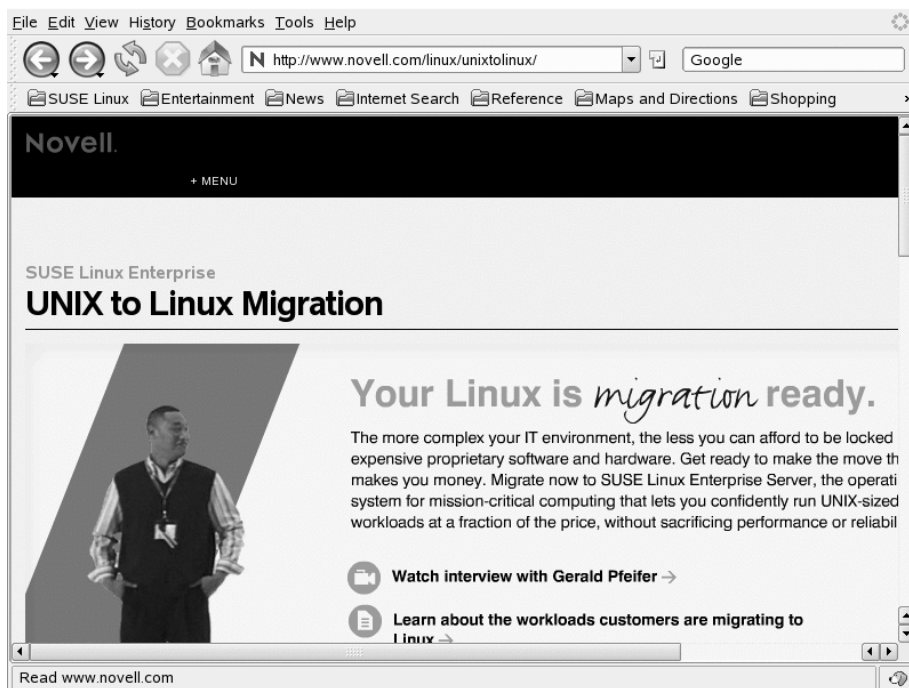
SUSE Linux Enterprise®には、Mozilla Firefox Webブラウザが付属しています。タブブラウズ、ポップアップウィンドウのブロック、ダウンロードとイメージ管理などの機能を備えたFirefoxは、最新のブラウズ機能とセキュリティ技術を使いやすいユーザインタフェースに統合しています。タブを使用して、1つの画面で複数のWebページを表示できます。迷惑な広告を抑制し、イメージを無効にして、高速でブラウズできます。複数の検索エンジンに簡単にアクセスできるので、必要な情報を探しやすくなっています。

Firefoxを起動するには、メインメニューから、またはコマンドfirefoxを入力します。以降では、このプログラムの主要な機能について説明します。

15.1 Webサイトのナビゲート

Firefoxのルックアンドフィールは他のブラウザととてもよく似ています。このツールを「[図 15.1. 「Firefoxのブラウザウィンドウ」 \(238 ページ\)](#)」に示します。ナビゲーションツールバーには、[\[進む\]](#)と[\[戻る\]](#)、およびWebアドレスを指定するためのロケーションバーがあります。素早くアクセスするために、ブックマークを使用することもできます。Firefoxのさまざまな機能についての詳細は、[\[ヘルプ\]](#)メニューを使用してください。

☒ 15.1 Firefoxのブラウザウィンドウ



15.1.1 タブブラウズ

一度に複数のWebページを表示することが多い場合、タブブラウズによってページを切り替えるのが容易になります。Webサイトを同じウィンドウの別のタブにロードできます。

新しいタブを開くには、[ファイル] > [新しいタブ] を選択するか、Ctrl + Tを押します。これにより、Firefoxウィンドウに空のタブが表示されます。代わりに、リンクを右クリックし、[Open link in new tab (リンクを新しいタブで開く)] を選択することもできます。タブそのものを右クリックすると、その他のタブオプションにアクセスできます。新しいタブを作成したり、1つのタブまたは残りのすべてのタブで再読み込みしたり、またはそれらを閉じたりできます。タグを目的の位置にドラッグアンドドロップして、タブのシーケンスを変更することもできます。

15.1.2 サイドバーの使用

ブラウザウィンドウの左側を使用して、ブックマークやブラウズ履歴を表示できます。拡張機能によって、サイドバーを使用するための新しい方法が追加されることがあります。サイドバーを表示するには、[表示] > [サイドバー]の順に選択し、目的のコンテンツを選択します。

15.2 情報の検索

Firefoxで情報を検索するには、検索バーを使用して検索エンジンでインターネットを検索する方法と、ページ内検索バーで現在表示されているページを検索する方法の2つがあります。

15.2.1 Web上での情報の検索

Firefoxには検索バーがあり、Google、Yahoo、Amazonなどのさまざまな検索エンジンにアクセスできます。たとえば、現在のエンジンでSUSEに関する情報を検索したい場合は、検索バー内をクリックしてから「SUSE」と入力し、Enterキーを押します。検索結果がウィンドウに表示されます。検索エンジンを選択するには、検索バーの左にあるアイコンをクリックします。メニューが開き、利用可能な検索エンジンのリストが表示されます。

検索バーのカスタマイズ

バーの検索エンジンの順序変更、追加、削除を行うには、インターネットに接続して以下の手順に従います。

- 1 検索バーの左にあるアイコンをクリックします。
- 2 メニューから、[検索バーの管理]を選択します。
- 3 エントリを削除するには [削除]、順序を変更するには [上へ/下へ] をクリックします。

検索エンジンを追加するには、[Get more search engines] をクリックします。Firefoxによって、Webページに使用可能なプラグインが表示され

ます。Wikipedia、IMDB、Flickrなど、さまざまなエンジンを選択することができます。プラグインリンクをクリックして、**[追加]**を選択してインストールします。

15.2.2 現在のページ内での検索

Webページ内を検索するには、**[編集]** > **[このページを検索]**の順にクリックするか、または**Ctrl+F**キーを押します。検索バーが表示されます。通常、このバーはウィンドウの一番下に表示されます。入力フィールドに、検索条件を入力します。Firefoxは、このフレーズと一致する最初の項目を検出します。このフレーズと一致するその他の項目を検索するには、**F3**キーを押すか、検索バーの**[次を検索]**ボタンをクリックします。一致するすべての項目を強調表示するには、**[すべて強調表示]**ボタンをクリックします。**[大文字小文字を区別する]**オプションを選択すると、検索で大文字と小文字が区別されます。

15.3 ブックマークの管理

ブックマークにより、お気に入りのWebサイトへのリンクを保存しておくことができます。現在のWebサイトをブックマークのリストへ追加するには、**[ブックマーク]** > **[このページをブックマーク]**の順にクリックします。ブラウザのタブに複数のWebサイトが表示されている場合は、現在選択されているタブだけが、ブックマークのリストへ追加されます。

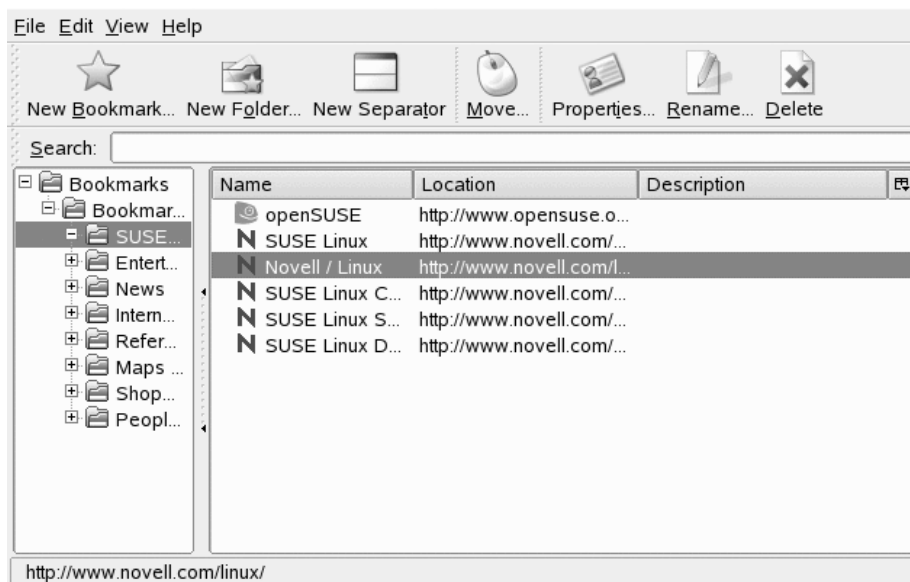
ブックマークを追加するときは、ブックマークの名前を新たに指定したり、Firefoxでの保存先フォルダを指定できます。Webサイトを複数のタブにブックマークとして追加するには、**[Bookmark All Tabs]**を選択します。Firefoxにより、各タブに表示される各サイトのブックマークを含む新しいフォルダが作成されます。ブックマークのリストからWebサイトを削除するには、**[ブックマーク]**をクリックし、リスト内で対象のブックマークを右クリックしてから**[削除]**をクリックします。

15.3.1 ブックマークの管理の使用

ブックマークの管理を使用すると、各ブックマークのプロパティ(名前とURL)を管理したり、ブックマークをフォルダやセクション内に分類したりできま

す。この機能は、「図 15.2. 「Firefoxにおけるブックマークの管理の使用」(241 ページ)」に示しています。

図 15.2 Firefoxにおけるブックマークの管理の使用



ブックマークの管理を開くには、[ブックマーク] > [ブックマークの管理]の順にクリックします。ウィンドウが開き、ブックマークが表示されます。

[New Folder (新しいフォルダ)] を使用すると、新しいフォルダを作成して、その名前と説明を指定できます。新しいブックマークを作成するには、[New Bookmark (新しいブックマーク)] をクリックします。これにより、ブックマークの名前、場所(URL)、キーワード、および説明を指定することができます。キーワードはブックマークへのショートカットで、URL全体の代わりとしてナビゲーションバーに入力できます。新しく作成したブックマークをサイドバー内に表示する場合は、[Load this bookmark in the sidebar (このブックマークをサイドバーに読み込む)] にチェックマークをつけます。

15.3.2 他のブラウザからのブックマークのインポート

今までに別のブラウザを使用していた場合、以前のブックマークをFirefoxでも使用したいはずです。Firefoxでは、システムにインストールされたNetscapeやOperaなどの別のブラウザからブックマークをインポートできます。また、別のコンピュータのブラウザからエクスポートされたファイルからブックマークをインポートすることもできます。

設定内容をインポートするには、[ファイル] > [インポート] の順にクリックします。設定内容をインポートする対象ブラウザを選択します。[次へ] をクリックすると、設定がインポートされます。インポート済みのブックマークは、新しく作成された「From (から)」のついた名前のフォルダ内にあります。

15.3.3 ライブブックマーク

ライブブックマークは、最新のニュースを確認できるように、ブックマークメニュー内に見出しを表示する機能です。これにより、お気に入りのサイトの情報をすぐに見ることができるので、時間を節約できます。

多くのサイトとブログは、この形式をサポートしています。このことは、Webサイトを表示した際に、場所ツールバーの右側にオレンジ色のアイコンで示されます。アイコンをクリックして、開いたページで [Subscribe now] を選択します。ダイアログボックスが表示されて、ライブブックマークの名前と場所を選択できます。[追加] をクリックして確認します。このページでは、BloglinesまたはMy Yahooなど、別のアプリケーションを購読するよう選択することも可能です。ライブブックマークを手動で追加するには、フィードのURLが必要です。次の手順に従います。

手順 15.1 手動によるライブブックマークの追加

- 1 [ブックマーク] > [ブックマークの管理] でブックマークマネージャを表示します。
- 2 [ファイル] > [新しいライブブックマーク] を選択します。

- 3 ライブブックマーク名を挿入し、`[FeedLocation]` (フィード場所)にURLを入力します(例:`http://www.novell.com/newsfeeds/rss/cool solutions.xml`)。Firefoxはライブブックマークを更新します。
- 4 ブックマークマネージャを閉じます。

15.3.4 ブックマークツールバー

ブックマークツールバーがナビゲーションバーの下に表示され、ブックマークにすぐにアクセスできます。ブックマークを直接追加、整理、編集することもできます。デフォルトでブックマークツールバーには、事前定義されたブックマークがいくつかのフォルダに分類されて登録されています(図 15.1. 「Firefoxのブラウザウィンドウ」 (238 ページ)を参照)。

ブックマークツールバーを管理するには、15.3.1項「ブックマークの管理の使用」(240 ページ)で説明したブックマークマネージャを使用できます。コンテンツはブックマークツールバーフォルダにあります。ツールバーを直接管理することもできます。フォルダ、ブックマーク、セパレータを追加するには、ツールバーの空白部分を右クリックして、ポップアップメニューから該当するエントリを選択します。現在のページをバーに追加するには、ドラッグアンドドロップを使用します。ナビゲーションバーのWebページのアイコンを左クリックして、マウスボタンを押したままブックマークツールバーの該当する場所にドラッグします。既存のブックマークフォルダ上にマウスカーソルを置くと、自動的にフォルダが開き、このフォルダにブックマークを配置できます。

特定のフォルダまたはブックマークを管理するには、右クリックします。ポップアップメニューが開き、削除したりプロパティを変更できます。エントリを移動またはコピーするには、`[Cut]` または `[コピー]` を選択して目的の場所に貼り付けます。

15.4 ダウンロードマネージャの使用

ダウンロードマネージャは、現在または以前のダウンロードの管理を容易にします。ダウンロードマネージャはファイルをダウンロードするたびに自動的に開きます。ダウンロードマネージャを手動で開くには、`[ツール]` > `[ダウンロード]` の順にクリックします。ファイルのダウンロード中、進行状況

バーにダウンロードのステータスが表示されます。必要に応じて、ダウンロードを中止し、後で再開することができます。ダウンロードしたファイルを開くには、**[開く]** をクリックします。**[削除]** を使用すると、リストからファイルを削除できます。ファイルについての情報が必要な場合は、ファイル名を右クリックし、**[プロパティ]** を選択します。

注意

ダウンロードマネージャからファイルを削除してもリストエントリが削除されるだけで、ファイルはハードディスクから削除されません。

デフォルトで、すべてのファイルはデスクトップにダウンロードされます。この動作を変更するには、**[編集]** > **[設定]** の **[Main]** タブから、ダウンロードマネージャの設定ウィンドウを開きます。**[Download]** エリアで、別のデフォルトの場所を選択するか、または **[Always ask me where to save files]** を選択します。

15.5 パスワード管理

ユーザ名とパスワードをWebサイトに入力するたびに、Firefoxではこのデータを保存するかどうか確認します。**[Remember]** をクリックすると、パスワードがハードディスクに暗号化された形式で保存されます。次回このサイトにアクセスすると、Firefoxは自動的にログインデータを入力します。

パスワードを確認または管理するには、**[編集]** > **[設定]** > **[セキュリティ]** > **[Show Passwords...]** をクリックしてパスワードマネージャを開きます。パスワードマネージャが開き、サイトのリストとそのユーザ名が表示されます。デフォルトで、パスワードは表示されません。パスワードを表示するには、**[Show Passwords]** をクリックします。リストから1つのエントリまたはエントリすべてを削除するには、**[Remove]** または **[Remove All]** をそれぞれ使用します。

GNOMEキーリングまたはKDE Walletを使用してその他のパスワードを保存している場合、SUSE Linux EnterpriseではCASA (Common Authentication Service Adapter)経由でFirefoxパスワードマネージャを使用してこれらを両方とも管理できます。CASAの使用方法および設定方法については、『GNOMEユーザガイド』または『KDEユーザガイド』を参照してください。

15.6 Firefoxのカスタマイズ

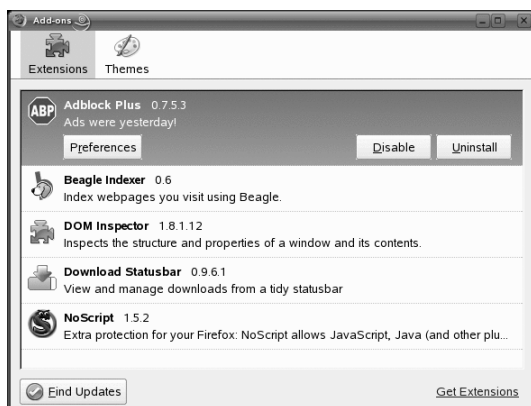
Firefoxは縦横にカスタマイズできます。拡張機能をインストール、テーマを変更、およびオンライン検索用のキーワードを追加することができます。

15.6.1 Extensions

拡張機能によって、Firefoxをニーズに合わせてパーソナライズできます。拡張機能を利用して、Firefoxのルックアンドフィールを変更し、既存の機能(ダウンロードマネージャやタブブラウズなど)を拡張したり、Webログエディタ、Bit Torrentサポート、音楽プレーヤーなどの機能を追加したりできます。Web開発者を支援する拡張機能や、アクティブコンテンツを動的にブロックしてセキュリティを強化する拡張機能もあります。Firefoxには1000を超える拡張機能があります。アドオンマネージャでは新しい拡張機能をインストールできるだけでなく、無効化、有効化、削除も可能です。インストールされた拡張機能のアップデートも検出します。

拡張機能を追加するには、[ツール] > [Add-ons] でアドオンマネージャを起動します。[Extensions] タブをクリックしてから、右下隅の [Get Extensions] をクリックしてFirefox拡張機能Webページを開き、カテゴリ別に拡張機能を参照します。<http://addons.mozilla.org/>に直接アクセスすることもできます。拡張機能をインストールするには、拡張機能を説明するページの [Install Now] リンクをクリックします。拡張機能を有効にするには、Firefoxを再起動する必要があります。

☒ 15.3 Firefox拡張機能のインストール



拡張機能を無効にするには、または一時的に無効にした拡張機能を有効にするには、アドオンマネージャで拡張機能をクリックして、**[無効化]** または **[有効化]** を選択します。拡張機能を完全に削除するには、**[削除]** を使用します。Firefoxでは、変更を反映させるには常に再起動が必要です。

15.6.2 テーマの変更

Firefoxの標準的なルックアンドフィールが気に入らない場合は、新しいテーマをインストールします。テーマを変更しても、ブラウザの外観が変わるだけで機能そのものに影響はありません。テーマのインストールの方法は、拡張機能のインストールに非常によく似ています。「15.6.1項 「Extensions」 (245 ページ)」の手順に従ってアドオンマネージャを起動し、**[テーマ]** タブをクリックします。右下隅の **[Get Themes]** をクリックして、テーマのWebページを開きます。の説明に従って、作業を行ってください。15.6.1項 「Extensions」 (245 ページ)

☒ 15.4 Firefoxテーマのインストール



[ツール] > [Add-ons] > [テーマ] [Use Theme] をクリックして、インストールしたテーマをいつでも切り替えられます。ただし、変更を反映させるにはFirefoxを再起動する必要があります。テーマを使用する予定がない場合は、同じダイアログで [アンインストール] を使用するとテーマを削除できます。

15.6.3 オンライン検索へのスマートキーワードの追加

インターネットでの検索は、ブラウザで実行できる主要なタスクの1つです。Firefoxでは、独自のスマートキーワードを定義することができます。スマートキーワードは、特定のWebサイトの検索のURLショートカットとして使用する省略形です。たとえば、Wikipedia内を検索することが多い場合、この検索にスマートキーワードを割り当て、このタスクを簡単にします。

- 1 を参照してください。 <http://en.wikipedia.org>
- 2 FirefoxでWebページが表示されたら、Wikipedia Webページ内の検索フィールドを右クリックして、開いたメニューから [Add a Keyword for this Search] を選択します。

- 3 [ブックマークに追加] ダイアログが表示されます。[Name] に、このスマートキーワードの名前を入力します。たとえば、*Wikipedia(en)* などです。
- 4 この検索のキーワードを入力します。たとえば、*ws* などです。
- 5 [Create in] で、このスマートキーワードを保存するブックマーク内の場所を選択します。
- 6 [追加] を使用して操作を完了します。

これで新しいキーワードが作成されました。Wikipediaを検索するときは、ナビゲーションバーに `ws SEARCHTERM` と入力します。

15.6.4 機能の無効化

特別な場合、たとえばSUSE Linux Enterpriseをインターネットターミナルとして使用する場合、ページの保存や印刷、ページソースの表示またはキャッシュの無効化など、特定の機能を無効にする(ロックダウン)ことが望ましいといえます。これはGConfシステムを使用して実現できます。詳細は、『GNOMEユーザガイド』の「GNOME Configuration for Administrators」を参照してください。

15.7 Firefoxからの印刷

Webページを実際に印刷する前に、印刷プレビュー機能を使用して印刷されたページの外観を制御できます。これには、[ファイル] > [印刷プレビュー] を選択します。[ファイル] > [Page Setup] で印刷出力をカスタマイズします。ページの向きと倍率を [Format & Options] で指定します。また、印刷をバックグラウンドで実行するかどうかを選択します。[Margins & Header/Footer] で、ページの余白を調整し、ページのヘッダとフッタをカスタマイズします。

Webページを印刷するには、[ファイル] > [Print] を選択するか、または `Ctrl + P` を押します。プリンタを選択して、プロパティを変更します。印刷範囲と印刷部数のほか、フレーム付きのWebページの印刷方法を指定できます。

15.8 MHTMLアーカイブを開く

Microsoft* WordおよびInternet ExplorerやOperaでは、Webページを1つのMHTMLファイルとして保存でき、これはWebアーカイブと呼ばれます。このようなアーカイブでは、Webページの表示に必要なすべてのリソースが1つのアーカイブファイルにまとめられ、オフラインで表示できます。デフォルトでは、MHTMLアーカイブはFirefoxでサポートされていません。パッケージmhtml-firefoxはすべてのユーザ向けにFirefox拡張機能MHTML Archive Readerをインストールし、MHTMLアーカイブ(末尾は.mhtまたは.mhtml)をデスクトップシエルのFirefoxにバインドします。

15.9 詳細情報

公式ホームページからFirefoxに関する情報は、<http://www.mozilla.com/firefox/>;で取得できます。特定のオプションや機能についての詳細は、Firefoxに統合されているヘルプ(F1で表示)を参照してください。



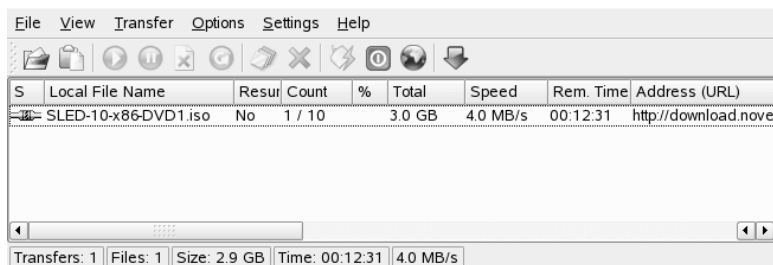
インターネットからのデータの転送

16

KGetは、KDEのダウンロードマネージャです。ウィンドウ内での転送を管理します。転送を停止、再開、削除、キューへの登録、および追加することができます。メインメニューからKGetを起動するか、Alt + F2キーを押して、kgetを入力します。

KGetを初めて起動する場合は、Konquerorとの統合を選択できます。KGetをKonquerorに統合すると、KGetが下向き矢印のアイコンとしてシステムトレイに追加されます。KGetの転送を表示するには、この矢印をクリックします。

☒ 16.1 KGet



16.1 リストへの転送の追加

転送を追加するには、[ファイル] > [貼り付け] の順にクリックします。URLを指定し、[OK] をクリックします。最後に、ダウンロードしたファイルの保存場所を選択します。転送のエントリがKGetのメインウィンドウに追加され、ダウンロードが開始されます。転送を追加するもう1つの方法は、単にファイル(FTPサーバからのファイルなど)をKonquerorからドラッグし、KGetのメインウィンドウにドロップする方法です。

ティップ: ドロップターゲットの使用

デスクトップのKGetウィンドウから毎回出ることなく、時折リストに転送を追加するには、[Settings] > [Show Drop Target] の順に選択して、KGetウィンドウを最小化します。これで転送を表示された青い矢印にドラッグアンドドロップできるようになります。

ダウンロードの環境設定を変更するには、[設定] > [KGetを設定] の順にクリックします。

16.2 ファイルからの転送の追加

複数のファイルを別の複数の場所からダウンロードするには、ダウンロードリンクをテキストファイルにまとめて、KGetにインポートできます。各URLをそれぞれ転送リストに追加しなくてもよいので、これは非常に便利です。KGetはテキストファイル内のURLを、ファイルの左側から解析します。この機能を使用するには、[File] > [Import Text File...] の順に選択します。各URLについて、ダウンロードしたファイルを保存する場所を指定する必要があります。この後、KGetはダウンロードを開始します。

16.3 タイマ制御の転送

特定の時刻に転送を実行するようにKGetを設定することができます。

- 1 KGetを起動します。

- 2 [オプション] > [オフラインモード] をクリックします。これ以降挿入されたすべての転送は、すぐに開始せず、キューに追加されます。
- 3 クロックを開始するには、エントリをダブルクリックしA [詳細] をクリックします。
- 4 転送を開始する日、月、年、および時刻を入力し、 [Timer] アイコンをクリックし、ダイアログボックスを閉じます。
- 5 すべての転送に対する必要な設定を終えたら、 [オプション] > [オフラインモード] の順にクリックしてKGetをオンラインモードに戻します。

転送は指定した時刻に開始します。

ティップ: 転送リストのエクスポート

ファイル転送リストに多数のダウンロードを追加し、このリストを別のコンピュータで使用する必要がある場合は、 [オプション] > [オフラインモード] の順に選択します。エクスポートするリストエントリを選択して、 [File] > [Export Transfer List] の順に選択します。KGetではエントリを*.kgtファイルに保存し、これを別のコンピュータにインポートできます。

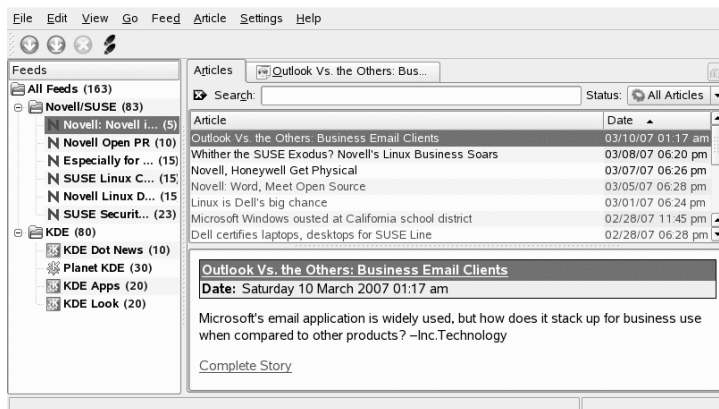


Akregatorでニュースフィード を読む

17

最新のニュースは、ニュースフィードリーダーから取得できます。Akregatorはリーダーの一種です。ニュースティックカーファイルを保管しているサーバに接続してそれらをダウンロードし、見出しや概要のテキストを表示します。参照先図17.1。「ニュースを表示しているAkregator」(255ページ)。特定のニュースに興味がある場合には、それをクリックすれば、個別のタブに表示されま

図17.1 ニュースを表示しているAkregator



Akregatorには、KDE用にあらかじめ定義されたニュースフィードが用意されています。ニュースフィードは手動で、またはそれを告知しているWebサイトから追加できます。たとえば、フィードをサポートしているWebサイトを表示すると、右下隅にオレンジ色の四角形が表示されます。それをクリックして、ポップアップメニューから `[Add Feed to Akregator]` を選択します。中

には、実際にはニュースフィードをサポートしているのに、そのことを通知していないWebサイトもあります。その場合には、そのサイト内をフィードやrssなどのキーワードで検索して見ることができます。ニュースフィードが見つかって、リンクを取得できることがあります。

ニュースフィードを追加するには、以下の手順に従ってください。

手順 17.1 Akregatorにニュースフィードを追加する

- 1 ニュースフィードのURLを確認します。通常、これはWebサイト上に記されています。詳しいリンクは、KDEパネルのアプレットであるKNewstickerツールで見つかります。
- 2 Alt + F2を押し、akregatorと入力して、Akregatorを起動します。設定済みのすべてのフィードのリストを含む、新しいウィンドウが表示されます。ウィンドウを閉じると、システムトレイに格納されます。
- 3 [Feed] > [New Folder] の順に選択して、新しいフォルダを作成します。ここで、フィードをカテゴリごとにグループ分けすることができます。
- 4 新しいフォルダに名前を付けます。
- 5 このフォルダをクリックして、[Feed] > [AddFeed] を選択します。
- 6 などのように、フィードのURLを入力します。http://www.novell.com/newsfeeds/rss/cool solutions.xml新しいウィンドウが表示されて、フィードの名前、URL、更新間隔を変更できます。[Feed Archive] タブでは、記事を保管する期間を変更できます。
- 7 [OK] をクリックして、続行します。Akregatorは最新の記事をダウンロードします。

最新の見出しのダウンロードが完了したら、エントリをクリックできます。フィードによっては、短い概要が記されていることもありますし、リンクだけのこともあります。[Complete Story] をクリックすれば、記事全体を読むことができます。

[FetchFeed] を選択すれば、新しいニュースを手動でチェックできます。他のオプションとして、更新期間を指定することができます。設定するには、[Settings] > [Configure Akregator] の順にクリックします。ウィンドウが表

示されるので、*[General]* > *[Use interval fetching]* の順に選択すれば、間隔を選択できます。*[Ok]* をクリックして、設定を確定してください。

記事全体は、Akregatorまたは外部ブラウザで読むことができます。*[Complete Story]* を右クリックすれば、選択することができます。



パート IV. マルチメディア



Manipulating Graphics with The GIMP

18

The GIMP (*The GNU Image Manipulation Program*) is a program for creating and editing raster graphics. In most aspects, its features are comparable to those of Adobe Photoshop and other commercial programs. Use it to resize and retouch photographs, design graphics for Web pages, create covers for your custom CDs, or almost any other graphics project. It meets the needs of both amateurs and professionals.

Like many other Linux programs, The GIMP is developed as a cooperative effort of developers worldwide who volunteer their time and code to the project. The program is under constant development, so the version included in your system may vary slightly from the version discussed here. The layout of the individual windows and window sections is especially likely to vary.

The GIMP is an extremely complex program. Only a small range of features, tools, and menu items are discussed in this chapter. See 18.7項 「For More Information」 (276 ページ) for ideas of where to find more information about the program.

18.1 Graphics Formats

There are two main types of graphics—raster and vector. The GIMP is intended for working with raster graphics, which is the normal format for photographs and scanned images. Raster graphics consist of pixels—small blocks of color that together create the entire image. The files can easily become quite large because of this. It is also not possible to increase the size of a pixel image without losing quality. The GIMP supports most common formats of raster graphics.

Unlike raster graphics, vector graphics do not store information for all individual pixels. Instead, it uses geometrical primitives such as points, lines, curves, and polygons. Vector images can be scaled very easily. There are many specialized applications for vector graphics, for example Inkscape. The GIMP has only a very limited support for vector graphics. For example, the GIMP can open and rasterize vector graphics in SVG format or work with vector paths.

18.2 Starting The GIMP

Start The GIMP from the main menu. Alternatively, enter `gimp &` in a command line.


18.2.1 Initial Configuration

When starting The GIMP for the first time, a configuration wizard opens for preparatory configuration. The default settings are acceptable for most purposes. Press *Continue* in each dialog unless you are familiar with the settings and prefer another setup.

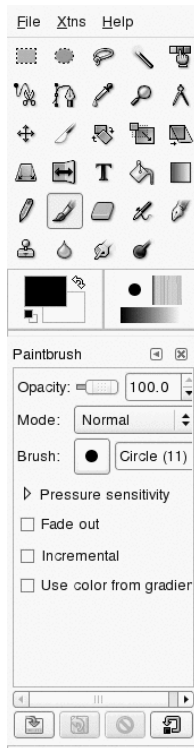
18.2.2 The Default Windows

Three windows appear by default. They can be arranged on the screen and, except the toolbox, closed if no longer needed. Closing the toolbox closes the application. In the default configuration, The GIMP saves your window layout when you exit. Dialogs left open reappear when you next start the program.

The Toolbox

The main window of The GIMP, shown in  18.1. 「The Main Window」 (263 ページ), contains the main controls of the application. Closing it exits the application. At the very top, the menu bar offers access to file functions, extensions, and help. Below that, find icons for the various tools. Hover the mouse over an icon to display information about it.

18.1 The Main Window



The current foreground and background color are shown in two overlapping boxes. The default colors are black for the foreground and white for the background. Click the box to open a color selection dialog. Swap the foreground and background color with the bent arrow symbol to the upper right of the boxes. Use the black and white symbol to the lower left to reset the colors to the default.

To the right, the current brush, pattern, and gradient are shown. Click the displayed one to access the selection dialog. The lower portion of the window allows configuration of various options for the current tool.

Under the toolbox, a dialog shows options for the currently selected tool. If it is not visible, open it by double-clicking the tool's icon in the toolbox.

Layers, Channels, Paths, Undo

In the first section, use the drop-down box to select the image to which the tabs refer. By clicking *Auto*, control whether the active image is chosen automatically. By default, *Auto* is enabled.

Layers shows the different layers in the current images and can be used to manipulate the layers. Information is available in 18.5.6項 「Layers」 (274 ページ). *Channels* shows and can manipulate the color channels of the image.

Paths are a vector-based method of selecting parts of an image. They can also be used for drawing. *Paths* shows the paths available for an image and provides access to path functions. *Undo* shows a limited history of modifications made to the current image. Its use is described in 18.5.5項 「Undoing Mistakes」 (274 ページ).

18.3 Getting Started

Although The GIMP can be a bit overwhelming for new users, most quickly find it easy to use once they work out a few basics. Crucial basic functions are creating, opening, and saving images.

18.3.1 Creating a New Image

To create a new image, select *File > New* or press Ctrl + N. This opens a dialog in which to make settings for the new image. If desired, select a predefined setting called a *Template*. To create a custom template, select *File > Dialogs > Templates* and use the controls offered by the window that opens.

In the *Image Size* section, set the size of the image to create in pixels or another unit. Click the unit to select another unit from the list of available units. The ratio between pixels and a unit is set in *Resolution*, which appears when the *Advanced Options* section is opened. A resolution of 72 pixels per inch corresponds to common screen display. It is sufficient for Web page graphics. A higher resolution should be used for images to print. For most printers, a resolution of 300 pixels per inch results in an acceptable quality.

In *Colorspace*, select whether the image should be in color (*RGB*) or *Grayscale*. For detailed information about image types, see 18.5.7項 「Image Modes」 (275 ページ). In *Fill With* select the color the image is filled with. You can choose between *Foreground Color* and *Background Color* set in the toolbox, *White* or *Transparency* for a transparent image. Transparency is represented by a gray checkerboard pattern. Enter a comment for the new image in *Comment*.

When the settings meet your needs, press *OK*. To restore the default settings, press *Reset*. Pressing *Cancel* aborts creation of a new image.

18.3.2 Opening an Existing Image

To open an existing image, select *File > Open* or press *Ctrl + O*. In the dialog that opens, select the desired file. You can also press *Ctrl + L* and type directly the path to the desired image. Then click *Open* to open the selected image or press *Cancel* to skip opening an image.

18.3.3 Scanning an Image

Instead of opening an existing image or creating a new one, you can scan one. To scan directly from The GIMP, make sure that the package *xsane* is installed. To open the scanning dialog, select *File > Acquire > XSane: Device dialog*.

Create a preview when the object to scan is smaller than the total scanning area. Press *Acquire preview* in the *Preview* dialog to create a preview. If you want to scan only part of the area, select the desired rectangular part with the mouse.

In the *xsane* dialog, select whether to scan a binary (black and white without shades of gray), grayscale, or color image and the required scan resolution. The higher the resolution you choose, the better the quality of the scanned image. However, this also results in a correspondingly larger file and longer scanning process, due to a higher resolution. The size of the final image (both in pixels and bytes) is shown in the lower part of the dialog.

In the *xsane* dialog, use the sliders to set desired gamma, brightness, and contrast values. These sliders are not available in binary mode. Changes are visible in the preview immediately. Once all settings have been made, click *Scan* to scan the image.

18.3.4 The Image Window

The new, opened, or scanned image appears in its own window. The menu bar in the top of the window provides access to all image functions. Alternatively, access the menu by right-clicking the image or clicking the small arrow button in the left corner of the rulers.

File offers the standard file options, such as *Save* and *Print*. *Close* closes the current image. *Quit* closes the entire application.

With the items in the *View* menu, control the display of the image and the image window. *New View* opens a second display window of the current image. Changes made in one view are reflected in all other views of that image. Alternate views are useful for magnifying a part of an image for manipulation while seeing the complete image in another view. Adjust the magnification level of the current window with *Zoom*. When *Shrink Wrap* is selected, the image window is resized to fit the current image display exactly.

18.4 Saving Images

No image function is as important as *File > Save*. It is better to save too often than too rarely. Use *File > Save as* to save the image with a new filename. It is a good idea to save image stages under different names or make backups in another directory so you can easily restore a previous state.

When saving for the first time or using *Save as*, a dialog opens in which to specify the filename and type. Enter the filename in the field at the top. For *Save in folder*, select the directory in which to save the file from a list of commonly used directories. To use a different directory or create a new one, open *Browse for other folders*. It is recommended to leave *Select File Type* set to *By Extension*. With that setting, The GIMP determines the file type based on the extension appended to the filename. The following file types are frequently useful:

XCF

This is the native format of the application. It saves all layer and path information along with the image itself. Even if you need an image in another format, it is usually a good idea to save a copy as XCF to simplify future modifications.

Information about layers is available in 18.5.6項 「Layers」 (274 ページ).

PAT

This is the format used for The GIMP patterns. Saving an image in this format enables using the image as a fill pattern in The GIMP.

JPEG

JPG or JPEG is a common format for photographs and Web page graphics without transparency. Its compression method enables reduction of file sizes, but information is lost when compressing. It may be a good idea to use the preview option when adjusting the compression level. Levels of 85% to 75% often result in an acceptable image quality with reasonable compression. Saving a backup in a lossless format, like XCF, is also recommended. If editing an image, save only the finished image as JPG. Repeatedly loading a JPG then saving can quickly result in poor image quality.

GIF

Although very popular in the past for graphics with transparency, GIF is less often used now because of license issues. GIF is also used for animated images. The format can only save *indexed* images. See 18.5.7頁 「Image Modes」 (275 へーじ) for information about indexed images. The file size can often be quite small if only a few colors are used.

PNG

With its support for transparency, lossless compression, free availability, and increasing browser support, PNG is replacing GIF as the preferred format for Web graphics with transparency. An added advantage is that PNG offers partial transparency, which is not offered by GIF. This enables smoother transitions from colored areas to transparent areas (*antialiasing*).

To save the image in the chosen format, press *Save*. To abort, press *Cancel*. If the image has features that cannot be saved in the chosen format, a dialog appears with choices for resolving the situation. Choosing *Export*, if offered, normally gives the desired results. A window then opens with the options of the format. Reasonable default values are provided.

18.5 Editing Images

The GIMP provides a number of tools for making changes to images. The functions described here are those most interesting for home users.

18.5.1 Changing the Image Size

Once an image is scanned or a digital photograph is loaded from the camera, it is often necessary to modify the size for display on a Web page or for printing. Images can easily be made smaller either by scaling them down or by cutting off parts of them. Making an image larger is much more problematic. Because of the nature of raster graphics, quality is lost when an image is made larger. It is recommended to keep a copy of your original image before scaling or cropping.

Cropping an Image

Cropping an image works like cutting the edges off a piece of paper. Select the crop tool from the toolbox (it resembles a scalpel) or with *Tools > Transform Tools > Crop & Resize*. Click a starting corner and drag to outline the area to keep.

A small window opens with information about the starting point and the size of the selected area. Adjust these values by clicking and dragging a corner of the crop box or by adjusting the values in the window. *From Selection* adjusts the crop to fit the current selection (selections are explained in 18.5.2 頁 「Selecting Parts of Images」 (269 ページ)). *Auto Shrink* makes the crop smaller based on color changes in the image.

Press *Cancel* to abort the crop. Press *Crop* to crop the image. The results of *Resize* are identical to those of *Change Canvas Size*, described in Changing the Canvas Size 頁 (269 ページ).

Scaling an Image

Select *Image > Scale Image* to change the overall size of an image. Select the new size by entering it in *Width* or *Height*. To change the proportions of the image when scaling (this distorts the image), click the chain icon to the right of the fields to break the link between them. When those fields are linked, all values are changed proportionately when the value in one of the fields is changed. Adjust the resolution with *X resolution* and *Y resolution*.

Interpolation is an expert option that controls the scale method. When finished adjusting the size, press *Scale* to scale the image. *Reset* restores the original values. *Cancel* aborts the procedure.

Changing the Canvas Size

Changing the canvas size is like putting a mat around an image. Even if the mat is smaller, the rest of the image is there, but you can only see part of it. If the mat is larger, you see the original image with extra space around it. To do this, select *Image > Canvas Size*.

In the dialog that opens, enter the new size. By default, the width and height maintain the same proportions as the current image. To change this, click the chain icon.

After adjusting the size, determine how the existing image should be positioned in comparison to the new size. Use the offset values or drag the box inside the frame at the bottom. When satisfied with the changes, click *Resize* to change the canvas size. Click *Reset* to restore the original values or *Cancel* to cancel the canvas resize.

18.5.2 Selecting Parts of Images

It is often useful to perform an image operation on only part of an image. To do this, the part of the image with which to work must be selected. Areas can be selected using the select tools available in the toolbox, using the quick mask, or combining different options. Selections can also be modified with the items under *Select*. The selection is outlined with a dashed line, called *marching ants*.

Using the Selection Tools

The main select tools are rather easy to use. The paths tool, which can also be used for more than selecting, is more complicated so is not described here. In the tool options for the other select tools, use one of the icons in the *Mode* row to determine whether the selection should replace, be added to, be subtracted from, or intersect with an existing selection.

Rect Select

This tool can be used to select rectangular or square areas. In the tool options, select among *Free Select*, *Fixed Size*, and *Fixed Aspect Ratio* to control the shape and size of the selection. To make a square selection in the free select mode, hold Shift while selecting a region.

Ellipse Select

Use this to select elliptical or circular areas. The same options are available as with rectangular selection. Holding Shift during selection produces a circle.

Free Select (Lasso)

Draw a selection area freehand with this tool by dragging the mouse over the image with the left mouse button pressed. The end points will be connected with a straight line when you release the tool. The area inside is then selected.

Fuzzy Select (Magic Wand)

This tool selects a continuous region based on color similarities. Set the maximum difference between colors in the tool options dialog in *Threshold*.

By Color Select

With this, select all the pixels in the image with the same or similar color as the clicked pixel. The maximum difference between colors can be set in the tool options dialog in *Threshold*.

Intelligent Scissors

Click a series of points in the image. As you click, the points are connected based on color differences. Click on the first point to close the area. Convert it to a regular selection by clicking inside it.

Using the Quick Mask

The quick mask is a way of selecting parts of an image using the paint tools. A good way to use it is to make a rough selection using the intelligent scissors or the lasso (freehand selection tool). Then activate the quick mask by pressing the small icon with the dashed box in the lower left corner.

The quick mask displays the selection using an overlay of red. Areas shaded with red are not selected. Areas appearing as they did before the mask was activated are selected. To modify the selection, use the paint tools. Painting with white selects the painted pixels. Painting with black deselects pixels. Shades of gray (colors are treated as shades of gray) are a partial selection. Partial selection allows smooth transitions between selected and unselected areas.

To use a different color for displaying the quick mask, right-click the quick mask button then select *Configure Color and Opacity* from the menu. Click the colored box in the dialog that opens to select a new color.

After using the paint tools to adjust the selection as desired, convert from the quick mask view back to the normal selection view by clicking the icon in the lower left corner of the image window (currently displaying a red box). The selection is again displayed with the marching ants.

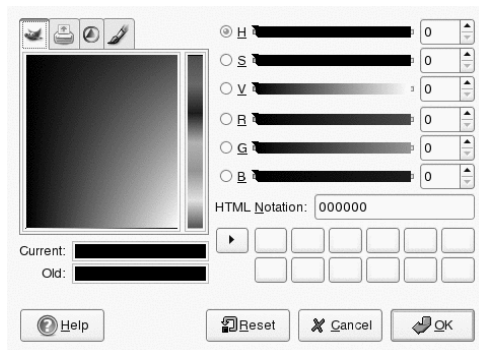
18.5.3 Applying and Removing Color

Most image editing involves applying or removing color. By selecting a part of the image, limit where color can be applied or removed. When you select a tool and move the cursor onto an image, the cursor's appearance changes to reflect the chosen tool. With many tools, an icon of the current tool is shown along with the arrow. For paint tools, an outline of the current brush is shown, allowing you to see exactly where you will be painting in the image and how large an area will be painted.

Selecting Colors

Paint tools use the foreground color. To select the color, first click the display box of the foreground color. A dialog with four tabs opens. These tabs provide different color selection methods. Only the first tab, shown in [Figure 18.2](#). 「The Basic Color Selector Dialog」 (271 ページ), is described here. The new color is shown in *Current*. The previous color is shown in *Old*.

[Figure 18.2](#) The Basic Color Selector Dialog



The easiest way to select a color is using the colored areas in the boxes to the left. In the narrow vertical bar, click a color similar to the desired color. The larger box to the

left then shows available nuances. Click the desired color. It is then shown in *Current*. If that color is not what you want, try again.

The arrow button to the right of *Current* enables saving a number of possible colors. Click the arrow to copy the current color to the history. A color can then be selected by clicking it in the history. A color can also be selected by directly entering its hexadecimal color code in *HTML Notation*.

The color selector defaults to selecting a color by hue, which is usually easiest for a new user. To select by saturation, value, red, green, or blue, select the corresponding radio button to the right. The sliders and number fields can also be used to modify the currently selected color. Experiment a bit to find out what works best for you.

When the desired color is shown in *Current*, click *OK*. To restore the original values shown when the dialog was opened, click *Reset*. To abort changing the color, click *Cancel*.

To select a color that already exists in your image, use the color picker tool, the icon for which resembles an eye dropper. With the tool options, set whether the foreground or background color should be selected. Then click a point in the image that shows the desired color. When the color is right, click *Close* to close the tool's dialog.

Painting and Erasing

To paint and erase, use the tools from the toolbox. There are a number of options available to fine-tune each tool. Pressure sensitivity options apply only when a pressure-sensitive graphics tablet is used.

The pencil, brush, airbrush, and eraser work much like their real-life equivalents. The ink tool works like a calligraphy pen. Paint by clicking and dragging. The bucket fill is a method of coloring areas of an image. It fills based on color boundaries in the image. Adjusting the threshold modifies its sensitivity to color changes.

Adding Text

With the text tool, easily add text to an image. With the tool options, select the desired font, font size, color, justification, indent, and line spacing. Then click a starting point in the image. A small dialog opens in which to enter your text. Enter single or multiple lines of text then press *Close*.

The text tool creates text on a special layer. To work with the image after adding text, read 18.5.6項 「Layers」 (274 ページ). When the text layer is active, it is possible to modify the text by clicking in the image to reopen the entry dialog. Change the settings by modifying the tool options.

Retouching Images—The Clone Tool

The clone tool is ideal for retouching images. It enables you to paint in an image using information from another part of the image. If desired, it can instead take information from a pattern.

When retouching, it is usually a good idea to use a small brush with soft edges. In this way, the modifications can blend better with the original image.

To select the source point in the image, press and hold Ctrl while clicking the desired source point. Then paint with the tool as usual. When you move the cursor while painting, the source point, marked by a cross, moves as well. If the *Alignment* is set to *Non Aligned* (the default setting), the source resets to the original when you release the left mouse button.

18.5.4 Adjusting Color Levels

Images often need a little adjusting to get ideal print or display results. In many programs designed for inexperienced users, the brightness and contrast levels are modified. This can work and is also available in The GIMP, but better results can be obtained by adjusting the color levels.

To do this, select *Layer > Colors > Levels*. A dialog opens for controlling the levels in the image. Good results can usually be obtained by clicking *Auto*. To make manual adjustments to all channels, use the dropper tools in *All Channels* to pick areas in the image that should be black, neutral gray, and white.

To modify a channel individually, select the desired channel in *Channel*. Then drag the black, white, and middle markers in the slider in *Input Levels*. Alternatively, use the dropper tools to select points in the image that should serve as the white, black, and gray points for that channel.

If *Preview* is checked, the image window shows a preview of how the image would look with the modifications applied. When the desired result is achieved, press *OK* to

apply the changes. With *Reset*, restore the original settings. *Cancel* aborts level adjustment.

18.5.5 Undoing Mistakes

Most modifications made in The GIMP can be undone. To view a history of modifications, use the undo dialog included in the default window layout or open one from the toolbox menu with *File > Dialogs > Undo History*.

The dialog shows a base image and a series of editing changes that can be undone. Use the buttons to undo and redo changes. In this way, you can work back to the base image. If you undo a modification then make a new one, the undone modification cannot be redone.

Changes can also be undone and redone with the *Edit* menu. Alternatively, use the shortcuts Ctrl + Z and Ctrl + Y.

18.5.6 Layers

Layers are a very important aspect of The GIMP. By drawing parts of your image on separate layers, change, move, or delete those parts without damaging the rest of the image. To understand how layers work, imagine an image created from a stack of transparent sheets. Different parts of the image are drawn on different sheets. The stack can be rearranged, changing which parts are on top. Individual layers or groups of layers can shift position, moving sections of the image to other locations. New sheets can be added and others set aside.

Use the *Layers* dialog to view the available layers of an image. The text tool automatically creates special text layers when used. The active layer is highlighted. The buttons at the bottom of the dialog offer a number of functions. More are available in the menu opened when a layer is right-clicked in the dialog. The two icon spaces before the image name are used for toggling image visibility (eye icon when visible) and for linking layers. Linked layers are marked with the chain icon and moved as a group.

Only layers with transparency (an alpha channel) can be placed above other layers in a stack. To add this to a layer, right-click and select it from the menu.

18.5.7 Image Modes

The GIMP has three image modes—RGB, Grayscale, and Indexed. RGB is a normal color mode and is the best mode for editing most images. Grayscale is used for black-and-white images. Indexed limits the colors in the image to a set number. It is mainly used for GIF images. If you need an indexed image, it is normally best to edit the image in RGB then convert to indexed right before saving. If you save to a format that requires an indexed image, The GIMP offers to index the image when saving.

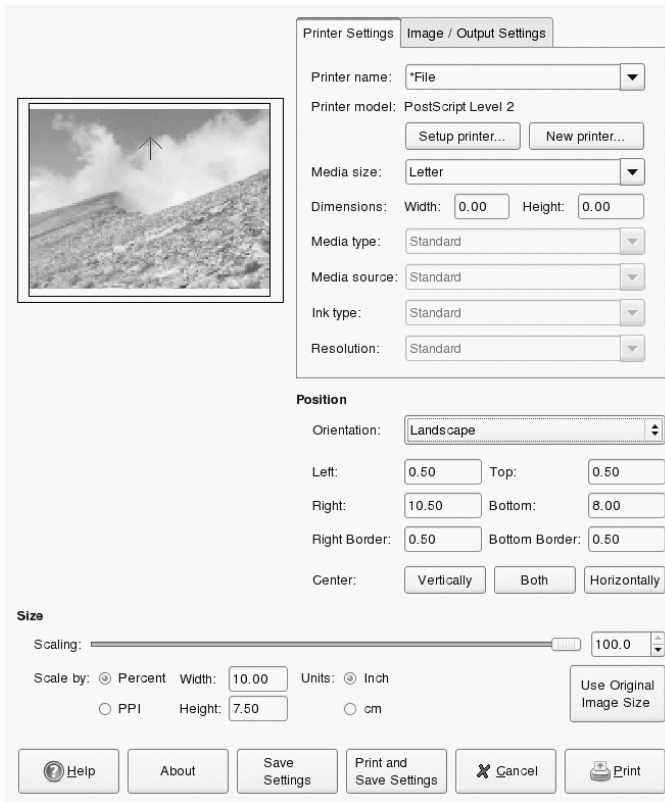
18.5.8 Special Effects

The GIMP includes a wide range of filters and scripts for enhancing images, adding special effects to them or making artistic manipulations. They are available in *Filters* and *Script-fu*. Experimenting is the best way to find out what is available. *Xtns* in the toolbox includes a number of items for creating buttons, logos, and other things.

18.6 Printing Images

To print an image, select *File > Print* from the image menu. If your printer is configured in the system, it should appear in the list. In some cases, it may be necessary to select an appropriate driver with *Setup Printer*. Select the appropriate paper size with *Media Size* and the type in *Media Type*. Other settings are available in the *Image / Output Settings* tab.

☒ 18.3 The Print Dialog



In the bottom portion of the window, adjust the image size. Press *Use Original Image Size* to take these settings from the image itself. This is recommended if you set an appropriate print size and resolution in the image. Adjust the image's position on the page with the fields in *Position* or by dragging the image in *Preview*.

When satisfied with the settings, press *Print*. To save the settings for future use, instead use *Print and Save Settings*. *Cancel* aborts printing.

18.7 For More Information

The following resources are useful for users of The GIMP, even if some of them apply to older versions.

- *Help* provides access to the internal help system. This documentation is also available in HTML and PDF formats at <http://docs.gimp.org>.
- Find many tutorials explaining basic or advanced image manipulation techniques with The GIMP at <http://gimp.org/tutorials/>.
- The GIMP User Group offers an informative Web site at <http://gug.sunsite.dk>.
- <http://www.gimp.org> is the official home page of The GIMP.
- *Grokking the GIMP* by Carey Bunks is an excellent book based on an older version of The GIMP. Although some aspects of the program have changed, it can provide excellent guidance for image manipulation. An online version is available at <http://gug.sunsite.dk/docs/Grokking-the-GIMP-v1.0/>.



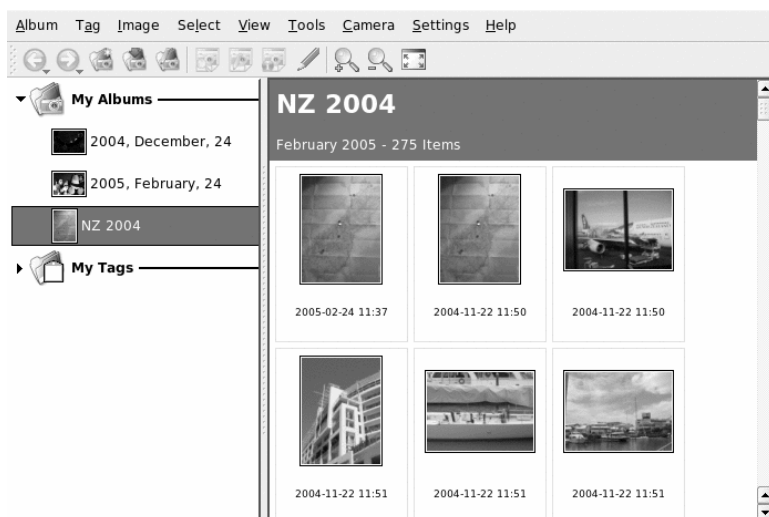
デジタル画像コレクションの管理

19

Linuxでのデジタル写真の管理は簡単です。KDEのdigiKamを利用すれば、カメラから直接画像をダウンロードすることができます。また、画像を整理したり、他人に見せるために編集することもできます。このアプリケーションには、画像をさまざまな形式に変換できる複数のプラグインが含まれています。画像改善プラグインには、赤目補正、汚れ除去、ホットピクセル除去などの機能も含まれています。また、さまざまなフィルタ/効果用プラグインにより、デジタル画像から簡単に芸術作品を作成することができます。

メインメニューからdigiKamを起動するか、**Alt + F2**キーを押してdigikamと入力します。digiKamを起動すると、ウィンドウが表示されます。このウィンドウの左側には、アルバムの一覧が、右側には現在選択されているアルバムの画像が表示されます。参照先 図 19.1. 「digiKamのメインウィンドウ」 (280 ページ). ウィンドウの右端には、*[Tag Filter]* (タグフィルタ)が用意されています。これを利用すれば、タグ情報を使ってメインビューに表示する画像をフィルタリングすることができます。digiKamでのタグの使用方法については、「19.5項 「タグの管理」 (284 ページ)」を参照してください。

☒ 19.1 digiKamのメインウィンドウ



19.1 カメラの設定

デジタルカメラから画像をダウンロードするには、カメラに付属のUSBケーブルを使って、コンピュータのUSBポートにカメラを接続してください。カメラの種類によっては、カメラをデータ転送モードに切り替える必要があるものもあります。詳細は、カメラのマニュアルを参照してください。

カメラにある写真にアクセスするには3つの方法があります。幅広く使われているプロトコルには、USBマスタストレージやPTP (PictBridge)などがあります。カメラの種類によっては、これらのプロトコルを利用できず、gphotoが提供する特殊なドライバが必要なこともあります(19.10項「トラブルシューティング」(299ページ))。

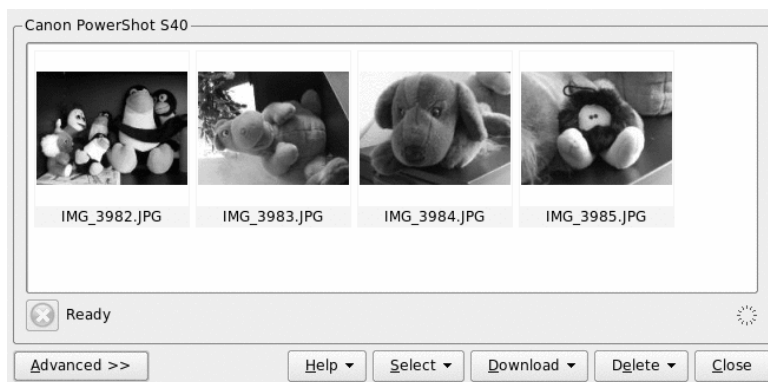
ご使用のカメラがUSB大容量ストレージデバイスに切り替えることができる場合、このオプションを選択してください。コンピュータのUSBポートにカメラを接続して、カメラをオンにしたら、そのUSBデバイスが自動的に検出されてマウントされます。KDEでは、このようなデバイスがマウントされた時に行う操作を選択することができます。この種類のデバイスのマウント時には、常にdigiKamまたは他の画像表示/処理アプリケーションを起動するように設定できます。

digiKam内でカメラを設定するには、[カメラ] > [Add Camera (カメラの追加)] の順に選択します。最初に、[Auto-Detect] を使用して、カメラの自動検出を試みます。この方法が失敗した場合、[追加] を使用してサポートするカメラのリストを参照し、使用中のモデルを探します。使用中のカメラモデルがこのリスト内にはない場合は、それより古いモデルを試してみます。または [USB/IEEE mass storage camera (USB/IEEE 大容量ストレージカメラ)] を選択して、[OK] をクリックします。

19.2 カメラからの写真ダウンロード

正しく設定されたカメラから画像をダウンロードするには、コンピュータにカメラを接続して、[Camera] メニューからカメラを選択します。digiKamはウィンドウを開き、サムネイルのダウンロードを開始し、図19.2. 「カメラからの写真のダウンロード」 (281 ページ) のようにサムネイルを表示します。1つのイメージを右クリックしてポップアップメニューを開きます。メニューには [表示]、[プロパティ] および [EXIF Information (EXIF情報)] の表示、[ダウンロード] または [削除] のオプションが表示されます。[Rename] (名前の変更) オプションを使って画像ファイルの名前を変更したり、カメラが提供するEXIFデータの処理方法を指定するには、ダウンロードウィンドウの下部にある [Advanced] を選択します。

図 19.2 カメラからの写真のダウンロード



ティップ: 画像の名前の変更

カメラの画像ファイル名がわかりにくい場合は、わかりやすい名前に画像名を変更すると役立ちます。一意のプリフィックスと、必要に応じて日付を指定すれば、デジカムがそれに一連のシーケンス番号を付けたファイル名を作成します。

左マウスボタンをクリックするか、Ctrlキーを押しながら個別の画像をクリックすることにより、ダウンロードする画像を選択します。[Download] をクリックしてリストから場所を選択するか、または [New Album] で新しいアルバムを作成すると、現在の日付を入れたファイル名が自動的に表示されます。[OK] をクリックすると、ダウンロードプロセスが開始されます。

19.3 情報の取得

画像に関する情報を表示する場合は、画像の上にカーソルを移動するとツールヒントに画像の基本データが表示されます。画像を右クリックして [Properties] (真プロパティ) を選択し、画像に関する情報を表示することもできます。

利用できるオプションを次に示します。

一般

このタブには、名前、日付、サイズ、所有者、およびパーミッションなどの基本情報、および画像のあるアルバム名、この画像に割り当てられているタグや評価などの基本的なアルバム情報が表示されます。

EXIF

EXIF情報はカメラが提供する情報で、カメラのメーカー、型番、露光時間、解像度など、カメラや画像に関する技術情報が含まれています。基本情報を表示する場合は、[Level of detail] に [Simple] を設定します。すべてのデータを設定する場合は、[Full] を選択してください。

ヒストグラム

画像の明るい部分から暗い部分まで、画像のトーンをグラフィカルに表示するには、[Histogram] (ヒストグラム) タブを使用します。ヒストグラムを使って、この画像が適切な露光で撮影されたかどうかを確認することができます。

19.4 アルバムの管理

digikamのデフォルトでは、画像を保存するために*My Albums*フォルダを作成します。ここに保存された画像は、後でサブフォルダに移動できます。アルバムは、ディレクトリレイアウトごと、アルバムプロパティに設定されたコレクション名ごと、アルバムが最初に作成された日付(この日付は各アルバムのプロパティ内でも変更できます)ごとに保存できます。

新しいアルバムを作成するには、次のいずれかの方法を使用してください。

- カメラから新しい画像をアップロードして、ダウンロード時にターゲットアルバムを作成する。
- ツールバーにある *[New Album(新しいアルバム)]* ボタンをクリックして、新しいアルバムを作成する。
- ハードディスクから画像が保存されている既存のフォルダをインポートする(*[アルバム]* > *[インポート]* > *[Import Folders(フォルダインポート)]* の順に選択)。
- *[My Albums]* を右クリックして、 *[New Album]* を選択する。

新しくアルバムを作成することを選択したら、アルバムのタイトルなど、アルバムを管理するための基本的な情報を指定してください。オプションで、コレクションの選択、コメントの挿入、アルバムの日付の選択ができます。コレクションは一般的なラベルごとにアルバムを構成する1つの方法です。このラベルは、 *[表示する]* > *[アルバム]* > *[By Collection(コレクションごと)]* の順に選択した場合に使用されます。コメントはメインウィンドウの最上部のバナーに表示されます。アルバムの日付は、 *[表示する]* > *[アルバム]* > *[By Date(日付ごと)]* の順に選択した場合に使用されます。

digikamは、アルバム内の最初の写真を *[My Albums(マイアルバム)]* リストのプレビューアイコンとして使用します。異なる写真を選択するには、任意の写真を右クリックし、コンテキストメニューから *[Set as Album Thumbnail(アルバムサムネイルとして設定)]* を選択します。

19.5 タグの管理

複数のアルバム間にまたがって、多数の画像を管理する作業はとても大変です。カスタムカテゴリを使って、複数のアルバム間にまたがって画像を管理するために、**digiKam**には *[My Tag]* 機能が用意されています。タグは、画像を分類するために利用されます。1枚の画像に複数のタグを割り当てることができます。

たとえば、友達のJoeのいろいろな写真を撮影して、それを複数のアルバムに保管している場合を考えてみましょう。ここで、Joeを撮影したすべての写真の概要を簡単に作成する方法はないでしょうか?このような場合に、**digiKam**のタグを使用して、次の作業を行います。

- 1 上部のメニューバーから *[Tag]* > *[New Tag]* の順に選択して、新しいタグ名を入力します(この例ではJoe)。必要に応じてアイコンを指定し、*[OK]* を選択してダイアログを閉じます。
- 2 各アルバムを開いて、Joeが写っているすべての画像に対してこのタグを割り当てます。タグを割り当てするには、画像を右クリックして *[Assign Tag]* > *[Joe]* の順に選択します。

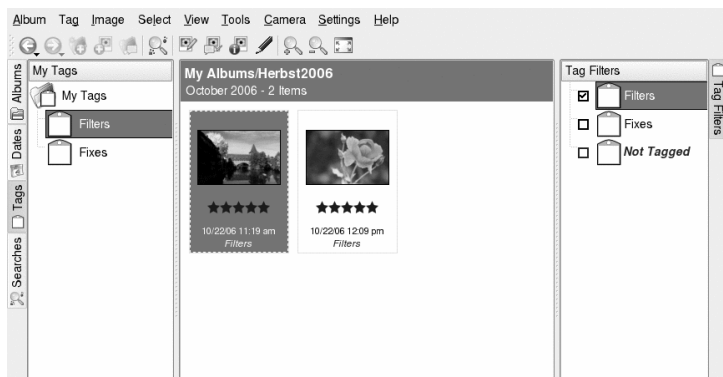
大量の画像にタグを付ける必要がある場合は、画像を右クリックして表示されるコンテキストメニューの *[Edit Comments & Tags]* オプションが役立ちます。表示されるダイアログでは、タグを割り当てたり、説明を入力したり、画像の評価を指定することができます。最初の画像に対してこれらの項目を設定したら、このダイアログを表示したまま *[Forward]* をクリックすると、アルバム内の他の画像が表示されます。これを利用すれば、アルバム内のすべての画像に対して作業を行えます。作業が完了したら、*[適用]*、および *[OK]* をクリックすると、設定内容が反映されます。他のアルバム内の画像に対しても、同様の作業を行ってください。

コレクション全体から、特定のタグを持つすべての画像を抽出するには、以下の手順に従ってください(この例では「Joe」)。

- 1 左側のタブバーから、*[Tags]* タブを開きます。
- 2 *[My Tag]* を開きます。
- 3 *[Joe]* タグを選択します。

選択したタグを持つ、コレクション内のすべての画像が表示されます。

図 19.3 タグ付き画像のみの表示



メインウィンドウの一番右端にある [Tag Filter] を利用すれば、現在のアルバム中の画像表示を、ここで選択したタグを持つ画像のみに限定することができます。

19.6 強力な検索フィルタの作成

目的の画像を素早く簡単に探し出す手段がなければ、画像コレクションはいずれ管理不可能な状態になってしまいます。コレクションの管理を支援するために、digiKamには2種類の検索オプションが用意されています。

単純な検索

基本的な検索機能です。画像に関連する文字列(画像名、タグ名、またはコメントなど)を入力して、[OK] をクリックします。今後も使用するためにこの検索を保存したり、[My Searches] に表示されている既存の検索内容を編集することができます。

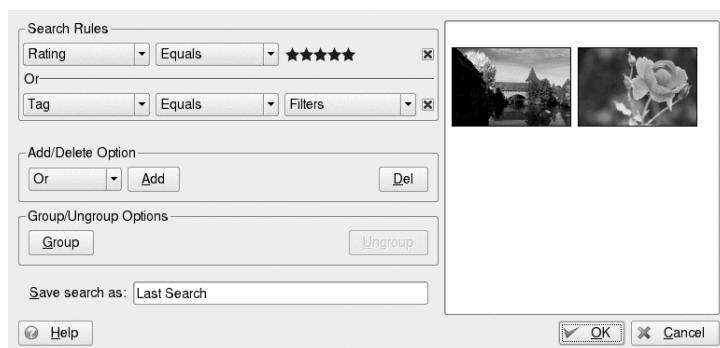
Advanced Search

複雑な検索フィルタです。任意の画像プロパティ(アルバム、タグ、評価、日付など)を使って複雑なルールを設定し、必要に応じてこれらのオプションを組み合わせます。今後も使用するためにこの検索フィルタを保存したり、[My Searches] に表示されている既存の検索内容を編集することができます。

評価またはタグ情報を使って画像を検索する [Advanced Search] の作成方法を、次の例に示します。

- 1 メインウィンドウの左側にある [Searches] タブを選択します。
- 2 [My Searches] を右クリックして、[Add New Advanced Search] を選択します。
- 3 最初の検索基準を選択します。この例では、評価(Rating)が5つ星(5 Stars)の画像を検索するために、[Rating+Equals+5 Stars] を選択します。
- 4 [Add/Delete Option] セクションで、[Or] を選択して、[Add] をクリックします。既存の検索ルールの下に、新しい検索ルールが追加されます。
- 5 2番目の検索基準を選択します。この場合、[Filters] という名前のタグを付けられたすべての画像を検索するために、[Tag+Equals+Filters] を選択します。
- 6 必要に応じて他の検索基準を追加したり、基準をグループ化したり、削除してください。検索結果は、検索ウィンドウに表示されます。
- 7 今後も使用するために検索を保存するには、名前を入力してから、[OK] をクリックして [Advanced Search] ダイアログを閉じます。

☒ 19.4 詳細検索フィルタの作成



19.7 画像コレクションのエクスポート

digiKamには、個人の画像コレクションのアーカイブと公開に役立つ、いくつかのエクスポートオプションがあります。CDやDVDへのアーカイブ(k3bを使う)、HTMLへのエクスポート、リモートギャラリーへのエクスポートが行えます。

画像コレクションをCDまたはDVDに保存するには、以下の手順に従います。

- 1 *[Album]* > *[Export]* > *[Archive to CD/DVD (CD/DVDへのアーカイブ)]* を選択します。
- 2 *[Create CD/DVD Archive]* ダイアログのいくつかのサブメニューで、必要な調整を行います。それから、*[OK]* をクリックして、書き込みプロセスを開始します。
 - 2a アルバムおよびタグを選択して(*[Selection]*)、コレクションのうちどの部分をアーカイブするかを決めます。
 - 2b *[HTML Interface]* では、画像コレクションをHTML形式で表示できるようにするかどうか、またCD/DVDアーカイブに自動実行機能を追加するかどうかを指定します。コレクションのタイトル、イメージ、フォント、および背景のプロパティを設定してください。
 - 2c 必要に応じて、*[Media Volume Descriptor]* のボリューム説明の設定を変更します。
 - 2d 必要に応じて、*[Media Burning]* の書き込みオプションを変更します。

画像コレクションのHTMLエクスポートを作成するには、以下の手順に従います。

- 1 *[Album]* > *[Export]* > *[HTML Export]* を選択します。
- 2 *[Create Image Galleries]* のいくつかのサブメニューで、必要な調整を行います。完了したら、*[OK]* をクリックして、ギャラリーの作成を開始します。

- 2a アルバムおよびタグを選択して、コレクションのうちのどの部分をアーカイブするかを決めます。
- 2b *[Look]* を使って、HTMLギャラリーのタイトルと外観を設定します。
- 2c *[Album]* では、ディスク上のギャラリーの場所と、イメージのサイズ、圧縮、フォーマット、および作成されるギャラリー内に表示されるメタデータの量を決めます。
- 2d *[Thumbnails]* では、ギャラリーに表示するサムネイルのサイズ、圧縮、およびファイルタイプを指定します。

コレクションをインターネット上の外部イメージギャラリーにエクスポートするには、以下の手順に従います。

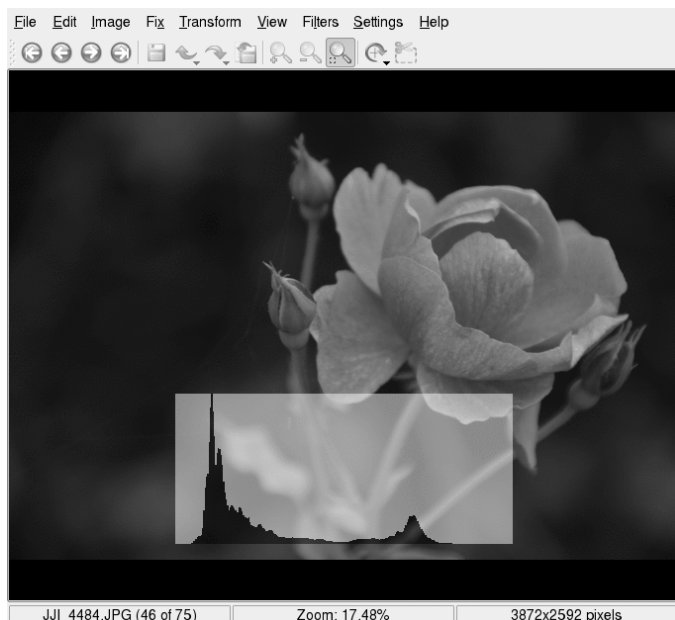
- 1 ギャラリーを置く外部Webサイトのアカウントを取得します。
- 2 *[Album]* > *[Export]* > *[Export to Remote Gallery]* を選択して、プロジェクトにより要求された場合は、外部サイトのURL、ユーザ名、パスワードを入力します。Digikamは、指定されたサイトへの接続を確立して、*[Gallery Export]* というウィンドウを表示します。
- 3 ギャラリー内の新しいアルバムの場所を決めます。
- 4 *[NewAlbum]* をクリックして、digiKamから求められたら情報を入力します。
- 5 *[Add Photos]* で、新しいアルバムにイメージをアップロードします。

19.8 画像の表示と編集

digiKamには、さまざまなプラグインから成り立つ広範な画像表示/編集機能が用意されています。digiKamを表示/編集モードにするには、画像のサムネイルをダブルクリックします。プラグインを使用するには、digikampluginsパッケージをインストールする必要があります。

画像を拡大/縮小したり、ヒストグラムを挿入するには、[View] を使用します。[Histogram] オプションを使って、画像の露光に関する情報を表示することができます。

図 19.5 ヒストグラムの確認



画像のプロパティ、小メンチ、およびタグを編集したり、簡単な画像効果を適用したり、画像に文字列を挿入するには、[Image] メニューを使用します。

テクスチャの適用

画像に適用するテクスチャの種類を選択して、テクスチャの強度を指定します([Relief])。テクスチャが適用され、変更内容が画像のオリジナルコピーに保存されます。

枠線の追加

枠線の種類を選択します。選択した枠線の種類に応じて、枠線の色を1つまたは2つ選択し、枠線の幅を指定します。枠線が作成され、変更内容が画像のオリジナルコピーに保存されます。

テキストの挿入

画像に表示するテキストを入力し、フォント、スタイル、およびサイズを選択します。テキストの文字揃え情報を選択し、テキストを回転するかどうか、および回転する場合はその回転角度を指定します。必要に応じて枠線や透明度を指定します。オリジナル画像のテキスト専用レイヤにテキストが追加されます。

19.8.1 画像の修正と微調整

[Fix] メニューを利用して、画像に関するさまざまな欠陥を修正、調整することができます。

Colors

色に関するさまざまな問題を調整します。

Blur/Sharpen(ぼかし/シャープ)

画像をシャープにしたり、ぼがします。

Unsharp Mask(アンシャープマスク)

画像のシャープ性を拡張します。

リフォーカス

フォーカスを調整して、画像をシャープにします。

赤目の除去

フラッシュ使用による赤目を補正します。

Inpainting(塗り直し)

画像内の不完全な領域を修正します。

Hot Pixel Correction(ホットピクセル修正)

カメラセンサの不良ピクセルによる、画像内のピクセルに関する問題を検出、修正します。

復元

ノイズやスクラッチなど、さまざまな種類のデジタル画像に関する欠陥を修正する手段を提供しています。

Noise Reduction(ノイズ低減)

レンズやセンサのホコリなどが原因の欠陥を修正します。ISO感度を高く設定したことによるピクセルノイズを補正し、低品質スキャンによるノイズや汚れを低減します。

Lens Distortion Correction(レンズ歪み補正)

広角レンズや望遠レンズの使用による画像の樽型歪みや糸巻き型歪みを補正します。

ケラレ補正

超広角/超望遠レンズの使用による、画像中央または端のケラレ(口径食)を補正します。

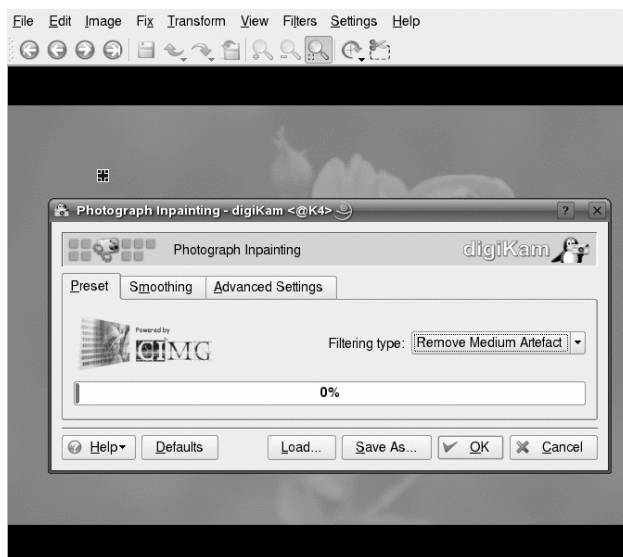
[Fix] の機能を理解するために、たとえば [Inpainting] の機能を見てみましょう。レンズの傷や汚れにより画像に問題が生じた場合を考えてみます。このタイプの問題を修正するには、以下の手順に従います。

- 1 画像を開きます。
- 2 マウスカーソルを使って、修正する領域を選択します。
- 3 [Fix] > [Inpainting] の順に選択するか、またはShift + Iキーを押します。
- 4 傷や汚れを修正する方法を指定します。
 - いずれかのプリセットオプション([Remove Small Artifact]、 [Remove Medium Artifact]、または [Remove Large Artifact])を選択し、「ステップ6」に進みます。
 - フィルタパラメータを設定します。に従って手順を進めます。ステップ5
- 5 プリセットフィルタの使用を選択しない場合([Preset] タブ)、 [Smoothing] と [Advanced Settings] タブを使って、設定内容を調整してください。
- 6 [OK] をクリックすると、設定内容に応じて画像が修正されます。

ティップ: 独自のフィルタ設定の作成と再利用

同じ設定を何回も使用する必要があるような場合は(たとえば、レンズの傷により複数の画像に同じ問題が発生しているような場合)、独自のフィルタ設定を作成します。独自のフィルタを保存するには、**[Save As]** をクリックして設定内容をテキストファイルに保存します。以降の画像を修正する場合は、**[Image Inpainting]** ダイアログを開いて **[Load]** をクリックし、使用するフィルタ設定に対応するテキストファイルを選択して **[OK]** をクリックします。

☒ 19.6 **[Inpainting]** を使った傷/汚れの除去



19.8.2 画像変換の適用

画像を拡大縮小したり、回転するには、**[Transform]** メニューを使用します。

Rotate、Flip、Free Rotation

画像を一定の角度回転します。**[Rotate]** は、画像を90度単位で回転します。**[Free Rotation]** を使用すれば、任意の回転角度を指定できます。

Crop、Aspect Ratio Crop

画像をクロップします。[Crop] は、画像の長方形の領域を切り取ります。[Aspect Ratio Crop] を使用すれば、さまざまな方法で画像のクロッピングを行うことができます。

Perspective Adjustment

画像の視野を調整します。たとえば、垂直線または水平線を含む画像の角度がおかしい場合に、このツールを使ってそれを修正することができます。画像の角にあるハンドルを使って、移動してください。その結果として生じた画像端の黒い領域を削除したり、画像をトリミングするには、[Crop] ツールを使用します。

Shear

画像の一部をある方向に、そして別の部分を反対方向に移動します(垂直または水平方向)。垂直または水平方向の角度を指定して、[Crop] を使って結果の画像をトリミングします。

Resize、Blowup

画像を拡大/縮小します。[Resize] では、ピクセルまたはパーセントを使って画像サイズを簡単に変更することができます。アスペクト比を維持するかどうかを選択してください。[Blowup] は基本的に、同じような画像サイズ変更処理を実施します。ただし、拡大/縮小するだけでなく、その結果画像にフィルタを適用して、画像品質を改善することができます。最終結果を印刷する必要がある場合は、[Resize] の代わりに [Blowup] を選択してください。このフィルタ設定は、テキストファイルに保存することができます。後ほど保存した設定を読み込んで、他の画像に適用することができます。

修正内容に不満がある画像や、一定の形式に合わせて画像をクロップする必要があるような画像がある場合を考えてみましょう。このような場合は、[Aspect Ratio Crop] を使って以下の作業を行います。

- 1 画像を開きます。
- 2 [Transform] > [Aspect Ratio Crop] の順に選択します。
- 3 向きとアスペクト比を指定します。

なし

[X]、[Width]、および[Y]、[Height] スライダーを使って、画像のフリークロップを指定します。

カスタム

プリセット値の代わりに使用するカスタムの幅と高さの比を選択します。

[X:Y Ratio]

これらの比率は、写真の印刷に一般的に使われる用紙サイズの大半に合います。目的に一番合ったオプションを選択してください。

[Golden Ratio]

従来から芸術家や建築家に使用されている、最良の調和を産む比率(黄金比:1:1.618)です。

指定した比率で可能な最大サイズのクロップ領域を設定するには、[Max Ratio] を使用します。

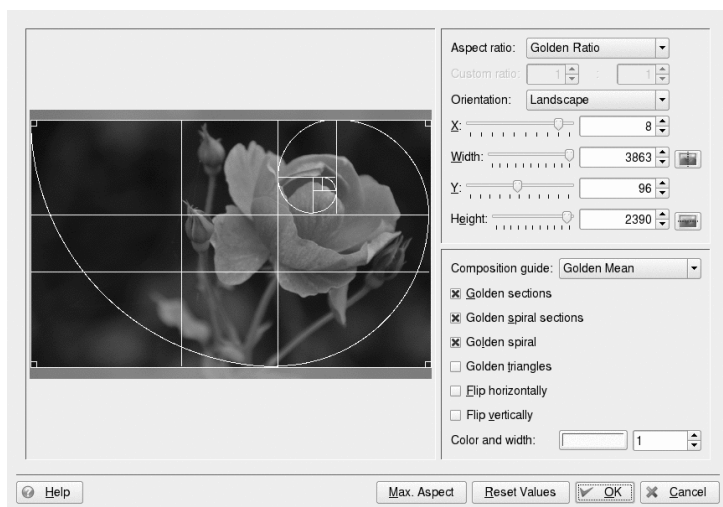
- 4 クロップ領域を設定したら、必要に応じて合成ルールを適用します。見栄えのいい結果を得るための設定には、[Composition Guide] が役立ちます。より良い画像を得るためのガイドとして、点線が表示されます。

ティップ: 詳細情報

これらのオプションの詳細は、<http://docs.kde.org/development/en/extragear-graphics/digikam/using-kapp-imageeditor.html>を参照してください。

- 5 クロップ領域が、合成ルールと合わない場合は、移動してください。
- 6 設定内容に合わせて画像をトリミングするには、[OK] をクリックします。

図 19.7 アスペクト比クロープを使ったカスタムクロープの作成



19.8.3 フィルタと効果の適用

さまざまな基本効果やフィルタを適用して、芸術的な画像や見栄えのいい画像を作成することができます。

Black & White

カラー画像を白黒画像に変換します。単純なグレースケール画像に変換する場合は、*[Neutral Black & White]* を選択します。画像内の特定の色を強調するカラーフィルタ(緑、オレンジ、赤、または黄)の使用をシミュレートするには、いずれかの *[Black & White with ... Filter]* オプションを選択します。色彩効果を適用するには、いずれかの *[Black & White with ... Tone]* オプションを選択します。

Raindrops

画像に雨滴効果を適用します。雨滴のサイズと数を指定した後に、雨滴によるゆがみの度合いを *[Fish eyes]* に指定します。

Infrared Film

非現実的な効果を出すために、赤外線フィルムの使用をシミュレートします。結果は元の画像と大幅に異なります。粒状度やISO感度を調整して、よりアーティスティックな結果を得ることもできます。

Oil Paint

油絵シミュレートします。画像に適用するブラシのサイズとスムージングの度合いを指定してください。

Emboss

画像をエンボス(浮き彫り)加工します。適切な深さを選択してください。

Solarize Image

露光過多状態をシミュレートします。

Distortion Effects

魚眼レンズなどの、さまざまな歪み効果を適用します。種類、レベル、および反復度を指定してください。

Add Film Grain

画像を粗くするために、フィルムの粒状度を上げます。

Blur Effects

画像をぼかして、焦点の合わない状態での撮影や、動いている物の撮影をシミュレートします。

Charcoal Drawing

画像を白黒の木炭画に変換します。適切な鉛筆サイズを選択し、画像に適用するスムージングの度合いを指定します。

図 19.8 赤外線写真のシミュレート



19.9 便利なツール

digiKamには、画像コレクションを整理/編成や、画像の処理に役立つさまざまな機能が用意されています。これらの機能は、**[Tools]**メニュー内に用意されています。

Find Duplicate Images(重複画像の検索)

コレクション内に重複している画像があるような場合には、このオプションを使って重複画像を検索、削除することができます。まず、検索対象にするアルバムやタグを指定します。**[OK]**をクリックすると、検索が開始されます。コレクションに重複する画像があった場合は、画面に両方の画像が表示されます。ここから、削除する画像を選択することができます。

カレンダーの作成

使用する画像と用紙サイズ、フォントを選択するだけで、標準のレイアウトを使った単純なカレンダーを作成することができます。

スライドショー

画像コレクションをスライドショー形式で表示します。スライドショーの範囲、使用する効果、および画像と一緒に表示する情報を指定します。画像表示間隔を設定して、スライドショーを開始します。

RAW画像コンバータ(単一)

digikamでは、さまざまなベンダー固有のRAW画像から、JPEGやPNGなどの一般的な形式に画像を変換することができます。このオプションを使って、単一の画像を変換することができます。複数の画像を変換する必要がある場合は、バッチ変換を使用してください(*[Tools]* > *[Batch Processes]* > *[RAW Images Converter (Batch)]*)。お使いのカメラのRAW画像形式をdigikamコンバータプラグインがサポートしているかどうかを確認するには、<http://www.cybercom.net/~dcoffin/dcraw/>を参照してください。

バッチプロセス

多数のファイルに対して特定の操作を一括して行います。枠線の追加、色の編集、効果やフィルタの適用、画像の名前/サイズの変更、再圧縮、またはRAW画像の変化などの操作を行えます。

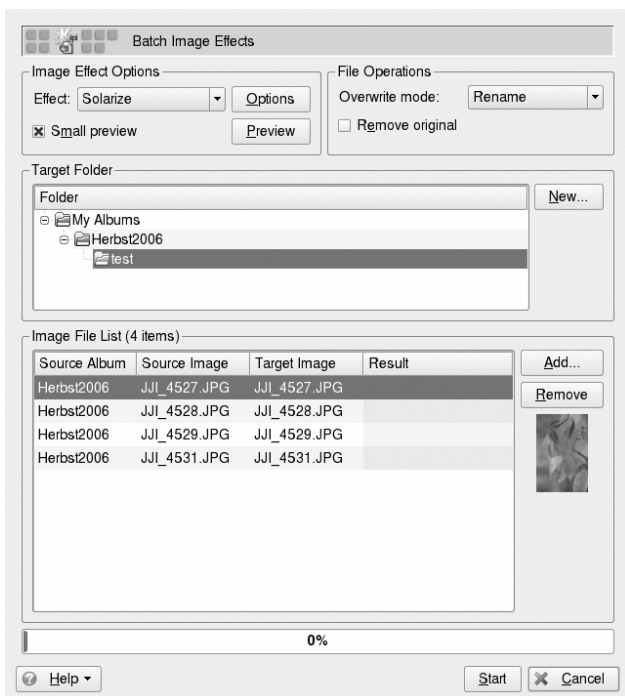
たとえば、多数の画像を露光過多状態に一括して変換することができます。画像をバッチ処理キューに格納したり、実際にバッチ処理を実行するには、以下の手順に従ってください。

- 1 *[Tools]* > *[Batch Processes]* > *[Image Effects]* の順に選択するか、またはアルバム名を右クリックして *[Batch Processes]* > *[Image Effects]* の順に選択します。
- 2 *[Solarize]* 効果を設定して、*[Options]* をクリックし、効果を適用する度合いを設定したり、プレビューを表示します。
- 3 元の画像に上書きするか、それとも名前を付けて保存するかを選択します。また、変換後に画像を削除することもできます。
- 4 変換後の画像を保管するフォルダを設定します。変換後の画像をオリジナル画像のフォルダに保存したくない場合は、*[New]* を選択して新しいフォルダまたはサブフォルダを追加してください。新しいフォルダを選択します。
- 5 変換キューに保存する画像リストをそのまま使用するか、または必要に応じて修正してください。

6 [Start] をクリックすると、画像の変換が開始されます。

進行状況を示すメッセージが表示されます。すべての処理が完了すると、その旨を知らせるメッセージが表示されます。

図 19.9 バッチ処理:画像を露光過多にする



19.10 トラブルシューティング

SUSE Linux Enterprise、およびdigiKamはさまざまなカメラをサポートしていますが、SUSE Linux Enterpriseでデジタルカメラを使用する場合に、次のような問題が発生することもあります。

カメラからの画像のダウンロードに失敗する

どのプロトコル(PTPまたはUSB)を使っても、画像のダウンロードに失敗する場合は、digiKamの代わりにコマンドラインを使用してください。

gphoto2 --Pコマンドを実行すると、カメラが初期化されて画像がダウンロードされます(gphoto2がカメラをサポートしている場合)。

お使いのカメラをdigiKamが公式にサポートしていない

gphoto2 --list-camerasコマンドを実行したり、<http://www.gphoto.org/>を参照して、Linuxがサポートするカメラに関する情報を確認してください。

お使いのカメラがこれらの情報源に記載されていない場合は、カメラから記録メディアを取り出して、カードリーダー(外部デバイスや内部デバイス)を使用してください。メディアが検出されたら、自動的にマウントされます。画像をdigiKamコレクションにインポートするには、`[Albums]` > `[Import]` > `[Add Images]` の順に選択するか、または `[Albums]` > `[Import]` > `[Import Folders]` の順に選択します。

19.11 詳細情報

Linuxと共にデジタルカメラを使用する方法については、次のWebサイトを参照してください。

- <http://docs.kde.org/development/en/extragear-graphics/digikam/index.html>—digiKam公式ハンドブック
- <http://docs.kde.org/development/en/extragear-graphics/digikamimageplugins/index.html>—digiKamプラグインマニュアル
- <http://www.gphoto.org>—gPhoto2に関する情報
- <http://www.gphoto.org/proj/libgphoto2/support.php>—サポートしているカメラ全般のリスト

音楽やムービーの再生

インストール時に、YaSTはお使いのコンピュータにあるサウンドカードを自動的に検出および設定します。YaSTによって自動検出されない場合(または、新しいサウンドカードを取り付けた場合)は、YaSTを起動して、[サウンド]モジュールからサウンドカードを手動設定します。サウンドカードを設定したら、ミキサーを使って音量やバランスを調整したり、他のサウンドアプリケーションを起動したりできます。

Linuxには、幅広いサウンドとマルチメディアのアプリケーションが含まれます。一部のアプリケーションは、デフォルトでLinuxシステムにインストールされます。ここで取り上げているアプリケーションを使用して、CD、音楽ファイル、およびムービーファイルの再生時の音量やバランスを調整できます。

リストに含まれているアプリケーションがデフォルトでシステムにインストールされていない場合には、YaSTを使って不足しているパッケージをインストールしてください。YaSTのパッケージ管理ツールの検索機能を使って、パッケージを見つけてください。

20.1 ミキサー

ミキサーは、音量、サウンド出力とコンピュータの入力のバランスをコントロールする使いやすい方法です。デフォルトのKDEおよびGNOMEミキサーアプリケーションの詳細は、それぞれKDEとGNOMEに関する章を参照してください。

多様なミキサー間の相違点には、ユーザインタフェースの外観も含まれています。ただし、特定のハードウェア用に設計されたミキサーもあります。たとえば、envy24controlはEnvy 24サウンドチップ専用のミキサーです。もう1つの例は、RME Hammerfallカード専用のhdspmixerです。使用可能なミキサーの中から、ニーズに最適なミキサーを選択します。

ティップ: ミキサーの開始

一般に、ミキサーアプリケーションは、他のサウンドアプリケーションより前に開いておくことをお勧めします。ミキサーを使用して、サウンドカードの入力と出力のコントロール設定を調整します。

20.2 音楽ファイルの再生

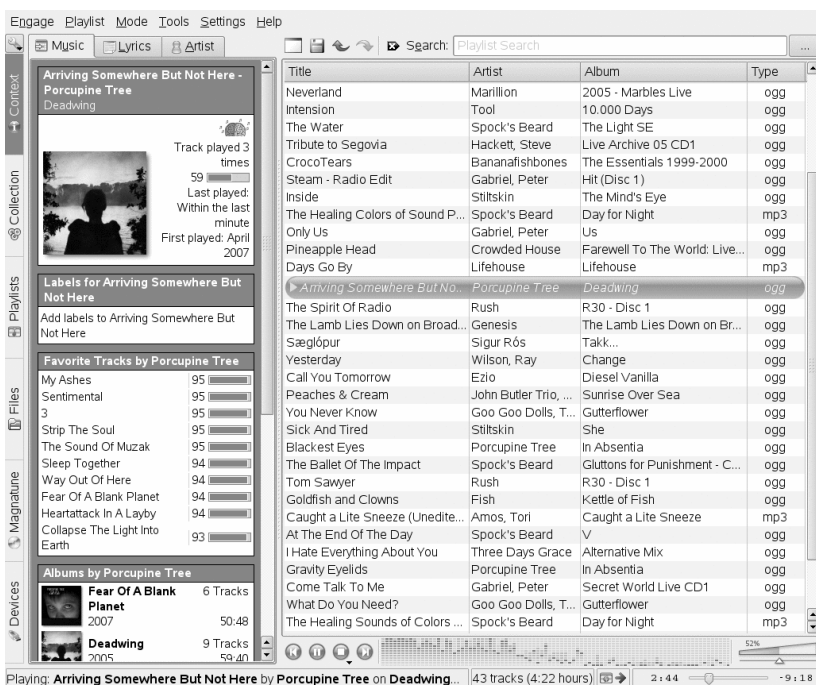
Linuxには、OGGやWAVファイルなどの音楽ファイルを再生するための、さまざまなアプリケーションが用意されています。たとえば、KDEにはamaroKやJuKなどが用意されています。

20.2.1 amaroKメディアプレーヤー

amaroK音楽プレーヤーでは、さまざまなオーディオ形式を再生し、プレイリストを作成し、ポータブルMP3プレーヤーまたは外部ハードディスクなどのリムーバブルメディアから音楽をインポート(またはリムーバブルメディアへファイルをアップロード)し、インターネット上のラジオ局のストリーミングオーディオブロードキャストを利用できます。サポートされるファイルタイプは、使用するエンジンによって異なります。

amaroKは最初に、amaroKをセットアップするための [初回起動ウィザード] を起動します。amaroKが参照する音楽コレクションの場所を指定します。amaroKはこのフォルダから再生可能なメディアをスキャンします。デフォルトでは、amaroKは選択されているフォルダを再帰的に(すべてのサブディレクトリを含めて)スキャンし、ディレクトリの内容の変化を監視し、そこに含まれるすべてのプレイリストをインポートするように設定されます。ウィザードで作成したすべての設定は、後で [Settings] > [Configure AmaroK] を選択して設定ダイアログで変更できます。

20.1 amaroKメディアプレーヤー



クイックスタート

amaroKは起動時に、ミュージックファイルのコレクションの一部であるフォルダをスキャンします。コレクションを作成せずにamaroKを使用することも可能ですが、強力で高度な機能は、既存のコレクションとのみ使用可能なので、作成することをお勧めします。

amaroKメインウィンドウは、2つの部分に分かれています。左側にさまざまなビューを表示するサイドバーがあります。音楽コレクション、コンテキストブラウザ、プレイリスト、ファイルブラウザなど、さまざまなビューが用意されています。ブラウザを変更するには、左端にあるタブをクリックします。右側にはプレイリストウィンドウ、およびその下にはプレーヤー(異なるウィンドウで表示されるように設定していない場合)が含まれています。

音楽を再生するには、いずれかのサイドバーブラウザから、プレイリスト領域にアイテムをドラッグアンドドロップします。またはShiftを使用してアイ

テムを複数選択します。Ctrlプレイリスト内のアイテムをダブルクリックすると再生されます。コンテキストメニューで、再生中にリストからアイテムを追加または削除できます。プレイリストエリア上のアイコンを使用して、プレイリストのクリア、プレイリストを名前を付けて保存、変更を元に戻す、またはやり直し、または特定のトラックの検索を実行できます。再生モードを操作するには、amaroKステータスバーの *[Repeat]* または *[Random]* アイコンを何度かクリックしてモードを切り替えるか、または目的のモードをamaroKメインメニューから選択します。

サイドバーブラウザ

コンテキスト

このタブでは、現在再生されているトラックに関する情報と統計が表示されます。サイドバー上部のタブをクリックして、コンテキストブラウザ内部の別のビューに切り替えます。たとえば、*[Artist]* タブをクリックすると、Wikipedia内の記事が検索され、コンテキストブラウザに表示されます。曲の歌詞を表示するには、*[Lyrics]* タブを表示して検索を行ってください。*[Music]* タブにはアルバムカバー（ある場合）（カバーマネージャ項 (306 ページ)を参照）と現在のトラックに関する再生統計が表示されます。

コレクション

このタブは、曲タイトルの個人コレクションを管理し、\95\5c示するために使用します。ブラウザの最上部にあるツールバーを使用すると、コレクションの表示方法の設定およびコレクションの再構成を行うことができます。*[Group By]* を使用して、ブラウザ内でタイトルが表示される順番を定義します。*[Primary (プライマリ)]*、*[Secondary (セカンダリ)]*、および *[Tertiary (ターシャリ)]* を使用して、事前に定義された基準または自分で作成したソート基準のいずれかを選択できます。次の4つのアイコンで、ツリービュー、フラットビュー、iPod*ビュー、*[Show dividers]* を切り替えて、大規模な音楽コレクションの概要をわかりやすくします。スパナのアイコンを使用して、amaroKがコレクションに追加する音楽をスキャンするフォルダを追加または削除します。

特定のトラックまたはアルバムのコレクションを検索またはフィルタするには、タイトル(またはその一部)を上部の検索フィールドに入力します。入力した各文字列によって検索が絞り込まれ、ブラウザ内の選択内容が入力に従って調整されます。ジャンルまたはビットレートなどの特定のメタデータで検索するには、または複数の検索オプションを組み合わせるに

は、検索フィールドの右側のボタンをクリックして、*[Edit Filter]* ダイアログを開きます。

プレイリスト

プレイリストブラウザを使用して、異なるプレイリストにアクセスできます。*[プレイリスト]*には、コレクションフォルダ内にある個人用プレイリストが含まれます。プレイリストウィンドウから新しくプレイリストを作成し保存するたびに、そのリストはここに\95\5c示されます。*[プレイリスト]*フォルダを右クリックして、新しいプレイリストを作成またはインポートするか、またはサブフォルダを追加します。プレイリストウィンドウから既存のプレイリストに新しいアイテムを追加するには、それらのアイテムをブラウザウィンドウ内のプレイリストにドラッグアンドドロップするだけです。

重要項目: 他のプレーヤーとのプレイリストの共有

プレイリストは、m3u形式で保存すると、この形式を使用する他のプレーヤーと共有することができます。

*[Smart Playlists (スマートプレイリスト)]*は、再生されたことがないトラック、最新のトラック、またはジャンルごとのトラックなどのさまざまなコレクションのビューを提供します。たとえば、コレクションからランダムプレイリストを作成するには、*[50 random Tracks]*を選択して、エントリをプレイリストエリアにドラッグします。*[Smart Playlists]*フォルダを右クリックして、サブフォルダを追加するか、または独自のスマートプレイリストを作成します。

*[Radio Streams (ラジオストリーム)]*では、インターネット経由でライブのラジオストリームを聴くことができます。詳細リストがamaroKの出荷にすでに含まれています。さらに追加する、またはサブフォルダを作成するには右クリックします。

*[Podcasts (ポッドキャスト)]*では、amaroKにポッドキャストをインポートします。右クリックすることでメニューが開き、そのメニューからポッドキャストおよびサブフォルダの追加、全ポッドキャストのリフレッシュ、またはスキャン間隔の設定ができます。

ファイル

このタブでは、標準KDEファイルマネージャダイアログに対応するファイルブラウザが開きます。上部のアイコンを使用してファイルシステムをナ

ビゲートし、ビューを変更したりブックマークを作成したりします。テキスト入力フィールドに、URLまたはパスを直接入力します。表示されたコンテンツから要素をプレイリストにドラッグして、プレイリストに追加します。

Magnatune

このタブでは、音楽をオンラインで購入できるMagnatuneストアへの接続を確立できます。[Update] をクリックして、magnatune.comで購入できるアルバムとタイトルを表示します。アルバムリストをジャンルでソートして、amaroKでトラックを聴きます。音楽を購入するには、[Purchase Album] をクリックして支払い詳細を入力します。

Devices

ポータブルMP3プレーヤーまたは外部ハードディスクを所有している場合、このブラウザを使用してポータブルデバイスを設定し、amaroKからアクセスします。

カバーマネージャ

amaroKを使用すると、コレクションの各アルバムにカバーを割り当てることができます。[カバーマネージャ] を使用して、アルバムカバーを簡単に追加、削除、取得できます。

[ツール] > [カバーマネージャ] を選択してカバーマネージャを起動します。ウィンドウの左側のツリービューには、コレクション内のすべてのアーティストが'\95\5c'示されます。ウィンドウの中央部分には、すべてのアルバムのカバーが'\95\5c'示されます。表示されたカバーにフィルタをかけるには、ツリービュー内の個々のアーティストをクリックするか、ウィンドウの最上部にある入力フィールドに用語を入力します。[View(ビュー)] を使用して、全アルバム、カバーのあるアルバム、または、カバーなしアルバムの表示を切り替えます。

アルバムにカバーを割り当てするには、3つの異なる方法があります。

カバーの自動割り当て

amaroKは、メインウィンドウに'\95\5c'示されるカバーのうち欠けているものがあれば、Amazonから自動的に取得します。[Amazon Locale (Amazon ロケール)] を使用して、どのAmazon Webサーバーからカバーを取得するかを決定し、その後、[Fetch Missing Covers (欠けているカバーの取得)] をクリックします。

重要項目: 適切なタグ付けが必要

amaroKでは、アーティスト-アルバムというクエリ文字列を使用して、Amazonからカバーを取得します。この情報は、音楽ファイルのタグから展開されます。タグの付け方が良いと、カバーを自動取得する際のヒット率が上がります。

Amazonから取得されるカバーの手動選択

どの画像を使用するか、およびどのクエリ文字列を使用してカバーを取得するかをより細かくコントロールしたい場合は、メインウィンドウ内でアルバムを右クリックして、*[Fetch from amazon (Amazon)から取得]* を選択します。*[Next Cover (次のカバー)]* では、利用可能なすべての画像を繰り返し表示できます。*[保存]* を使用すると、実際のカバーが選択され、選択済みのアルバムにそれが割り当てられます。表示されたカバーに満足できない場合は、*[New Search (新規検索)]* を使用して検索を絞り込みます。メインウィンドウのツールバーから *[Amazon Locale (Amazon) ロケール]* を使用して、どのAmazon Webサーバーからカバーを取得するかを決定します。

カバーの手動割り当て

自分のカバー画像をすでにお持ちの場合は、アルバムを右クリックし、*[Set Custom Cover]* を選択することで、その画像を割り当てることができます。

視覚化

amaroKの視覚化をインストールした場合、*[Tools] > [Visualizations]* で再生する音楽にさまざまなグラフィック効果を選択できます。プレーヤーウィンドウには、amaroK自体に含まれている視覚化機能が表示されます。アニメーションをクリックすると、表示モードを切り替えることができます。

amaroKトレイアイコン

他のKDEアプリケーションと同様、amaroKはKDEのシステムトレイにアイコンを追加します。このアイコンを使用して、amaroKの多くの機能をコントロールできます。アイコン上にマウスポインタを置くと、現在再生されているトラックについての情報が表示されます。マウスホイールをスクロールすると、再生音量を同時に調整できます。左クリックを1回行うと、再生に影響を与え

ることなくアプリケーションウィンドウが閉じます。もう一度クリックすると、ウィンドウが再度開きます。マウスの中ボタンをクリックすると再生が一時停止します。再開するには、中ボタンを再びクリックします。右クリックすると、プレーヤーコントロールへのアクセスおよびamaroKの終了を行うコンテキストメニューが開きます。

および<Shift>キーをマウスとともに使用すると、より高度な機能にアクセスできます。Ctrlマウスホイールをスクロールさせる間、Shiftをホールドすることによって、現在のトラック内を検索します。マウスホイールをスクロールさせる間、<Ctrl>キーをホールドすることによって、プレイリスト内にあるトラックをスキップします。

トレイアイコンにあるアイテムをドラッグアンドドロップして、現在のプレイリストに追加することもできます。トラックをプレイリストに付加するか、付加して再生するか、または現在のトラックのあとに挿入するかを尋ねるポップアップメニューが開きます。

20.3 オーディオCDの取り扱い

音楽トラックを再生するには、多くの方法があります。CDを再生するか、そのデジタル化バージョンを再生します。ここでは、CDプレーヤーアプリケーションをいくつか取り上げ、オーディオCDをデジタル化するために使用するアプリケーションについても説明します。

独自のCDの作成方法は、第21章 *CDとDVDの書き込み* (315 ページ) を参照してください。

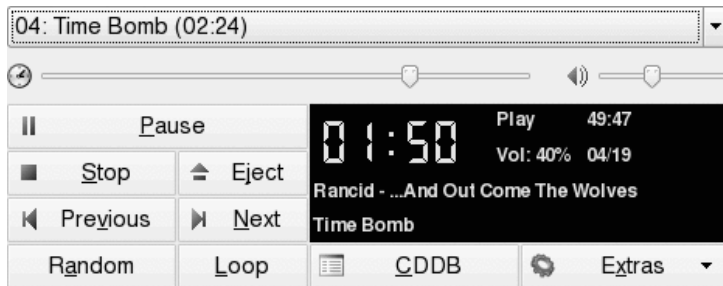
重要項目: CDDAとアナログCDの再生

オーディオCDを再生するには、2つの方法があります。アナログCDを再生できるCD/DVDドライブは、オーディオデータを読み出してサウンド出力デバイスに送ります。PCMCIA、FireWire、またはUSBを使用して接続されている外付けドライブは、CDDA (Compact Disk Digital Audio) を使用してオーディオデータを抽出してからデジタルPCMとして再生する必要があります。ここで取り上げるvレーヤーはCDDAをサポートしていません。CDDAのサポートを必要とする場合は、XMMSを使用してください。

20.3.1 KsCD—オーディオCDプレーヤー

KsCDは使いやすいオーディオCDプレーヤーで、`kdemultimedia3-extra`パッケージに付属しています。インストールされている場合、`Alt + F2`キーを押して`kscd`を入力してアプリケーションを起動します。KsCDをKDEパネルに統合して、CDが挿入されると自動的に再生するように設定できます。設定メニューにアクセスするには、`[エクストラ] > [Configure KsCD (KsCDの設定)]`の順に選択します。KsCDは、インターネットでCDDDBサーバからアルバムとトラック情報を取得するように設定できます。CDDDB情報をアップロードして他のユーザと共有することもできます。情報の取得とアップロードには、`[CDDDB]`ダイアログを使用します。

☒ 20.2 KsCDのユーザインタフェース



20.3.2 オーディオデータの圧縮:リッピング

オーディオ圧縮は、さまざまなツールによって実行できます。ここでは、コマンドラインを使用してオーディオデータをエンコードして再生する方法について説明します。一部のグラフィカルアプリケーションにはオーディオ圧縮機能もあります。

オーディオデータのエンコードと再生のためのコマンドラインツール

Ogg Vorbis (`vorbis-tools`パッケージ)は無償のオーディオ圧縮形式で、現在では大部分のオーディオプレーヤーおよびポータブルMP3プレーヤーでもサポートされています。このプロジェクトのWebページは<http://www.vorbis.com/>です。

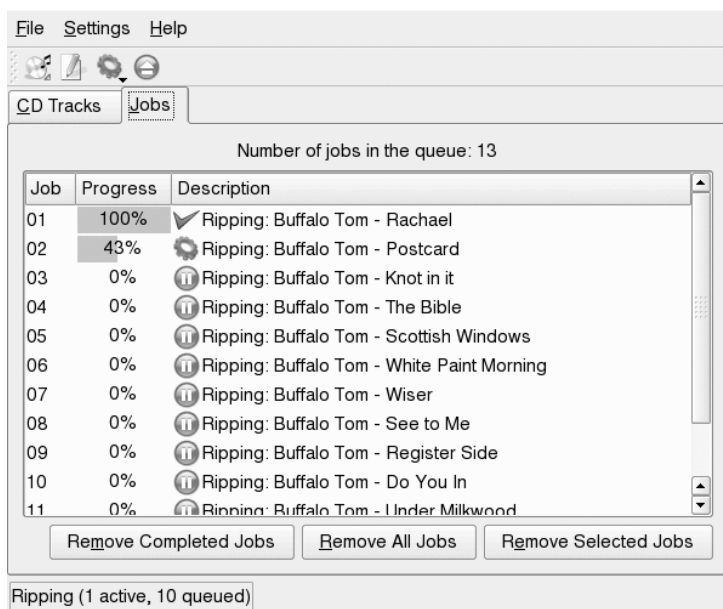
お使いのシステムには、Ogg Vorbisをサポートするツールがいくつか付属しています。oggencは、WAVファイルをOggにエンコードするために使用するコマンドラインツールです。指定された.wavファイルをOgg Vorbisに変換するには、`oggenc myfile.wav`を実行します。`-h`オプションで、その他のパラメータの概要が表示されます。Oggencは可変ビットレートでのエンコードをサポートします。この方法で、より高度な圧縮も実現できます。ビットレートの代わりに、必要な品質を`-q`パラメータで指定することもできます。`-b`パラメータは、平均ビットレートを決定します。`-m`と`-M`を使用すると、最小と最大のビットレートを指定できます。

ogg123は、コマンドラインOggプレーヤーです。`ogg123 mysong.ogg`などのコマンドを使用して起動します。

KAudioCreatorによるオーディオデータの圧縮

KAudioCreatorは、軽量のCDリッパーアプリケーションです(図 20.3. 「KAudioCreatorによるオーディオCDのリッピング」 (311 ページ)を参照してください)。KAudioCreatorを起動すると、CDのすべてのトラックが [CDトラック] タブに表示されます。リップしてエンコードするトラックを選択します。トラック情報を編集するには、 [ファイル] > [アルバムを編集] の [アルバムエディタ] を使用します。または、 [ファイル] > [リッピングを選択] の順に選択してリッピングとエンコードを開始します。このジョブの処理状況は、 [ジョブ] タブを使用して確認します。KAudioCreatorは選択内容に応じて再生リストファイルを生成することもできます。amaroK、XMMS、またはHelix Bansheeなどのプレーヤーは、これを使用して再生できます。

図 20.3 KAudioCreatorによるオーディオCDのリッピング

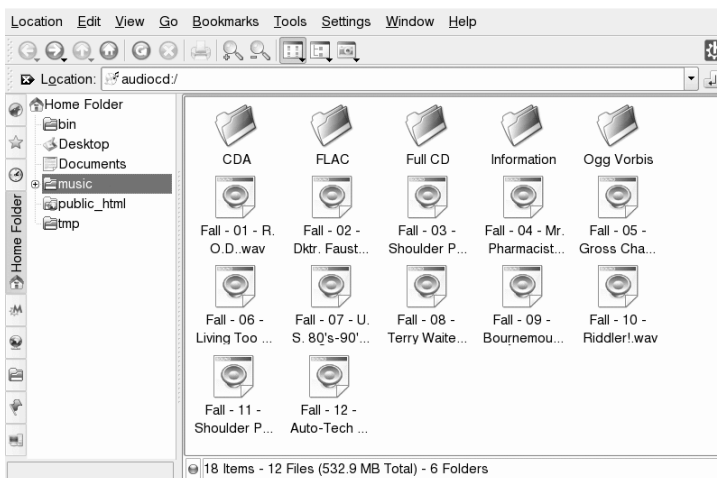


KonquerorによるオーディオCDの圧縮

Konquerorを使用して実際のリッピングプロセスを開始する前に、KDEコントロールセンターでオーディオCDとOgg Vorbisエンコーダの処理方法を設定します。[サウンド&マルチメディア] > [オーディオCD]の順に選択します。設定モジュールは、[一般]、[名前]、および[Ogg Vorbis Encoder]の3つのタブに分かれています。通常、適切なCDデバイスが自動的に検出されます。自動検出が失敗し、CDデバイスを手動で設定する必要がない限り、このデフォルト設定を変更しないでください。エラー修正およびエンコーダー優先度もここで設定できます。[Ogg Vorbis Encoder (Ogg Vorbisエンコーダ)]タブでは、エンコードの品質を指定します。リッピングしたオーディオデータのアルバム、トラック、およびアーティストの情報をオンラインで検索するように設定するには、[トラック情報の追加]を選択します。

リッピングプロセスは、CDをCD-ROMデバイスに挿入し、[場所]バーに「audiocd:/」と入力して開始します。Konquerorは、CDとフォルダのトラックを表示します(図 20.4、「Konquerorによるオーディオデータのリッピング」(312 ページ)を参照)。

20.4 Konquerorによるオーディオデータのリップング



解凍されたオーディオデータをディスクに保持するには、.wavファイルを選択して別のKonquerorウィンドウにドラッグし、最終保存場所にコピーします。Ogg Vorbisのエンコードプロセスを開始するには、Ogg Vorbisフォルダまたはこのフォルダのファイルを別のKonquerorウィンドウにドラッグします。Ogg Vorbisフォルダを目的の場所にドロップすると、すぐにエンコードが始まります。

20.4 ムービーファイルの再生

SUSE Linux Enterpriseに同梱されている複数のムービープレーヤーから好きなプレーヤーを選択できます。Kaffeineは、デフォルトのKDEムービーファイルで、XineおよびMPlayerなど、いくつかのバックエンドで実行できます。

☒ 20.5 Kaffeineメインウィンドウ



Kaffeineで再生可能な形式は、バックエンドによって異なります(デフォルトではXineが使用されます)。Xineは、最も一般的なマルチメディア形式の多くを解釈します。詳細については、<http://xinehq.de/>を参照してください。

Kaffeineは、インターネット上にストリームされるマルチメディアも再生でき、また、Konquerorのプラグインとして使用できます。通常オプションには、フルスクリーンモードでのファイルの再生、ファイル内での移動などがあります。ビデオのスナップショットを撮り、画像として保存することもできます。

SUSE Linux Enterpriseには、Kaffeineのほか、RealPlayer for Linuxも同梱されています。RealPlayerは、RealAudio、RealVideo、Ogg Vorbis、Theoraなどをサポートします。

☒ 20.6 RealPlayer for Linux



CDとDVDの書き込み

K3bは、データCDとオーディオCD、DVDの書き込みを行う総合的なプログラムです。メインメニューから [マルチメディア]、[CD/DVDの作成] の順に選択するか、k3bコマンドを入力して、このプログラムを起動します。ここでは、Linuxで初めてCDまたはDVDを作成するユーザのために、基本の書き込みプロセスを開始する方法について簡単に説明します。

21.1 データCDまたはDVDの作成

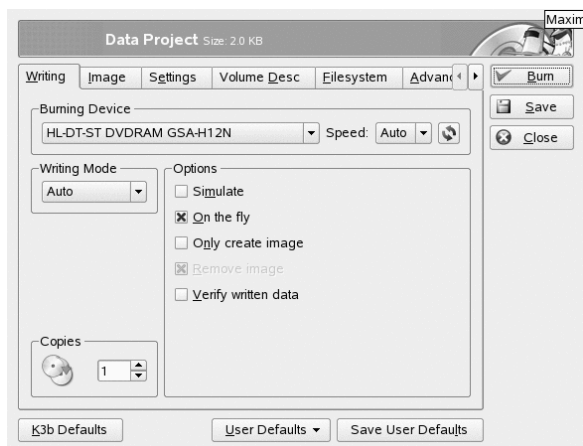
データCDを作成するには、[ファイル] > [新しいプロジェクト] > [新しいデータCDプロジェクト] の順に選択します。データDVDを作成するには、[ファイル] > [新しいプロジェクト] > [新しいデータDVDプロジェクト] の順に選択します。に示すように、ウィンドウの下側にプロジェクトビューが表示されます。図 21.1. 「新しいデータプロジェクトの作成」 (316 ページ) 自分のホームディレクトリ内にある、希望のディレクトリや個別のファイルをドラッグし、このビューへドロップします。[ファイル] > [名前を付けて保存] を選択して任意の名前を付け、このプロジェクトを保存します。

図 21.1 新しいデータプロジェクトの作成



それから、ツールバーの **[Burn]** をクリックするか、**Ctrl + B**を押します。CD/DVDに書き込むためのさまざまなオプション用の6つのタブがあるダイアログが表示されます。詳細については、図 21.2. 「書き込みプロセスのカスタマイズ」 (316 ページ)を参照してください。

図 21.2 書き込みプロセスのカスタマイズ



[書き込み] タブには、書き込みデバイス、速度、および書き込みオプションの設定があります。次のオプションがあります。

Burning Device

このポップアップメニューには、検出された書き込みデバイスが表示されます。ここでは書き込み速度も選択できます。

警告: 書き込み速度を選択する際の注意

通常は [Auto] を選択してください。これにより、可能な最大速度が選択されます。しかし、この値を大きく設定して、システムがそれに十分な速度でデータを転送できない場合には、バッファアンダーランの可能性が大きくなります。

書き込みモード

このオプションは、レーザーのCD/DVDへの書き込み方法を指定します。CDの場合、DAO、TAO、およびRAWの3種類の方法を利用できます。

[DAO] (disk at once、ディスクアットワンス)モードでは、ディスクに書き込んでいる間、レーザーを無効にしません。オーディオCDを作成する場合、このモードをお勧めします。[TAO] (track at one、トラックアットワンス)モードでは、個別の書き込みプロセスが個々のトラックごとに使用されます。[RAW] (ロー)モードは使用頻度があまり高くありませんが、ライタがデータ補正を何も行わないのが特徴です。

DVDの場合は、DAO、追加、および上書きの3種類の方法を利用できます。DVDの場合、DAOモードではマルチセッションはサポートされていません。マルチセッションDVDを作成する場合は、追加モードを使用してください。上書きモードでは、growisofsを使って上書き可能メディアの最初のセッションから、ISO9660ファイルシステムを増加させることができます。

通常は、[Auto] を選択することをお勧めします。この場合、K3bが適切な設定を決定します。

Simulate (シミュレート)

この機能を使用して、使用中のシステムが、選択された書き込み速度をサポートしているかどうかチェックすることができます。システムをテストするために、レーザーを無効にして書き込みます。

On the Fly

イメージファイルを最初に作成することなく、希望のデータを書き込みます(パフォーマンスの低いコンピュータでは、この機能を使用しないでください)。イメージファイルはISOイメージとも呼びますが、CDの内容全体を保持しているファイルであり、通常はこのファイルを作成した後、その内容をそのままCDに書き込みます。

イメージのみを作成します。

このオプションは、イメージファイルを作成します。 *[Image]* タブの *[Temporary File]* に、このファイルのパスを設定します。後で、このイメージファイルをCDに書き込むことができます。この作業を行うには、 *[ツール]* > *[CDイメージを書き込む]* の順に選択します。このオプションを使用する場合、このセクション内にある他のすべてのオプションは無効になります。

Remove Image

書き込みが終了するときに、一時イメージファイルをハードディスクから削除します。

Verify Written Data

元のデータと書き込まれたデータのMD5チェックサムを比較することによって、書き込まれたデータの完全性を確認します。

[Image] タブは、 *[Only create image]* オプションが選択されている場合にのみ利用できます。この場合、ISOを書き込むファイルを指定します。

[Settings] タブには2つのオプションがあります。 *[DatatrackMode]* は、CDの場合のみ利用できます。このオプションでは、データトラックの書き込み方法を設定することができます。通常は、 *[Auto]* を選択すれば最適な方法になります。 *[Multisession Mode]* は、書き込みが行われたものの、まだファイナライズされていないメディアにデータを追加するために使います。

[ボリュームのID] タブで、このデータプロジェクトを識別するために使用できる一般情報、発行者と作成者、このプロジェクトの作成に使用されたアプリケーションとオペレーティングシステムを入力します。 *[File system]* タブでは、ファイルシステム(RockRidge、Joliet、UDF)の設定を行います。また、シンボリックリンク、ファイルのパーミッション、および空白を扱う方法も決定します。 *[詳細]* タブでは、経験のあるユーザが追加の設定項目を指定することができます。

必要に応じてすべての設定を調整したら、[書き込む]を使用して実際の書き込みプロセスを開始します。または、これらの設定を将来の使用や調整に備えて、[保存]を使用し保存します。

21.2 オーディオCDの作成

基本的に、オーディオCDの作成とデータCDの作成に大きな違いはありません。[ファイル] > [新しいオーディオCDプロジェクト]の順に選択します。個別のオーディオトラックをプロジェクトフォルダにドラッグアンドドロップします。オーディオデータは、WAVまたはOgg Vorbisのどちらかの形式でなければなりません。プロジェクトフォルダ内でトラックを上下に移動することにより、トラックの順序を決定します。

CD Textを使えば、CDのタイトル、アーティスト名、トラック名などのテキスト情報をCDに追加できます。この機能をサポートしているCDプレーヤーは、この情報を読み取って表示することができます。オーディオトラックにCD Text情報を追加するには、はじめにトラックを選択します。右クリックして[プロパティ]を選択します。新しいウィンドウが表示され、情報を入力することができます。

オーディオCDを書き込むためのダイアログは、データCDを書き込むためのダイアログと大差ありません。しかし、[DAO]と[TAO]のモードは大きな違いをもたらします。[TAO]モードでは、各トラックの後に2秒の中断時間を挿入します。

ティップ: データの完全性の維持

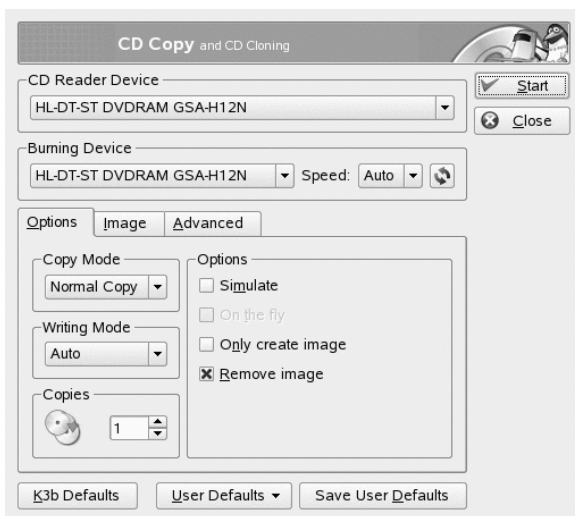
オーディオCDを書き込むときは、低速の書き込み速度を選択した方が書き込みエラーが発生する可能性は低くなります。

必要に応じてすべての設定を調整したら、[書き込む]を使用して実際の書き込みプロセスを開始します。または、これらの設定を将来の使用や調整に備えて、[保存]を使用し保存します。

21.3 CDまたはDVDのコピー

メディアに応じて、[ツール] > [CDをコピー] か [ツール] > [DVDをコピー] を選択します。表示されたダイアログで、図 21.3. 「CDのコピー」(320 ページ)に示すように、読み取りデバイスと書き込みデバイスに関する設定を行います。これまでに説明した書き込みオプションは、ここでも使用できます。追加の機能により、CDやDVDのコピー枚数を指定することもできます。

図 21.3 CDのコピー



他のデバイスから読み込みながら、それをメディアに書き込む場合は、[On the fly] を選択します。[Image] タブの [Write image file to] に指定されたパスに画像を作成し、イメージの書き込みは後で行う場合は、[Only create image] を選択します。

21.4 ISOイメージの書き込み

すでにISOイメージが手元にある場合、[ツール] > [CDイメージを書き込む] の順に選択します。[書き込むイメージ] の場所を入力するためのウィンドウが表示されます。K3bによってチェックサムが計算され、[MD5 Sum]

行にその値が表示されます。そのISOファイルがインターネットからダウンロードしたものである場合、このチェックサムはダウンロードが成功したかどうかを示します。

[オプション] と [詳細] の各タブを使用して、自分の好みに合う値を設定します。CDに書き込むには、[開始] をクリックします。

ISOイメージをDVDに書き込むには、[Tools] > [Burn DVD ISO image] の順に選択して、書き込むイメージを選択します。書き込みモードと書き込み枚数を指定して、他の適切なオプションを選択します。書き込んだDVDのデータ整合性をチェックする場合は、[Verify written data] を選択します。

21.5 マルチセッションCDまたはDVDの作成

マルチセッションのディスクでは、データを複数回にわたって書き込むことができます。この機能は、メディアよりも小さなバックアップを書き込む場合などに役立ちます。セッションごとに、バックアップファイルを追加していくことができます。興味深い点として、この機能はデータCDやDVDだけに限られているわけではありません。マルチセッションディスクにオーディオセッションを追加することもできます。

マルチセッションのディスクを作成するには、以下の手順に従います。

- 1 まず、データディスクを作成して、すべてのファイルを追加します。オーディオCDセッションから開始することはできません。ディスクがいっぱいになっていないことを確認してください。新しいセッションを追加することができません。
- 2 データを書き込むには、[プロジェクト] > [Burn] の順に選択します。
- 3 表示されるダイアログボックス内で、[Settings] タブに移動し、[Start Multisession] を選択します。DVDの場合は、DAO書き込みモードを使用しないでください。このモードは、マルチセッションをサポートしていません。

4 必要に応じて他のオプションを設定します。関連項目 21.1項「データCDまたはDVDの作成」(315 ページ)。

5 *[Burn]* をクリックして、書き込みセッションを開始します。

書き込みセッションが正常に完了すれば、マルチセッションのディスクになります。メディアに空きスペースがある限り、必要に応じてセッションを追加することができます。ディスクのファイナライズは、新しいセッションを追加する必要がない場合、またはスペースが残っていない場合にのみ行ってください。

注意: マルチセッションのディスクの容量

マルチセッションのディスクでは、セッションのすべてのエントリを管理するためのスペースが必要であることに注意してください。そのため、ディスクの使用可能な容量は小さくなり、セッション数に応じて変わります。

21.6 詳細情報

K3bには、これまでに説明した2つの機能のほかに、WAVフォーマットのオーディオデータの読み取り、CDへの追加書き込み、統合されたオーディオプレーヤでの音楽の再生など、他の機能もあります。このプログラムで使用可能なすべての機能の詳細は、<http://k3b.org/>で入手できます。

A

必要な情報を検索する

お客様の日常的なSUSE Linux Enterprise®の利用をサポートし、Linuxシステムに関する理解を支援するために、Novell SUSEとオープンソースコミュニティは、さまざまな情報を提供しています。関連情報が、さまざまな形式で用意されています。たとえば、本製品に付属のドキュメントを参照したり、インターネット上のさまざまな情報を利用することができます。

A.1 付属のドキュメント

製品に付属のオンラインドキュメントは、さまざまな場所に格納されています。KDEデスクトップにはHelp Centerがあり、そこからさまざまなオンラインドキュメントにアクセスすることができます。Help Centerでは、SUSE Linux Enterprise®固有の情報だけでなく、オープンソースコミュニティが提供するアプリケーションの詳細情報も利用することができます。

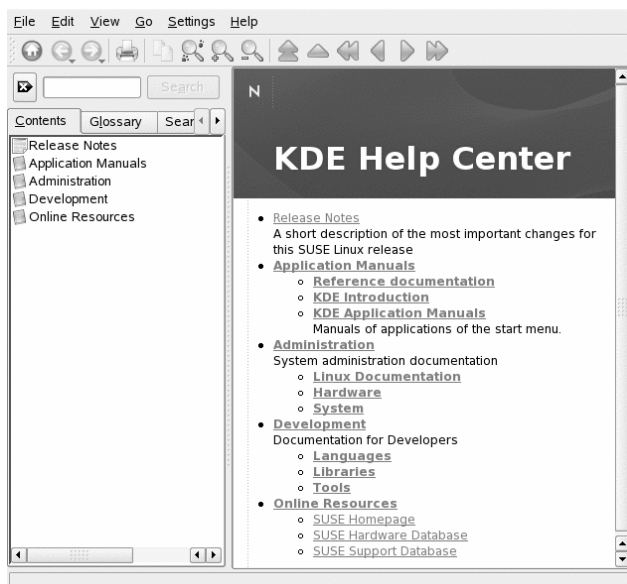
YaSTを使って新しくソフトウェアをインストールした場合、通常はそのソフトウェアのドキュメントも自動的にインストールされ、KDEデスクトップのHelp Centerに表示されます。ただし、GIMPなどの一部のアプリケーションは、YaSTとは別個にインストールされる独自のオンラインヘルプパッケージを利用しており、Help Centerには表示されない場合があります。

A.1.1 KDE Help Centerの使用方法

KDEデスクトップから、KDE help centerにさまざまな方法でアクセスできます。アプリケーション内部からの情報が必要な場合は、アプリケーションの

[ヘルプ] ボタンをクリックするか、またはF1キーを押して、Help Centerでのアプリケーションのドキュメントを開きます。メインメニューから、またはコマンドラインからsusehelpでHelp Centerを起動すると、Help Centerのメインウィンドウが表示され、ここでヘルプトピックをブラウズできます。

☒ A.1 KDE Help Centerのメインウィンドウ



メニューとツールバーには、Help Centerの内容を印刷したり、表示しているページ内を検索したり、Help Center内を移動したりカスタマイズするためのオプションが用意されています。ウィンドウの右側にある表示フィールドには、オンラインマニュアル、検索結果、またはWebページなど、選択したコンテンツの内容が表示されます。

ウィンドウの左側のナビゲーションエリアには、複数のタブがあります。

目次

利用できる情報ソースがツリービューで表示されます。Help Centerは、ユーザ、管理者、開発者など、さまざまなグループを対象にしています。ブックアイコンをクリックすると、個別のカテゴリが開いて、参照可能になります。たとえば、見出し「管理」では、コマンドラインプログラムに関連するさまざまなマニュアル(man)や情報(info)ページを参照することもできます。また、Help Centerからは、特定のハードウェアやソフトウェア

に関する製品の問題を取り上げたオンラインデータベースにアクセスすることもできます。検索インデックスを一度生成すると、これらのソースすべてを簡単に検索できます。

Help Centerで利用できる内容は、現在インストールされているソフトウェアパッケージと、設定されているシステム言語によって異なります。

用語集

用語の簡単な説明が記載されています。

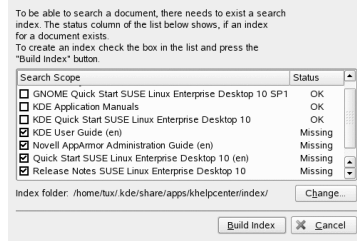
Search Options

Help Centerを全文検索するためのオプションが用意されています。さまざまな検索基準を指定して、検索を行うことができます。

手順 A.1 Help Centerの検索方法

KDE help centerで全文検索を行うには、検索インデックスを生成して、検索パラメータを設定する必要があります。検索インデックスをまだ生成していない場合、**[Search]** タブをクリックすると、インデックスを生成するプロンプトが自動的に表示されます。

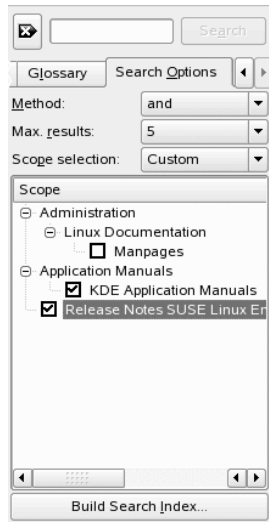
- 1 用語を検索するには、**[Search Options]** をクリックして検索文字列を入力します。
- 2 演算子を使って複数の文字列を組み合わせた検索を行う場合は、**[Method]** をクリックして、使用する演算子を選択します。
- 3 **[Max.Results]** からオプションを選択して、表示するヒット数を制限します。
- 4 検索するドキュメントの種類を指定する場合は、**[Scope]** からオプションを選択します。**[Default]** を選択した場合、あらかじめ定義されている種類のドキュメントが検索対象になります。**[All]** は、すべての種類のドキュメントを検索対象にする場合に使用します。**[Custom]** は、検索対象にするドキュメントを設定する場合に使用します。検索を実行するドキュメントだけを選択してください。



- 適切なオプションを設定したら、[検索] をクリックします。検索結果が一覧表示されます。表示されているリンクをクリックすると、ドキュメント中の該当する場所に移動することができます。

手順 A.2 新しい検索インデックスの生成

- 検索インデックスを作成するには、メニューから [設定] > [Build Search Index] の順に選択します。ウィンドウに、現在 Help Center で利用できるドキュメントが一覧表示されます。
- 検索インデックスを生成するドキュメントを選択し、[インデックス作成] をクリックします。インデックスが生成されたら、全文検索を実行することができます。



A.2 他のリソースや詳細情報

本製品のマニュアルやドキュメントは、インターネット上の<http://www.novell.com/documentation/sled10/>からアクセスすることもできます。

他の情報をお探しの場合は、次のインターネットサイトも参照してください。

Novellテクニカルサポートナレッジベース
<http://www.novell.com/support/>

製品サポートコミュニティのリソース
<http://forums.novell.com/novell-product-support-forums/>

KDEドキュメントWebサイト
<http://www.kde.org/documentation>

KDEアプリケーション用のドキュメントWebサイト
<http://www.kde-apps.org>

また、一般的な検索エンジンも、目的の情報を探す場合に役立ちます。たとえば、CDの書き込み時の問題や、OpenOffice.orgファイルの変換に関する問題を調べたい場合は、「Linux CD-RWヘルプ」や「OpenOfficeファイルの変換の問題」のような用語を検索します。また、Google?にはLinux用の検索エンジン<http://www.google.com/linux>も用意されています。このエンジンを利用すれば、有益な情報を探し出すことができます。

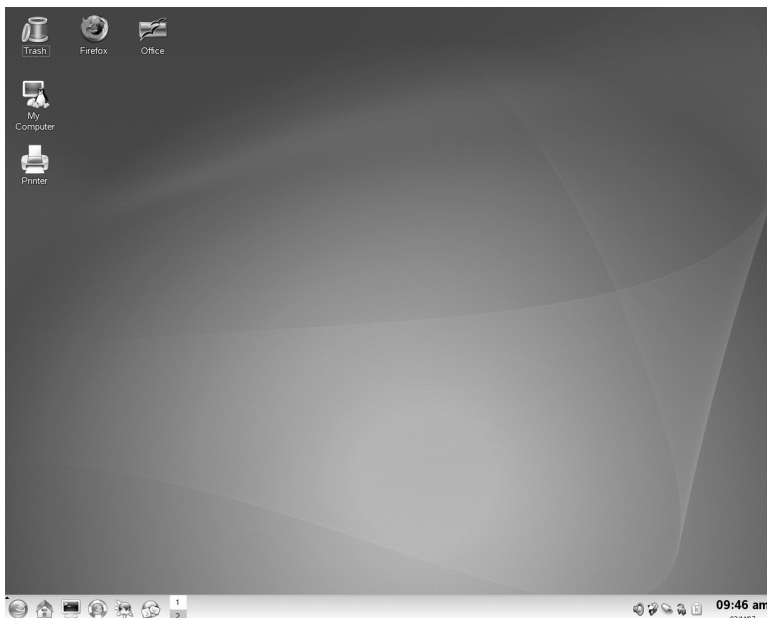


B

WindowsからLinuxへの移行

Microsoft WindowsからLinuxに移行された場合は、Windowsでおなじみの機能が、SUSE Linux Enterprise®ではどのようなになっているかご確認ください。ログインすると、WindowsやMacintoshデスクトップで見慣れたアイコンやレイアウトが表示されることにお気づきになるでしょう。

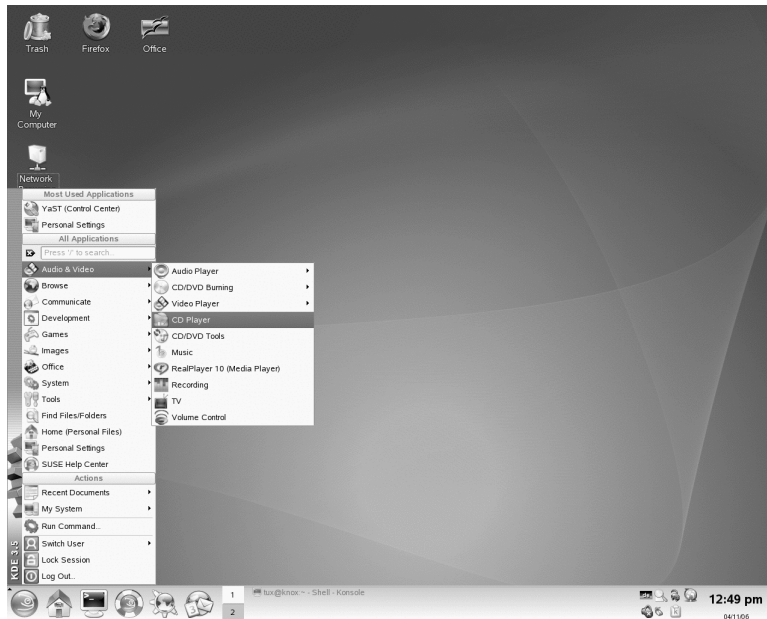
☒ B.1 KDE デスクトップ



B.1 メインメニューからのアプリケーションの起動

Windowsの [スタート] メニューのように、お使いのシステムにインストールされているすべてのプログラムは、メインメニューから起動することができます。メニューを開くには、パネルの左隅にある緑色のSUSEアイコンをクリックします。このメニューは機能中心の構造になっており、アプリケーションの名前が分からないような場合でも、目的に合ったアプリケーションを簡単に見つけることができます。メインメニューの詳細は、1.3.1項「メインメニューへのアクセス」(11 ページ)を参照してください。

☒ B.2 KDEのメインメニュー

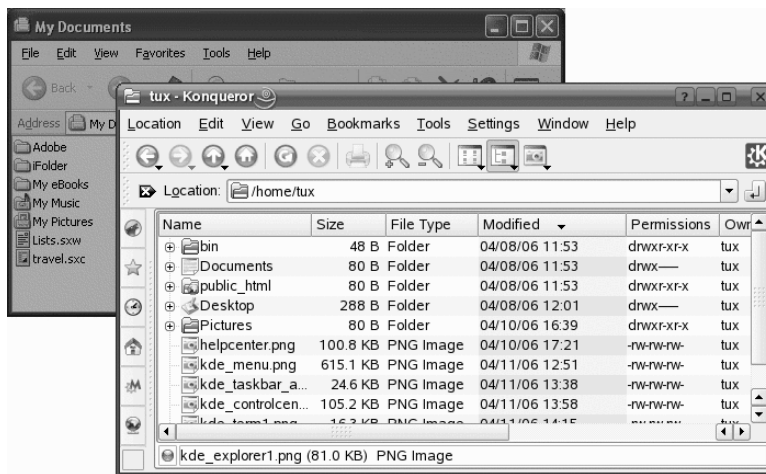


コマンドラインからプログラムを実行することもできます。この場合、Alt + F2キーを押して表示されるダイアログで、アプリケーションを起動するコマンドを入力します。一般的に、コマンド名はアプリケーション名を小文字表記したものになります。ただし、一部例外もあります。

B.2 ファイルの管理

デフォルトのKDEファイルマネージャ(およびインターネットブラウザ)のKonquerorを起動するには、**Alt+F2**キーを押して、konquerorと入力します。ホームディレクトリのコンテンツを表示するには、**[Personal Files]** をクリックします。このビューを直接表示する場合は、パネルのクイックスタートアイコンを使用します。

B.3 WindowsエクスプローラとKonqueror

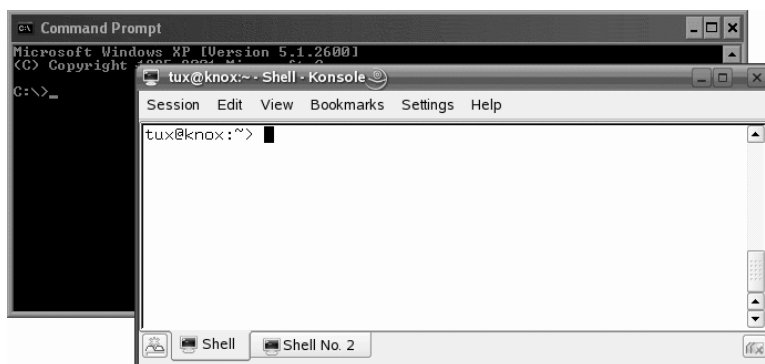


ファイルマネージャとしてのKonquerorの詳細は、1.4項「フォルダおよびKonquerorのあるファイルの管理」(19ページ)を参照してください。

B.3 コマンドラインの使用

Windowsのコマンドプロンプトのようにコマンドラインからコマンドを実行する場合は、**Alt+F2**キーを押してkonsoleと入力するか、またはパネルのクイックスタートアイコンを使用します。

☒ B.4 Windows コマンドプロンプトとKonsoleターミナル

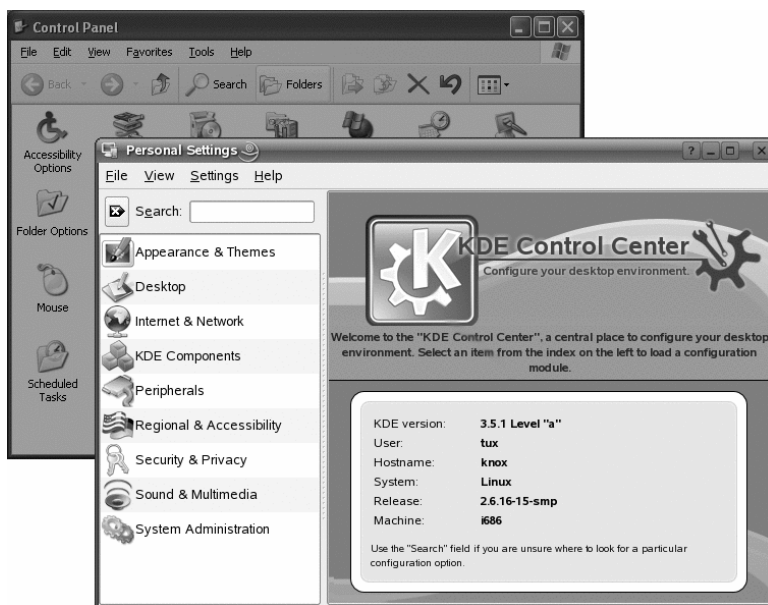


コマンドラインに関する作業の詳細は、第15章 *Working with the Shell* (↑Deployment Guide)を参照してください。

B.4 デスクトップのカスタマイズ

KDEデスクトップの外観や動作を変更するには、Alt + F2キーを押して、`kcontrol`と入力します。変更できる設定には、デスクトップの背景、スクリーンセーバ、キーボードとマウスの設定、サウンド、およびファイルの関連付けなどがあります。

☒ B.5 WindowsのコントロールパネルとKDEコントロールセンター

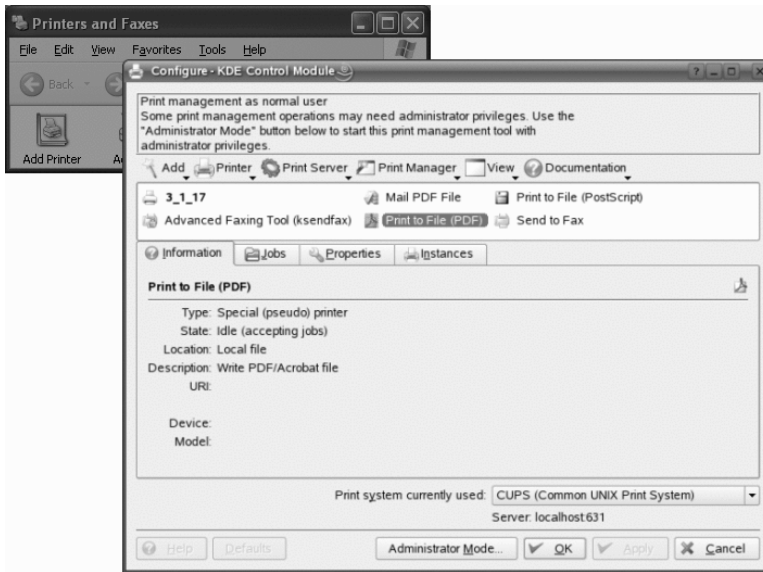


詳細については、2.1項「KDEコントロールセンターの使用」(53 ページ)を参照してください。

B.5 プリンタのセットアップ

SUSE Linux Enterpriseにプリンタを追加、またはセットアップするには、メインメニューからPrinting Managerを起動します。プリンタの追加や削除、印刷ジョブの管理、および印刷システムの設定ができます。詳細については、第12章 [プリンタの管理](#) (207 ページ)を参照してください。

☒ B.6 Windowsのプリンタ/FAXとKDEのPrinting Manager



B.6 アプリケーション間の切り替え

Windowsのタスクバーと同様に、KDEの下部のパネルから、開かれているウィンドウ間を素早く切り替えることができます。ただし、Windowsと違い、KDEでは複数のデスクトップで異なるプログラムを実行できます。これらのデスクトップ間は、シングルクリックで切り替えることができます。

ティップ: ショートカットキーを使用する

ショートカットキーを使って、複数のデスクトップ間を切り替えて、それぞれで動作しているアプリケーションを利用することができます。アプリケーション間を切り替えるには、**Alt + <Tab>**キーを使用します。**Ctrl + F1**、**Ctrl + F2**、などのキーの組み合わせを使用することにより、デスクトップ間を自由に切り替えることができます。

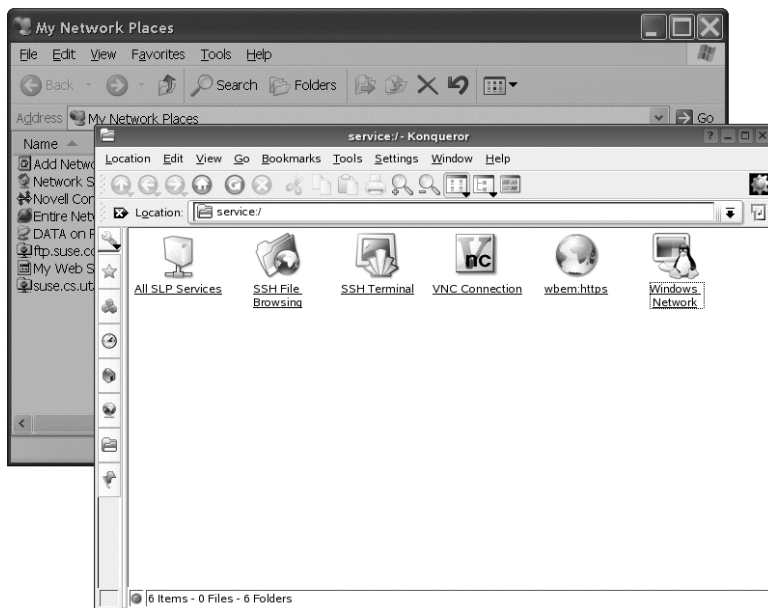
☒ B.7 WindowsパネルとKDEパネル



B.7 ネットワークリソースへのアクセス

デスクトップから、ファイルやディレクトリ、およびリモートホスト上の特定のサービスにアクセスしたり、自分のファイルやディレクトリをネットワーク中の他のユーザに利用させることができます。SUSE Linux Enterpriseには、ネットワーク共有リソースにアクセスしたり、リソースを作成するための、さまざまな手段が用意されています。ご利用のネットワーク構造とお使いのコンピュータの設定に応じて、ネットワーク上の共有リソースやサービスをKonquerorのファイルマネージャを使用して簡単に参照できます。

☒ **B.8** WindowsのマイネットワークとKonquerorのネットワーク参照



ネットワークリソースへのアクセスの詳細については、第9章 ネットワークリソースへのアクセス (173 ページ)を参照してください。



C

Linuxソフトウェアの概要

Linuxには多くのアプリケーションが付属しているため、多くの場合、1つの問題に複数のソリューションがあります。ただし、目的に最も適したアプリケーションを見つけ出すのは容易ではありません。ここでは、一般的なWindowsソフトウェアと同等の強力なLinuxアプリケーションについて説明します。各セクションでは、それぞれ特定の分野のアプリケーションを取り上げ、Windowsアプリケーションとそれに対応するLinuxのアプリケーション、およびその概要について説明します。各項目の最後には、それぞれのLinuxアプリケーションの詳細や、他の情報へのリンクが記載されています。ソフトウェアの開発プロセスは常に進歩し、絶えず新しいアプリケーションが開発されているため、このリストが完結することはありません。

ティップ: 不足アプリケーション

ここで説明されているすべてのアプリケーションがデフォルトでシステムにインストールされるとは限りません。一部のアプリケーションは、製品と同梱されていない可能性があります。使用するアプリケーションがない場合は、システム管理者にお問い合わせください。アプリケーションが製品によって提供されている場合は、YaSTを使用してそのアプリケーションをインストールできます。YaSTのソフトウェア管理ツールの検索機能を使って、パッケージを見つけてください。

C.1 電話(オフィス)

ここでは、一般的で強力なLinuxのオフィスビジネスソフトウェアソリューションについて説明します。このようなソフトウェアとしては、オフィ

ススイート、データベース、財務会計ソフトウェア、およびプロジェクト管理ソフトウェアがあります。

表 C.1 *Windows*と*Linux*のオフィスソフトウェア

タスク	Windowsアプリケーション	Linuxアプリケーション
オフィススイート	Microsoft Office、StarOffice*、OpenOffice.org	OpenOffice.org、StarOffice、KOffice
ワードプロセッサ	Microsoft Word、StarOffice/OpenOffice.org Writer、WordPerfect	OpenOffice.org/StarOffice Writer、KWord
表計算ソフト	Microsoft Excel、StarOffice/OpenOffice.org Calc	OpenOffice.org/StarOffice Calc、Gnumeric、KSpread
プレゼンテーション	Microsoft PowerPoint*、StarOffice/OpenOffice.org Impress	OpenOffice.org/StarOffice Impress、KPresenter
データプロット	Microsoft Excel、MicroCall Origin	OpenOffice.org Calc、Kst、Gnuplot、Grace (Xmgr)、LabPlot
ローカルデータベース	Microsoft Access、OpenOffice.org Base	OpenOffice.org Base、Rekall、kexi、Mergeant、PostgreSQL
財務会計	Microsoft Money、Quicken	GnuCash、KMyMoney
プロジェクト管理	Microsoft Project	Planner、Taskjuggler
マインドマップ	MindManager、Free Mind	VYM (View Your Mind)、Free Mind、KDissert

FreeMind

FreeMindを利用して、マインドマップを作成、編集することにより、自分の考えを視覚化することができます。簡単にノードおよびノードのスタイ

ルをコピーして、HTML、RTF、メールなどのソースからテキストを\n93\5cり付けることができます。\'83\7dインド\'83\7dップは、HTMLとXMLなどのさまざまな形式にエクスポートできます。詳細については、http://freemind.sourceforge.net/wiki/index.php/Main_Pageを参照してください。

GnuCash

GnuCashは、個人および法人の財務を管理するための\'83\5cフトウェアツールです。GnuCashの詳細については、<http://www.gnucash.org>を参照してください。

Gnumeric

Gnumericは、GNOMEデスクトップ環境用の\'95\5c計算\'83\5cリユースョンです。Gnumericの詳細については、<http://www.gnumeric.org>を参照してください。

Gnuplot

Gnuplotは、非常に強力で移植性の高い、コマンドラインで制御するデータプロット用ソフトウェアです。MacOSおよびWindowsプラットフォームでも利用可能です。Gnuplotが作成するプロットは、PostScript、PDF、SVG、およびその他の形式でエクスポートできるため、容易にプロットを処理できます。Gnuplotの詳細については、<http://www.gnuplot.info/index.html>を参照してください。

Grace

Graceは、Linuxを含むほとんどすべてのUnixで利用できる、非常に完成された2Dプロット用ツールです。グラフィカルユーザインターフェースを使ってプロットを作成、編集します。Graceは、プロットごとにいくらかでも多くのグラフをサポートしています。エクスポート形式には、JPEG、PNG、SVG、PDF、PSおよびEPSが含まれます。詳細については、<http://plasma-gate.weizmann.ac.il/Grace/>を参照してください。

Kdissert

Kdissertはアイデアとコンセプトを\'8d\5c築するためのアプリケーションで、ほとんど学生を対象としていますが、教師、意思決定責任者、エンジニア、ビジネス\'83\7dンなどにも有用です。まずアイデアをキャンバスに描いて、ツリーに関連付けます。\'83\7dインド\'83\7dップから、PDFファイル、テキスト文書(OpenOffice.org Writeも適用)、HTMLファイルなどの、さまざまな出力を生成できます。詳細については、<http://freehackers.org/~tnagy/kdissert/>を参照してください。

Kexi

詳細については、**KOffice (340 ページ)**を参照してください。

KMyMoney

KMyMoneyは、**KDE**の個人用ファイナンスマネージャです。豊富な財務機能やツールを提供することにより、オープンソースのオペレーティングシステムのユーザーが個人的な財務を追跡することができます。**KMyMoney**の詳細については、<http://kmymoney2.sourceforge.net>を参照してください。

KOffice

KOfficeは、**KDE**デスクトップに統合されたオフィススイートです。ワードプロセッサ(**KWord**)、計算機ソフト(**KSpread**)、プレゼンテーション(**KPresenter**)、いくつかの画像処理アプリケーション(**Kivio**、**Karbon14**、**Krita**)、データベースフロントエンド(**Kexi**)や、他の多くのモジュールが付属しています。**KOffice**の詳細については、<http://www.koffice.org/>を参照してください。

KPresenter

詳細については、**KOffice (340 ページ)**を参照してください。

Kst

Kstはリアルタイムのデータ表示と基本データ分析機能を使用したプロットのための**KDE**アプリケーションです。**Kst**には、堅牢なライブストリーミングデータのプロットングなど、強力なビルトイン機能が多く含まれており、プラグインと拡張機能で拡張できます。**Kst**の詳細については、<http://kst.kde.org/>を参照してください。

KWord

詳細については、**KOffice (340 ページ)**を参照してください。

LabPlot

LabPlotは、2次元または3次元のデータプロットを作成し、管理するためのプログラムです。グラフは、データと関数の両方から生成することができます。1つのプロットが複数のグラフを含むことができます。また、様々なデータ分析方式も提供しています。**LabPlot**の詳細については、<http://labplot.sourceforge.net/>を参照してください。

Mergeant

Mergeantは、**GNOME**デスクトップ用のデータベースフロントエンドです。詳細については、<http://www.gnome-db.org>を参照してください。

OpenOffice.org

OpenOffice.orgは、Microsoft Officeと同等の機能を持つオープンソースのアプリケーションです。OpenOffice.orgは、ワードプロセッサ(Write)、表計算ソフトとデータベースマネージャ(Base)、プレゼンテーションマネージャ(Impress)、描画プログラム(Draw)、および数学の方程式と式(Math)を生成する数式エディタを含む強力なオフィススイートです。アプリケーションインタフェースはMicrosoft Officeアプリケーションファミリに良く似ており、Microsoft Officeユーザに馴染みのあるすべての機能が付属します。OpenOffice.orgはMicrosoft Officeアプリケーションからデータをインポートできるため、オフィススイート間の移行もスムーズです。

OpenOffice.orgにはWindowsバージョンもあるため、WindowsユーザはWindowsを使用しながらオープンソースに切り替えることができます。OpenOffice.orgの詳細については、<http://www.openoffice.org/>を参照してください。また、本書のOpenOffice.orgに関する章でも、オフィススイートを簡単に紹介しています。

Planner

Plannerは、Windows用のプロジェクト管理ツールと同等の機能を提供することを目的とするGNOMEデスクトップ用のプロジェクト管理ツールです。搭載されている機能としては、Ganttチャート機能、タスクとリソースのための各種のビューなどがあります。Plannerの詳細については、<http://www.imendio.com/projects/planner/>を参照してください。

PostgreSQL

PostgreSQLは、トランザクション、外部キー、サブクエリ、トリガ、ユーザ定義の型および関数を含む標準SQLの拡張サブセットをサポートするオブジェクトリレーショナルデータベース管理システムです。PostgreSQLの詳細については、<http://www.postgresql.org/>を参照してください。

Rekall

Rekallは、データベースを操作するツールです。サポートされているデータベースは、MySQL、PostgreSQL、XBaseとXBSQL、IBM DB2、およびODBCです。Rekallを使用すると、各種のレポートやフォームの作成、データベースクエリの実行、またはデータのインポート/エクスポートができます。Rekallの詳細については、<http://www.thekompany.com/products/rekall/>を参照してください。

StarOffice

StarOfficeはOpenOffice.orgの独自規格のバージョンで、Sun Microsystemsが配布しています。WindowsやSolarisを含む、複数のプラットフォームで利用可能です。フリー版(OpenOffice.org)では利用できない、いくつかの高度な機能も含まれています。StarOfficeの詳細については、<http://www.sun.com/software/star/staroffice/>を参照してください。

Taskjuggler

Taskjugglerは、軽量で強力なプロジェクト管理ソフトウェアです。Ganttチャート機能を使用するか、各種のレポート(XML、HTML、またはCSV形式)を生成してプロジェクトを制御します。アプリケーションのコマンドライン操作に慣れていないユーザは、Taskjugglerのグラフィカルフロントエンドを使用できます。Taskjugglerの詳細については、<http://www.taskjuggler.org>を参照してください。

VYM (View Your Mind)

VYMは、マインドマップを作成および操作して思考をビジュアル化するソフトウェアです。ほとんどの操作は、1回のマウスクリックで実行できます。ブランチは、簡単に追加、削除、または並べ替えることができます。VYMは、マップの特定の部分(重要、最重要など)にフラグを付けることができます。マインドマップには、リンク、メモ、およびイメージも追加できます。VYMのマインドマップはXML形式を使用するため、HTML形式で簡単にエクスポートできます。VYMの詳細については、<http://www.insilmaril.de/vym>を参照してください。

C.2 Network

次のセクションでは、ネットワーク用のさまざまなLinuxアプリケーションを紹介します。最も人気のあるLinuxのブラウザ、電子メール、チャットクライアントについて説明します。

表 C.2 WindowsとLinuxのネットワークソフトウェア

タスク	Windowsアプリケーション	Linuxアプリケーション
Webブラウザ	Internet Explorer、Firefox*、Opera	Konqueror、Firefox、Opera、Epiphany
電子メールクライアント/個人情報管理	Microsoft Outlook*、Lotus Notes、Mozilla Thunderbird*	Evolution、Kontact、Mozilla Thunderbird
インスタントメッセージ/IRCクライアント	MSN、AIM*、Yahoo!* Messenger、XChat、Gaim	Gaim、Kopete、Konversation、XChat
会議(オーディオとビデオ)	NetMeeting	Ekiga (以前のGnomeMeeting)
VoIP(Voice over IP)	X-Lite	Linphone、Skype
FTPクライアント	leechftp、wsftp	gftp、kbear

Epiphany

Epiphanyは、GNOMEデスクトップ用の、軽量ながら強力なWebブラウザです。その機能と拡張子の多くは、Firefoxと似ています。Epiphanyの詳細については、<http://www.gnome.org/projects/epiphany/>を参照してください。

Evolution

Evolutionは、メール、予定表、およびアドレス帳の機能を組み合わせたGNOMEデスクトップ用の個人情報管理ソフトウェアです。Evolutionは高度な電子メールフィルタと検索オプションおよびPalmデバイスへの同期機能を提供し、ExchangeまたはGroupWiseクライアントとして実行することもできるため、異種環境への統合性も良好です。Evolutionの詳細については、「<http://www.gnome.org/projects/evolution/>」を参照してください。

Firefox

FirefoxはMozillaブラウザファミリの最新のメンバーで、Linux、MacOS、Windowsを含むさまざまなプラットフォームで動作します。Firefoxの主な

機'94'5cとしては、カスタ'83'7dイズ可'94'5cな内蔵検索機'94'5c、ポップアップブロッキング、RSSニュースフィード、パスワード管理、タブ付きブラウザ、および高度なセキュリティとプライバシーのオプションがあります。Firefoxでは、検索、ツールバー、スキン、'83'7bタンなどのほとんどすべての機'94'5cを柔軟にカスタ'83'7dイズできます。便利なアドオンや拡張機能がFirefoxのWebサイト(<https://addons.update.mozilla.org/?application=firefox>)からダウンロードできます。Firefoxの詳細については、<http://www.mozilla.org/products/firefox/>を参照してください。『KDEユーザガイド』または『GNOMEユーザガイド』のFirefoxの章も参照してください。

Gaim

Gaimは、AIMとICQ(Oscarプロトコル)、MSN Messenger、Yahoo!*、IRC、Jabber、SILC、GroupWise Messenger@などの複数のプロトコルをサポートする高性能インスタントメッセンジャプログラムです。Gaimを使用すると、複数のIMネットワークのアカウントにログインして同時に異なるチャンネルでチャットできます。GaimにはWindowsバージョンもあります。最近、GaimはPidginに名前が変更されました。Pidginの詳細については、<http://www.pidgin.im/>を参照してください。

gftp

gftpは、GTKツールキットを使用するFTPクライアントです。同時ダウンロード、中断されたファイル転送の再開、ファイル転送キュー、ディレクトリ全体のダウンロード、FTPプロキシのサポート、リモートディレクトリのキャッシング、パッシブおよび非パッシブのファイル転送、ドラッグアンドドロップのサポートといった機能が含まれています。詳細については、<http://gftp.seul.org>を参照してください。

kbear

kBearは、複数のホストへの同時接続、3つのビューモード、複数のプロトコル(ftp、sftpなど)のサポート、サイト'83'7dネージャプラグイン、ファイアウォールのサポート、ログ機'94'5c、およびその他の多くの機'94'5cがあるKDE FTPクライアントです。詳細については、<http://sourceforge.net/projects/kbear>を参照してください。

Konqueror

Konquerorは、KDEの開発者たちに作成された、多目的のアプリケーションです。ファイルマネージャやドキュメントビューアとして動作しますが、非常に強力でカスタマイズ性の高いWebブラウザでもあります。KonquerorはCSS(2)、Javaアプレット、JavaScript、Netscapeプラグイン

(Flash、RealVideo)、DOM、SSLなどの最新のWeb標準をサポートします。また、統合された検索バーなどの軽量ヘルパー機⁹⁴5cを提供し、タブ付きブラウザもサポートします。Internet Explorer、Mozilla、Operaなどのその他のWebブラウザからブックマークをインポートすることもできます。Konquerorの詳細については、<http://www.konqueror.org/>を参照してください。Konquerorについては、『KDEユーザガイド』のWebブラウザの章も参照してください。

Kontakt

Kontaktは、KDEの個人用情報管理スイートです。電子メール、カレンダー、アドレス帳、Palmとの同期機能が含まれています。Evolutionのように、ExchangeやGroupWiseのクライアントとして動作することができます。KontaktはスタンドアロンのKDEアプリケーション(KMail、KAddressbook、KOrganizer、およびKPilot)を組み合わせて、必要なすべてのPIM機⁹⁴5cを提供するエンティティを形成します。Kontaktの詳細については、<http://www.kontakt.org/>を参照してください。『KDEユーザガイド』のKontaktに関する章も参照してください。

Konversation

Konversationは、KDE用の使いやすいIRCクライアントです。SSL接続のサポート、ストライクアウト、複数チャネルの参加、退出と復帰のメッセージ、無視リストの機、Unicode、サーバへの自動接続、チャットウィンドウへのタイムスタンプの表示、設定可能な背景色といった機能が含まれています。Konversationの詳細については、<http://konversation.kde.org>を参照してください。

Kopete

Kopeteは、IRC、ICQ、AIM、GroupWise Messenger、Yahoo、MSN、Gadu-Gadu、Lotus Sametime、SMSメッセージ、Jabberなどのプロトコルをサポートする直感的で使いやすいインスタントメッセンジャーツールです。Kopetenの詳細については、<http://kopete.kde.org/>を参照してください。『KDEユーザガイド』のKopeteに関する章も参照してください。

Linphone

Linphoneは、高機能で軽量なVoIP (Voice over IP)クライアントで、SIPプロトコルを使用して通話します。詳細については、<http://www.linphone.org/>を参照してください。Linphoneの章もお読みください。

Mozilla Thunderbird

Thunderbirdは、Mozillaスイートの一部となる、電子メールクライアントアプリケーションです。Microsoft WindowsやMacOSでも利用可能で、それらのいずれかのオペレーティングシステムからLinuxへの移行を容易にします。Mozilla Thunderbirdの詳細については、<http://www.mozilla.org/products/thunderbird/>を参照してください。

Opera

Operaは、必要に応じて電子メールクライアント、チャットモジュールなどの便利なアドオンを搭載できる強力なWebブラウザです。Operaは、ポップアップブロッキング、RSSニュースフィード、カスタマイズ可能な内蔵検索機能、パスワードマネージャ、およびタブ付きブラウザ機を提供します。主な機能には、それぞれのパネルを介して簡単にアクセスできます。このツールにはWindows用もあるため、Windowsユーザも容易にLinuxに移行できます。Operaの詳細については、<http://www.opera.com/>を参照してください。

Skype

Skypeは付く数のプラットフォーム(Linux、Windows、Mac OS X)用のアプリケーションで、優れた音質とエンドツーエンドの暗号化を使用して、インターネット上での通話に使用できます。Skypeを使用するときは、ファイアウォールまたはルータの設定は不要です。詳細については、<http://www.skype.com/>を参照してください。

XChat

XChatはWindowsとMacOS Xだけでなく、ほとんどのLinuxとUNIXプラットフォームで動作するIRCクライアントです。<http://www.xchat.org/>

C.3 マルチメディア

次のセクションでは、Linux用の最も人気のあるマルチメディアアプリケーションを紹介します。ディープラーナー、サウンド編集ソリューション、およびビデオ編集ツールについて解説します。

表 C.3 WindowsとLinuxのマルチメディアソフトウェア

タスク	Windowsアプリケーション	Linuxアプリケーション
オーディオCDプレーヤー	CD Player、Winamp、Windows Media Player	KsCD、Grip、Helix Banshee
CDバーナー	Nero、Roxio Easy CD Creator	K3b
CDリッパー	WMPowerPlayer	kaudiocreator、Sound Juicer、Helix Banshee
オーディオプレーヤー	Winamp、Windows Media Player、iTunes	amaroK、XMMS、Rhythmbox、Helix Banshee
ビデオプレーヤー	Winamp、Windows Media Player	Kaffeine、MPlayer、Xine、XMMS、Totem、RealPlayer
オーディオエディタ	SoundForge、Cooledit、Audacity	Audacity
サウンドミキサー	sndvol32	alsamixer、Kmix
楽譜作成	Finale、SmartScore、Sibelius	LilyPond、MusE、Noteedit、Rosegarden
ビデオの製作と編集	Windows Movie Maker、Adobe Premiere、Media Studio Pro、MainActor	MainActor、Kino
テレビの再生	AVerTV、PowerVCR 3.0、CinePlayer DVR	xawtv (analog)、motv (analog)、xawtv4、tvtime、kdetv、zapping

amaroK

amaroKメディアプレーヤーはさまざまなオーディオ形式に対応し、インターネットラジオ局のストリーミングオーディオ放送を再生できます。

amaroKはバックエンドとして動作するサウンドサーバがサポートするファイルタイプを処理できます(現在はaRtsまたはGStreamer)。amaroKの詳細については、<http://amarok.kde.org/>を参照してください。『*KDE* ユーザガイド』のamaroKに関する章も参照してください。

Audacity

Audacityは無料の強力なサウンド編集ツールで、Ogg VorbisまたはWAVファイルの録音、編集、および再生ができます。トラックのミキシングや効果の適用も実行でき、結果をWAVまたはOgg Vorbisにエクスポートできます。Audacityの詳細については、<http://audacity.sourceforge.net/>を参照してください。

Helix Banshee

Helix Bansheeは、GNOMEデスクトップ用の音楽管理および再生アプリケーションです。Helix Bansheeを使用すると、CDのインポート、iPodへの音楽コレクションの同期、iPodからの音楽の直接再生、ライブラリからの曲の再生リストの作成、ライブラリのサブセットからのオーディオおよびMP3 CDの作成などを行うことができます。詳細は、『*GNOME* ユーザガイド』を参照してください。

Grip

GripはGNOMEデスクトップにCDプレーヤーの機能を提供します。トラックとアルバムデータのCDDb検索をサポートします。詳細については、<http://www.nostatic.org/grip/>を参照してください。

Kaffeine

Kaffeineは、Ogg Vorbis、WMV、MOV、AVIを含む幅広いオーディオおよびビデオ形式をサポートする多機能マルチメディアアプリケーションです。さまざまなタイプのプレイリストをインポートして編集し、スクリーンショットを作成し、メディアストリームをローカルハードディスクに保存できます。Kaffeineの詳細については、<http://kaffeine.kde.org/>を参照してください。

KAudiocreator

KAudiocreatorは、軽量のCDリッパーアプリケーションです。KAudiocreatorは選択内容に応じて再生リストファイルを生成することもできます。amaroK、XMMS、またはHelix Bansheeなどのプレーヤーは、これを使用して再生できます。KAudiocreatorの使用の詳細については『*KDE* ユーザガイド』、または<http://www.icefox.net/programs/?program=KAudiocreator>を参照してください。

kdetr

KDEデスクトップ用のアナログテレビの再生と録画のためのアプリケーションです。kdetrの詳細については、<http://kde-apps.org/content/show.php?content=11602>を参照してください。

KsCD

KsCDは、KDEデスクトップ用の、軽量で小型のCDプレーヤーアプリケーションです。ユーザインタフェースは通常のハードウェアCDプレーヤーに非常によく似ているので、使いやすくなっています。KsCDはCDDDBをサポートし、インターネットまたはローカルのファイルシステムからトラックやアルバムの情報を取得できます。詳細については、<http://docs.kde.org/en/3.3/kdemultimedia/kscd/>を参照してください。

K3b

K3bは多機能メディア作成ツールで、ドラッグアンドドロップ操作によってデータ、オーディオ、ビデオCD、およびDVDプロジェクトを作成できます。Kbの詳細については、<http://www.k3b.org/3>を参照してください。K3bの章を参照することもできます。

LilyPond

LilyPondは無料の楽譜エディタです。入力フォーマットはテキストベースのため、任意のテキストエディタを使用して楽譜を作成できます。ユーザはスペース、改行、ポリフォニーの衝突などの書式や表記の問題を処理する必要はありません。LilyPondでは、このような問題はすべて自動的に解決されます。コード名、タブラチュアなどの多くの特別な記法もサポートされます。出力は、PNG、TeX、PDF、PostScript、およびMIDIでエクスポートできます。LilyPondの詳細については、<http://lilypond.org/web/>を参照してください。

MainActor

MainActorは、フル装備のビデオオーサリングソフトウェアです。MainActorにはWindowsバージョンがあるため、Windowsから簡単に移行できます。MainActorの詳細については、<http://www.mainactor.com/>を参照してください。

MPlayer

MPlayerはいくつかのシステム上で実行できるムービープレイヤーです。MPlayerの詳細については、<http://www.mplayerhq.hu/homepage/design7/info.html>を参照してください。

MusE

MusEのゴールは、Linux用の完全なMIDIトラック仮想スタジオになることです。MusEの詳細については、<http://www.muse-sequencer.org/index.php>を参照してください。

Noteedit

NoteeditはLinuxの強力な楽譜エディタです。Noteeditを使用すると、楽譜を作成し、MIDI、MusicXML、LilyPondなどの多くの形式で楽譜をインポートおよびエクスポートできます。Noteeditの詳細については、<http://developer.berlios.de/projects/noteedit/>を参照してください。

Rhythmbox

Rhythmboxは、GNOMEデスクトップ用の強力な、多目的のメディアプレーヤです。プレイリストを使用してミュージックコレクションを整理し、ブラウズすることができます。インターネットラジオもサポートしています。Rhythmboxの詳細については、<http://www.gnome.org/projects/rhythmbox/>を参照してください。

Rosegarden

Rosegardenは無料の作曲編曲環境で、オーディオ、MIDIシーケンサ、および楽譜エディタ機能を提供します。Rosegardenの詳細については、<http://rosegardenmusic.com/>を参照してください。

Sound Juicer

Sound Juicerは、GNOMEデスクトップ用の軽量なCDリッパーアプリケーションです。Sound Juicerの詳細については、<http://www.burtonini.com/blog/computers/sound-juicer>を参照してください。

Totem

Totemは、GNOMEデスクトップ用のムービープレーヤアプリケーションです。Shoutcast、m3u、asx、SMIL、およびraの再生リストをサポートし、キーボードでのコントロールが可能です。幅広いオーディオおよびビデオ形式を再生します。Totemの詳細については、<http://www.gnome.org/projects/totem/>を参照してください。

tvtime

tvtimeは、アナログテレビの再生のための軽量アプリケーションです。tvtimeの詳細と使用方法については、<http://tvtime.sourceforge.net/>を参照してください。

xawtvとmotv

xawtvはアナログテレビをサポートするテレビの再生と録画のためのアプリケーションです。xawtvプロジェクトの詳細については、<http://linux.bytesex.org/xawtv/>を参照してください。

xawtv4

xawtv4はxawtvアプリケーションの後継バージョンで、アナログとデジタルの両方のオーディオ/ビデオ放送をサポートします。詳細については、<http://linux.bytesex.org/xawtv/>を参照してください。

Xine

Xineは、CD、DVD、およびVCDを再生するマルチメディアプレイヤーです。多くのマルチメディア形式を解釈します。詳細については、<http://xinehq.de/>を参照してください。

XMMS

XMMSは一般的なマルチメディア再生アプリケーションで、音楽再生に焦点を合わせ、CDとOgg Vorbisファイルの再生をサポートします。XMMSはWinampに似ているため、Winampのユーザは快適に使用できます。XMMSの詳細については、<http://www.xmms.org/>を参照してください。

zapping

GNOMEデスクトップ用のアナログテレビの再生と録画のためのアプリケーションです。Zappingの詳細については、<http://zapping.sourceforge.net/Zapping/index.html>を参照してください。

C.4 グラフィックス

ここでは、グラフィックス処理のためのLinuxソフトウェアソリューションについて説明します。これらのソフトウェアには、フル装備のイメージ処理ツール、強力なレンダリングおよびアニメーションプログラムだけでなく、簡単な描画アプリケーションもあります。

表 C.4 WindowsとLinuxのグラフィックスソフトウェア

タスク	Windowsアプリケーション	Linuxアプリケーション
簡単なイメージ編集	Microsoftペイント	KolourPaint

タスク	Windowsアプリケーション	Linuxアプリケーション
プロフェッショナル イメージ編集	Adobe Photoshop、Paint Shop Pro、Corel PhotoPaint、GIMP	GIMP、Krita
ベクタイメージの作 成	Adobe Illustrator、 CorelDraw、OpenOffice.org Draw、Freehand	OpenOffice.org Draw、 Inkscape、Dia
SVG編集	WebDraw、Freehand、Adobe Illustrator	Inkscape、Dia、Kivio
3Dイメージの作成	3D Studio MAX、Maya、 POV-Ray、Blender	POV-Ray、Blender、 KPovmodeler
デジタル写真の管理	カメラメーカーが提供するソ フトウェア	DigiKam、F-スポット
スキャン	Vuescan	Vuescan、GIMP
イメージビューア	ACDSee	gwenview、gThumb、 Eye of Gnome、f-spot

Blender

Blenderは、Windows、MacOS、Linuxを含む多くのプラットフォームで使用できる強力なレンダリング/アニメーションツールです。Blenderの詳細については、<http://www.blender3d.com/>を参照してください。

Dia

DiaはVisioに対するLinuxの同等製品を目的とするLinuxアプリケーションで、ネットワーク、UMLチャートなど、多くの特殊なダイアグラムをサポートします。エクスポートの形式には、SVG、PNG、EPSがあります。カスタムのダイアグラムタイプをサポートするには、新しい形状を特別なXML形式で指定します。Diaの詳細については、<http://www.gnome.org/projects/dia/>を参照してください。

Digikam

Digikamは、KDEデスクトップ用の高機能デジタル写真管理ツールです。数回のクリックでデジタルイメージをインポートして整理できます。アル

バムを作成してタグを追加すると、複数のサブディレクトリにイメージをコピーせずにWebサイトにイメージをエクスポートできます。Digikamの詳細については、<http://www.digikam.org/>を参照してください。また、『*KDEユーザガイド*』のDigiKamに関する章も参照してください。

Eye of Gnome (eog)

Eye of Gnomeは、GNOMEデスクトップ用の画像ビューアアプリケーションです。詳細については、<http://www.gnome.org/projects/eog/>を参照してください。

F-Spot

f-spotは、GNOMEデスクトップ用の、柔軟なデジタル写真管理ツールです。アルバムの作成と管理、HTMLページなどの様々なエクスポートオプションのサポート、画像アーカイブのCDへの書き込みなどが行えます。また、f-spotをウィンドウの画像ビューアとして使用することもできます。f-spotに関する詳細は、<http://www.gnome.org/projects/f-spot/>を参照してください。また、『*GNOMEユーザガイド*』の該当する章も参照してください。

gThumb

gThumbはGNOMEデスクトップ用のイメージビューア、ブラウザ、オーガナイザで、gphoto2によるデジタルイメージのインポートをサポートし、基本的な変換および修正を実行でき、一定の分類規則に従ってイメージにタグを付けてアルバムを作成できます。gThumbの詳細については、<http://gthumb.sourceforge.net/>を参照してください。

Gwenview

Gwenviewは、KDE用のシンプルな画像ビューアです。フォルダツリーウィンドウとファイルリストウィンドウがあり、ファイルの階層構造内を簡単に移動できます。詳細については、<http://gwenview.sourceforge.net/home/>を参照してください。

Inkscape

Inkscapeは無料のSVGエディタです。Inkscapeは、Adobe Illustrator、Corel Draw、およびVisioと同様の機能とユーザインタフェースを提供します。Inkscapeには、SVGからPNGへのエクスポート、レイヤー、変換、グラデーション、オブジェクトのグループ化の機能があります。Inkscapeの詳細については、<http://www.inkscape.org/>を参照してください。

Kivio

Kivioは、KOfficeスイートに統合されている、フローチャート用アプリケーションです。これまでのVisioのユーザは、Kivioのルックアンドフィールに親しみを感じるでしょう。Kivioの詳細については、<http://www.koffice.org/kivio/>を参照してください。

KolourPaint

KolourPaintは、KDEデスクトップ用の使いやすいペイントプログラムです。このプログラムを使用して、ダイアグラムのペイントや描画、スクリーンショット、写真、アイコンの編集などのタスクを実行できます。詳細については、<http://kolourpaint.sourceforge.net/>を参照してください。

KPovmodeler

KPovmodelerは、KDEデスクトップと統合されている、POV-Rayのフロントエンドです。KPovmodelerを使えば、POV-Rayスクリプトについての詳しい知識がなくても、分かりやすいツリービューからPOV-Ray言語への変換が行えます。ネイティブなPOV-RayスクリプトをKPovmodelerにインポートすることもできます。詳細については、<http://www.kpovmodeler.org>を参照してください。

Krita

Kritaは、Adobe PhotoshopとThe GIMPに対するKOfficeの解答です。ピクセルベースの画像作成および編集に使用することができます。通常Adobe PhotoshopやThe GIMPにあるような、多くの高度な画像編集機能を備えています。詳細については、<http://www.koffice.org/krita>を参照してください。

OpenOffice.org Draw

詳細については、[OpenOffice.org](http://www.openoffice.org) (341 ページ)を参照してください。

POV-Ray

POV-Ray(Persistence of Vision Ray)トレーサを使用すると、レイトレーシングというレンダリング技術を使用して3次元のフォトリアルスティックなイメージを作成できます。POV-RayにはWindowsバージョンがあるため、このアプリケーションのWindowsユーザは容易にLinuxバージョンに切り替えることができます。POV-Rayの詳細については、<http://www.povray.org/>を参照してください。

The GIMP

GIMPは、Adobe Photoshopに対するオープンソースの代替製品です。GIMPはPhotoshopと同等の機能を提供するため、プロフェッショナルのイメージ処理に適しています。GIMPにはWindowsバージョンもあります。詳細については、<http://www.gimp.org/>を参照してください。GIMPの章を参照することもできます。

VueScan

VueScanは、複数のプラットフォームに使用できるスキャンソフトウェアです。自分のベンダーのスキャナソフトウェアに平行してインストールできます。バッチスキャン、オートフォーカス、埃と瑕の抑制用の赤外線チャンネルなどの、スキャナの特殊ハードウェア、さらに、スライドの暗い部分でのスキャナノイズを軽減するためのマルチスキャンにもサポートしています。カラー根がからの色補正が簡単、正確に実行できます。詳細は、<http://www.hamrick.com/index.html>を参照してください。

C.5 システム管理とファイル管理

ここでは、システム管理とファイル管理のためのLinuxツールの概要について説明し、テキストエディタ、ソースコードエディタ、バックアップソリューション、およびアーカイブツールについて解説します。

表 C.5 WindowsとLinuxのシステム管理とファイル管理のソフトウェア

タスク	Windowsアプリケーション	Linuxアプリケーション
ファイルマネージャ	Windows Explorer	Konqueror、Nautilus
テキストエディタ	メモ帳、WordPad、(X)Emacs	kate、gedit、(X)Emacs、vim
PDFの作成	Adobe Distiller	Scribus
PDFビューア	Adobe Reader	Adobe Reader、Evince、KPDF、Xpdf
テキスト認識	Recognita、FineReader	GOCR

タスク	Windowsアプリケーション	Linuxアプリケーション
コマンドライン圧縮プログラム	zip、rar、arj、lhaなど	zip、tar、gzip、bzip2など
GUIベースの圧縮プログラム	WinZip	Ark、File Roller
ハードディスクのパーティション管理	PowerQuest、Acronis、Partition Commander	YaST、GNU Parted
バックアップソフトウェア	ntbackup、Veritas	KDar、taper、dump

Adobe Reader

Adobe Reader for Linuxは、このアプリケーションのWindowsおよびMac版に完全に対応しています。Linux版のルックアンドフィールは、他のプラットフォームのものと同一です。Adobe Acrobatスイートの他のコンポーネントは、Linuxに移植されていません。詳細については、<http://www.adobe.com/products/acrobat/readermain.html>を参照してください。

Ark

Arkは、KDEデスクトップ用のGUIベースバックプログラムです。このアプリケーションは、zip、tar.gz、tar.bz2、lha、rarなどの一般的な形式をサポートしています。アーカイブ内の単一ファイルの表示、選択、圧縮、解凍を実行できます。ArkがKonquerorと統合化されたことにより、WinZipと同様に、ファイルのコンテキストメニューからアクション(アーカイブの解凍など)を実行することもできます。Arkの使用法に関する簡単な説明は、『*KDEユーザガイド*』のKDEデスクトップに関する章を参照してください。

dump

dumpコマンドはファイルシステムのファイルを確認し、バックアップする必要があるファイルを特定し、指定されているディスク、テープ、またはその他の記憶媒体にファイルをコピーします。restoreコマンドはdumpとは逆の操作を実行し、ファイルシステム全体のバックアップを

復元します。詳細については、<http://dump.sourceforge.net/>を参照してください。

Evince

Evinceは、GNOMEデスクトップ用の、PDFおよびPostScript形式のドキュメントビューアです。詳細については、<http://www.gnome.org/projects/evince/>を参照してください。

File Roller

File Rollerは、GNOMEデスクトップ用のGUIベースパックプログラムです。このプログラムは、Arkと同等の機能を提供しています。詳細については、<http://fileroller.sourceforge.net/home.html>を参照してください。

GEdit

GEditはGNOMEデスクトップの公式エディタで、Kateと同様の機能を提供します。詳細については、<http://www.gnome.org/projects/gedit/>を参照してください。

GNU Parted

GNU Partedは、パーティションおよびそのファイルシステムの作成、破壊、サイズ変更、チェック、およびコピーのためのコマンドラインツールです。新しいオペレーティングシステムのためのスペースを作成する場合は、このツールを使用してディスクの使用量を調整し、ハードディスク間でデータをコピーします。詳細については、<http://www.gnu.org/software/parted/>を参照してください。

GOOCR

GOOCRは光学文字認識(OCR)ツールで、スキャンされたテキストイメージをテキストファイルに変換します。詳細については、<http://jocr.sourceforge.net/>を参照してください。

gzip, tar, bzip2

ディスクの使用量を減らすためのパッケージ作成プログラムは数多くありますが、一般に圧縮アルゴリズムが異なるだけです。LinuxはWindowsで使用されているパッケージ形式も処理することができます。bzip2はgzipより効率的ですが、圧縮アルゴリズムによっては時間がかかる場合があります。gzipおよびtarの詳細は、「シエル」の章を参照してください。

kate

KateはKDEスイートのメンバで、ローカルまたはリモートで複数のファイルを同時に開くことができます。**Kate**には構文の強調表示、プロジェクトファイルの作成、および外部スクリプト実行の機能があるため、プログラマに最適のツールです。詳細については、<http://kate.kde.org/>を参照してください。

KDar

KerrはKDEディスクアーカイブを表し、ハードウェア独立のバックアップソリューションです。**KDar**はtarとは異なりカタログを使用するため、アーカイブ全体を読み込まずに単独のファイルを抽出でき、増分バックアップを作成することもできます。**KDar**は、アーカイブを複数のスライスに分割して、スライスごとデータCDやDVDの書き込みをトリガすることができます。**KDar**の詳細については、<http://kdar.sourceforge.net/>を参照してください。

Konqueror

KonquerorはKDEデスクトップ用のデフォルトのファイルマネージャで、Webブラウザ、ドキュメント、画像ビューア、CDリッパとして使用することもできます。**Konqueror**をファイルマネージャとして使用方法については、『*KDE* ユーザガイド』のKDEデスクトップに関する章を参照してください。このアプリケーションの詳細については、<http://www.konqueror.org/>を参照してください。

KPDF

KPDFは、KDEデスクトップ用のPDFビューアアプリケーションです。PDFの検索機能や、Adobe Readerと同様のフルスクリーンモードなどの機能があります。詳細については、<http://kpdf.kde.org/>を参照してください。

Nautilus

Nautilusは、GNOMEデスクトップのデフォルトのファイルマネージャです。**Nautilus**を使えば、フォルダやドキュメントの作成、ファイルやフォルダの表示と管理、スクリプトの実行、CDへのデータ書き込み、URIロケーションの表示が行えます。**Nautilus**をファイルマネージャとして使用方法は、『*GNOME* ユーザガイド』を参照してください。**Nautilus**の詳細は、<http://www.gnome.org/projects/nautilus/>を参照してください。

taper

taperは使いやすいユーザインタフェースを提供するバックアップと復元のプログラムで、テープドライブを使用してファイルのバックアップと復元を実行できます。ファイルをアーカイブファイルにバックアップすることもできます。ディレクトリの再帰的な選択もサポートします。詳細については、<http://taper.sourceforge.net/>を参照してください。

vim

vim (vi improved)は、viというテキストエディタに似たプログラムです。vimにはコマンドモードと挿入モードがあるため、場合によっては、慣れるまで時間がかかります。基本的な特徴は他のテキストエディタと同じですが、vimにはマクロの記録、ファイル形式の検出と変換、画面上の複数のバッファなどのユニークなオプションがあります。詳細については、<http://www.vim.org/>を参照してください。

(X)Emacs

GNU EmacsとXEmacsはプロフェッショナル用エディタです。XEmacsは、GNU Emacsを基にしています。GNU Emacsのマニュアルには、「Emacsは拡張およびカスタマイズ可能で、セルフドキュメント機能を備えたリアルタイム表示エディタです」と記載されています。「」この2つのエディタの機能はほとんど同じですが、多少の違いはあります。経験豊富な開発者がEmacs Lisp言語を使用すると、機能を大いに拡張できます。ロシア語、ギリシア語、日本語、中国語、韓国語などの多くの言語がサポートされています。詳細については、<http://www.xemacs.org/>と<http://www.gnu.org/software/emacs/emacs.html>を参照してください。

Xpdf

Xpdfは、LinuxおよびUnixプラットフォーム用の、軽量のPDFビューアスイートです。ビューアアプリケーションと、PostScriptやテキスト形式用のエクスポートプラグインが含まれています。詳細については、<http://www.foolabs.com/xpdf/>を参照してください。

C.6 ソフトウェア開発

ここでは、プロフェッショナルのソフトウェア開発のためのLinux IDE、ツールキット、開発ツール、およびバージョン管理システムについて説明します。

表 C.6 WindowsとLinuxの開発ソフトウェア

タスク	Windowsアプリケーション	Linuxアプリケーション
統合開発環境	Borland C++, Delphi, VisualStudio, .NET	KDevelop, Eric, Eclipse, MonoDevelop, Anjuta
ツールキット	MFC, Qt, GTK+	Qt, GTK+
コンパイラ	VisualStudio	GCC
デバッグツール	Visual Studio	GDB, valgrind
GUIデザイン	Visual Basic, Visual C++	Glade, Qt Designer
バージョン管理システム	Clearcase, Perforce, SourceSafe	CVS, Subversion

Anjuta

Anjutaは、GNOME/GTK+のアプリケーション開発用のIDEです。自動書式設定、コード補完、ハイライト機能のあるエディタが含まれています。GTK+のほかにも、Perl、Pascal、およびJavaによる開発をサポートしています。GDBベースのデバッガも含まれています。Anjutaの詳細については、<http://anjuta.sourceforge.net>を参照してください。

CVS

CVS (Concurrent Versions System)は、オープンソース用の最も重要なバージョンコントロールシステムです。これは、標準のLinuxディストリビューションに含まれているRevision Control System (RCS)のフロントエンドです。詳細については、<http://ximbiot.com/cvs/wiki/>を参照してください。

Eclipse

Eclipse Platformは、カスタムプラグインによって拡張可能な統合開発環境を構築できるように設計されています。ベースディストリビューションには、完全なJava開発環境も含まれます。詳細については、<http://www.eclipse.org>を参照してください。

Eric

Ericは、PythonおよびPython-Qtによる開発用に最適化されたIDEです。Ericの詳細については、<http://www.die-offenbachs.de/eric/index.html>を参照してください。

GCC

GCCは、様々なプログラミング言語用のフロントエンドを持つ、コンパイラコレクションです。機能の詳しいリストと、詳細なドキュメントは、<http://gcc.gnu.org>を参照してください。

GDB

GDBは、様々なプログラミング言語で書かれたプログラム用のデバッグツールです。GDBの詳細については、<http://www.gnu.org/software/gdb/gdb.html>を参照してください。

Glade

Gladeは、GTK+およびGNOME開発用のユーザインタフェースビルダです。GTK+のほかに、C、C++、C#、Perl、Python、Javaやその他の言語もサポートしています。Gladeの詳細については、<http://glade.gnome.org/>を参照してください。

GTK+

GTK+はグラフィカルユーザインタフェースを作成するためのマルチプラットフォームツールキットで、すべてのGNOMEアプリケーション、GIMP、およびその他のアプリケーションで使用できます。GTK+はC/C++以外の言語もサポートするように設計されています。GTKは最初はGIMPのために記述されたため、「GIMP Toolkit」という名前になっています。「」詳細については、<http://www.gtk.org>を参照してください。GTK+と言語の関係については、<http://gtk.org/features.html> #LanguageBindingsにまとめられています。

KDevelop

KDevelopでは、異なる言語(C/C++、Python、Perlなど)でプログラムを記述できます。KDevelopには、ドキュメントブラウザ、構文の強調表示機能を含むソースコードエディタ、コンパイラのGUI、およびその他の機能が含まれます。詳細については、<http://www.kdevelop.org>を参照してください。

MonoDevelop

Mono Projectは、.NET開発プラットフォームのUnixバージョンをオープンソースで開発しているオープン開発イニシアチブです。このプロジェクトの目的は、Unix開発者がクロスプラットフォームの.NETアプリケーションを構築して展開できるようにすることです。MonoDevelopは、Monoの開発環境にIDEを補完します。MonoDevelopの詳細については、<http://www.monodevelop.com/>を参照してください。

Qt

Qtは、グラフィカルユーザインタフェースでアプリケーション開発するためのプログラムライブラリです。これによって、プロフェッショナルなプログラムを迅速に開発できます。QtライブラリはLinuxで使用できるだけでなく、一連のUnix環境、Windows、およびMacintoshでも使用できます。したがって、このようなプラットフォームに簡単に移植できるプログラムを記述できます。詳細については、<http://trolltech.com>を参照してください。Qtによる開発と言語の関係については、<http://developer.kde.org/language-bindings/>にまとめられています。

Qt Designer

Qt Designerは、QtおよびKDEでの開発用のユーザインタフェースおよびフォームビルダです。KDevelop IDEの一部として、またはスタンドアロンモードで動作します。QtDesignerは、Windowsでも動作し、VisualStudio開発スイートに統合することもできます。Qt Designerの詳細については、<http://trolltech.com/products/qt/designer.html>を参照してください。

Subversion

SubversionはCVSと同様の機能を提供しますが、メタ情報の移動と名前の変更、およびファイルとディレクトリへのアタッチなどの機能が強化されています。Subversionのホームページは<http://subversion.tigris.org/>です。

Valgrind

Valgrindは、x86アプリケーションのデバッグおよびプロファイリング用の、プログラムのスイートです。Valgrindの詳細については、<http://valgrind.org/info/>を参照してください。

D

指紋リーダーの使用

ThinkFingerドライバを使用して、SUSE Linux Enterprise®は一部のIBMおよびLenovo ThinkPadに搭載されているUPEK/SGS Thomson Microelectronicsの指紋リーダーをサポートします。同じ指紋リーダーはその他のラップトップにも採用され、スタンドアロンデバイスまたはUSBキーボードに組み込みで搭載されています。詳細については、http://thinkfinger.svn.sourceforge.net/viewvc/*checkout*/thinkfinger/README.inを参照してください。システムに指紋リーダーが搭載されている場合、ログインとパスワードによる標準の認証に加えて、生体認証を使用できます。指紋を登録した後、ユーザは指紋リーダーに指紋を読み取らせるか、またはパスワードを入力してシステムにログインします。

ハードウェアチェックでラップトップに内蔵された(またはシステムに接続された)指紋リーダーが検出された場合、パッケージlibthinkfinger、pam_thinkfinger、yast2-fingerprint-readerが自動的にインストールされます。

現在、ユーザごとに1つの指紋のみ登録できます。ユーザの指紋データは/etc/pam_thinkfinger/login.birに保存されます。指紋認証を管理するには、YaST(「D.2項 「YaSTによる指紋の管理」 (364 ページ)」を参照)または追加オプションを使用できるtf-toolコマンドラインツール(「D.3項 「tf-toolによる指紋の管理」 (367 ページ)」を参照)のいずれかを使用します。

D.1 サポートされるアプリケーションとアクション

PAMモジュール `pam_thinkfinger` では、次のアプリケーションとアクションに対して指紋認証をサポートしています(すべての場合で指紋読み取りが要求されるわけではありません):

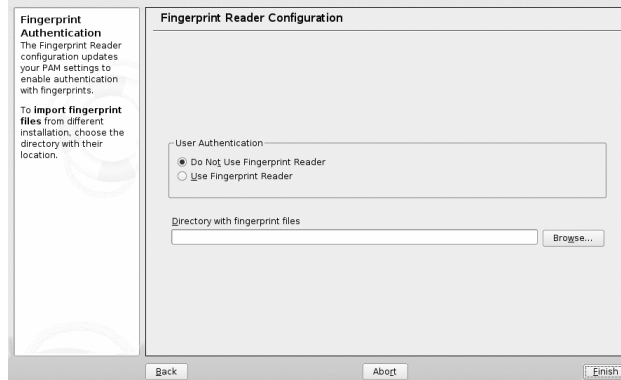
- GDM/KDMへのログインまたはログインシェル
- GNOME/KDEデスクトップでの画面のロック解除
- YaSTの開始と YaSTモジュール
- `root`パーミッション、`sudo`または`gnomesu`でのアプリケーションの起動
- `su`または`su-username1`による別のユーザIDへの変更

D.2 YaSTによる指紋の管理

手順 D.1 指紋認証の有効化

特定のユーザに対して生体認証を有効にするには、一般にまずYaSTで指紋サポートを有効にする必要があります。

- 1 YaSTを起動して、`[ハードウェア] > [Fingerprint Reader]` を選択します。

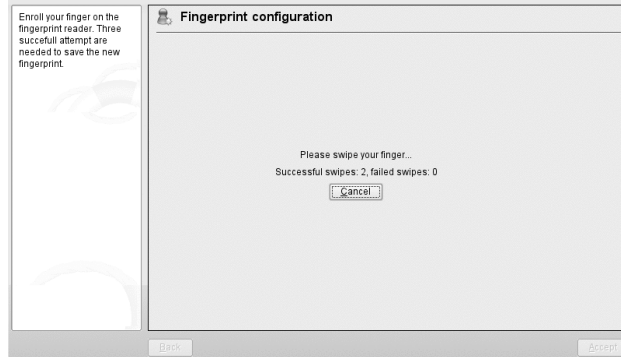


- 2 設定ダイアログで、*[Use Fingerprint Reader]* を有効にして、*[完了]* をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

さまざまなユーザに対して指紋を登録できるようになりました。

手順 D.2 指紋の登録

- 1 YaSTで *[セキュリティとユーザ]* > *[User Management]* をクリックして、*[ユーザとグループの管理]* ダイアログを開きます。システム内のユーザまたはグループのリストが表示されます。
- 2 指紋を登録するユーザを選択し、*[編集]* をクリックします。
- 3 *[Plug-Ins]* タブで指紋エントリを選択してから、*[起動]* をクリックして *[Fingerprint Configuration]* ダイアログを開きます。
- 4 YaSTから、読み取り可能な指紋が3回得られるまで指紋を読み取らせるようプロンプトが表示されます。



- 5 指紋が正常に取得されたら、[同意する] をクリックして [Fingerprint Configuration] ダイアログとユーザのダイアログを閉じます。
- 6 指紋認証を YaST または YaST モジュールの起動にも使用するには、root の指紋も登録する必要があります。

このためには、[ユーザとグループの管理] ダイアログでフィルタを [システムユーザ] に設定し、root エントリを選択して root の指紋を上記のようにして登録します。

- 7 目的のユーザの指紋を登録したら、[完了] をクリックして管理ダイアログを閉じ、変更を保存します。

ユーザの指紋が正常に登録されると、ユーザは「D.1 項「サポートされるアプリケーションとアクション」(364 ページ)」に示すアクションとアプリケーションに対して指紋とパスワードのどちらで認証するか選択できるようになります。

現在、YaST には指紋の検証または削除機能はありませんが、コマンドラインから指紋を検証または削除できます。詳細については、指紋の検証または削除 (367 ページ) を参照してください。

YaST では、ファイルシステム内にすでに保存されている指紋ファイル (*.bir) をインポートすることもできます。[ハードウェア] > [Fingerprint Reader] をクリックして、指紋ファイルのあるディレクトリを選択または入力します。[完了] をクリックしてインポートを開始します。指紋ファイルが、指紋ファイルのデフォルトディレクトリ /etc/pam_thinkfinger/login.bir にコピーされます。

D.3 tf-toolによる指紋の管理

手順 D.3 指紋の登録

- 1 シェルを開いて、rootとしてログインします。
- 2 特定のユーザの指紋を登録するには、以下のように入力します。

```
tf-tool --add-user login
```

tf-toolから、読み取り可能な指紋が3回得られるまで指紋を読み取らせるようプロンプトが表示されます。

- 3 指紋認証をYaSTまたはGNOMEコントロールセンターのYaSTモジュールの起動にも使用するには、rootの指紋も登録する必要があります。

ユーザの指紋が正常に登録されると、ユーザは「D.1項「サポートされるアプリケーションとアクション」(364 ページ)」に示すアクションとアプリケーションに対して指紋とパスワードのどちらで認証するか選択できるようになります。

手順 D.4 指紋の検証または削除

- 1 シェルを開いて、rootとしてログインします。
- 2 特定のユーザの既存の指紋を検証するには、以下のコマンドを実行します。

```
tf-tool --verify-user login
```

- 3 ユーザの指紋をリーダーに読み取らせます。tf-toolは指紋をこのユーザに対して保存されたプリントと比較し、指紋が一致するかどうかメッセージを表示します。
- 4 ユーザの指紋を削除するには、以下のコマンドでこのユーザの該当する指紋ファイルを削除します。

```
shred /etc/pam_thinkfinger/login.bir
```

tf-tool--acquireで、tf-toolをテスト実行できます。指紋は/tmp/test.birとして保存され、tf-tool--verifyで検証できます。

D.4 詳細情報

- プロジェクトのホームページは<http://thinkfinger.sourceforge.net/>にあります。
- 技術的な詳細は、インストールしたシステムの`/usr/share/doc/packages/libthinkfinger/README`を参照してください。
- `pam_thinkfinger`および`tf-tool`についてはマニュアルにも記載されています。

タブレットPCのサポート

SUSE Linux Enterprise®では、シリアルWacomデバイスを使用するタブレットPCをサポートします。インストールの大半はその他のシステムと同様ですが、パッケージのいくつかを手動で追加する必要があります。その後、入力デバイスを適切に設定します。

注意: 64ビットアーキテクチャでのタブレットPCの機能

現在、タブレットPCは32ビットアーキテクチャでのみサポートされています。タブレットPCの機能を64ビットアーキテクチャで使用するには、32ビットシステムをインストールする必要があります。

タブレットPCパッケージをインストールしてデジタイザを正しく設定すると、スタイラスと呼ばれるペンによる入力を、以下のアクションとアプリケーションに使用できます。

- KDMまたはGDMへのログイン
- KDEとGNOMEデスクトップの画面のロック解除
- カーソルの画面上の移動、アプリケーションの起動、終了、サイズ変更、ウィンドウの移動、ウィンドウのフォーカス移動、オブジェクトのドラッグ&ドロップなど、その他のポインティングデバイス(マウスやタッチパッドなど)によって起動されるアクション
- X Window Systemのアプリケーションのジェスチャ認識の使用
- GIMPによる描画

- JarnalまたはXournalなどのアプリケーションでのメモ作成またはスケッチ、またはDasherによる大量のテキストの編集

注意: インストールに必要なキーボードまたはマウス

SUSE Linux Enterpriseのインストール中は、ペンを入力デバイスとして使用できません。タブレットPCに組み込みのキーボードまたはタッチパッドが装備されていない場合、システムをインストールするために外部キーボードまたはマウスをタブレットPCに接続します。

E.1 タブレットPCパッケージのインストール

YaSTはタブレットPCを自動的に検出しないので、システムのインストール中またはインストール後にパッケージを追加してインストールします。タブレットPCのインストールパターンには、次のパッケージがあります。

- jarnal: Javaベースのメモ作成用アプリケーション
- xournal: メモ作成およびスケッチ用アプリケーション
- xstroke: X Windows System向けジェスチャー認識プログラム
- xvkbd: X Window System向け仮想キーボード
- x11-input-wacom: Wacomタブレット向けX入力モジュール
- x11-input-wacom-tools: Wacomタブレット向け設定、診断、ライブラリ

パッケージはコマンドラインから手動でインストールすることも、YaSTのインストールパターンを選択することもできます。

- 1 YaSTパッケージマネージャをコマンドラインから起動するか、またはYaSTを開いて [ソフトウェア] > [Software Management] を選択します。

- 2 [フィルタ] で、 [パターン] を選択してパターンでグループ化された利用可能なパッケージを表示します。
- 3 [Additional Software] グループで、インストールするタブレットPCパターンをマークします。
- 4 [同意する] をクリックして、パッケージのインストールを開始します。

E.2 Wacomデバイスの設定

タブレットPCパッケージをインストールしたら、タブレットデバイスを設定します。現在、SUSE Linux EnterpriseはSaX2によるWacomデバイスの設定をサポートしていません。このため、システム設定ファイルを編集する必要があります。システム管理者のみが、`/etc/X11/xorg.conf`ファイルを変更できます。

警告: X環境設定ファイルに不適切な設定を行うとハードウェアが損傷する可能性があります

`/etc/X11/xorg.conf`ファイルを編集する前に、元のファイルのバックアップを作成します。ファイルのその他のセクションを編集しないでください。ハードウェアが損傷する可能性があります。

Wacomデバイスの場合、`/etc/X11/xorg.conf`に「例 E.1. 「Wacomデバイスの設定」 (372 ページ)」に示すように数行追加します。

例 E.1 Wacomデバイスの設定

1. 以下のように、InputDeviceセクションを追加します。

```
Section "InputDevice" ❶
    Driver      "wacom"
    Identifier   "Mouse[5]"
    Option       "Device" "/dev/ttyS0"
    Option       "ForceDevice" "ISDV4"
    Option       "InputFashion" "Tablet"
    Option       "Mode" "Absolute"
    Option       "SendCoreEvents" "on"
    Option       "Type" "cursor"
EndSection
```

```
Section "InputDevice" ❷
    Driver      "wacom"
    Identifier   "Mouse[7]"
    Option       "Device" "/dev/ttyS0"
    Option       "ForceDevice" "ISDV4"
    Option       "InputFashion" "Pen"
    Option       "Mode" "Absolute"
    Option       "Type" "stylus"
EndSection
```

```
Section "InputDevice" ❸
    Driver      "wacom"
    Identifier   "Mouse[9]"
    Option       "Device" "/dev/ttyS0"
    Option       "ForceDevice" "ISDV4"
    Option       "InputFashion" "Eraser"
    Option       "Mode" "Absolute"
    Option       "Type" "eraser"
EndSection
```

- ❶ /dev/ttyS0に接続したタブレットカーソル入力デバイスの設定。
HP Compaq tc4200を使用する場合、この代わりに/dev/ttyS2を使用します。SaX2の今後のバージョンで問題が発生しないように、デバイスには"Mouse[5]" IDが割り当てられます。
- ❷ タブレットスタイラス入力デバイスの設定。
- ❸ タブレットイレイザ入力デバイスの設定。ペンのこの部分は、いくつかのアプリケーションで入力を消去するために使用されます。

2. 以下の行をServerLayoutセクションに追加します。

```
InputDevice "Mouse[5]" "SendCoreEvents"  
InputDevice "Mouse[7]" "SendCoreEvents"  
InputDevice "Mouse[9]" "SendCoreEvents"
```

このように変更すると、/etc/X11/xorg.confは以下のようになります。

```
[...]  
  
Section "InputDevice" ❶  
    Driver      "mouse"  
    Identifier   "Mouse[3]"  
    Option      "Buttons" "5"  
    Option      "Device"  "/dev/input/mice"  
    Option      "Name"    "ImPS/2 Generic Wheel Mouse"  
    Option      "Protocol" "explorerps/2"  
    Option      "Vendor"  "Sysp"  
    Option      "ZAxisMapping" "4 5"  
EndSection  
  
Section "InputDevice" ❷  
    Driver      "wacom"  
    Identifier   "Mouse[5]"  
    Option      "Device"  "/dev/ttyS0"  
    Option      "ForceDevice" "ISDV4"  
    Option      "InputFashion" "Tablet"  
    Option      "Mode"    "Absolute"  
    Option      "SendCoreEvents" "on"  
    Option      "Type"    "cursor"  
EndSection  
  
Section "InputDevice" ❸  
    Driver      "wacom"  
    Identifier   "Mouse[7]"  
    Option      "Device"  "/dev/ttyS0"  
    Option      "ForceDevice" "ISDV4"  
    Option      "InputFashion" "Pen"  
    Option      "Mode"    "Absolute"  
    Option      "Type"    "stylus"  
EndSection  
  
Section "InputDevice" ❹  
    Driver      "wacom"  
    Identifier   "Mouse[9]"  
    Option      "Device"  "/dev/ttyS0"  
    Option      "ForceDevice" "ISDV4"  
    Option      "InputFashion" "Eraser"  
    Option      "Mode"    "Absolute"  
    Option      "Type"    "eraser"
```

```

EndSection

[...]

Section "ServerLayout"
    Identifier      "Layout[all]"
    InputDevice    "Keyboard[0]" "CoreKeyboard"
    InputDevice    "Mouse[1]" "CorePointer"
    InputDevice    "Mouse[3]" "SendCoreEvents"
    InputDevice    "Mouse[5]" "SendCoreEvents" ❸
    InputDevice    "Mouse[7]" "SendCoreEvents"
    InputDevice    "Mouse[9]" "SendCoreEvents"
    Option         "Clone" "off"
    Option         "Xinerama" "off"
    Screen         "Screen[0]"
EndSection

```

- ❶ デフォルトのマウス設定。
- ❷ 新しく追加された、タブレットカーソル入力デバイスの設定。
- ❸ 新しく追加された、タブレットスタイラス入力デバイスの設定。
- ❹ 新しく追加された、タブレットイレイザ入力デバイスの設定。
- ❺ タブレット入力デバイス
の"Mouse[5]"、"Mouse[7]"、"Mouse[9]"がX Serverデバイスに
追加されます。

この設定例は、大半のタブレットPCで機能します。詳細は、Linux Wacom Webサイト(<http://linuxwacom.sourceforge.net/index.php/howto/x11>)で手順を確認してください。

3. X Window Systemの設定が終了したら、ログアウトするか、またはユーザインタフェースを終了してinit3&& init 5を仮想コンソールで実行して、X Serverを再起動します。

E.3 タブレットPCの一般的な機能の使用

Wacomデバイスを設定したら、ペンを入力デバイスとして使用できるようになります。

E.3.1 仮想キーボードの使用

KDEまたはGNOMEデスクトップにログインするには、または画面のロックを解除するには、ユーザ名とパスワードを通常通りに入力するか、ログインフィールドの下に表示されるまたは仮想キーボードxvkbdで入力します。キーボードを設定するには、または統合ヘルプにアクセスするには、左下隅のxvkbdフィールドをクリックしてxvkbdメインメニューを開きます。

図 E.1 xvkbd 仮想キーボード

F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	F10	F11	F12	Backspace	xvkbd (v2.7)			
Esc	! 1	@ 2	# 3	\$ 4	% 5	^ 6	& 7	* 8	(9) 0	- =	\	~	Num Lock	/ *	Focus
Tab	Q	W	E	R	T	Y	U	I	O	P	{ [}]	Del	7 Home	8 Up	9 PgUp
Control	A	S	D	F	G	H	J	K	L	:	"	'	Return	4 Left	5	6 Right
Shift	Z	X	C	V	B	N	M	<	>	?	Com pose	Shift	1 End	2 Down	3 PgDn	Enter
xvkbd	Caps Lock	Alt	Meta				Meta	Alt	←	→	↑	↓	Focus	0 Ins	.	Del

ログイン後にxvkbdを使用するには、メインメニューから起動するか、またはシェルからxvkbdで起動します。

E.3.2 ディスプレイの回転

タブレットPCモニタを回転する場合、ディスプレイとグラフィックタブレットの向きは自動的に調整されません。KDEデスクトップの場合、KRandRTrayを使用して、ディスプレイをその場で手動で回転またはサイズを変更します。KRandRTrayはX ServerのRANDR拡張機能向けのKDEアプレットです。

- 1 メインメニューまたはシェルから`krandrtray`で、**KRandRTray**を起動します。これで、**KRandRTray**アイコンがシステムトレイに追加されます。
- 2 ディスプレイを回転するには、アイコンをクリックしてコンテキストメニューから目的の向きを選択します。ディスプレイが新しい方向にすぐに回転します。また、グラフィックタブレットの向きも変更され、ペンの移動も正しく解釈されます。

GNOMEデスクトップの場合、現在同等の機能は対応策を実施しないと使用できません。詳細については、E.4項「トラブルシューティング」(379ページ)を参照してください。

E.3.3 ジェスチャ認識の使用

`xstroke`では、ペンまたはその他のポインティングデバイスでのジェスチャを、X Window Systemのアプリケーションへの入力として使用できます。`xstroke`アルファベットは、**Graffiti***アプレットに類似のユニストロークアルファベットです。有効にすると、`xstroke`は入力を現在フォーカスされているウィンドウに送信します。

- 1 メインメニューから、またはシェルから`xstroke`を使用して、`xstroke`を起動します。これで、ペンシルアイコンがシステムトレイに追加されます。
- 2 ペンでテキスト入力を作成するアプリケーションを起動します(ターミナルウィンドウ、テキストエディタ、**OpenOffice.org Writer**など)。
- 3 ジェスチャー認識モードを有効にするには、ペンシルアイコンを1回クリックします。
- 4 ペンまたは別のポインティングデバイスで、グラフィックタブレット上で何らかのジェスチャを行います。`xstroke`はジェスチャをキャプチャし、テキストに転送してフォーカスのあるアプリケーションウィンドウに表示します。
- 5 フォーカスを別のウィンドウに移すには、目的のウィンドウをペンでクリックしてしばらくそのままにします(または、デスクトップのコントロールセンターで定義したキーボードショートカットを使用します)。

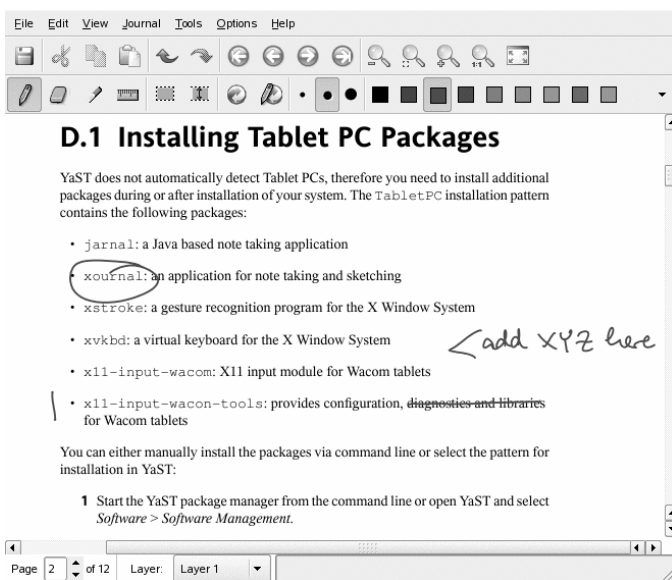
- 6 ジェスチャ認識モードを無効にするには、ペンシルアイコンをもう一度クリックします。

E.3.4 ペンを使用したメモの作成とスケッチ

ペンで図を作成するには、GIMPのようなプロ向けグラフィックエディタを使用したり、XournalまたはJarnalなどのメモ作成アプリケーションを使用します。XournalとJarnalの両方を使って、ペンでメモや図を作成し、PDFファイルにコメントを付けられます。いくつかのプラットフォームで使用できるJavaベースのアプリケーションとして、Jarnalには基本的なコラボレーション機能もあります。詳細については、<http://www.dklevine.com/general/software/tc1000/jarnal-net.htm>を参照してください。コンテンツを保存するとき、Jarnalはデータをアーカイブ形式(*.jaj)にデータを保存し、これにはSVG形式のファイルも含まれます。

JarnalまたはXournalをメインメニューから、またはシェルにjarnalまたはxournalと入力して起動します。XournalでPDFファイルにコメントを付けるには、[ファイル] > [Annotate PDF] を選択して、ファイルシステムからPDFファイルを開きます。ペンまたは別のポインティングデバイスを使用してPDFに注釈を付け、[ファイル] > [Print to PDF] で変更内容を保存します。

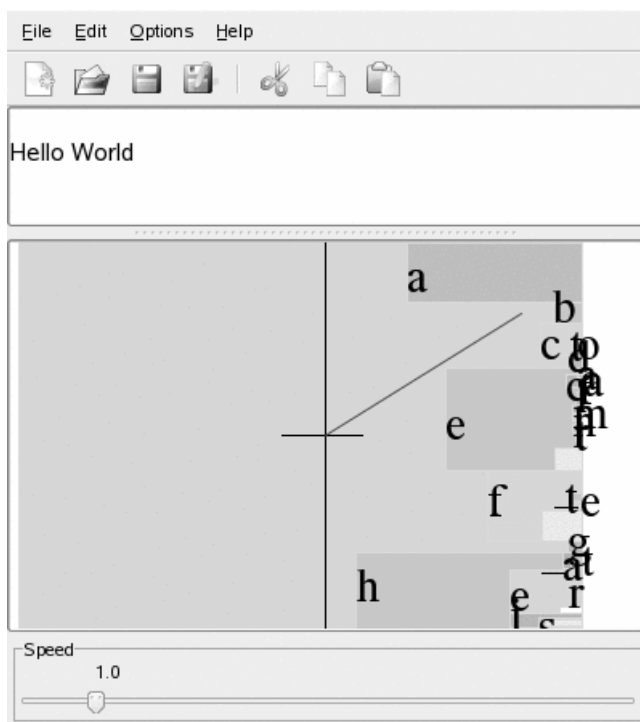
☒ E.2 XournalによるPDFへの注釈



Dasherも便利なアプリケーションです。キーボード入力の実用的ではない、または利用できない場合に適しています。少し訓練することで、ペンだけで大量のテキストを高速に入力できるようになります(または、視線追跡手段などによるペン以外の入力デバイス)。

メインメニューから、またはシェルからdasherと入力してDasherを起動します。ペンをある方向に動かすと、アプリケーションが右側の文字にズームインします。中央の十字を過ぎた文字から、テキストが作成または予測され、ウィンドウ上部に出力されます。書き込みを停止または開始するには、ディスプレイをペンで1回クリックします。ウィンドウ下部でズーム速度を変更します。

図 E.3 Dasherによるテキストの編集



Dasherの概念は、多くの言語で動作します。詳細はDasherのWebサイトを参照してください。包括的なドキュメント、デモ、トレーニング用テキストがあります。<http://www.inference.phy.cam.ac.uk/dasher/>をご覧ください。

E.4 トラブルシューティング

仮想キーボードがログイン画面に表示されない

時々、ログイン画面が仮想キーボードに表示されないことがあります。これを解決するには、**Ctrl + Alt + ←**を押すか、またはタブレットPCの該当するキー(内蔵キーボードのないスレートモデルを使用している場合)を押して、**X Server**を再起動します。仮想キーボードがまだ表示されない場合は、外部キーボードをスレートモデルに接続し、ハードウェアキーボードを使用してログインします。

グラフィックタブレットの向きがGNOMEで変更されない

xrandrコマンドで、シェルからディスプレイの向きを変更できます。
xrandr--helpと入力すると、使用できるオプションが表示されます。
グラフィックタブレットの向きも同時に変更するには、コマンドを以下のように変更します。

- 通常の方向(0度回転):

```
xrandr -o 0 && xsetwacom set "Mouse[7]" Rotate 0
```

- 90度回転(時計回り、縦):

```
xrandr -o 3 && xsetwacom set "Mouse[7]" Rotate 1
```

- 180度回転(横):

```
xrandr -o 2 && xsetwacom set "Mouse[7]" Rotate 3
```

- 270度回転(反時計回り、縦):

```
xrandr -o 1 && xsetwacom set "Mouse[7]" Rotate 2
```

上記のコマンドは、`/etc/X11/xorg.conf`設定ファイルの内容によって異なります。例 E.1. 「Wacomデバイスの設定」(372 ページ)の設定例を使用した場合、コマンドは記載したとおりに機能します。`xorg.conf`のタブレットスタイラス入力デバイスのIDを変更した場合は、`"Mouse[7]"`を新しいIDに置換します。

E.5 詳細情報

ここで説明したアプリケーションの一部には統合オンラインヘルプがありませんが、使用方法および設定についての便利な情報が、インストールしたシステムの`/usr/share/doc/package/packagename`またはWeb上にあります。

- Xournalのマニュアルは、<http://xournal.sourceforge.net/manual.html>を参照してください。
- Jarnalのドキュメントは、<http://www.dklevine.com/general/software/tc1000/jarnal.htm#documentation>にあります。

- **xstroke**のマニュアルページは、<http://davesource.com/Projects/xstroke/xstroke.txt>にあります。
- **Linux**上で**X**を設定する方法は、**Wacom Web**サイト(<http://linuxwacom.sourceforge.net/index.php/howto/x11>)を参照してください。
- **Dasher**プロジェクトについては、**Web**サイト<http://www.inference.phy.cam.ac.uk/dasher/>に詳細な情報があります。

